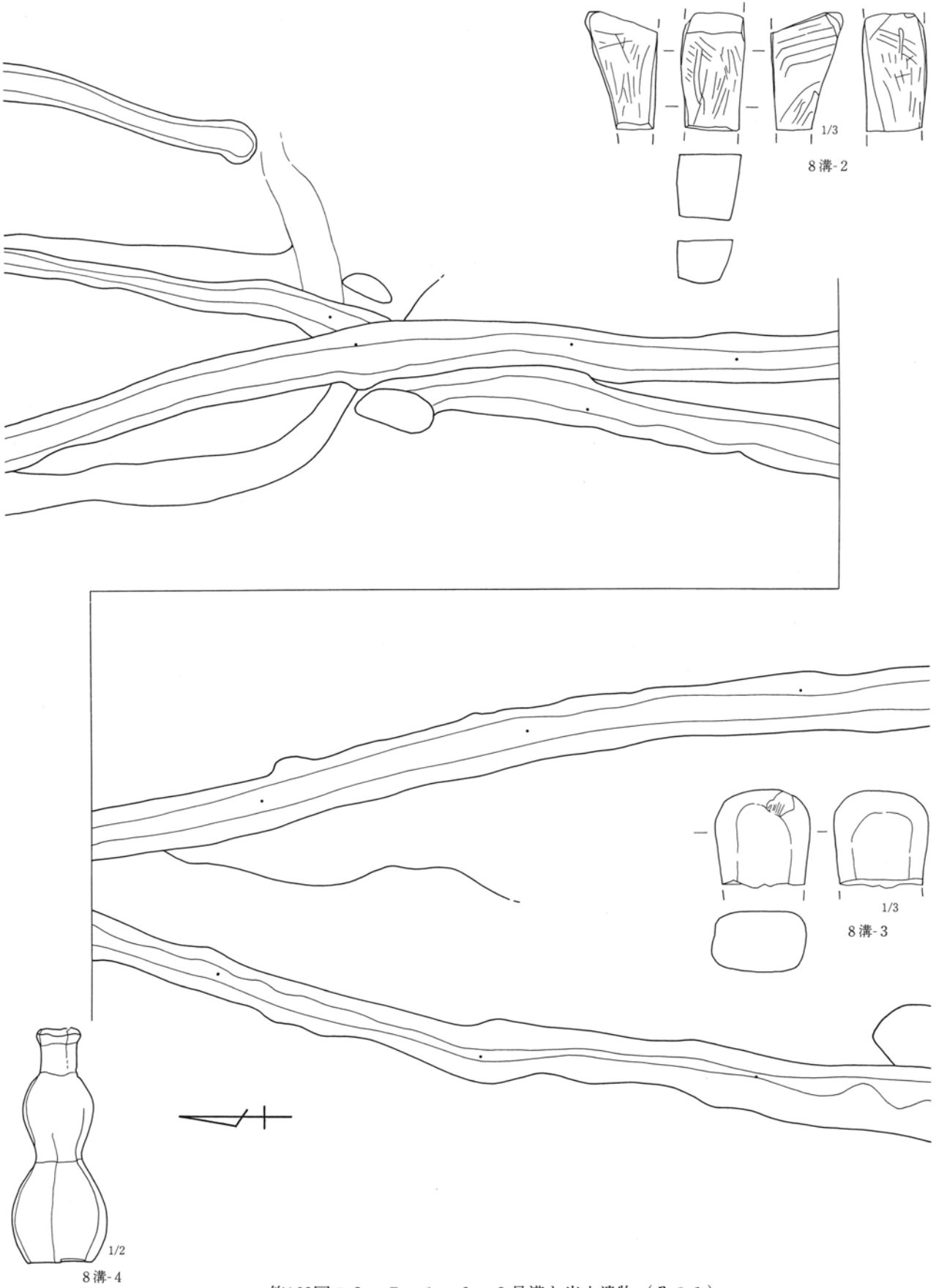


第3節 7区の遺構と遺物

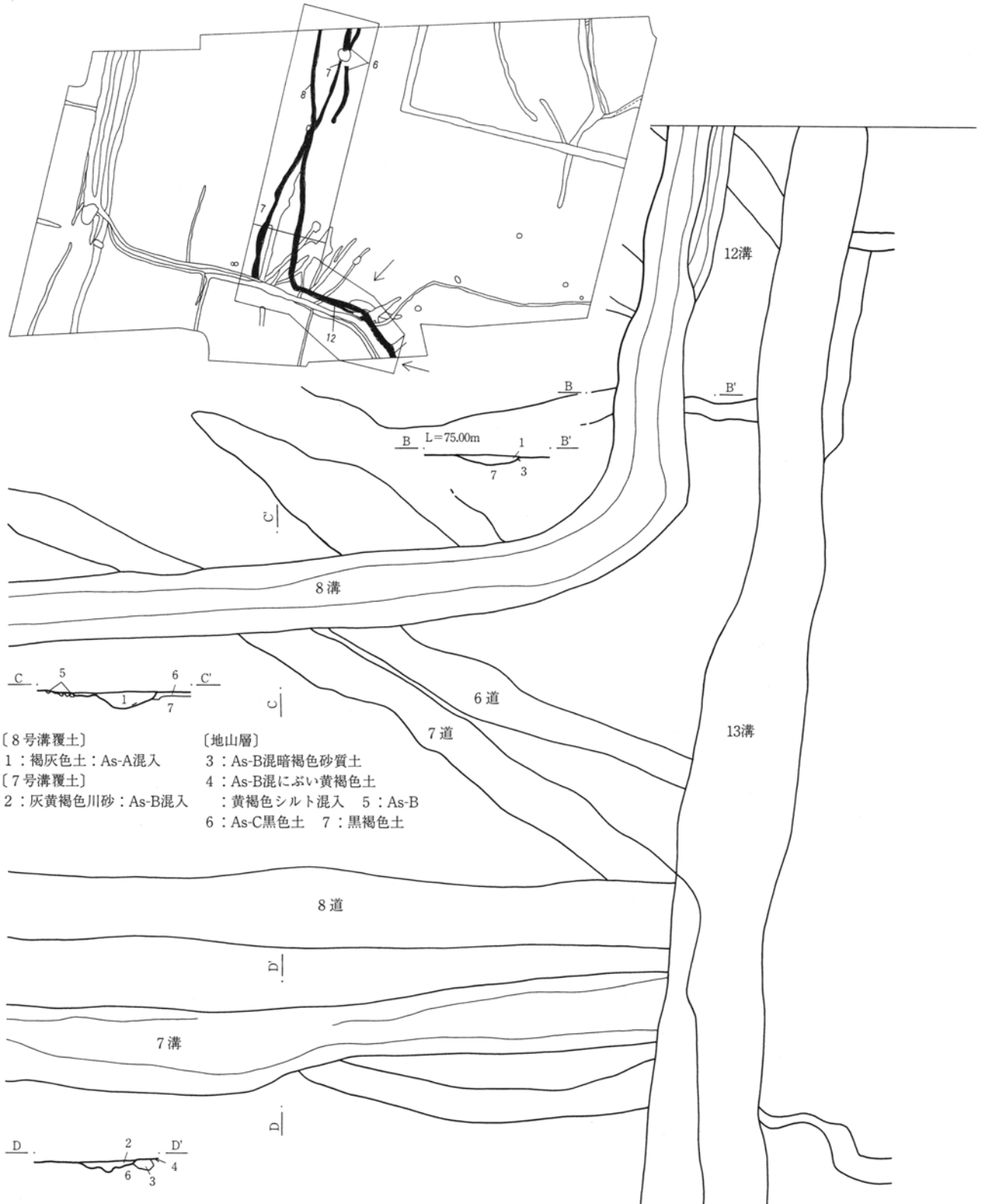


第168図の2 7-1-6~8号溝と出土遺物(その1)

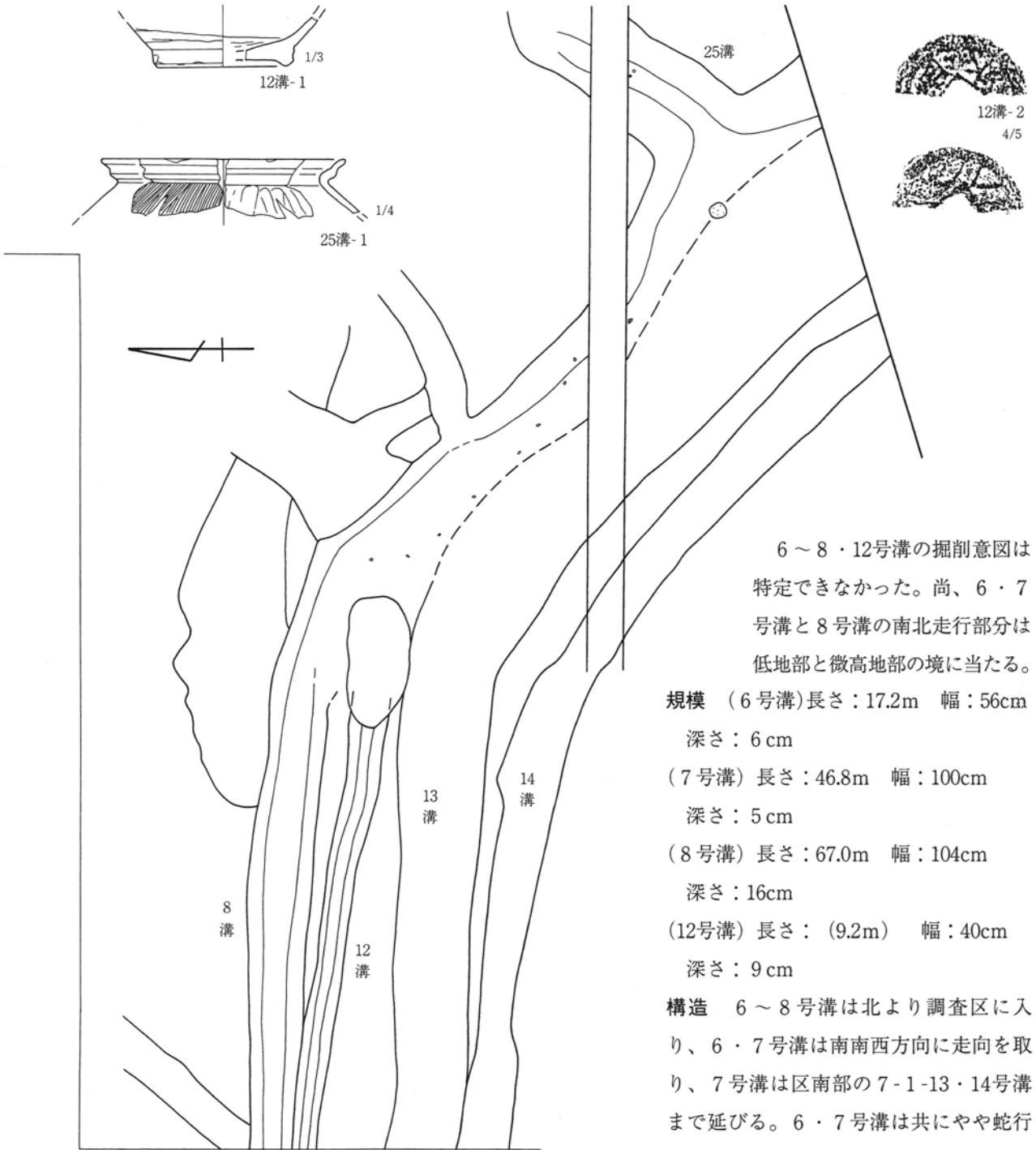
第2章 発見された遺構と遺物

12号溝出土の9世紀の須恵器高台付碗（1）等、6～8・12号溝からは古墳時代から律令期にかけての土師器・須恵器片等の出土が見られたが時期特定

には至らず、覆土の観察から7号溝は中近世の所産と把握されるに過ぎない。また8号溝では砥石（1・2）や磨石（3）の出土があったが、ガラス



第169図の1 7-1-7・8・12号溝（その2）



6～8・12号溝の掘削意図は特定できなかった。尚、6・7号溝と8号溝の南北走行部分は低地部と微高地部の境に当たる。

- 規模** (6号溝)長さ：17.2m 幅：56cm
深さ：6cm
(7号溝)長さ：46.8m 幅：100cm
深さ：5cm
(8号溝)長さ：67.0m 幅：104cm
深さ：16cm
(12号溝)長さ：(9.2m) 幅：40cm
深さ：9cm

構造 6～8号溝は北より調査区に入り、6・7号溝は南南西方向に走向を取り、7号溝は区南部の7-1-13・14号溝まで延びる。6・7号溝は共にやや蛇行するが、6号溝の方が揺れは大きい。一方、8号溝は調査区に入って南方に走向し、7号溝と交差して南部の13・14号溝

第169図の2 7-1-8・12・25号溝と出土遺物(その2)

瓶(4)の出土から近現代の所産、12号溝は寛永通宝の出土から近世遺構の所産と概ね確認することができた。また、6号溝また8号溝は以前その位置に在った中近世の溝を掘り直して掘削されていることが確認されている。

の北で走向を東に転じ、13・14号溝の北側を並走した後、南東に走向を変えて調査区南側に出ている。12号溝は8号溝の南に重なって東西に走向する。

掘削形態は6・7・8・12号溝共に幅狭だが比較的整った箱堀状を呈している。

第2章 発見された遺構と遺物

(7) 7-1-9・25号溝

(第169・170図、図版74・75・87)

概要 7-1-9・25号溝は7区東南部南寄りに位置する。25号溝は一部しか確認できず、規模も異なっているが、掘削位置と走向から推して9号溝と同様の目的を持つ溝であったと判断している。

9号溝からの出土遺物は見られなかったが、25号溝からは4世紀前半期の台付甕片(1)を含む古墳時代から律令期にかけての土師器・須恵器片の出土が見られた。残念ながらこれらの出土遺物からの時期特定には至らなかったが、覆土の観察所見から9号溝はAs-B降下後からAs-A降下前の所産であることは把握できた。しかし25号溝については覆土の記録も残せなかったためAs-B降下以降の所産としか把握することができなかった。

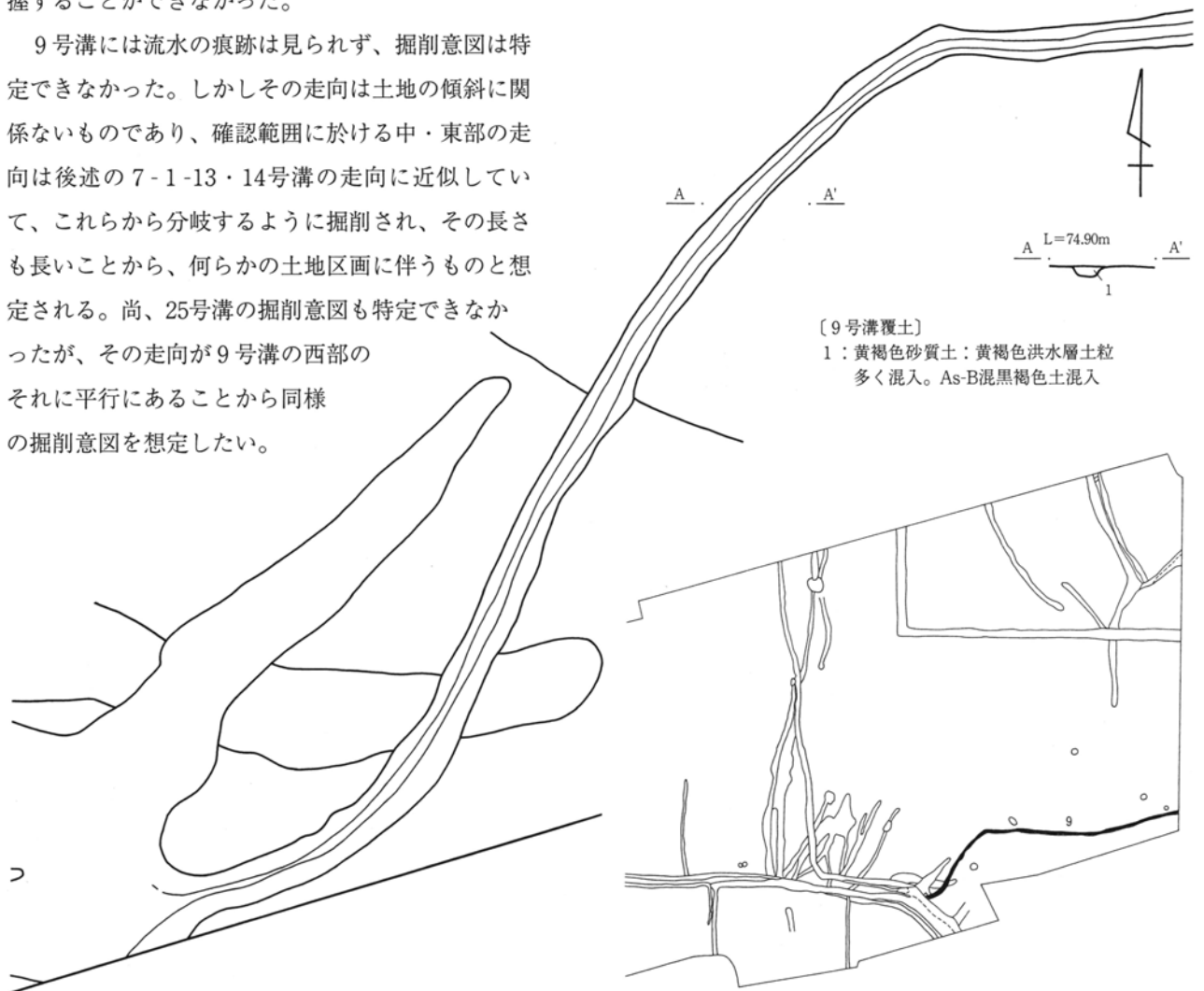
9号溝には流水の痕跡は見られず、掘削意図は特定できなかった。しかしその走向は土地の傾斜に関係ないものであり、確認範囲に於ける中・東部の走向は後述の7-1-13・14号溝の走向に近似していて、これらから分岐するように掘削され、その長さも長いことから、何らかの土地区画に伴うものと想定される。尚、25号溝の掘削意図も特定できなかったが、その走向が9号溝の西部のそれに平行にあることから同様の掘削意図を想定したい。

規模 (9号溝) 長さ:41.2m 幅:40cm 深さ:7cm

(25号溝) 長さ:3.0m 幅:128cm 深さ:28cm

構造 9号溝は14号溝から分岐するように大きく蛇行し乍ら北東に走向を取り、東に屈曲してからは直線的なプランを呈する。その東寄りで走向をやや北にずらして東側で調査区外に出るが、その延長箇所は8区では確認されていないため走向を変ずるか、途切れるものと思慮される。一方25号溝は短い範囲でしか確認できなかったため全容は詳らかでないが、走向は北東-南西方向に取りそのプランは直線的である。

掘削形態は両溝共に箱堀状を呈している。



第170図の1 7-1-9号溝

(8) 7-1-13・14・15号溝

(第171・172図、図版75・110)

概要 7-1-13・14号溝は7区南西部に位置する。このうち13号溝は14号溝の東部と交差し北西隅部で15号溝と接するが、覆土の観察から13号溝が14・15号溝より古いことを確認した。また14・15号溝も位置的には重なるが、新旧は特定できなかった。

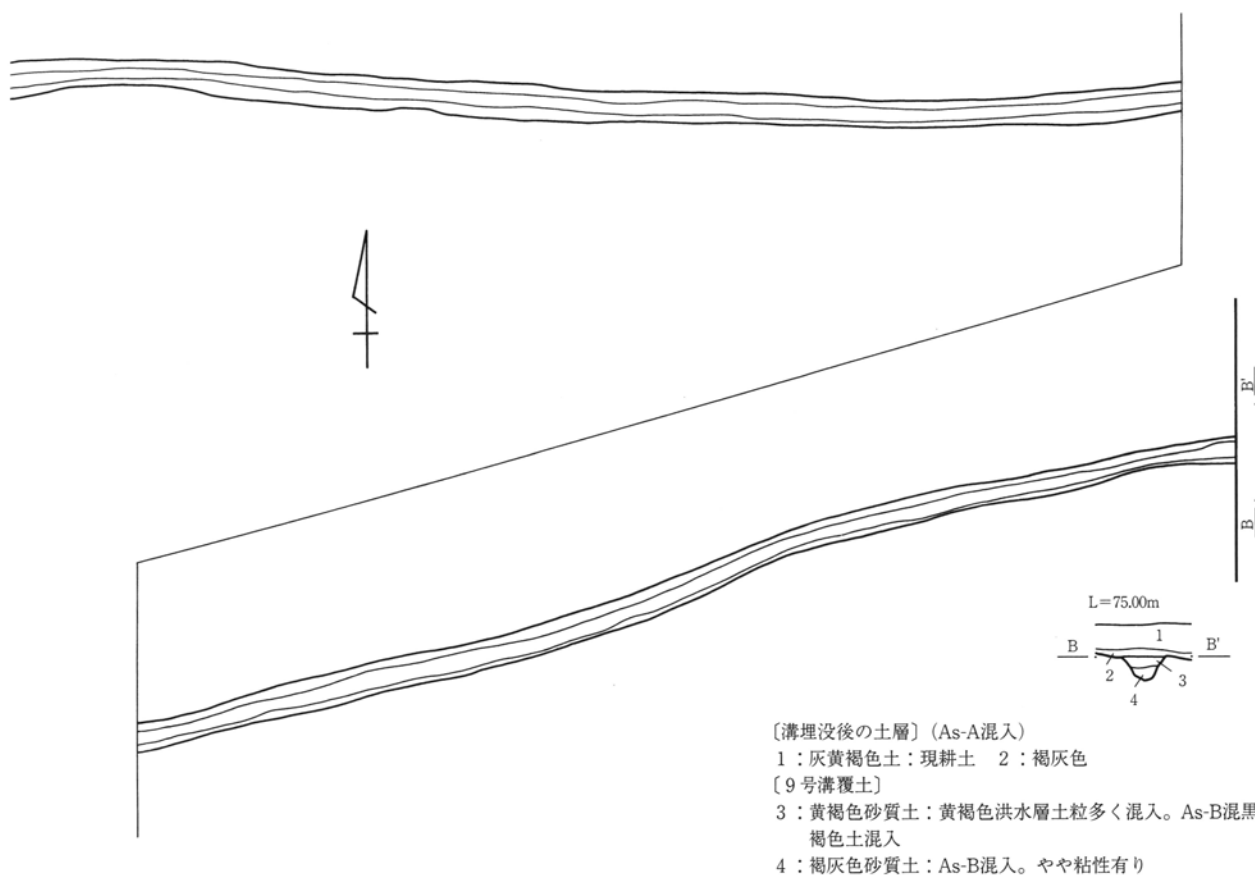
この他、13号溝が7-1-25号溝、14号溝が7-1-8号道・9号溝、14・15号溝が後述する7-1-16と重複し、14号溝は西端部で7-1-17号溝の南側に接続するように位置していたが、何れも新旧は特定できなかった。

3条の溝のうち13・14号溝からは古墳時代以(✓)

世の所産と判断される。尚、14・15号溝の下限は後述する圃場整備前の土地区画に一致しなかったので、概ね近世後期の所産として把握されよう。

各溝の掘削意図は特定できなかったが、共に流水の痕跡は無く、後述するそのプラン等から推して、土地区画に伴うものと思慮される。尚、221頁の左中程に掲載した圃場整備前、昭和23年段階の地形図(S=1/1000)に示したように、各溝の東西走向部分(⇔a)と13・15号溝の南北走向部分(⇔b)は圃場整備前の土地区画のラインに一致はしないが並走する位置にある。

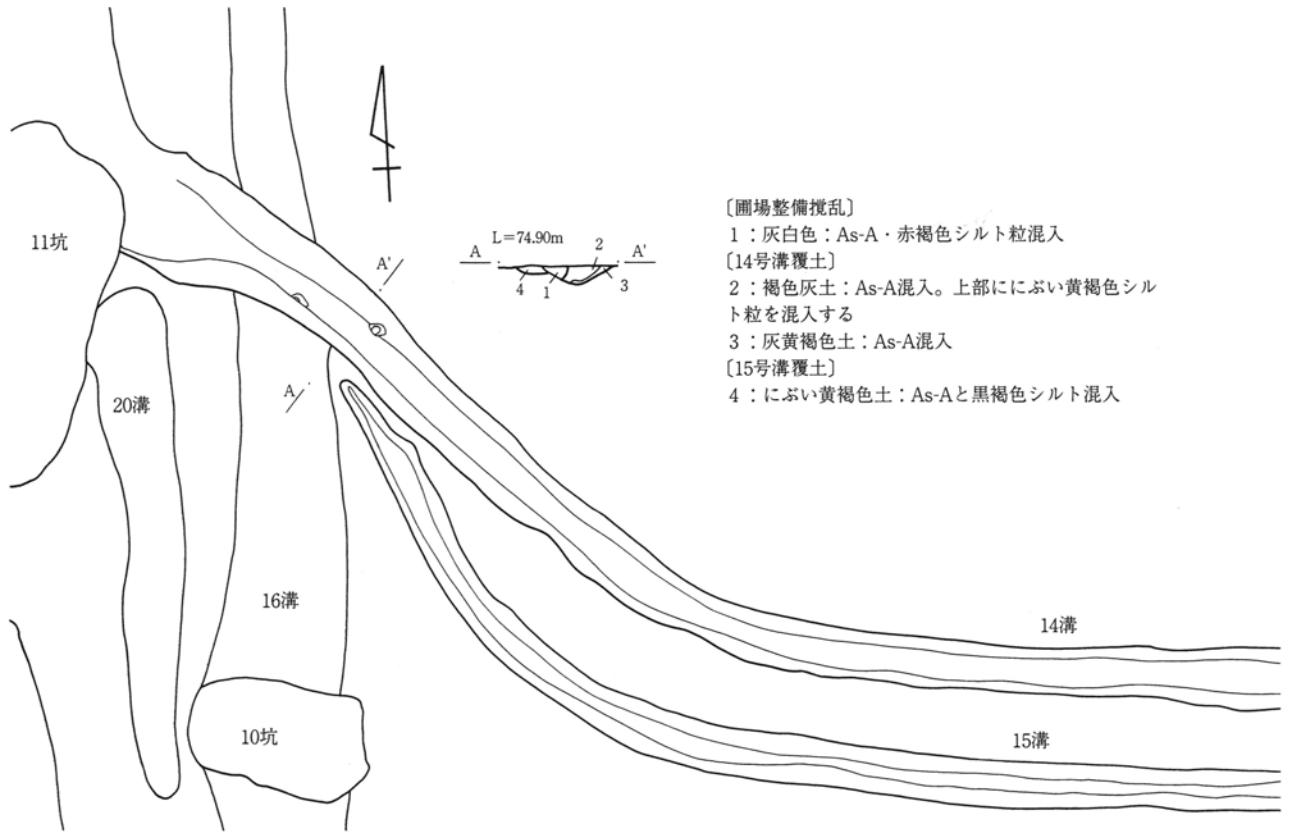
また14号溝は東西走向部分で13・15号溝に、13・15号溝も南北走行部分で近接して並走し、13(✓)



第170図の2 7-1-9号溝

降の土師器・須恵器片が出土したが時期の特定には至らず、覆土の観察から13号溝はAs-B降下後の所産、14・15号溝はAs-A降下後の所産、13号溝は恐らくは15世紀後半以降の洪水層土に絡む中(メ)

号溝は北西隅部で15号溝に重なり、13号溝と14・15号溝の時間差もあることから、これらの掘削位置は中世から少なくとも近世後期まで土地の区画のラインとして認識されていたようである。



第171図の1 7-1-14・15号溝 (その1)

規模 (13号溝) 長さ: (43.2) m 幅: 92cm
深さ: 19m

(14号溝) 長さ: (55.0) m 幅: 72cm 深さ: 9 cm

(15号溝) 長さ: 25.9m 幅: 48cm 深さ: 8 cm

構造 13・14・15号溝は何れも南側が路線外に出ていてその全容は詳らかでないが、14号溝は主軸が東西方向を向き、西は北西、南は南東に走向を取る、極く緩やかなS字状のプランを呈している。13号溝はその中程で14号溝と交差しており、西端が南に折れる以外、西半は14号溝の南に在り、東半はその北乃至東側に位置する。尚、西端のL字形部分では一部が分岐して短く延び15号溝に達している。一方、15号溝は東端が垂直に折れて南を向き、13号溝の西80cm程にほぼ並走する以外は14号溝の南にあるが西端は弧を描くように北北東に折れて14号溝に接している。

掘削形態は、3溝共に溝幅に若干の増減はあるものの、比較的整った箱堀状の形態を呈している。

(9) 7-1-23号溝 (第172図、図版87)

概要 本溝は7区中南部に位置し、7-1-13・14号溝と重複するが新旧は特定できなかった。

本溝からは3世紀末から4世紀前半頃の東海系の土師器壺(1)や少量の律令期の土師器片を出土したが時期特定には至らなかった。また土層の記録にも不備があったため、凡そ近世・近代を含む中世以降の所産として把握できるに過ぎないが、13号溝以北の区域では延長部を確認できなかったため、13号溝に接続していた可能性を有し、この場合はAs-B降下後As-A降下以前の所産として把握される。

本溝に流水の痕跡はなさそうで、7-1-13・15号溝の南北走向部分の東側、18m程の位置に両溝に平行して掘削される位置関係と、後述する遺構形態から推して何らかの区画溝と解釈される。但し、昭和23年の土地区画には本溝の位置に一致或いは近接する区画は認められなかったため、その存続は近代までは下らないものと解釈される。

規模 長さ：9.9m 幅：32cm 深さ：10cm

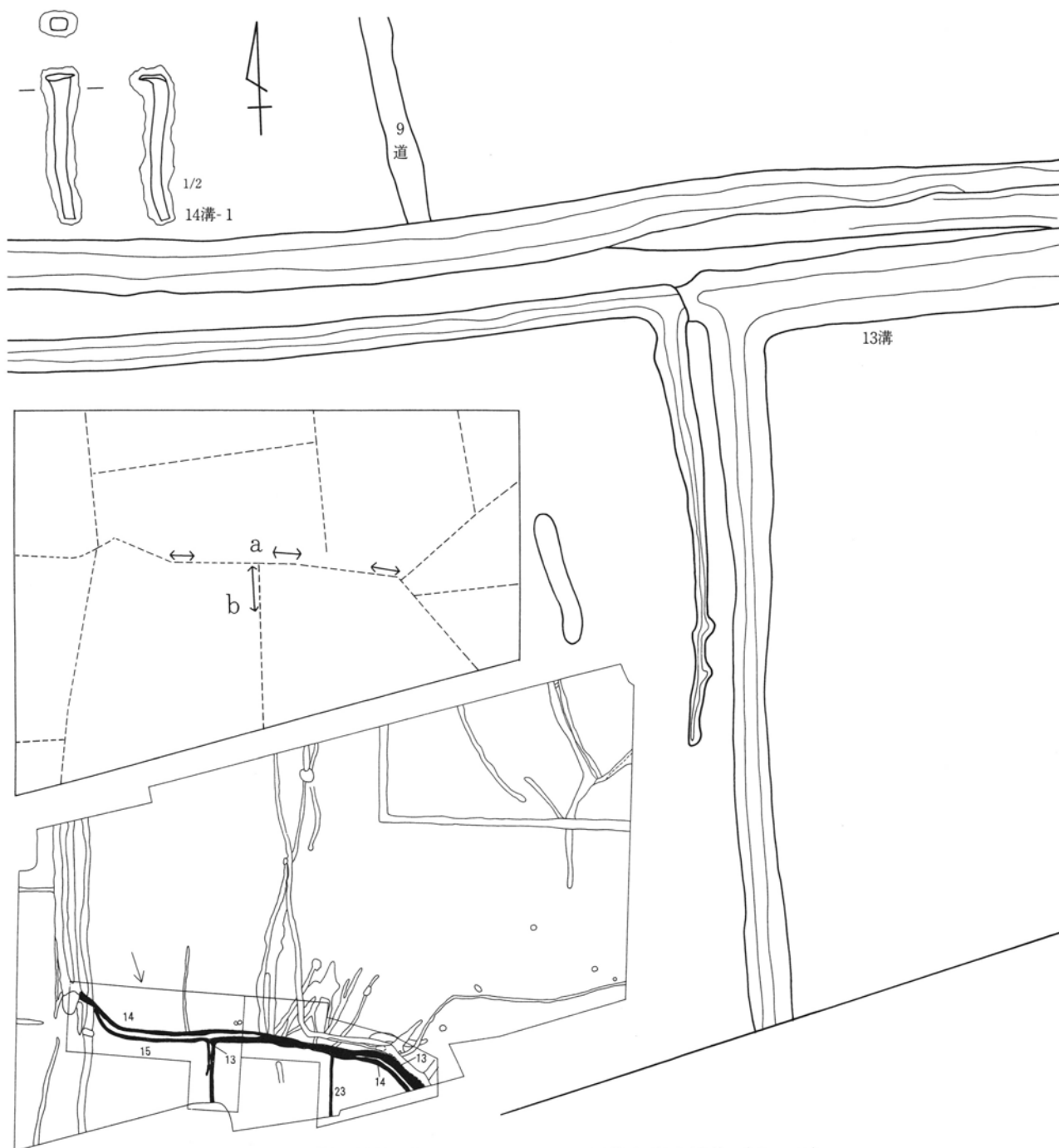
構造 本溝は南側が調査区外に出ているため全容を把握することはできなかったのだが、南北に走向を取る直線的なプランを呈している。

本溝は幅狭だが比較的整った掘り方の溝で、掘削形態は概ね箱堀状を呈するが、調査範囲の北側と南側では溝幅が若干狭まり多少葉研堀状となっている。

(10) 7-1-16・17・18号溝

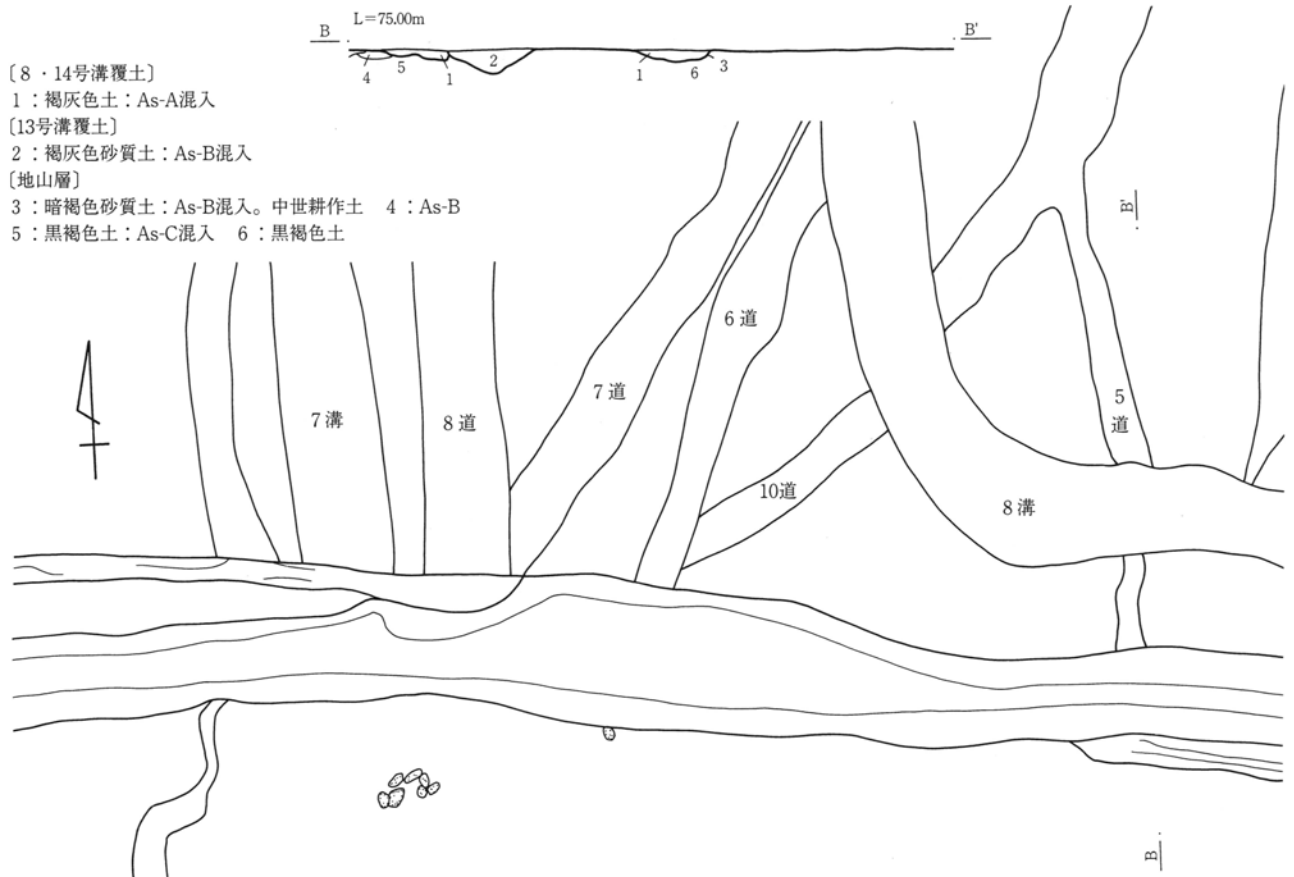
(第173・174図、図版75・87)

概要 7-1-16・17・18号溝は7区西部に位置する。16・17・18号溝の順に2m程の間隔で並走する。17・18号溝は南端で重なるようだが、その位置に7-1-21号土坑が在るため新旧を特定できなかった。



第171図の2 7-1-14・15号溝と出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物



第172図の1 7-1-13・14号溝 (その2)

また16・17号溝は前述の7-1-14号溝と、18号溝は後述の7-1-19号溝と重複するが新旧を特定することはできなかった。

17号溝出土の8世紀後半期の須恵器高台付碗(1)・坏(2)を始めとして、16・17・18号溝からは律令期中心の土師器・須恵器或いは灰釉陶器片等若干の出土遺物を得たが、これらから時期を特定するには至らなかった。しかし覆土や断面の観察所見等から、16号溝がAs-B降下前後の平安期末から中世の早い時期の所産、18号溝はAs-A降下後の比較的早い段階、即ち江戸時代後期頃の所産として把握されるもの、17号溝は現代の所産と把握される。

これらの溝には流水の痕跡は認められなかったが、227頁(第174の2図)右上の昭和23年の地形図に矢印aで示したように、その走向は土地区画ラインには一致しないものの、近接した位置に並行して在ることから何らかの区画溝であろうと判断される。

尚、上述のように16・17・18号溝の掘削位置が西側の圃場整備前の土地区画ラインが近接し、且つ平行に走向していること、及び3条の溝に与えられた時期と圃場整備の時期から推して、溝群の掘削位置附近が或いは律令期、少なくとも中世から現代に至る千年余りの間、土地を区画すべき位置として認識され続けていたことが窺われる。

規模 (16号溝) 長さ: 50.2m 幅: 104cm 深さ: 13cm

(17号溝) 長さ: (28.2)m 幅: 112cm 深さ: 28cm

(18号溝) 長さ: (26.5)m 幅: 128cm 深さ: 21cm

構造 16・17・18号溝は何れも北側から調査区に入り、16号溝と17号溝は1.6~2.4m程度、17号溝と18号溝は2m程の間隔で概ね南北方向に並走する。16号溝は南側調査区外に抜けているが、17・18号溝は区の中程で18号溝が南東に走向を変じて17号溝に当る直前から南では確認できなかった。そのプランは

第3節 7区の遺構と遺物

17・18号溝が比較的直線的であるのに対し、16号溝は緩やかに蛇行する形状を呈しているが、その揺れは北半部より南半部の方が少ない。

各溝は共にしっかりした掘り方を見せるが、掘削形態は16・18が箱堀状を呈するのに対し、17号溝は葉研堀り状を呈する。



(11) 7-1-19・22号溝

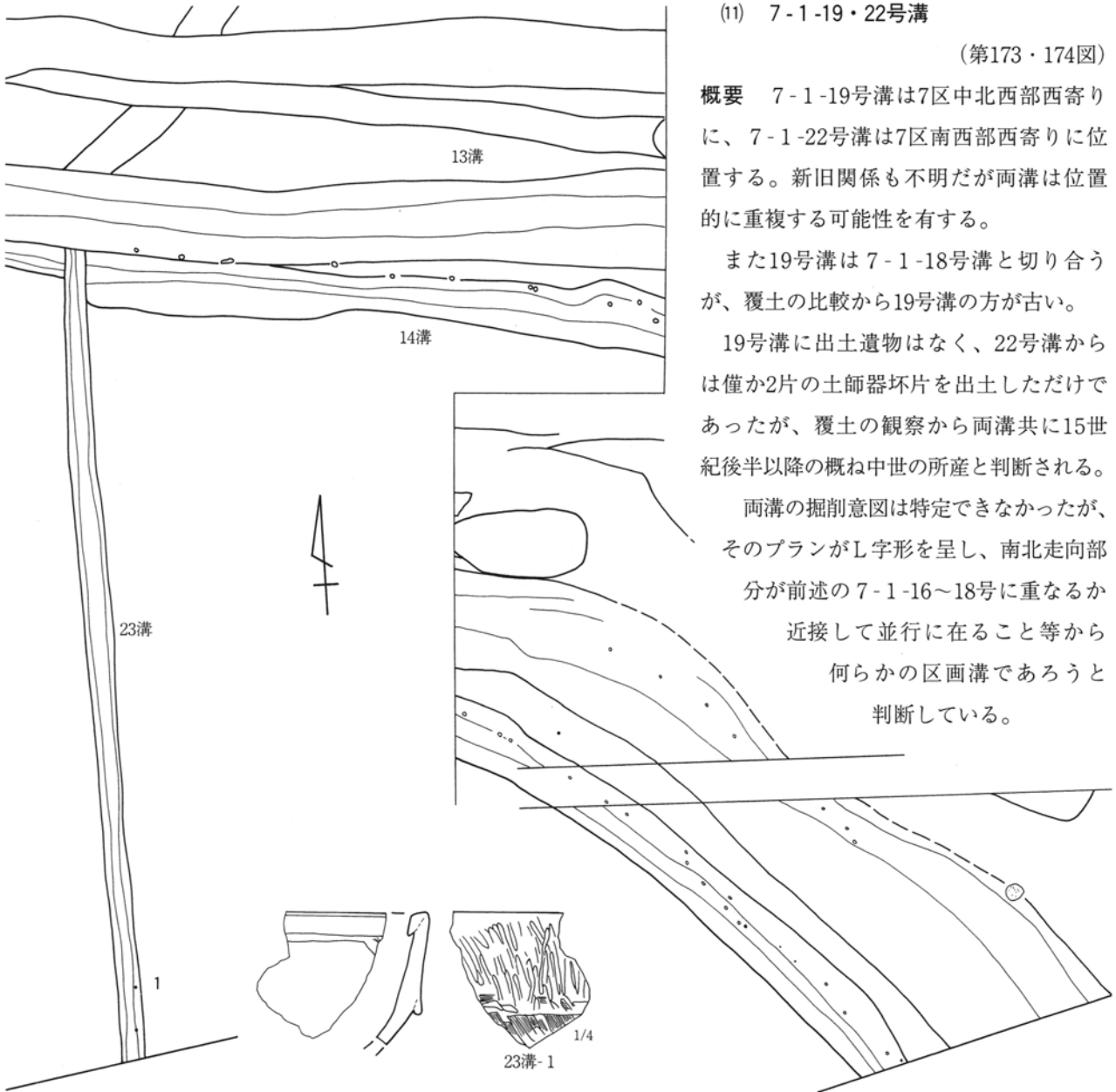
(第173・174図)

概要 7-1-19号溝は7区中北西部西寄りに、7-1-22号溝は7区南西部西寄りに位置する。新旧関係も不明だが両溝は位置的に重複する可能性を有する。

また19号溝は7-1-18号溝と切り合うが、覆土の比較から19号溝の方が古い。

19号溝に出土遺物はなく、22号溝からは僅か2片の土師器坏片を出土しただけであったが、覆土の観察から両溝共に15世紀後半以降の概ね中世の所産と判断される。

両溝の掘削意図は特定できなかったが、そのプランがL字形を呈し、南北走向部分が前述の7-1-16~18号に重なるか近接して並行に在ること等から何らかの区画溝であろうと判断している。



第172図の2 7-1-13・14・23号溝と出土遺物 (その2)

第2章 発見された遺構と遺物

尚、その掘削位置は227頁右上（第174の2図）の昭和23年段階の地形図に矢印b・cで示したように圃場整備前の土地区画に一致しなかったが、その掘削位置附近が16～18号溝同様、少なくとも中世から現代に至るまで土地の境目として認識され続けていたことが窺われる。尚、19号溝は水路ではないが、滞水の痕跡らしいものが認められている。

規模 (19号溝)長さ：(23.7) m 幅：40cm
深さ：7 cm

(22号溝)長さ：(25.0) m 幅：80cm 深さ：16cm

構造 19・22

号溝は、19号

溝の南21.2m

程の位置に22

号溝がスライ

ドしたような

位置関係に掘

削されている。

共に逆L

字状かそれに

〔溝埋没後の土層〕

1：褐灰色土：As-A混入。現耕作土

2：褐色土：中世洪水層

〔17号溝覆土〕

3：灰黄褐色土：As-Aと黄褐色シルト粒混入

4：褐灰色土：As-Aと黄褐色シルト粒混入

5：灰黄褐色土：As-Aと黄褐色シルト粒混入。

色調3層に比し暗い

〔18号溝覆土〕

6：褐灰色土：As-A混入

7：灰黄褐色土：黄褐色シルト粒とAs-A混入

〔17・18号溝地山〕

8：にぶい黄褐色土：As-B混土

9：暗褐色土：As-B混入（中世）

10：As-B

11：黒色粘質土：As-B下水田耕土。粘性強

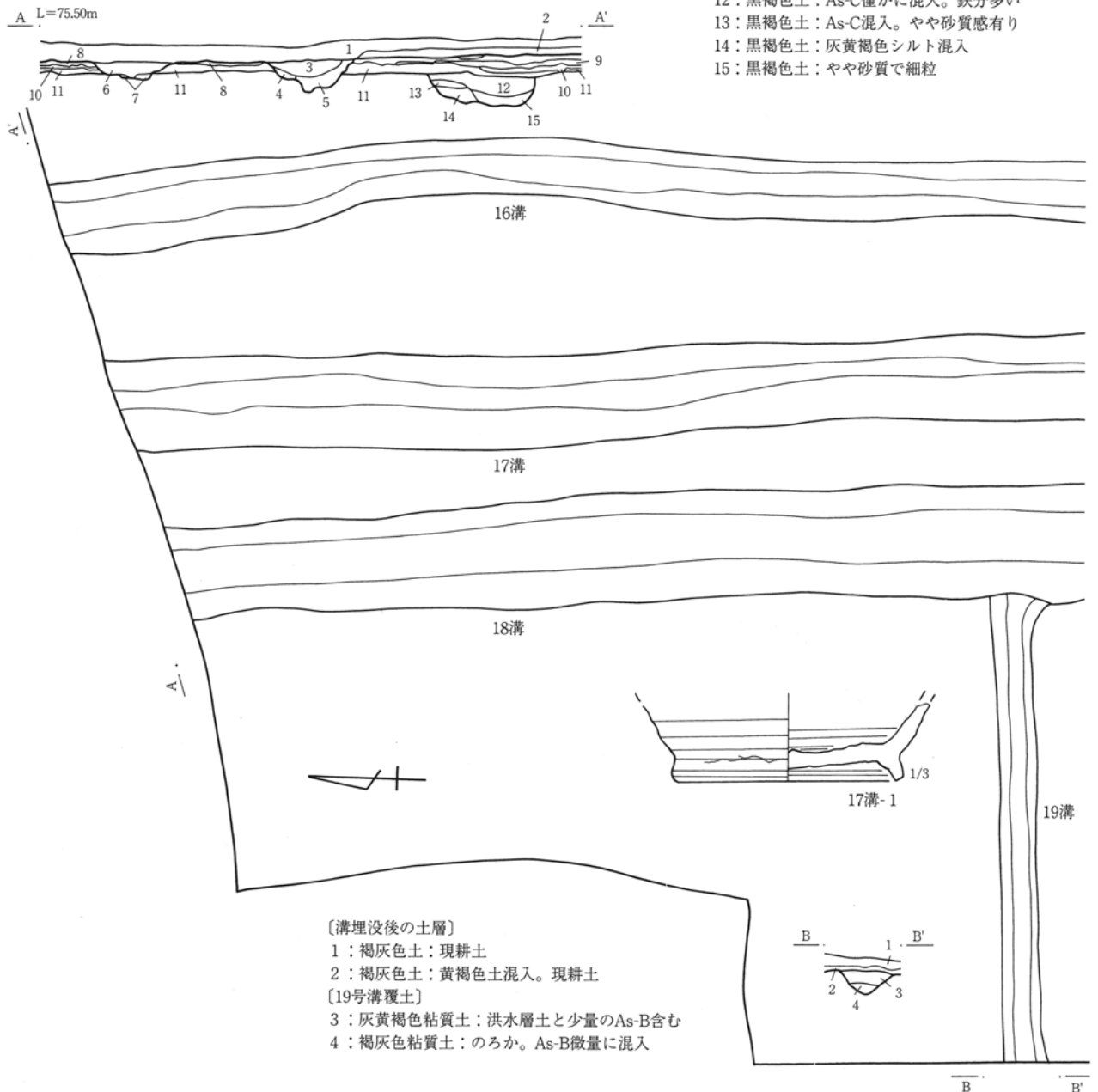
〔16号溝覆土〕

12：黒褐色土：As-C僅かに混入。鉄分多い

13：黒褐色土：As-C混入。やや砂質感有り

14：黒褐色土：灰黄褐色シルト混入

15：黒褐色土：やや砂質で細粒



第173図の1 7-1-16～19号溝と出土遺物（その1）

近い形態を呈しており、双方とも西側が調査区外に出ている。また19号溝は途中18号溝に重なり、7-1-21号溝に南側を切られており、22号溝は南側が調査区外に出ている。

19号溝の主軸は南北方向にあり、東西・南北走向部分共に直線的でコーナーは直角に近い曲がりを持つものと推定される。一方、22号溝は主軸を南南西-北北東に取って西側に膨らみを持つ弧状のプランを呈しているが、短軸方向は東西に走向を取って直線的である。また22号溝のコーナー部分が失われているため、その形状は明確にはできなかった。

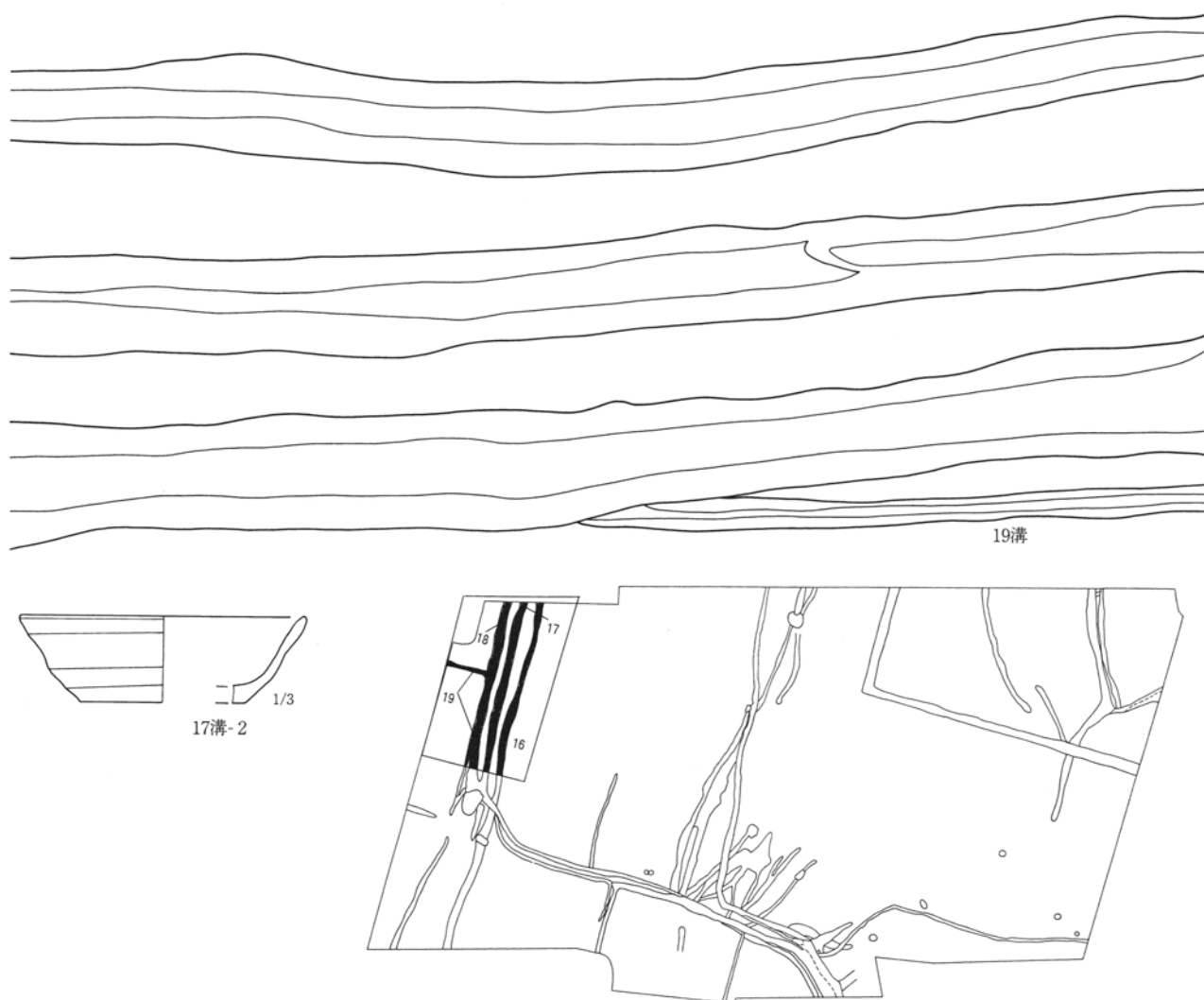
19・22号溝の掘削形態は共に薬研堀り状を呈する。

(12) 7-1-20・21号溝

(第173・174図)

概要 7-1-20・21号溝は7区西端部中程に位置する。20号溝は7-1-21号土坑と重複するが新旧は特定できなかった。また、21号溝と7-1-18・19号溝では、19号溝よりは新しいものの18号溝との新旧は特定できなかった。

20号溝からは土師器甕片と須恵器蓋片が僅か1点づつ出土しただけで、21号溝からの出土遺物はなく、時期特定には至らなかった。しかし覆土の観察によって20号溝はAs-B降下後でAs-A降下以前の所産であるが、中・近世の上位洪水層に被覆されているた



第173図の2 7-1-16~19号溝と出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物

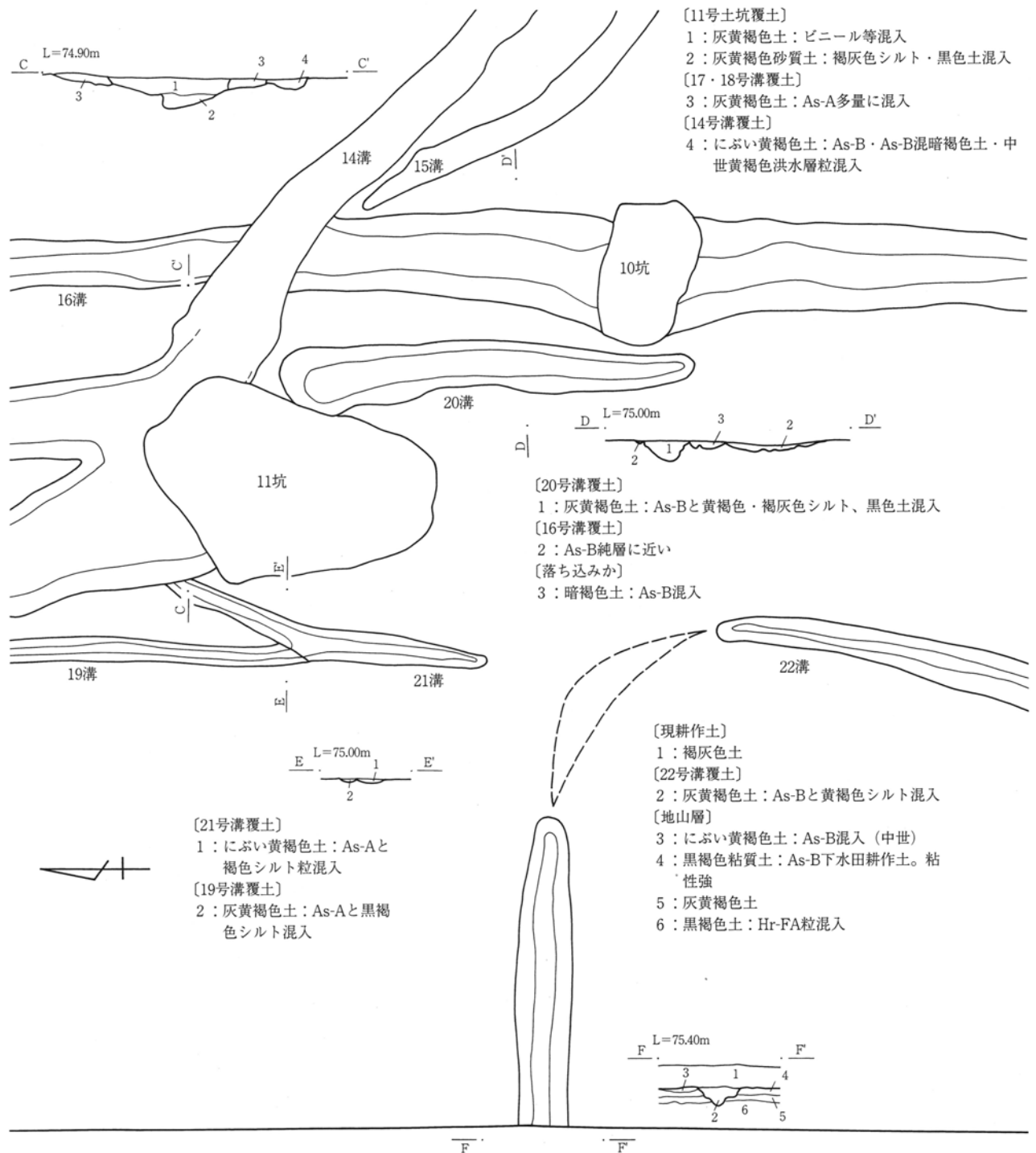
め、15世紀後半遺構の可能性を持つ。また21号溝はAs-A降下後の所産として把握される。

20・21号溝は僅かな距離が調査できただけであり、掘削意図も想定することはできなかった。但し流水の痕跡は認められず、掘削位置は土地区画を意識したエリアにある。

規模 (20号溝) 長さ：(23.7) m 幅：40cm
深さ：7 cm

(21号溝)長さ：(25.0) m 幅：80cm 深さ：16cm

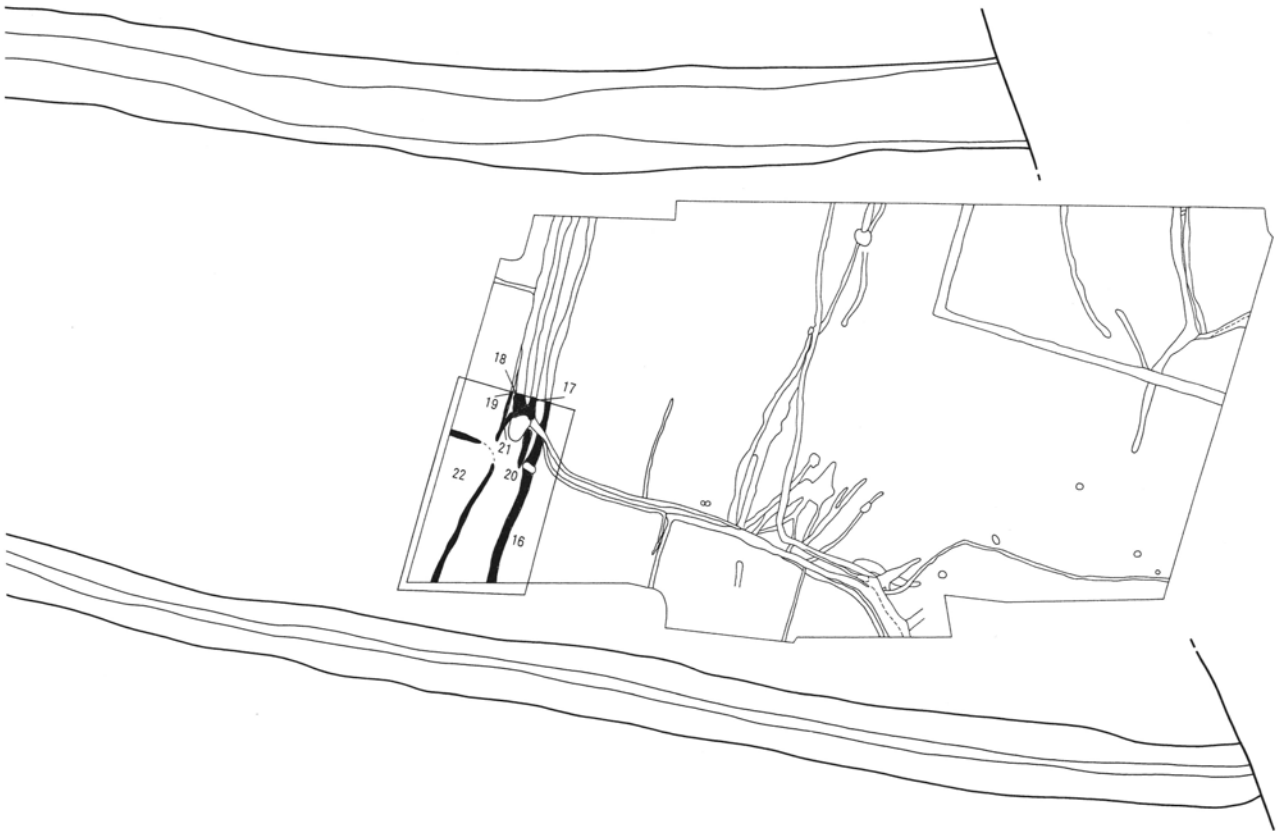
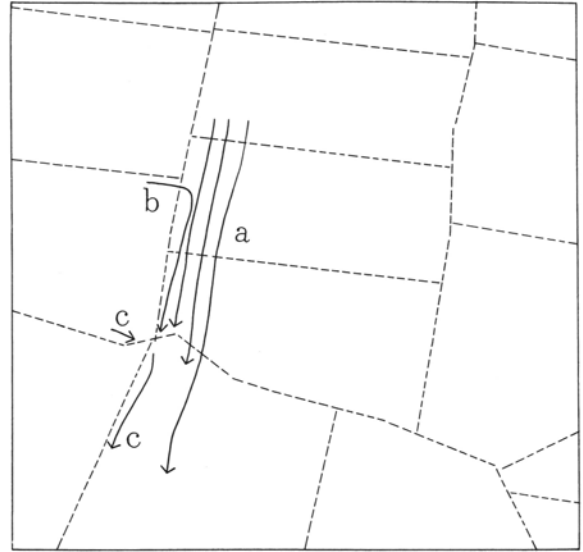
構造 20号溝の北端は形態的に溝端になるものと判断されるが、南端部と21号溝の南北両端は更に延長することを示すものであった。従って両溝の全容は



第174図の1 7-1-16~22号溝 (その2)

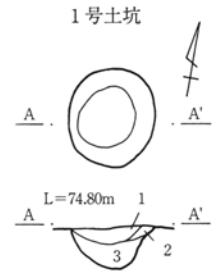
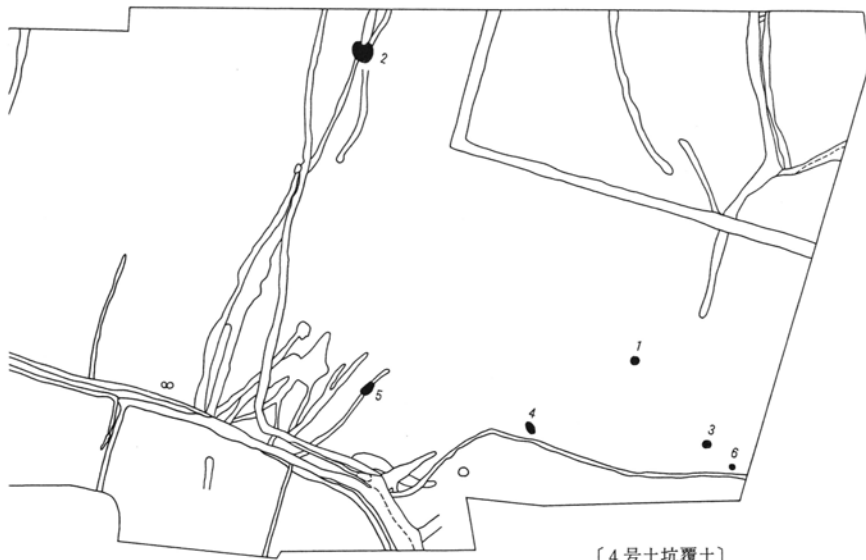
詳らかでないのであるが、確認範囲について見ると20号溝は位置的に7-1-17号溝の延長線上に位置するもので、概ね南北方向に走向を取る溝である。しかし細かく見ると中程を境と極く僅かに屈曲し、北半は軸が西に振れている。南北それぞれのラインは直線的である。一方、21号溝はく字状の直線的なプランを呈しており、南半部は19号溝に接続してその延長線上に完全に乗るが、北半部は20°程東に折れて北北東-南南東方向に軸方向を取っている。

両溝の掘削形態は、共に箱堀状を呈するものであった。



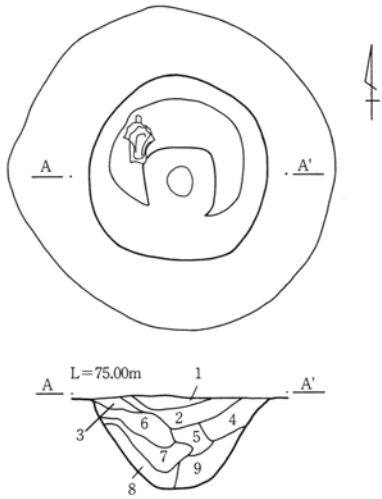
第174図の2 7-1-16~22号溝(その2)

第2章 発見された遺構と遺物



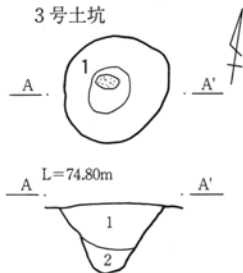
- [1号土坑覆土]
 1: 褐灰色砂質土: As-B混入
 2: 褐色砂質土: As-B混入
 3: にぶい黄褐色土: 暗褐色土混入

2号土坑



- [2号土坑覆土]
 1: 褐灰色土: 黄褐色シルト粒混入
 2: 暗褐色土: 黄褐色シルト混入
 3: 褐灰色土: 黄褐色シルト混入
 4: 灰黄褐色土: 黄褐色・暗褐色土混入
 5: 暗褐色土: 黄褐色シルト混入
 6: にぶい黄褐色土: 暗褐色土混入
 7: 黒褐色土: 黒褐色シルト・As-B混入
 8: 黒色土: As-B混入
 9: 黒褐色土: 7層に比し黒褐色シルトの割合多い。As-B僅かに混入

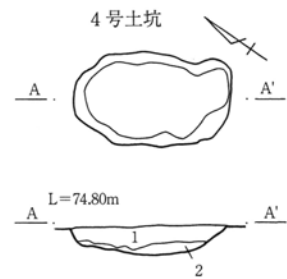
3号土坑



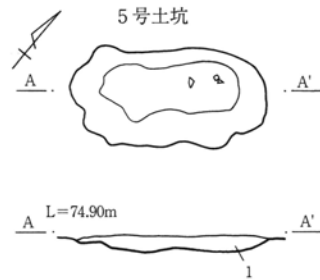
- [3号土坑覆土]
 1: 灰黄褐色砂質土: As-B混入する
 2: 暗褐色土: As-B混入。やや粘質持つ

[4号土坑覆土]

- 1: 褐色砂質土: As-B混砂質土と褐色粘土混入
 2: 暗褐色粘質土: As-B混土と黒褐色粘土多く混入



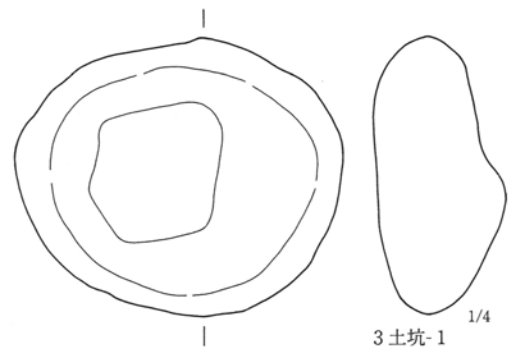
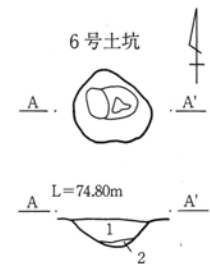
5号土坑



- [5号土坑覆土]
 1: にぶい黄褐色土: As-B混入

[6号土坑覆土]

- 1: にぶい黄褐色砂質土: As-B混入
 2: 暗褐色土: As-B混砂質土と黒褐色砂質土混入



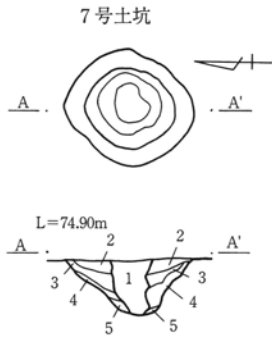
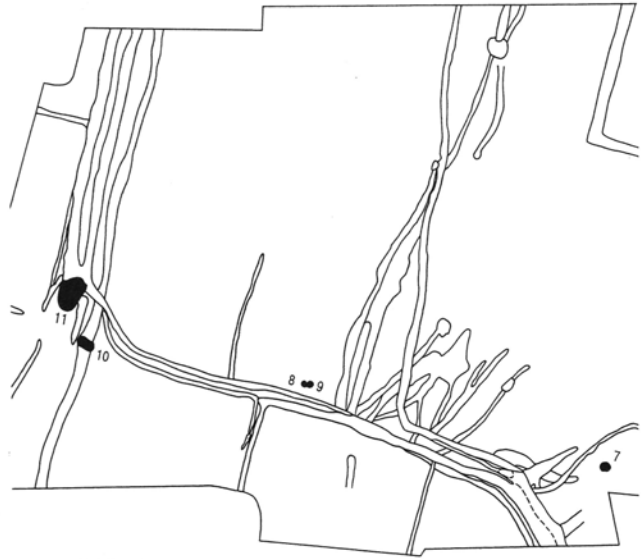
第175図 7区1面の土坑群と出土遺物(その1)

(13) 7区1面の土坑群

(第175・176図、図版75・76・87)

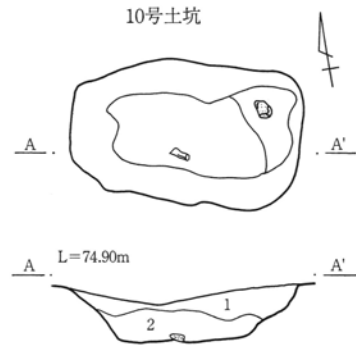
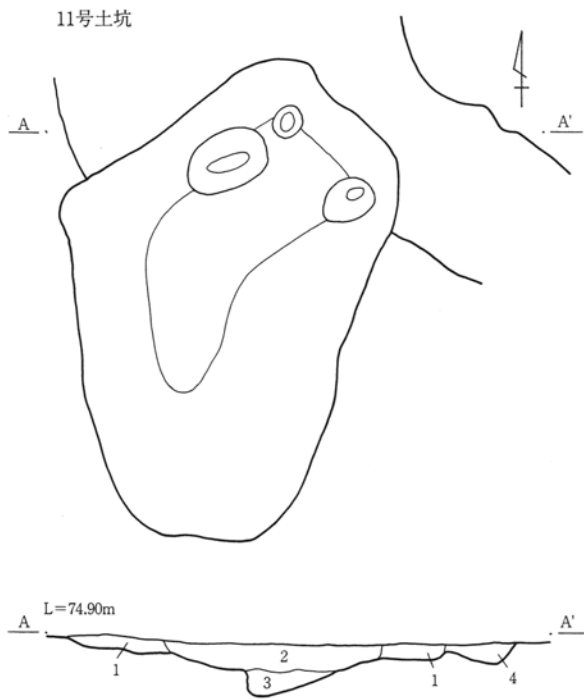
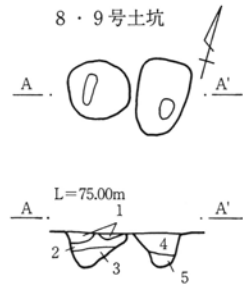
概要 7区1面では7-1-1～11号の11基の土坑が確認されたが、溝遺構に近接して在り、その分布はやや拡散する傾向にあった。

このうち2・5・7号土坑からは土師器・須恵器片等、3号土坑からは2寸角程を測る角柱の当り痕が残る礎石(1)が出土したが時期特定には至らず、土層観察等から1・3・7・8・9号土坑は中世の構築と判断された。4・5・6・10号土坑はAs-B降下後でAs-A降下以



- [7号土坑柱痕]
- 1: 暗褐色砂質土: As-Bと多量の灰黄褐色粘質土混入
- [7号土坑覆土]
- 2: にぶい黄褐色砂質土: As-B混入
 - 3: 灰黄褐色砂質土: As-B混入。灰黄褐色粘質土1層に比し少なく混入
 - 4: 黒褐色砂質土: As-B混入。やや粘性あり
 - 5: 黒褐色土: 黒色粘質土混入

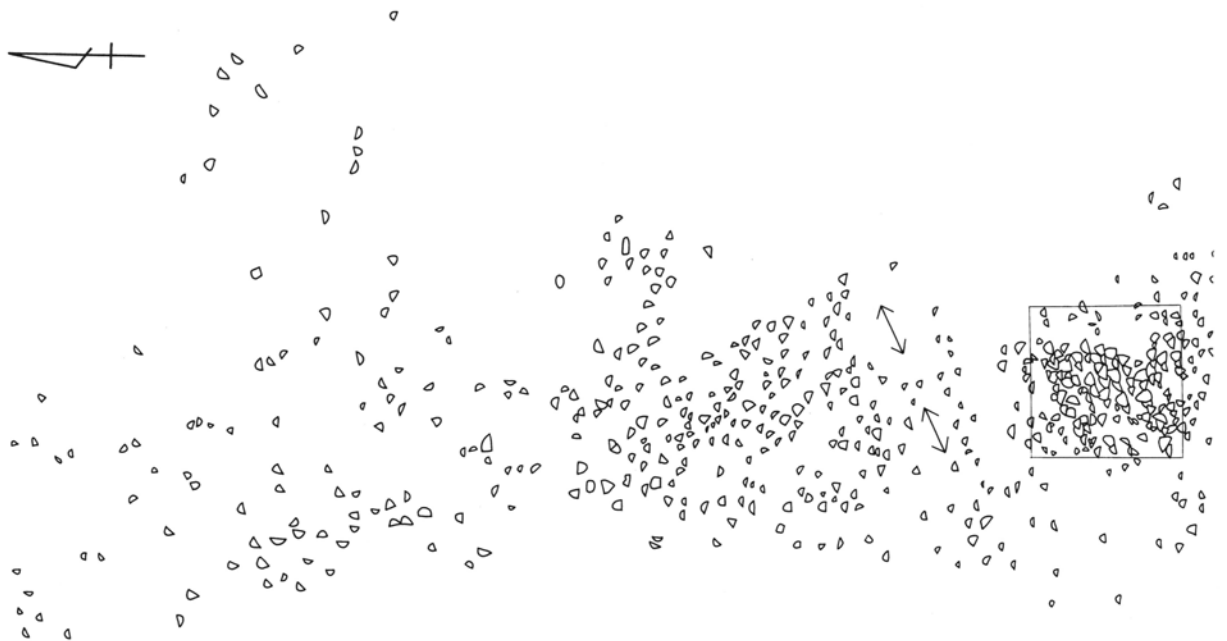
- [耕作土]
- 1: にぶい黄褐色砂質土: As-Bと黄褐色シルト混入
- [8号土坑覆土]
- 2: 灰黄褐色砂質土: As-B混入(或いは耕作土か)
 - 3: 黒褐色砂質土: As-Bと灰褐色粘土混入
- [9号土坑覆土]
- 4: 灰黄褐色砂質土: 粗粒のAs-Bと灰褐色粘土混入
 - 5: にぶい黄褐色砂質土: As-Bと黄褐色粘土混入



- [10号土坑覆土]
- 1: 灰黄褐色砂質土: 褐色シルトと黒色土及び多量のAs-B混入
 - 2: 灰黄褐色砂質土: As-Bとにぶい黄褐色シルト・黒色土混入。砂質だがシルト多く粘性あり

- [17・18号溝覆土]
- 1: 灰黄褐色土: As-A多量に混入
- [11号土坑覆土]
- 2: 灰黄褐色シルト質土: As-A少量とビニール等混入
 - 3: 灰黄褐色砂質土: 褐灰色シルト・黒色土混入
- [14号溝覆土]
- 4: にぶい黄褐色土: As-BとAs-B混暗褐色砂質土・中世黄褐色洪水層粒混入

第176図 7区1面の土坑群(その2)



第177図の1 7区1面中世耕作痕

前の所産で、そのうち4号土坑は比較的早い段階、10号土坑は15世紀後半以前と判断される。また2号土坑は太平洋戦争末期、11号土坑は現代のものであった。

掘削意図等は、2号土坑は昭和20年（1945）8月15日未明の伊勢崎空襲に伴う爆裂坑。3号土坑は礎石、7号土坑は断面観察から柱穴と判断されるが、建物は特定できず、3号土坑は柱の規模に比して大きく7号土坑の柱は径50cm程と推定される。尚、これ以外の土坑の掘削意図は特定できなかった。

規模 （1号土坑）径：78×66cm 深さ：33cm

（2号土坑）径：261×255cm 深さ：72cm

（3号土坑）径：84×81cm 深さ：57cm

（4号土坑）径：123×75cm 深さ：24cm

（5号土坑）径：156×75cm 深さ：15cm

（6号土坑）径：63×57cm 深さ：21cm

（7号土坑）径：102×93cm 深さ：42cm

（8号土坑）径：48×48cm 深さ：27cm

（9号土坑）径：63×39cm 深さ：27cm

（10号土坑）径：183×114cm 深さ：33cm

（11号土坑）径：378×231cm 深さ：42cm

構造 これらは1・6・8・9号土坑が小型、2・11号土坑が大型、他が中型に分類できるが、全体に6区の土坑に比しその規模は大きい。

プランは1～3・6・8号土坑が円型、4・5・9・10号土坑は隅丸長方形、7号土坑は長方形、11号土坑は不定形を呈する。

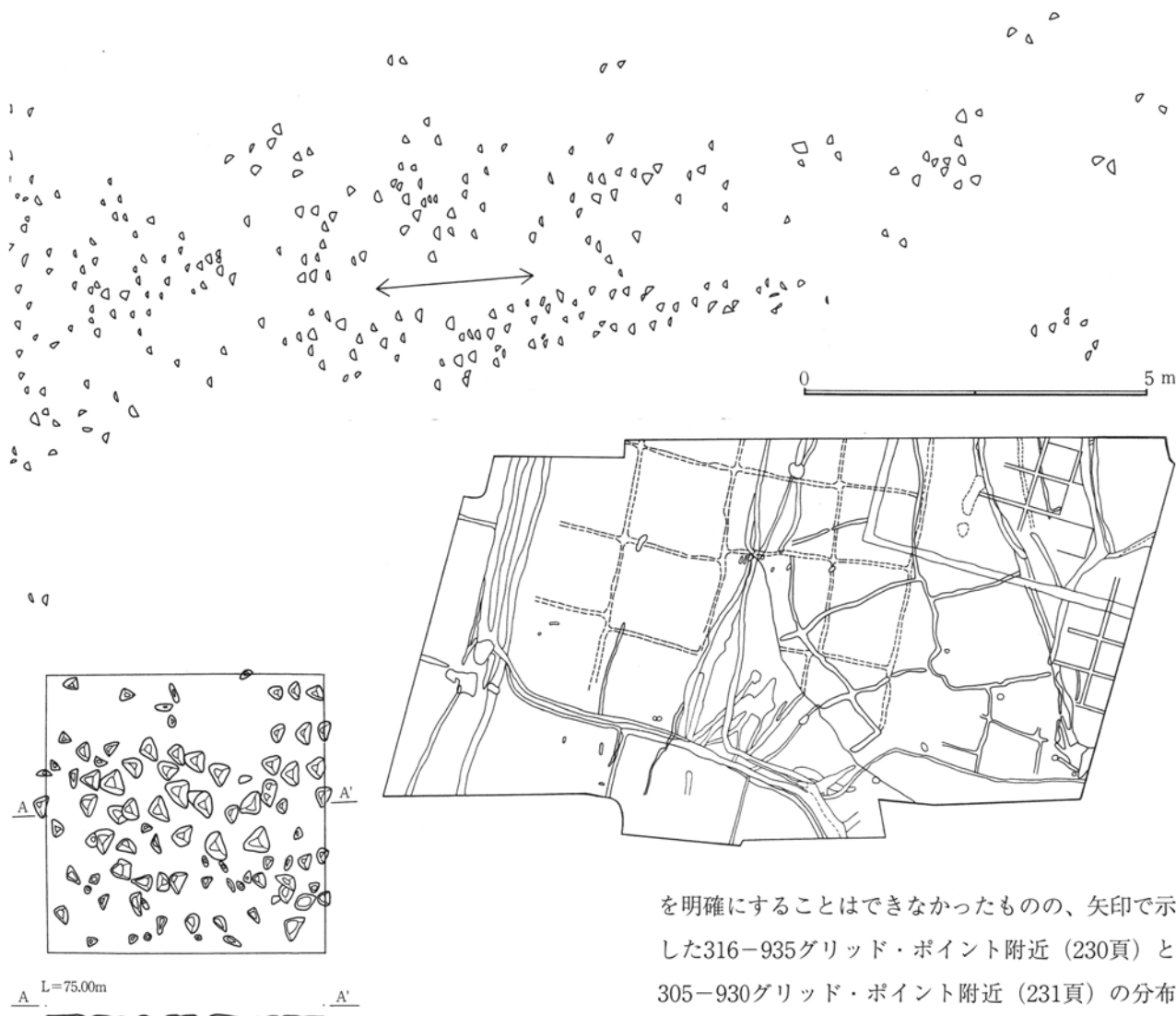
底面は1～3・6～9号土坑が丸底、4・5・10号土坑が平底、11号土坑がやや凹凸のある平底様を呈する。また壁面は4号土坑を除き開き気味である。

(14) 7区1面中世耕作痕（第177図、図版76）

概要 本耕作痕は鋤先の集合体で、7区1面西部の7-1-16号溝に沿った区域で確認されている。

本耕作痕は調査段階で中世の所産と判断されているが、記録の不備もあって詳細な時期特定はできなかった。しかし平・断面図の照合から少なくともAs-B混土で被覆されたことが確認される。

本耕作痕は3・4・5区での同様の遺構の確認から水田址と認識される。後述の7区1面中世水田址との関係も考慮されるが、畦畔は特定できなかった。



第177図の2 7区1面中世耕作痕

規模 [確認範囲] : 32.5×7.6m

[鋤先] (312~314-934~935附近)

径 : 20×19cm以下 深さ : 概ね5cm以下

構造 本中世耕作痕は主に4~5m幅に、南北に伸びる帯状の範囲に分布する鋤先痕によって形成されるもので、東西に更に広がることが窺われるため、その全容は明らかにすることはできていない。

従って、以下確認範囲に於ける所見を述べるが、鋤先痕の分布には濃淡があるが、上述のように畦畔

を明確にすることはできなかったものの、矢印で示した316-935グリッド・ポイント附近(230頁)と305-930グリッド・ポイント附近(231頁)の分布の薄くなる部分が畦畔であった可能性を有する。

鋤先痕を確認すると全体としては北を中心とした方向を向いて掘削されたものが多かったのであるが、北寄りの317~320ライン附近では北東を見て掘削しているものが多く見られた。また320ライン以北では東西、或いは南を掘削するものも多く、規則性が特に認められない状態であった。

また鋤先痕の配列から掘削は体の向いた方向に対して縦列に行われたものと判断されるのであるが、列として4つ並ぶ鋤先は稀で、3つ以下のものが殆どであった。これは4区で見られた状態とは異なっている。

第2章 発見された遺構と遺物

(15) 7区1面中世水田(第178図、図版77)

概要 本水田址はAs-B下水田の表出作業に伴ってその痕跡が確認されたもので、確認範囲は南寄り及び西端部を除く7区1面中・西部に広がっている。

本水田址からの出土遺物はなく、その時期も明確にはできなかったのであるが、上述のようにAs-B降下面に於いて確認され、確認されたのが痕跡のみであった状況に鑑みて概ね中世の所産であろうと判断している。

給排水路や給排水順路等は確認できなかったが、概ね北から南に給水していったものと判断される。

尚、前述の耕作痕(鋤先痕跡群)はその想定される畦畔の軸方向は近似するものの、位置から本水田址とは別のものである可能性を有する。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

[確認範囲] : 56.8×45.6m

[[水田区画径] 1 : (1064)×(1020) cm

2 : (1032)×1092cm 3 : (908)×1312cm

4 : (192)×(44) cm 5 : (1336)×(748) cm

6 : 1362×1220cm 7 : 1320×1280cm

8 : 1332×(380) cm 9 : (1388)×(500) cm

10 : 1516×988cm 11 : 1528×1328cm

12 : 1392×(736) cm 13 : 1136×(616) cm



第178図 7区1面中世水田

14：1050×1388cm 15：1132×1024cm

16：1192×(792) cm

〔畦畔〕 下幅：cm以下

構造 本水田址は水田址に伴う水路等は確認できず、遺構としてもその痕跡が確認されたに過ぎなかったため全体の状況は詳らかにできなかったが、やや西に傾く南北方向の畦を12～13m間隔に設置し、畦と畦の間を概ね10～14m間隔で東西に区切って畔を設置しているのが確認された。こうして区画された個々の水田区画は比較的方眼に近い配列を見せており、南北の配列を基本としているが、区画1～8と区画9～16では東西畔が不連続であるため、本水田址は大きく東西に分けられるものと思慮される。また南北に連なる区画9・13の南北畦が区画10～12・14～16とは不連続であるため、東側の水田区画も南北に分けられるものと思慮される。

個々の水田区画のプランは正方形に近い形態を呈するものであった。その大きさは東西・南北の長さを測定できたものでは平均で東西径13.18m（標準偏差1.96）、南北径12.55m（標準偏差1.42）を測るものであった。

さて、その通水は上述のように水田区画が南北列を基本としているため、北から南に流されていたものと判断される。しかし区画9・13はその北側の区画との連続性が認められないため、この箇所は区画10→区画9への通水と共に、区画14→区画13→畦区画9への通水も考慮され、区画13で区画16～13の南北列は止まってしまう可能性が思慮される。

(16) 7区1面As-B下水田(第179図、図版77・111)

概要 本水田址は7区1面中・東部に位置している。

本水田址はAs-Bに被覆されているため、最終使用面は天仁元年(1108)のものである。しかし水田の開削時期は特定できなかった。

谷地形を利用して造られており、条里方眼には依拠していない。通水は北北東側上流部から南東側下流部にかけて行われていたものと判断されるが、水路等を確認することはできなかった。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

〔確認範囲〕：38.4×50.2m

〔〔水田区画径〕 1：492×672cm

2：540×1040cm 3：368×1028cm

4：(536)×(264) cm 5：1904×900cm

6：1784×1220cm 7：1800×1028cm

8：(1704)×(800) cm 9：(355)×(468) cm

10：752×(772) cm 11：(608)×862cm

12：800×881cm 13：(1460)×1340cm

14：(1364)×(2260) cm

〔畦畔〕 下幅：cm以下

〔水口幅〕 水田面4－1間：上幅：23cm

水田面1－2間：上幅：36cm

水田面2－3間：上幅：43cm

水田面5－6間：上幅：18cm、37cm

水田面7－8間：上幅：38cm

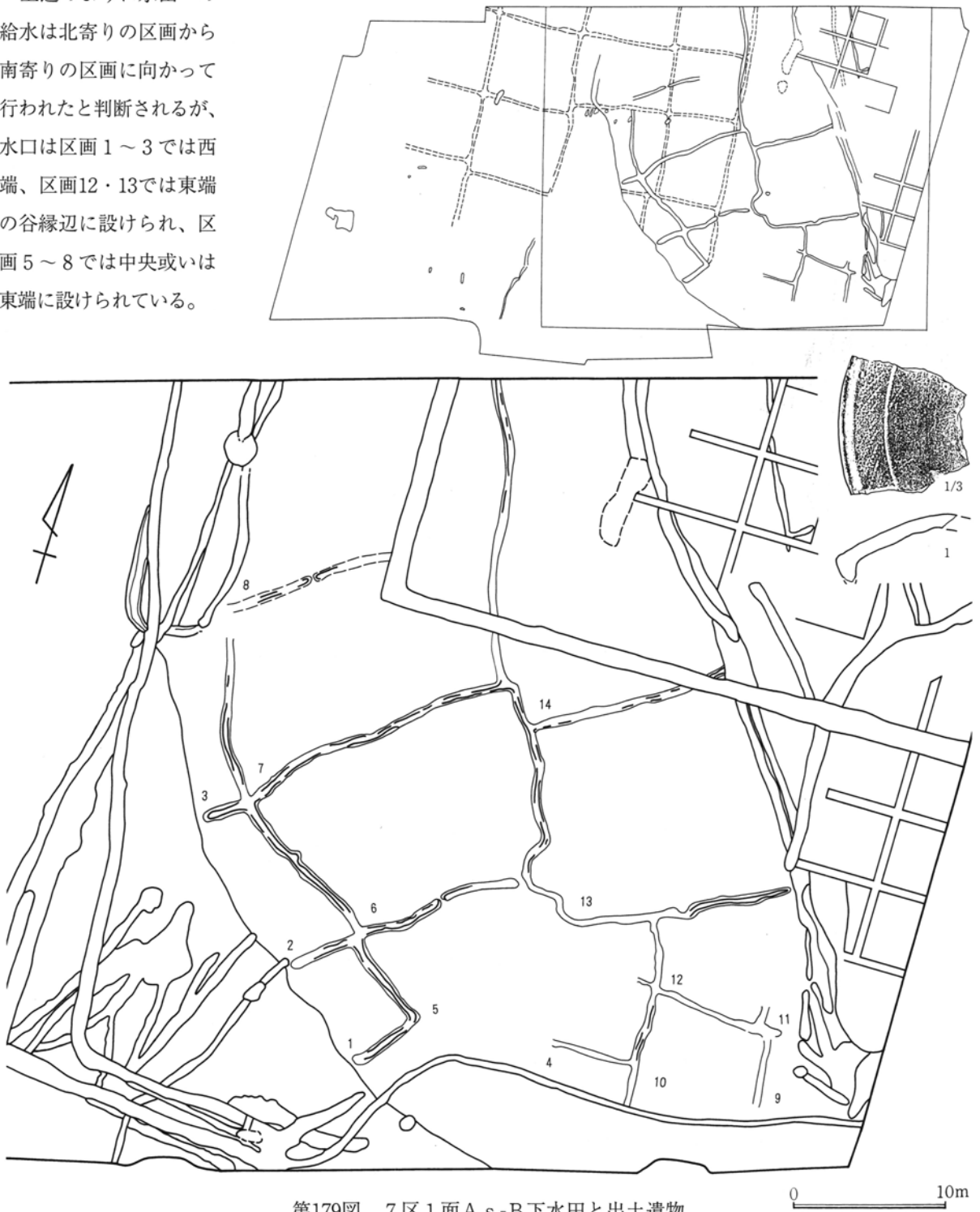
水田面12－13間：上幅：119cm

構造 本水田址は遺存状況もさして良好ではなかったため畦畔もはっきりしない箇所があるなど、その全容は詳らかにできなかったのであるが、上述のように25～40m程の北北東から南東方向に抜ける谷地形を利用して造られている。確認範囲に於いては西寄りと中央東寄りに谷に沿った北から南南東に走る畦が設置され、これを南北に分割する畔が設けられて水田区画が形成されている。南東部では東西・南北に谷地形がやや東を向くためか東西・南北方向に畦畔が設定されている。尚、区画8の西側にの畦が水路に伴うものでなければ、谷幅が更に広がるか、谷地形が北西方向に延びる可能性を有する。

認識できた水田区画は14面を数えたが、このうち区画5・8・14は更に細分化される可能性を有する。また、個々の水田区画の規模は、東西・南北径を測定できたもののうち最小の区画1と最大の区画6では面積比で1：6.5の違いがあるなど大小が違って一定していない。またプランも方形を基本とする傾向が窺えるものの、地形による規制があるため、台形、或いは屈曲するプランを呈する箇所もあって規格化できるものではなかった。

第2章 発見された遺構と遺物

上述のように水田への給水は北寄りの区画から南寄りの区画に向かって行われたと判断されるが、水口は区画1～3では西端、区画12・13では東端の谷縁辺に設けられ、区画5～8では中央或いは東端に設けられている。



第179図 7区1面A s-B下水田と出土遺物

(17) 7区1面窪地 (第180図)

概要 7区1面南東隅部に於いては、現代の耕作土の除去に伴って窪地が確認されている。

この窪地は現代の耕作土及び同質の土壤によって被覆されているため、概ね近・現代の所産と判断さ

れる。しかし圃場整備前(昭和23年)に於いて当該個所は西寄りに在るものの、一筆の水田の中に収まり、当時の地形図には窪地としての記載や等高線の変化は認められない。更に南側周縁部に於いてはAs-Aを多く含む近世後期の土壤が陥没する傾向に



- [現代耕作土等]
 1：褐灰色土：As-A、鉄分、ピニール等混入
 2：褐灰色土：As-A、鉄分凝縮土等混入。やや砂質。現代耕作土と同じ
 [近世の土層]
 3：褐灰色土：As-Aを多く混入する
 [中世の土層]
 4：にぶい黄褐色砂質土：As-B混入の中世洪水層
 5：暗褐色砂質土：As-B混入。褐灰色砂を互層に混入。基本的には6層に同じ
 6：暗褐色砂質土：As-B混入。耕作土
 [古代の土層]
 7：As-B純層
 8：黒色土：As-C混入

あることが確認されていることから、当該箇所が少なくとも近世後期には窪地となっており、後世幾度か掘り直されていた可能性も考慮される。

尚、この窪地の成因或いは用途等を特定することはできなかった。

規模 径：(1.6) × 4.9m 深さ：45cm

構造 東側が調査区外に出ているので、その全容は詳らかにできないが、本窪地のプランは北北東-南南西方向に主軸を持つしゃもじ状を呈する。

底面の形状丸底気味で、壁面は開き気味である。

(18) 7区1面遺構外の出土遺物

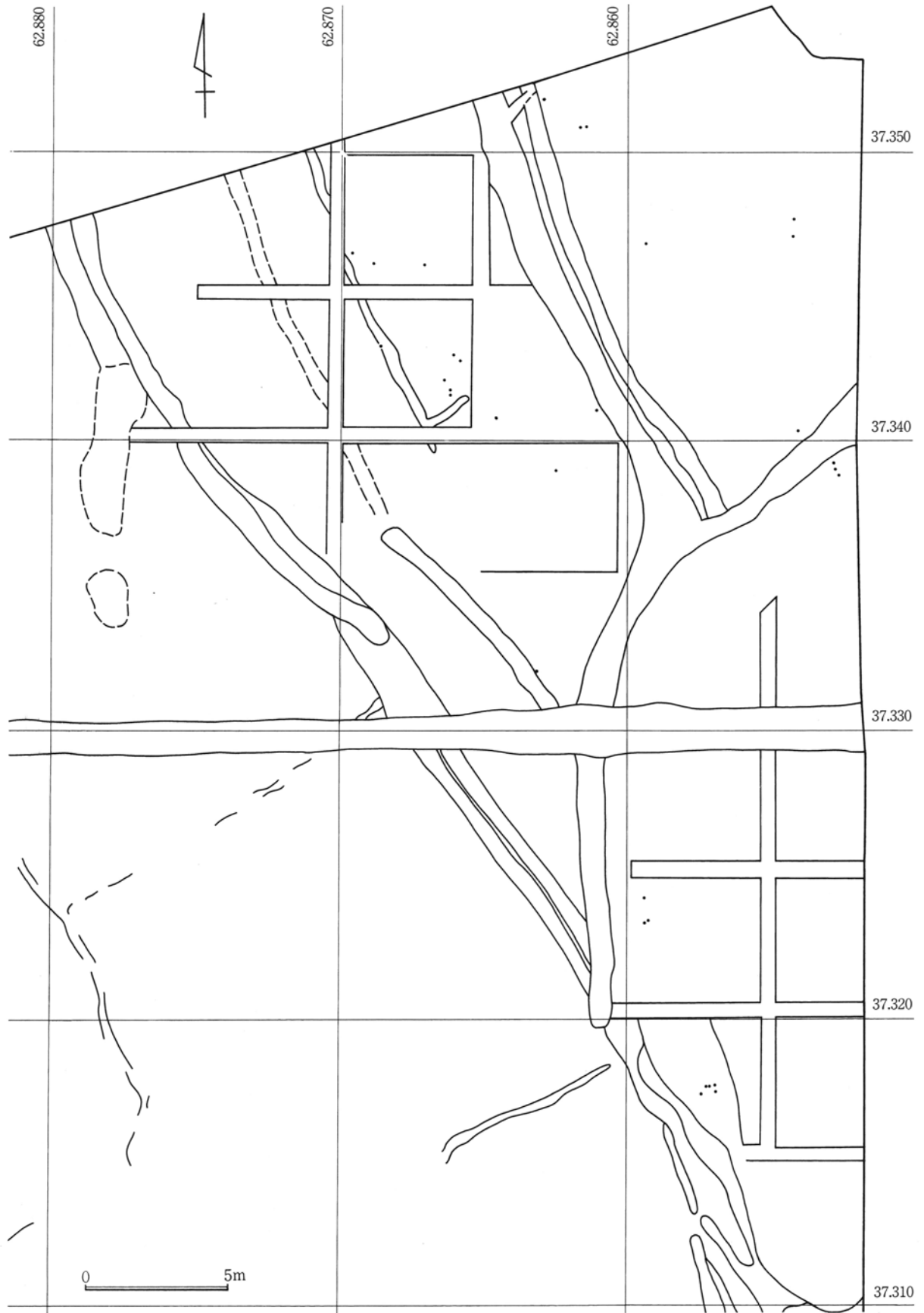
(第181・182図、図版88・89)

概要 7区1面に於いては遺構外の出土遺物として、古墳時代前・中期の土師器片を中心として、律令期の土師器・須恵器・灰釉陶器片など若干量があった。また、これらの中には板碑の破片(1)や使用痕の顕著な石製の挽き臼の上臼片(3~6)が含ま

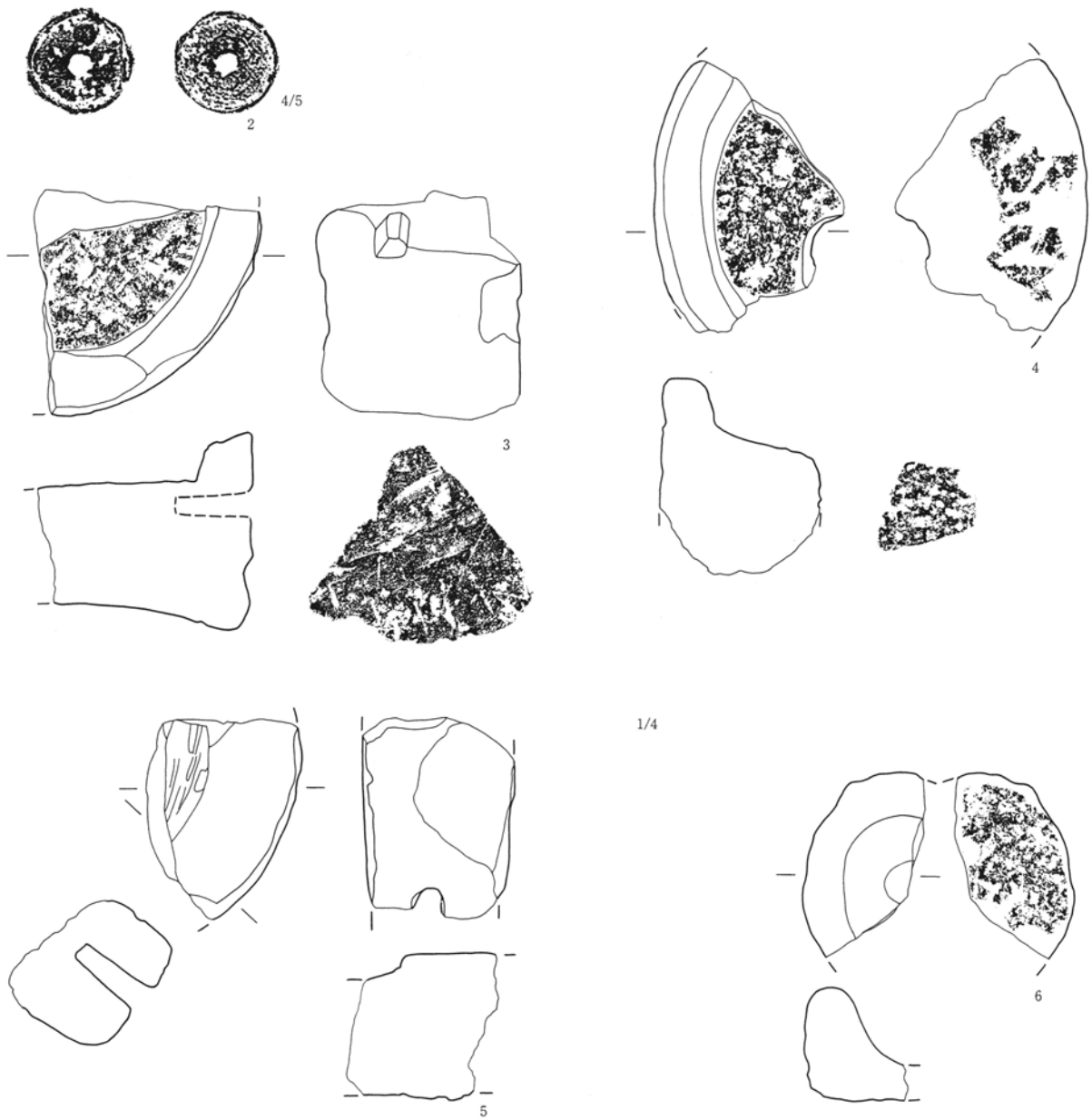


第180図 7区1面窪地

まれ、或いは大正時代の五銭硬貨(2)の出土も認められた。



第181図 7区1面遺構外出土遺物分布状況



第182図 7区1面遺構外出土遺物

7-3 7区2面の遺構と遺物

(1) 7-2-1号住居 (第183図、図版79・89)

概要 本住居は7区東端部中程に位置する。7-2-2号住居と重複するが新旧は特定できなかった。

4世紀のミニチュアの甕(1)や8世紀末～9世紀前半期の土師器坏(2)等古墳時代以降の土師器片等の出土遺物を得たが時期特定には至らず、概ね8世紀末葉以降の所産として把握されるに過ぎない。

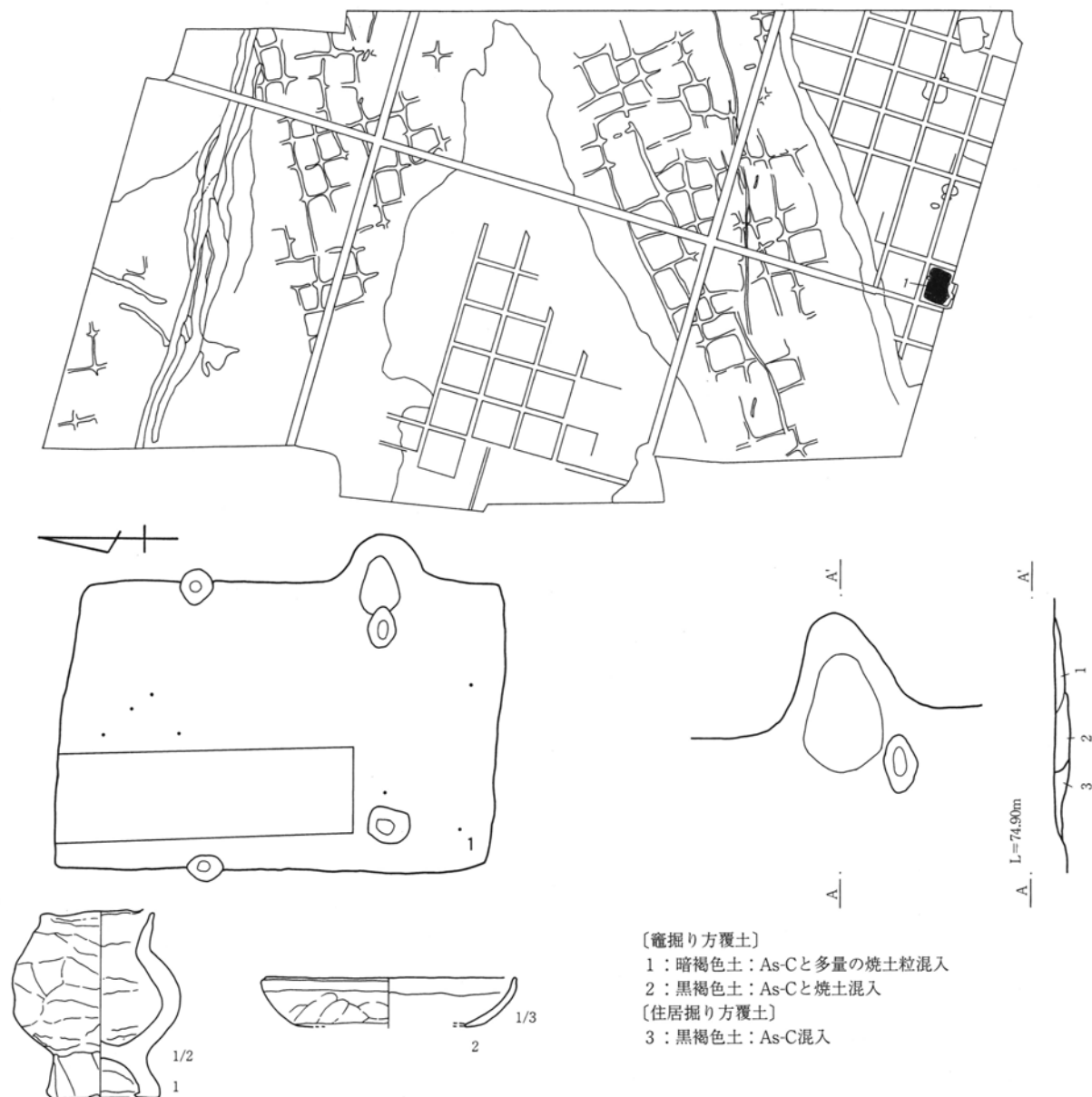
規模 径：380×253cm 深さ：0 cm

〔竈〕 幅：(68) cm 奥行き：70cm

構造 本住居はトレンチによって壊され、掘り方を確認できたに過ぎなかったため、その全容は詳らかではきないが、横長の隅丸長方形のプランを呈する。

竈は東壁の南寄りに設けられ、壁面ラインを跨ぐ位置に浅い掘り方を掘削し、これを焼土を含む土壌で埋め戻している。燃焼部・袖等の構造は不明。

床上の構造は不明だが、本住居に絡む4基の小ピットは住居の規模や掘削位置に照らしてこれらは本住居には伴わないものと判断される。



第183図 7-2-1号住居と出土遺物



(2) 7-2-2号住居 (第184図、図版79・89・90)

概要 本住居は7区東端部、7-2-1号住居の東にスライドして重なるように位置する。尚、1号住居との新旧関係は特定できなかったが、遺構の確認状況から推して本住居の方が古い可能性を有する。

本住居は土師器甕(1)や須恵器甕(2)の出土から9世紀前半期の所産と判断されるが、4世紀の土師器甕片(3)や、律令期の土師器坏片、或いは流れ込みの可能性を有する産地・時期不詳の陶質の皿(4)等、若干の出土遺物を得ている。

規模 径：(228) × (48) cm 深さ：0 cm

〔竈〕 幅：(53) cm 奥行き：55cm

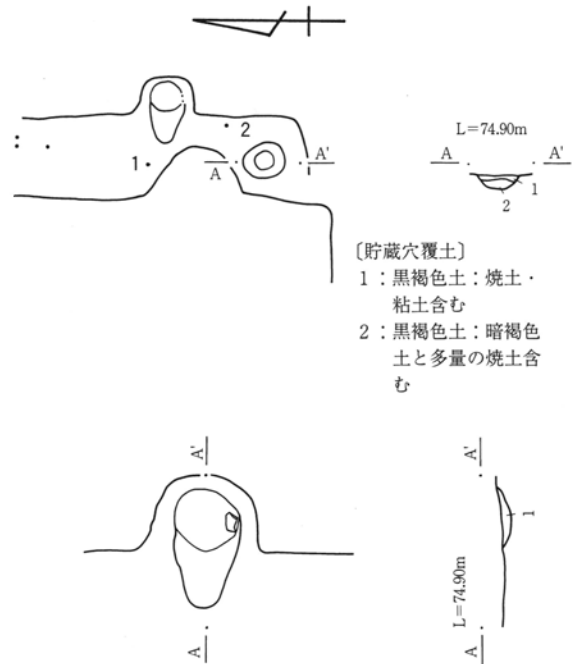
〔貯蔵穴〕 径：31×30cm 深さ：12cm

構造 本住居は遺存状況が悪く、僅かな範囲しか確認できなかったため、その全容は詳らかではない。

プランも不明瞭であるが、概ね隅丸(長)方形を呈するものと思慮される。

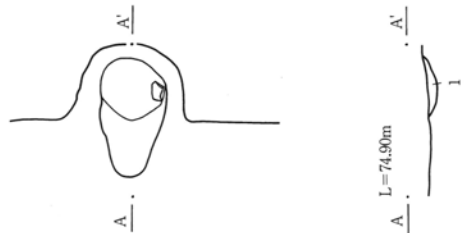
竈は東壁の、恐らくは南に寄った位置に設置されている。壁面ラインを跨ぐように浅い掘り方を掘削して造られているが、燃烧面は焼土粒を含む黒色系の土壌で埋め戻されている。尚、燃烧部・袖等の構造は確認できなかった。

床上の構造も不明瞭ではあるが、竈右側の住居南東隅部に壁面から23cm離れて小型の貯蔵穴が掘削されている。



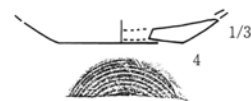
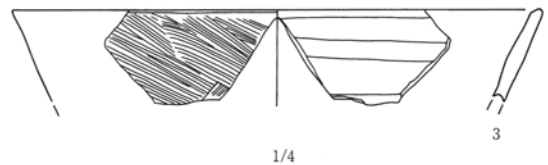
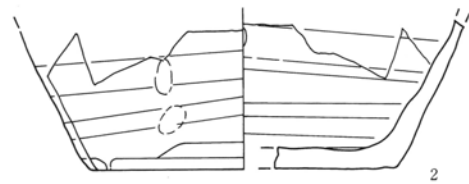
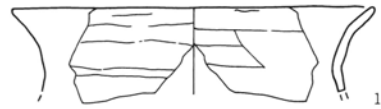
〔貯蔵穴覆土〕

- 1：黒褐色土：焼土・粘土含む
- 2：黒褐色土：暗褐色土と多量の焼土含む

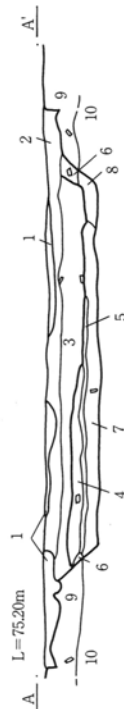
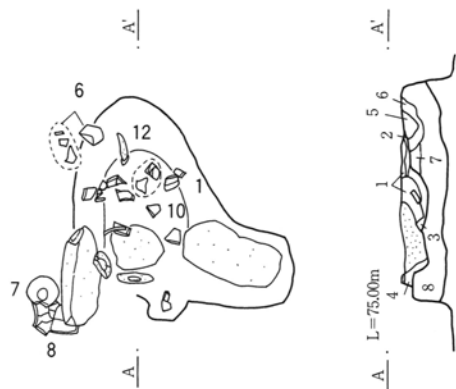
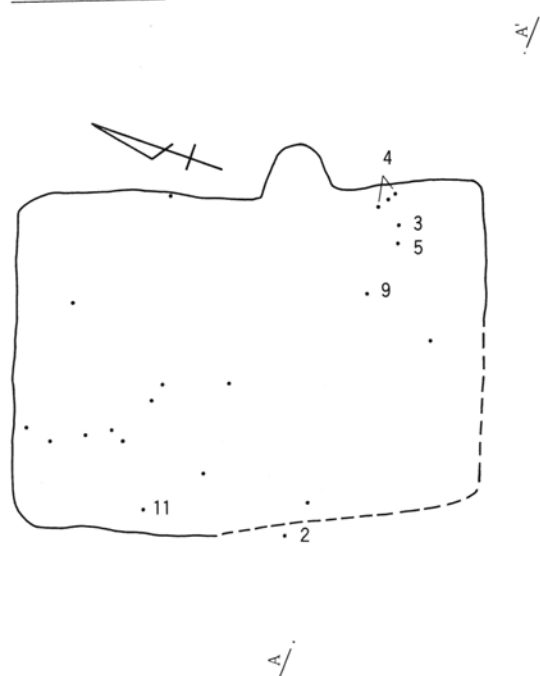


〔竈掘り方覆土〕

- 1：暗黒褐色土：若干の焼土粒混入。粘性有り



第184図 7-2-2号住居と出土遺物



(3) 7-2-5号住居(第185・186図、図版79・90・91)
概要 7-2-5号住居は7区北東隅部、8区に続く微高地上に位置する。本住居は単独で在り、他遺構との重複等は認められなかった。

本住居からは古墳時代前期から律令期にかけての土師器・須恵器片など若干の出土を得たが、この中には8世紀後半期の土師器の坏(1)・(8)・甕(10)、8世紀末葉から9世紀前半にかけての所産と判断される土師器坏(2~4)・(9)や須恵器坏(5~7)があり、或いは窪みを持つ異形の土製紡錘車(11)の出土も見られた。こうした出土遺物から本住居は概ね8世紀末葉~9世紀前半期の所産と判断される。

規模 径：368×270cm 深さ：0 cm

[竈] 幅：(92) cm 奥行き：93cm

[右袖] 幅：40cm 長さ：33cm

高さ：6 cm

構造 本住居は確認面が低かったことも

[住居廃棄後の埋土]

1：明褐色砂質土：As-B・橙色粘質土多く混入

[住居覆土]

2：黒褐色土：やや砂質。As-C・焼土粒混入

3：黒褐色土：2層に比し柔らかい

[土葺屋根構築材か]

4：黒褐色土：As-C・焼土粒・灰色粘質土混入

5：灰層

[周堤帯崩落土か]

6：黒褐色土：やや砂質。As-C微量に混入

[掘り方覆土]

7：黒色土：やや粘質。As-C・焼土粒・黄褐色土少量混入

8：黒褐色土：As-C微量に混入

[地山層]

9：黒褐色土：やや粘質。As-C多く混入

10：黒褐色土：やや砂質。As-C微量に混入

[竈覆土]

1：暗褐色土：やや粘質。焼土粒多く混入

2：灰層：焼土粒含む

3：黒褐色土：やや粘質。灰・焼土粒少量混入

4：黒褐色土：やや砂質。灰少量混入

[煙道部覆土]

5：暗褐色土

6：褐灰色砂質土：灰・焼土粒多く混入

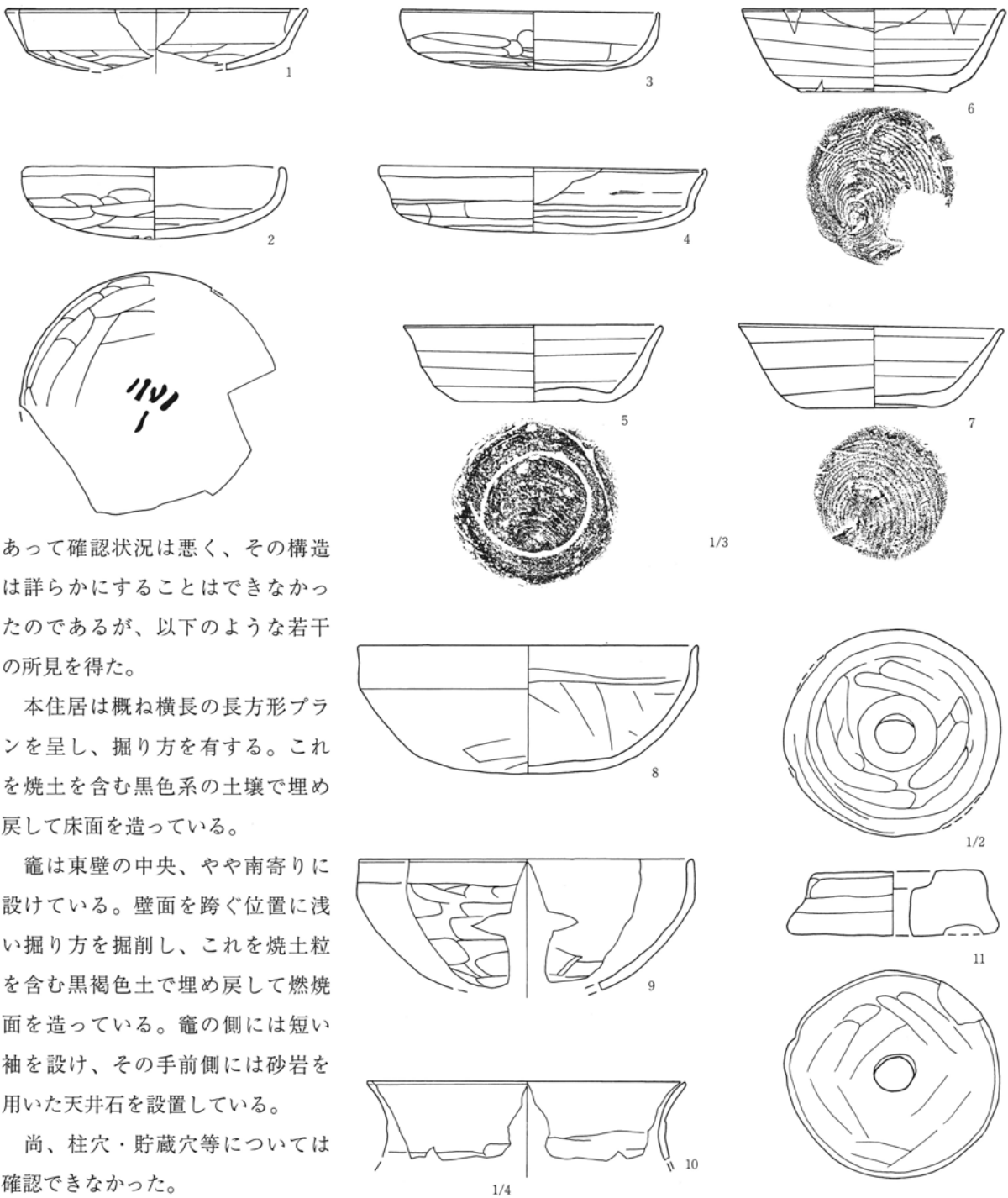
[燃燒面構築層]

7：黒褐色土：やや粘質。黒色土少量混入

[竈掘り方覆土]

8：黒褐色土：黄褐色土・焼土粒混入

第185図 7-2-5号住居



あつて確認状況は悪く、その構造は詳らかにすることはできなかったのであるが、以下のような若干の所見を得た。

本住居は概ね横長の長方形プランを呈し、掘り方を有する。これを焼土を含む黒色系の土壌で埋め戻して床面を造っている。

竈は東壁の中央、やや南寄りに設けている。壁面を跨ぐ位置に浅い掘り方を掘削し、これを焼土粒を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。竈の側には短い袖を設け、その手前側には砂岩を用いた天井石を設置している。

尚、柱穴・貯蔵穴等については確認できなかった。

第186図 7-2-5号住居出土遺物

(4) 7-2-12号住居 (第187図、図版79)

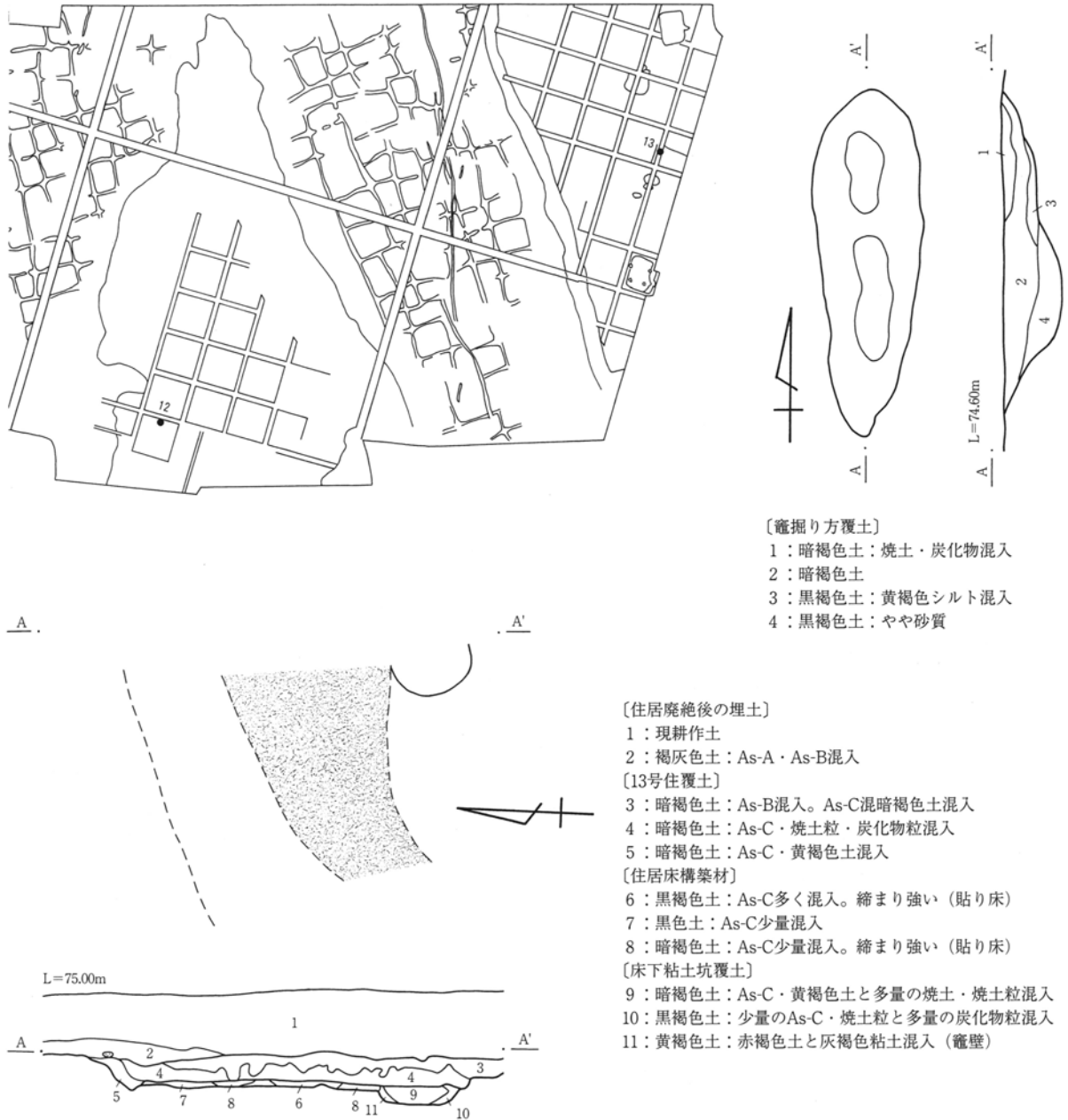
概要 本住居は7区中南部、7区中位の微高地上に位置し、竈の掘り方のみ確認している。また本住居に他遺構との切り合いなどは認められなかった。

本住居からの出土遺物はなく、時期を特定することはできなかったが、竈を有するため、概ね古墳時

代後期から平安時代の所産として把握される。

規模 [竈掘り方] 径：51×155cm 深さ：26cm

構造 本住居は竈が確認されただけなので全容は不明であるが、竈の掘り方は縦長の楕円形プランを呈し、これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。



第187図 7-2-12・13号住居

(5) 7-2-13号住居 (第187図、図版80)

概要 本住居は7区北東部、前述の7-2-1号住居の北西に近接して位置する。尚、本住居は古墳時代の7-3-14号住居を切ることが確認されている。

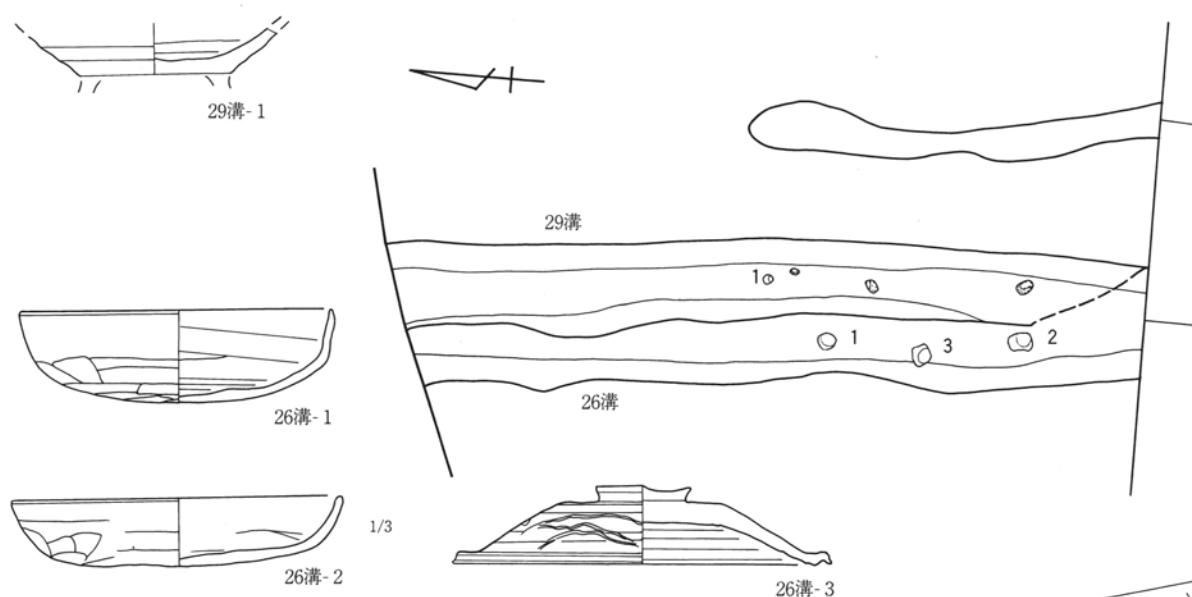
本住居からの出土遺物はなく、時期の特定もできなかったが、竈を有するらしいことから概ね古墳時代後期以降平安時代以前の所産として把握される。

規模 残存径：340×240cm 深さ：0 cm

構造 本住居は土層断面には確認できるが、面的には殆ど確認できず、その構造も詳らかでなかった。

プランは不明。極く浅い掘り方を埋め戻して床を造るが、暗褐色・黒褐色土で貼り床が造られている。

また土層断面に現れる南寄りの9～11層は調査段階では竈とされているが、窪みの壁面に灰色粘土を含む土壌が張り付いているので、竈前に掘られる所謂床下粘土坑であろうと判断される。



(6) 7-2-26・27・28・28b・29・30・31号溝

(第188・189図、図版80・91)

概要 7-2-26～31号溝は7区西部に絡みつくようにまとまる南北走向の溝群で、第2節に述べた1面の7-1-16～18号溝の東寄りに4m程スライドするように位置する溝群である。このうち29号溝が26号溝を、26号溝が27・31号溝を、31号溝が28号溝を切っているが、重複する27号溝と30号溝や28b号溝との新旧関係は特定できなかった。尚、28号溝は一部分割されており、この分かれる部分を本報告書では28b号溝としたが、調査段階では28号溝として一括処理されており、28号溝本体との関係は不明である。また31号溝は26・27号溝の中に在る溝であるが、土層断面に確認され、平面的には一部29号溝との重複する絡みの中で認識されたに過ぎなかった。

本溝群では31号溝を除く各溝から、やや古い時期の要素を残すもの(26溝-5)を含む9世紀前半期の土師器坏(26溝-1・2・4、27溝-1・2)や須恵器の蓋(26溝-3)や坏(26溝-6)、9世紀後半期の須恵器碗(29溝-1)、或いは敲石(26溝-7)や半裁の竹片らしきもの(27溝-3)を含む古墳時代以降律令期に至る時期の土師器・須恵器片等の出土遺物があった。こうした遺物の出土によって、26・27号溝は9世紀前半期、29号溝は9世紀

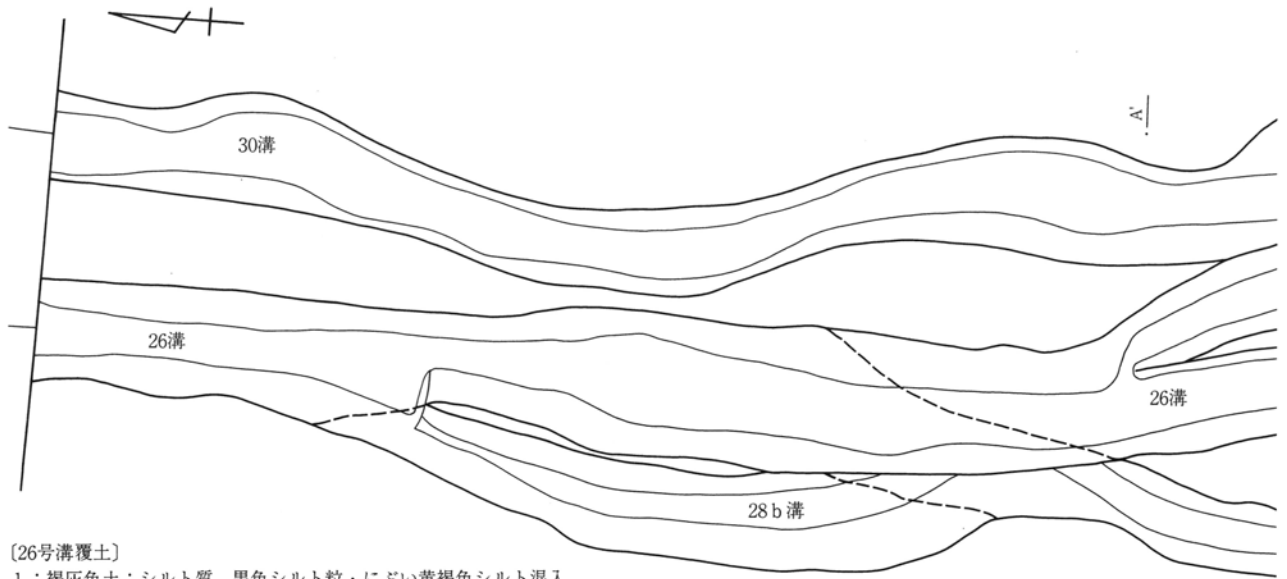


第188図 7-2-26・29号溝と出土遺物(その1)

後半期の所産として把握される。尚、28・31号溝は重複関係から9世紀前半以前の所産と判断され、28b・30号溝も9世紀前後の時期の所産と凡そ想定される。

さて、本溝群の各溝には通水の痕跡は特に認められず、掘削目的は特定できなかった。しかしそのプランから土地区画に伴うものとは思われず、洪水層と想定される土壤に被覆されているものもあることから、何れも通水を目的として掘削された可能性が考慮される。

第2章 発見された遺構と遺物



[26号溝覆土]

1：褐灰色土：シルト質。黒色シルト粒・にぶい黄褐色シルト混入

[29号溝覆土]

2：褐灰色土：シルト質。As-C混入。粘性強

[27・31号溝覆土]

3：灰黄褐色砂質土：褐灰色シルト混入。洪水層か

[28号溝覆土]

4：灰黄褐色土：シルト質。黒色シルト・Hr-FP (か) 混入。洪水層

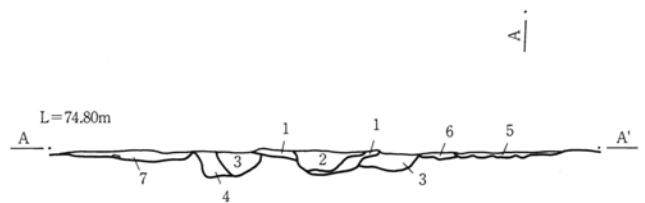
[30号溝覆土]

5：暗褐色土：シルト質。にぶい黄褐色シルト粒・As-C混入

[29号溝覆土]

6：暗褐色砂質土：細粒。褐色シルト粒多量に混入。洪水層か

7：黒褐色砂質土：As-C混入



規模 (26号溝) 長さ：(50.0) m 幅：

168cm 深さ：24cm

(27号溝) 長さ：(17.0) m 幅：160cm

深さ：41cm

(28号溝) 長さ：(12.6) m 幅：72cm

深さ：19cm

(28b号溝) 長さ：(7.4) m 幅：96cm

深さ：13cm

(29号溝) 長さ：(50.5) m 幅：80cm

深さ：30cm

(30号溝) 長さ：(16.8) m 幅：128cm

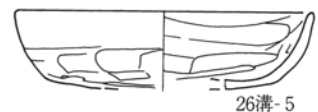
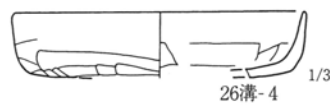
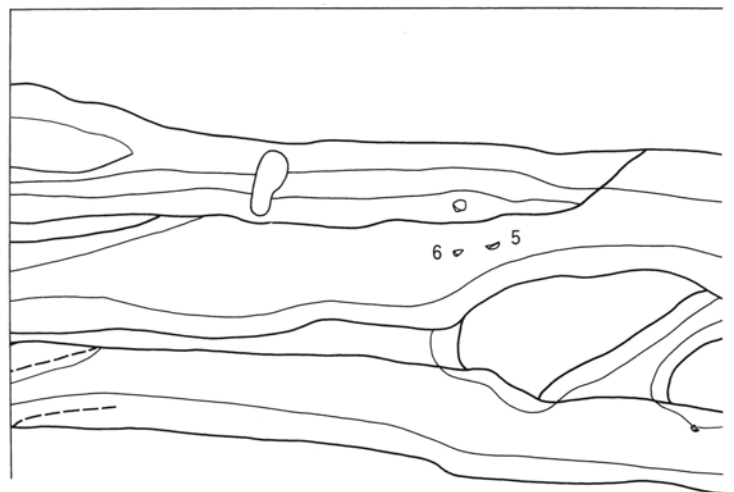
深さ：4 cm

(31号溝) 長さ：(3.5) m 幅：47cm

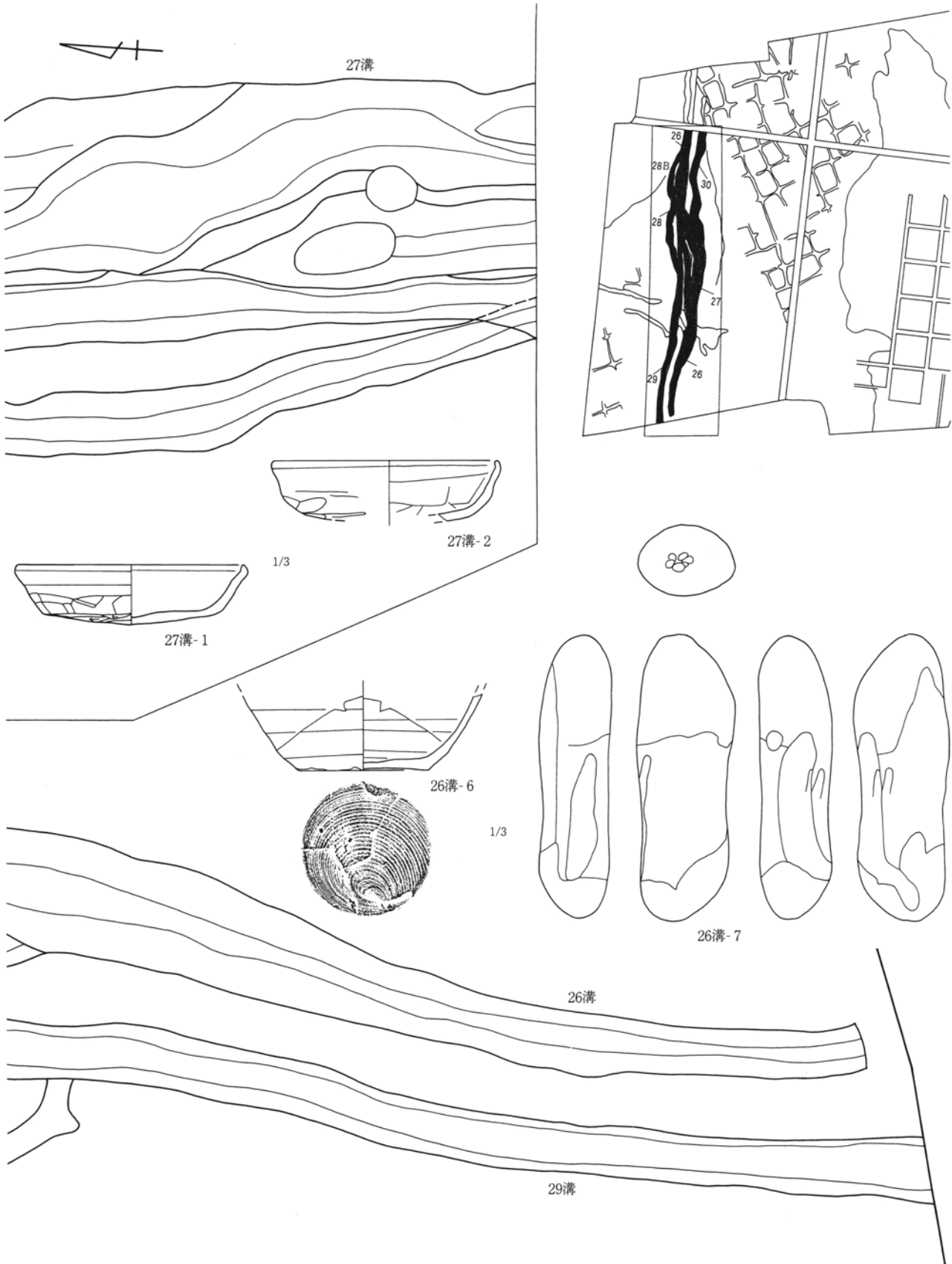
深さ：26cm

構造 本溝群の各溝は南北に走向を取り、揺れの程度に差はあるものの、何れも蛇行したプランを呈している。

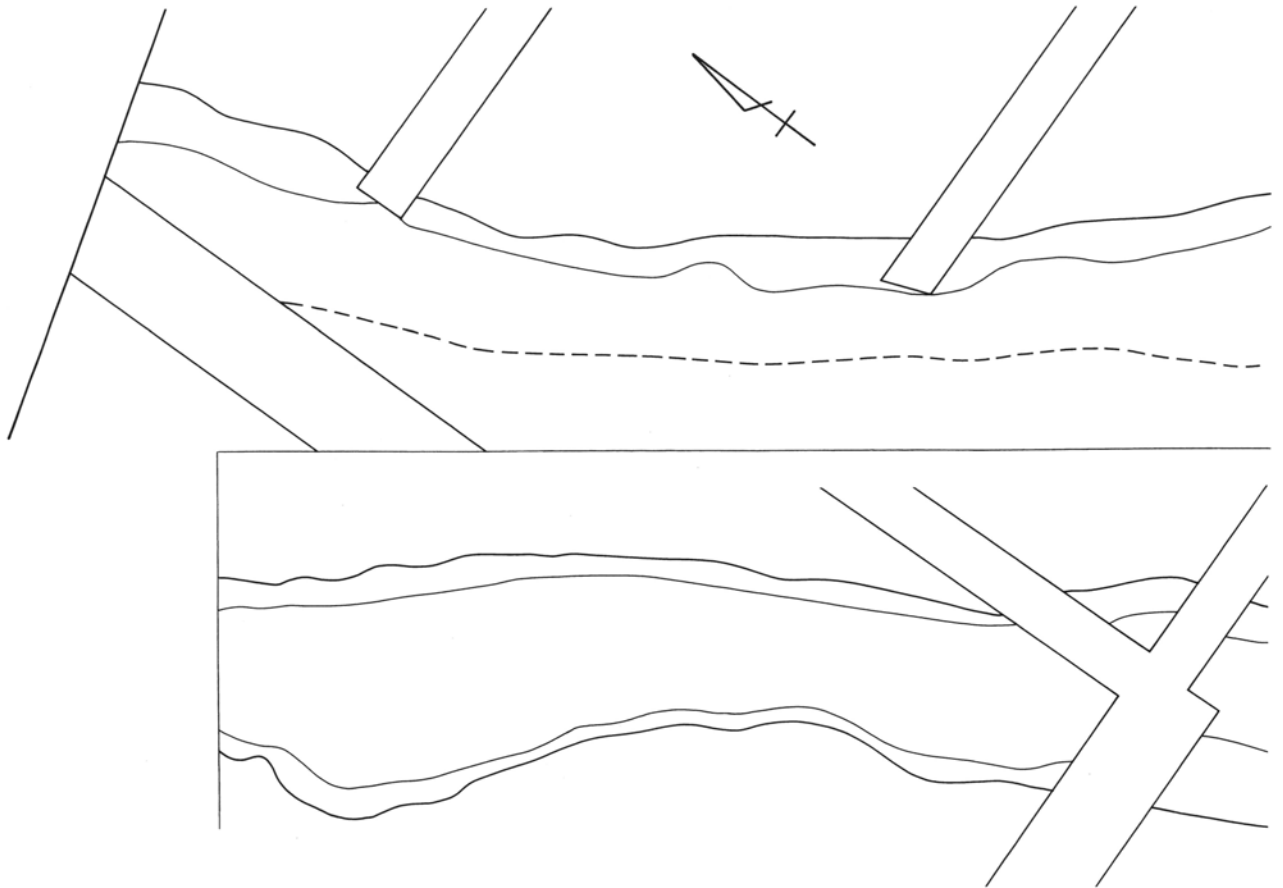
掘削形態は各溝共に箱堀状を呈する。



第189図の1 7-2-26~31号溝と出土遺物(その2)



第189図の2 7-2-26~31号溝と出土遺物 (その2)



(7) 7-2-32号溝 (第190図、図版80)

概要 本溝は7区東部に在って微耕地と低地部との境に位置する。後述のHr-FA上水田の東側を画するようになっているが、特に他遺構との重複は見られなかった。

本溝からは古墳時代の早い段階のものを中心に律令期に至るまでの若干量の土師器片を出土しているが、時期の特定には至らなかった。しかしこうした出土遺物と確認面との関係から、概ね奈良・平安時代の所産として把握されるものである。

本溝の掘削目的は特定できなかったが、南端部で直角に曲がることから何らかの区画溝と想定される。

規模 長さ：47.4m 幅：192cm 深さ：21cm

構造 本溝は北西方向から調査区に入り、極く緩やかに蛇行しながら南東に走向して調査区南端付近で直角に曲がって北東方向に抜けている。

大型の溝で、その掘削形態はさして整ったものではないが、概ね箱掘状を呈する。

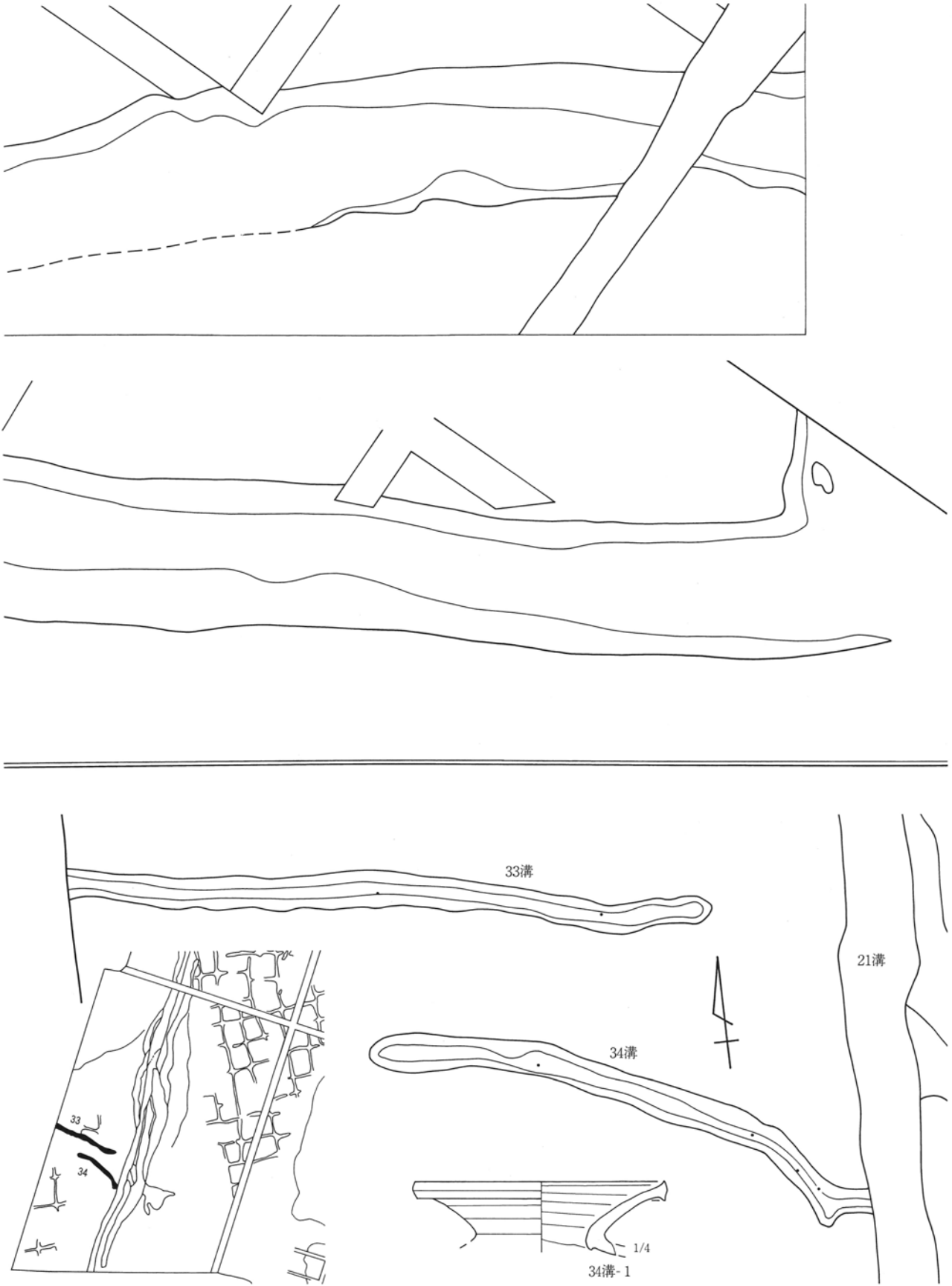


第190図の1 7-2-32号溝

(8) 7-2-33・34号溝 (第190図、図版91)

概要 7-2-33・34号溝は7区南西部に位置するが、両溝共に他遺構との重複はなかった。

33号溝からの出土遺物はなく、34溝からも須恵器



第190図の2 7-2-32~34号溝と出土遺物

第2章 発見された遺構と遺物

甕片(1)等僅かな出土遺物を得ただけで時期特定には至らず、僅かに平安時代以前の所産と把握されるに過ぎなかった。

また、両溝共に掘削目的も特定できなかったが、7-2-29号溝に直行するようにあるため、7-2-26~31号溝群との関連が考慮される。

規模(33号溝)長さ:9.2m

幅:52cm 深さ:7cm

(34号溝)長さ:7.6m

幅:48cm 深さ:7cm

構造 33号溝は東端で東に転ずるが、殆どは直線的に西北西-東南東に走向を取る。34号溝は緩やかな弧を描き乍、西から南東方向に走向を転じ、南端で東に分岐する。

両溝共に箱堀状の形態を呈する。



(9) 7区2面Hr-FA・FP泥流埋没水田

(第191図、図版81・91)

概要 7区2面ではHr-FA・FP泥流で埋没した小区画の水田址を発見、調査した。

本水田からは古墳時代後期の所産と思われる土器甕片等(1)、古墳時代以降の出土遺物を得たが時期を特定することはできなかった。しかし、後述するHr-FA下水田の存在からHr-FA下水田の復旧水田と判断され、廃絶の時期は6世紀後半以降で、条里水田構築以前の所産と把握される。

規模(東西長×南北長、()内の数字は残存長)

〔確認範囲〕:(西南部)5.5×21.3m

(西部)23.0×38.4cm

(東部)26.9×54.5cm

〔〔水田区画径〕 1:(193)×(79)cm

2:(210)×(58)cm 3:(217)×(104)cm

第191図の1 7区2面Hr-FA・FP泥流埋没水田と出土遺物(S=1/400)

4:(217)×(65)cm 5:(292)×(63)cm

6:(121)×(87)cm 7:(315)×(330)cm

8:(121)×(317)cm 9:(54)×(131)cm

10:(42)×(68)cm 11:(224)×(102)cm

12:(208)×(196)cm 13:(-)×(109)cm

14:(78)×(230)cm 15:(165)×382cm

16:(54)×(178)cm 17:(79)×(699)cm

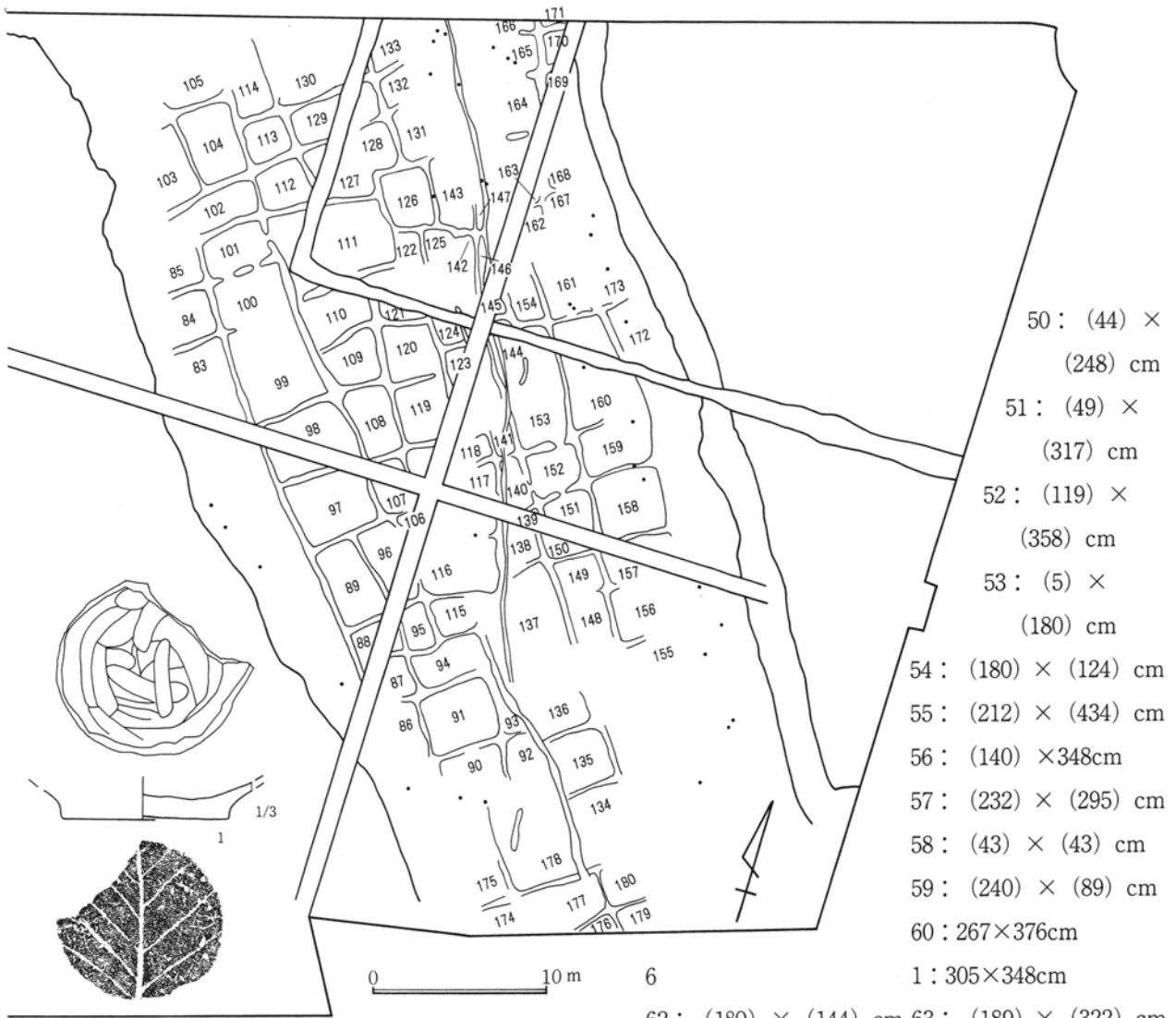
18:(97)×(197)cm 19:(226)×265cm

20:213×270cm 21:(409)×297cm

22:208×223cm 23:263×(425)cm

24:(101)×(348)cm 25:(136)×280cm

26:(166)×(238)cm 27:197×(197)cm



第191図の2 7区2面H r-F A・F P 泥流埋没水田と出土遺物 (S=1/400)

- 28 : 221×318cm
- 29 : 236× (127) cm
- 30 : (324) × (10) cm
- 31 : 514×285cm
- 32 : 459×326cm
- 33 : (294) × (628) cm
- 34 : 267×330cm
- 35 : 263×318cm
- 36 : 254×215cm
- 37 : (188) × (170) cm
- 38 : (227) × 290cm
- 39 : (114) × (202) cm
- 40 : (315) × 206cm
- 41 : (236) × (234) cm
- 42 : 274×328cm
- 43 : 235×299cm
- 44 : 188×254cm
- 45 : (215) × 364cm
- 46 : 438×233cm
- 47 : 513× (210) cm
- 48 : (103) × 343cm
- 49 : (21) × (56) cm

第2章 発見された遺構と遺物

92 : (238) × (221) cm 93 : (100) × (120) cm
 94 : 420×216cm 95 : 158×264cm
 96 : (236) ×462cm 97 : (463) ×380cm
 98 : 496× (370) cm 99 : 453×543cm
 100 : 420× (263) cm 101 : 364×246cm
 102 : (523) ×206cm 103 : (243) ×430cm
 104 : 320×440cm 105 : (340) × (62) cm
 106 : (57) × (56) cm 107 : 211×306cm
 108 : 262×406cm 109 : 328×290cm
 110 : (387) ×387cm 111 : 668×474cm
 112 : (296) × (264) cm 113 : 249×234cm
 114 : 219× (416) cm 115 : (218) ×226cm
 116 : 443× (323) cm 117 : (44) × (411) cm
 118 : 483×201cm 119 : (295) ×343cm
 120 : 307×331cm 121 : (148) ×316cm
 122 : (117) × (190) cm 123 : 263× (335) cm
 124 : (193) × (195) cm 125 : (173)×(160) cm
 126 : 237×333cm 127 : 317×354cm
 128 : (150) ×273cm 129 : 497× (200) cm
 130 : 570× (86) cm 131 : 413× (305) cm
 132 : 434× (174) cm 133 : 412× (114) cm
 134 : (224) × (10) cm 135 : (300) ×326cm
 136 : (307) × (168) cm 137 : (182)×(490) cm
 138 : (100) × (128) cm 139 : (36) × (33) cm
 140 : (122) × (306) cm 141 : 121× (181) cm
 142 : (87) × (329) cm 143 : (197) ×427cm
 144 : 165× (383) cm 145 : (67) × (93) cm
 146 : (45) × (335) cm 147 : (48) ×(143) cm
 148 : 226× (256) cm 149 : 251× (207) cm
 150 : 257× (155) cm 151 : 278× (243) cm
 152 : 290×259cm 153 : 328×660cm
 154 : 170× (259) cm 155 : (120) × (－) cm
 156 : (147) × (312) cm 157 : (412)×(228) cm
 158 : 394×370cm 159 : 422× (280) cm
 160 : 435× (620) cm 161 : 257× (345) cm
 162 : (31) × (51) cm 163 : (33) × (20) cm
 164 : 229×296cm 165 : (98) × (200) cm
 166 : (102) × (71) cm 167 : (53) × (25) cm

168 : (281) × (64) cm 169 : (34) × (91) cm
 170 : (130) × (184) cm 171 : (151) × (65) cm
 172 : (148) × (255) cm 173 : (55) × (－) cm
 174 : (141) × (206) cm 175 : (170) × (206) cm
 176 : (195) × (88) cm 177 : (436)×(273) cm
 178 : (754) × (512) cm 179 : (181)×(107) cm
 180 : (189) × (224) cm

〔畦畔〕 下幅：46cm以下

〔水口幅〕 水田面19－20間：下幅：40cm

水田面33－34間：下幅：52cm

水田面38－39間：下幅：45cm

水田面66－67間：下幅：24cm

水田面100－110間：下幅：43cm

水田面118－119間：下幅：50cm

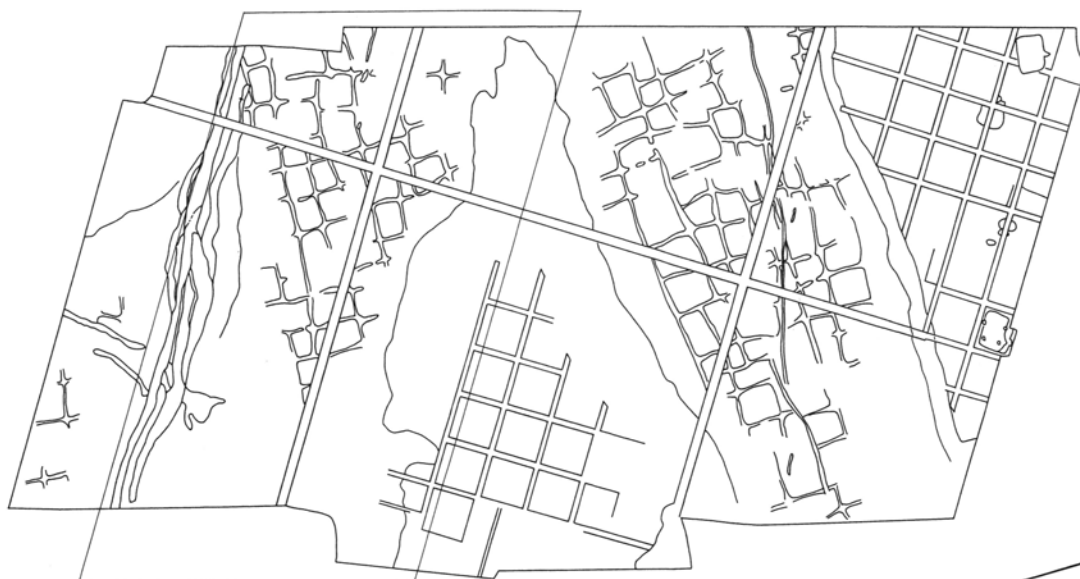
水田面147－148間：下幅：37cm

水田面148－149間：下幅：48cm

構造 Hr-FA・FP泥流下水田は△状に広がる谷地形内に造られている。遺存状態は良好でなく、谷の全体で確認できた訳でもないので詳らかでないが、概ね北西－南東方向に3.2m程の間隔で畦を設置し、その間を3.3m程の間隔に畦を設置して仕切るものであった。畦畔の軸方向は東側の谷地形はその方向に沿うが、西側の谷地形では一致していない。

個々の水田面のプランは方形を基本とするものの地形に合わせて変形し、帯状を呈する区画もある。その規模は東側のものの方が1割強大きく、西側の谷地形のものに対して測定できたものでは西側の谷では南西－北東の径は最小152cm、最大514cm、平均291.33cm、北西－南東の径は最小206cm、最大382cmで平均301.23cmを測り、東側の谷では南西－北東の径は最小121cm、最大668cmで平均332.40cm、北西－南東の径は最小201cm、最大660cmで平均339.85cmを測った。またその面積は最大7倍程の違いがあったが、西側の谷地形のものでは3倍強程と規模の違いは少ない。

尚、通水は水口と土地の傾斜から西側の谷地形の北東半部と東側の谷地形では概ね北西から南東方向に流していたものと判断される。



(10) 7区2面Hr-FA下水田

(第192・193図、図版81・82)

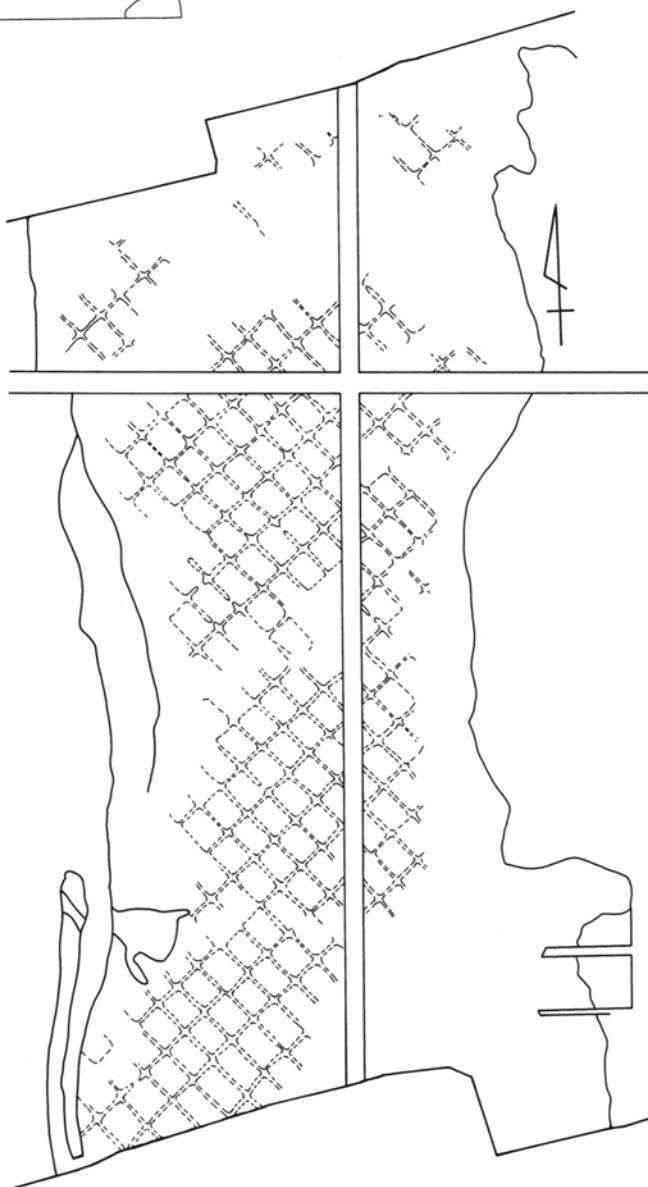
概要 本水田址は7区に広がる△状の谷地形のうち、西側の谷地形の中に於いて前述のHr-FA・FP泥流埋没水田の下位に発見、調査された水田址である。

本水田からの出土遺物はなかったが、Hr-FAで被覆されていることから6世紀初頭を下限とする古墳時代中期以前開削の水田址として認識される。

規模 (東西長×南北長、()内の数字は残存長)

〔確認範囲〕：22.5×54.8m

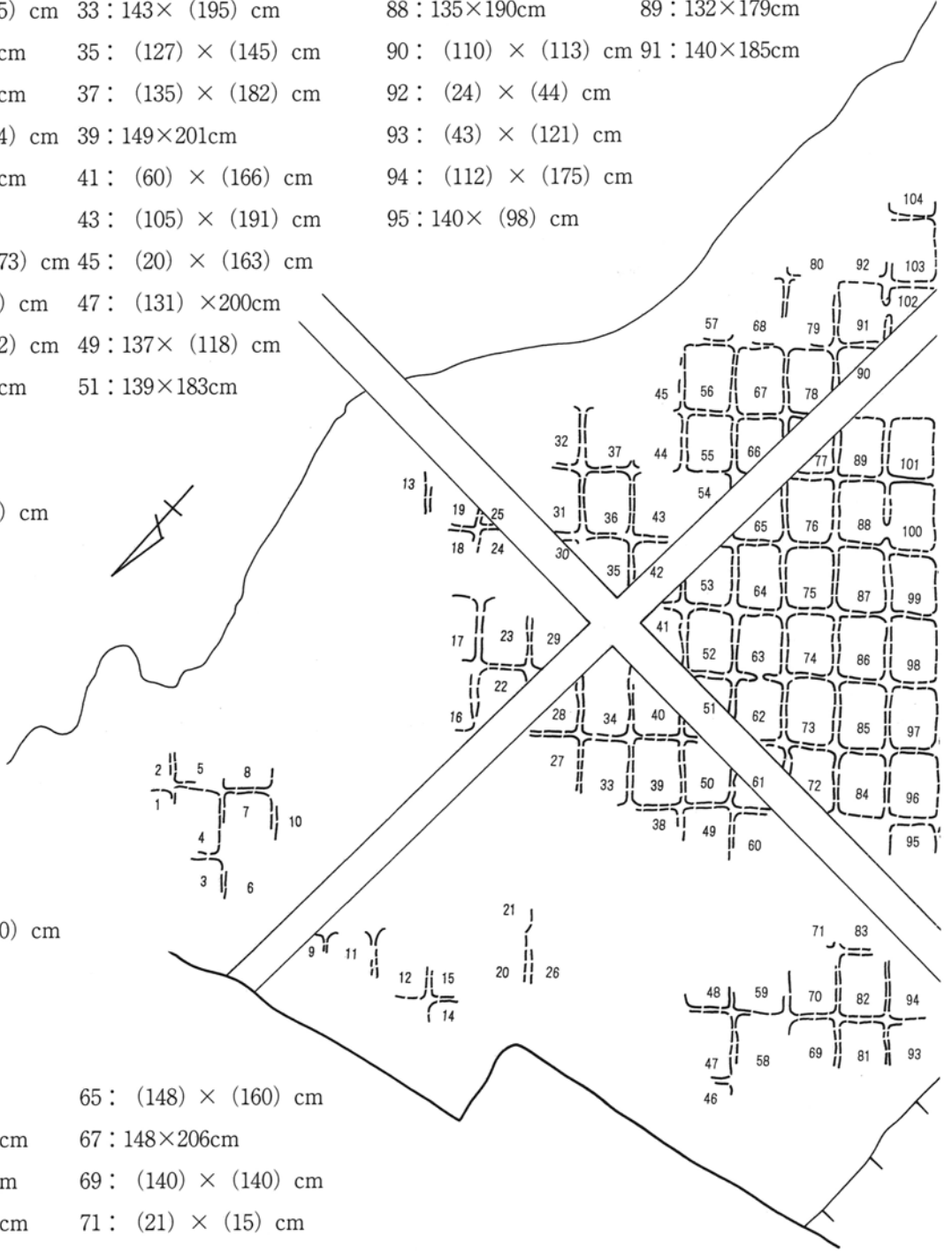
〔水田区画径〕	1 : (60) × (28) cm	
2 : (—) × (63) cm	3 : (96) × (97) cm	
4 : 136×196cm	5 : (67) × (90) cm	
6 : (—) × (80) cm	7 : 145× (105) cm	
8 : 143× (62) cm	9 : (29) × (50) cm	
10 : (—) × (102) cm	11 : (135) × (125) cm	
12 : 157× (203) cm	13 : (—) × (127) cm	
14 : (88) × (64) cm	15 : (69) × (77) cm	
16 : (55) × (170) cm	17 : (73) × (195) cm	
18 : (79) × (29) cm	19 : (157) × (147) cm	
20 : (—) × (132) cm	21 : (18) × (71) cm	
22 : (148) × (145) cm	23 : 140× (203) cm	



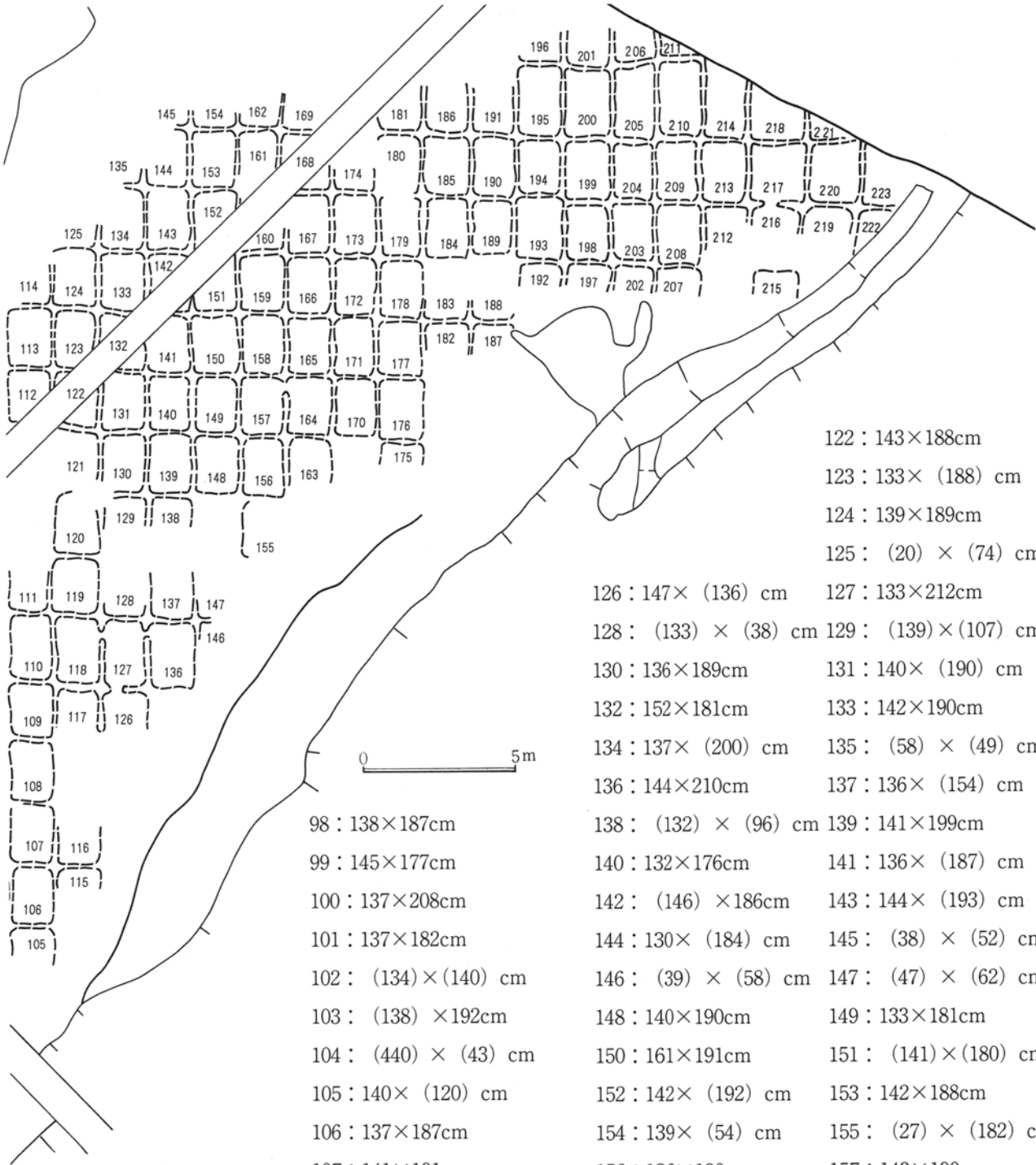
第192図 7区2面Hr-FA下水田全体図 (S=1/400)

第2章 発見された遺構と遺物

- | | | | |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 24 : (58) × (74) cm | 25 : (39) × (34) cm | 80 : (42) × (27) cm | 81 : (141) × (142) cm |
| 26 : (—) × (101) cm | 27 : (148) × (163) cm | 82 : 139×187cm | 83 : (93) × (16) cm |
| 28 : (143) × (148) cm | 29 : (34) × (153) cm | 84 : 143×191cm | 85 : 145×198cm |
| 30 : (45) × (12) cm | 31 : (83) × (194) cm | 86 : 142×188cm | 87 : 148×195cm |
| 32 : (64) × (175) cm | 33 : 143× (195) cm | 88 : 135×190cm | 89 : 132×179cm |
| 34 : 145× (214) cm | 35 : (127) × (145) cm | 90 : (110) × (113) cm | 91 : 140×185cm |
| 36 : 138× (190) cm | 37 : (135) × (182) cm | 92 : (24) × (44) cm | |
| 38 : (124) × (64) cm | 39 : 149×201cm | 93 : (43) × (121) cm | |
| 40 : 139× (151) cm | 41 : (60) × (166) cm | 94 : (112) × (175) cm | |
| 42 : 143×183cm | 43 : (105) × (191) cm | 95 : 140× (98) cm | |
| 44 : (143) × (173) cm | 45 : (20) × (163) cm | | |
| 46 : (53) × (34) cm | 47 : (131) ×200cm | | |
| 48 : (132) × (62) cm | 49 : 137× (118) cm | | |
| 50 : (142) ×187cm | 51 : 139×183cm | | |
| 52 : 136×189cm | | | |
| 53 : 139×188cm | | | |
| 54 : (28) × (48) cm | | | |
| 55 : 136×170cm | | | |
| 56 : 149×
202cm | | | |
| 57 : (90) ×
(22) cm | | | |
| 58 : (40) ×
(142) cm | | | |
| 59 : 148×
(58) cm | | | |
| 60 : (95) × (110) cm | | | |
| 61 : 153×191cm | | | |
| 62 : 140×180cm | | | |
| 63 : 131×179cm | | | |
| 64 : 132×197cm | 65 : (148) × (160) cm | | |
| 66 : 136× (175) cm | 67 : 148×206cm | | |
| 68 : (92) ×197cm | 69 : (140) × (140) cm | | |
| 70 : 139× (143) cm | 71 : (21) × (15) cm | | |
| 72 : (149) × (194) cm | 73 : 145×200cm | | |
| 74 : 139×183cm | 75 : 142×186cm | | |
| 76 : 140× (170) cm | 77 : 140× (177) cm | | |
| 78 : 139× (193) cm | 79 : (148) ×194cm | 96 : 149×184cm | 97 : 142×185cm |



第193図 7区2面H r -F A下水田面 (S=1/200)



- 122 : 143×188cm
 123 : 133× (188) cm
 124 : 139×189cm
 125 : (20) × (74) cm
 126 : 147× (136) cm 127 : 133×212cm
 128 : (133) × (38) cm 129 : (139)×(107) cm
 130 : 136×189cm 131 : 140× (190) cm
 132 : 152×181cm 133 : 142×190cm
 134 : 137× (200) cm 135 : (58) × (49) cm
 136 : 144×210cm 137 : 136× (154) cm
 138 : (132) × (96) cm 139 : 141×199cm
 140 : 132×176cm 141 : 136× (187) cm
 142 : (146) ×186cm 143 : 144× (193) cm
 144 : 130× (184) cm 145 : (38) × (52) cm
 146 : (39) × (58) cm 147 : (47) × (62) cm
 148 : 140×190cm 149 : 133×181cm
 150 : 161×191cm 151 : (141)×(180) cm
 152 : 142× (192) cm 153 : 142×188cm
 154 : 139× (54) cm 155 : (27) × (182) cm
 156 : 136×190cm 157 : 143×190cm
 158 : 137×195cm 159 : 146×183cm
 160 : (141) × (174) cm 161 : 125× (148) cm
 162 : (135) × (121) cm 163 : 133× (161) cm
 164 : 139×187cm 165 : 139×178cm
 166 : 145×183cm 167 : 134×190cm
 168 : (162) ×177cm 169 : (97) × (115) cm
 170 : 134×186cm 171 : 127×192cm
 98 : 138×187cm
 99 : 145×177cm
 100 : 137×208cm
 101 : 137×182cm
 102 : (134)×(140) cm
 103 : (138) ×192cm
 104 : (440) × (43) cm
 105 : 140× (120) cm
 106 : 137×187cm
 107 : 141×191cm
 108 : 145×185cm
 110 : 134×208cm
 112 : 139×187cm
 114 : (94) × (130) cm
 116 : 138× (128) cm
 118 : 145×213cm
 120 : 148× (200) cm
 111 : 128× (133) cm
 113 : 147×192cm
 115 : (141) × (69) cm
 117 : 133× (130) cm
 119 : 152×181cm
 121 : (135)×(160) cm
 112 : 139×187cm
 113 : 147×192cm
 114 : (94) × (130) cm
 115 : (141) × (69) cm
 116 : 138× (128) cm
 117 : 133× (130) cm
 118 : 145×213cm
 119 : 152×181cm
 120 : 148× (200) cm
 121 : (135)×(160) cm
 122 : 143×188cm
 123 : 133× (188) cm
 124 : 139×189cm
 125 : (20) × (74) cm
 126 : 147× (136) cm
 127 : 133×212cm
 128 : (133) × (38) cm
 129 : (139)×(107) cm
 130 : 136×189cm
 131 : 140× (190) cm
 132 : 152×181cm
 133 : 142×190cm
 134 : 137× (200) cm
 135 : (58) × (49) cm
 136 : 144×210cm
 137 : 136× (154) cm
 138 : (132) × (96) cm
 139 : 141×199cm
 140 : 132×176cm
 141 : 136× (187) cm
 142 : (146) ×186cm
 143 : 144× (193) cm
 144 : 130× (184) cm
 145 : (38) × (52) cm
 146 : (39) × (58) cm
 147 : (47) × (62) cm
 148 : 140×190cm
 149 : 133×181cm
 150 : 161×191cm
 151 : (141)×(180) cm
 152 : 142× (192) cm
 153 : 142×188cm
 154 : 139× (54) cm
 155 : (27) × (182) cm
 156 : 136×190cm
 157 : 143×190cm
 158 : 137×195cm
 159 : 146×183cm
 160 : (141) × (174) cm
 161 : 125× (148) cm
 162 : (135) × (121) cm
 163 : 133× (161) cm
 164 : 139×187cm
 165 : 139×178cm
 166 : 145×183cm
 167 : 134×190cm
 168 : (162) ×177cm
 169 : (97) × (115) cm
 170 : 134×186cm
 171 : 127×192cm

第2章 発見された遺構と遺物

172 : 136×186cm 173 : 143×195cm
174 : (130) × (76) cm 175 : (140) × (76) cm
176 : (189) × (224) cm 177 : 142×179cm
178 : 143×190cm 179 : 133 × (192) cm
180 : 151 × (185) cm 181 : (145) × (145) cm
182 : (145) × (105) cm 183 : (164) × (62) cm
184 : 143×192cm 185 : 153×188cm
186 : (139) × (159) cm 187 : (131) × (102) cm
188 : (139) × (76) cm 189 : 129×172cm
190 : 141×196cm 191 : (133) × (154) cm
192 : (136) × (77) cm 193 : 154×208cm
194 : 140×172cm 195 : 140×230cm
196 : (135) × (99) cm 197 : (144) × (90) cm
198 : 141×181cm 199 : 148×193cm
200 : 146×222cm 201 : (139) × (129) cm
202 : (124) × (84) cm 203 : 137×185cm
204 : 128×183cm 205 : 134×247cm
206 : (136) × (94) cm 207 : (147) × (92) cm
208 : 148×194cm 209 : 143×192cm
210 : 143×249cm 211 : (125) × (70) cm
212 : (136) × (145) cm 213 : 143×192cm
214 : 138 × (226) cm 215 : (143) × (89) cm
216 : (157) × (86) cm 217 : (180) × (191) cm
218 : (178) × (182) cm 219 : (160) × (96) cm
220 : 165×206cm 221 : (109) × (89) cm
222 : (100) × (159) cm 223 : (106) × (200) cm
[畦畔] 下幅 : 23cm以下

構造 本水田址は上述のように谷地形の中に確認された水田址で、所謂極小区画水田である。遺存状態は不良であり、水田面の輪郭を確認できたに過ぎなかったため、その全容や構造を詳らかにすることはできなかった。

本水田址は規格化された方眼様のプランを呈している。畦畔の幅等から水田は北西－南東方向の畦を約1.5m幅で造り、その間を2m程の間隔で仕切って畦を設けたものと判断される。尚、畦畔の軸方向は谷地形の向きに対して45°程西にずれていて、地形に一致していない。

個々の水田区画は北西－南東方向に長い長方形のプランを呈するもので、その規模も、測定できた区画について見ると長さ（南西－北東径）は最小125、最大165cm、平均で140.78cmを測り、幅（北西－南東径）は最小110cm、最大248cm、平均191.54cmを測った。その長さにはばらつきは少なく、面積で見ても最小のものに対して最大の水田面の面積は1.6倍と規模の違いも小さいものであった。

さて本水田址は遺存状況が悪かったため水口も明瞭に確認できず、水田の軸方向と土地の傾斜との間にズレもあったためはっきりしないが、通水は概ね北西－南東方向の列を基本として南東方向の水田区画に対して行われていたものと思慮される。

7-4 7区3面の遺構と遺物

(1) 7-3-3号住居

(第194~200図、口絵、図版83・91~99)

概要 本住居は周溝を伴う大型の竪穴住居で、7区中南部に位置する。

重複関係にある遺構のうち7-3-18号土坑は本住居を切っているが、7-3-35号溝等との新旧を特定することはできなかった。

本住居からは周溝部を中心に、土師器器台(1~3)・高坏(4~21)・小杯(22)・台付甕(23~41)・甕(42~51)・鉢(52)・蓋(53)・壺(54・56~79)・小型壺(55・80)や高坏の坏部に似た二次転用の見られる異形土器(81)、弥生土器の可能性もある壺片(82)など多くの種類の土師器片が多量に出土した。これらの土器は東海系或いは北陸系の要素を持つ3世紀末葉~4世紀初頭にかけての時期のものとして判断されるため、本住居も同様の時期の所産と判断される。また敲石(83~86・88)、磨石(87・89~91)の出土も見だが、これらは93・94と合わせてこも編み石として使用されたものと判断される。その他、石鏃(92)や黒色頁岩の剥片(95・96)が見られ、或いは上位層からのもぐり込みである8世紀後半期の須恵器坏(97)や灰釉陶器の鉢らしき資料(98)の出土も見られた。

規模 全体径(周溝含む)：16.09×19.8m

住居本体径：647×780cm

[周溝] 幅：120~328cm以下 深さ：34cm

[周溝部入り口] 幅：156cm

[柱穴1] 径：80×75cm 深さ：31cm

[柱穴2] 径：(32)×(57)cm 深さ：39cm

[柱穴3] 径：(49)×52cm 深さ：73cm

[柱穴4] 径：64×61cm 深さ：79cm

[柱穴5] 径：72×69cm 深さ：55cm

[柱穴6] 径：(60)×40cm 深さ：14cm

[ピット1] 径：35×38cm 深さ：18cm

[ピット2] 径：38×40cm 深さ：12cm

[掘り方周溝] 幅：123cm 深さ：24cm

構造 本住居は上述のように周溝を持つ大型の竪穴住居であるが、上位部分が古墳時代以降後世の耕作等によって壊されているため、掘り方面を確認できたに過ぎなかった。更に他の溝遺構等とも重複する箇所もあったためその構造を詳らかにすることはできなかった。

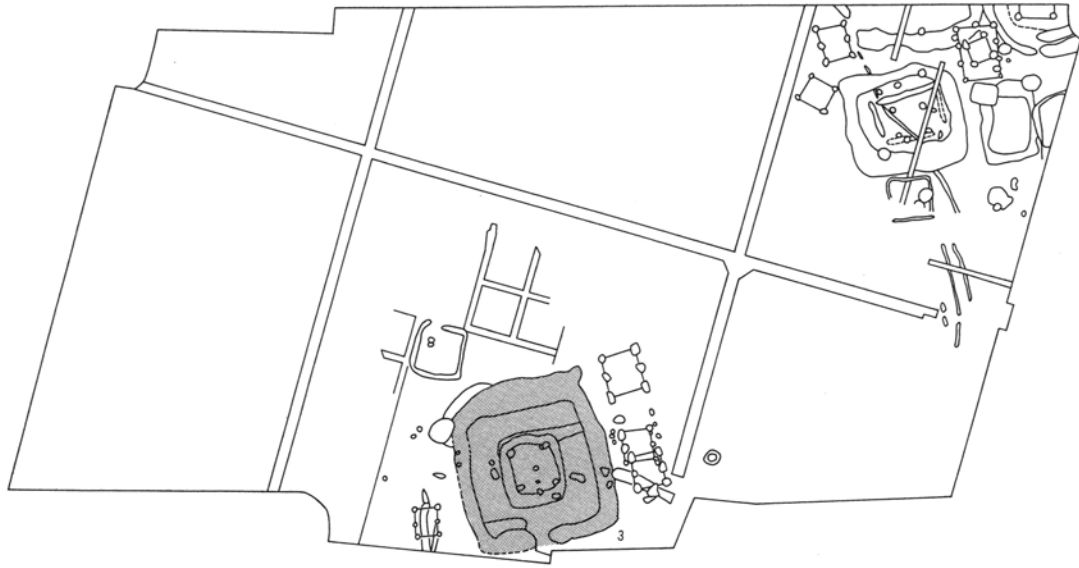
本住居は主軸が330°Nを向く、やや縦長の正方形に近い隅丸方形プランを呈している。また周溝の掘削ラインもこれに伴って隅丸方形プランを呈する。周溝は北辺が幅3m程、東・南・西辺が幅1.7m程の幅員を持ち、前者の方が若干深い。また南側中央が切れて開口部となっており、住居の入り口は南面中央にあったことが確認される。

竪穴住居の本体は周溝に囲まれた東西12.8m、南北12.4mの区域の中央に造られる。幅60~120cm幅の周溝を持つ掘り方を有し、これを黒褐色土を中心とする土壌で埋め戻しているが、床面が失われているので床の構造は不明である。

床上の構造も明瞭ではなく、炉の構造は明らかにできなかったが、掘り方面に於いて柱穴が確認されている。柱穴は掘り方面に見られる周溝状の掘り込みの内側、コーナー部分に掘削されている。しかし南西・北東コーナー部にはそれぞれ2基の柱穴が確認されているので本住居は建替えの可能性を有する。また柱穴のうち北西の柱穴1と南西の柱穴2・3には底面には柱の荷重による塑性変形による窪みが認められ、その径は柱穴1が35×32cm、柱穴2が25×28cm、柱穴3が40×43cmを測り、柱の径が太かったことが窺われる。また柱間は南北の柱1・2間は370cm、柱1・3間が391cm、柱4・5間が411cm、柱4・6間が395cmを測り、東西の柱1・5間が356cm、柱1・6間が325cm、柱2・4間が360cm、柱3・4間が351cmを測った。

尚、住居本体と周溝の間は2.2~3.2m程と周溝の規模に対して大きいことから、壁の外側にテラス状の空間の存在も想定される。

第2章 発見された遺構と遺物



(D-D'断面)

[住居廃絶後の土層]

1: 灰黄褐色粘質土: As-Cと2層寄り
Hr-FA混入 2: 黄橙色土: 多量の
Hr-FA

[3号住居周溝覆土]

3: 黒褐色土: As-C混入と下層に褐灰色
粘質土混入

4: 黒褐色土: 褐灰色土粒と少量のAs-C
混入

5: 黒褐色粘質土: 黒色粘質土と褐灰色
土、及び極少量のAs-C混入

6: 暗褐色土: 極少量のAs-Cと多量の褐
灰色土混入

7: 褐色土: 黒色・褐灰色粘質土混入

8: 褐色土: 黒色土と褐灰色土粒混入

9: 黒褐色土: 黒色土・褐灰色土粒と少
量のAs-C混入

10: 黒褐色土: 8層に似るが黒色土が多
い

11: 黒褐色土: 黒色土粒と多量の褐灰色
土、極少量のAs-C混入

12: 黒褐色土: 褐灰色土に褐色土混入

13: 黒褐色土: 極少量のAs-C、多量の黒
色土と褐灰色土粒混入

14: 黒褐色土: As-C少量の黒色土に黄褐
色土混入

[3号住居掘り方覆土]

15: 3層に似るが褐色粘質土多く混入

16: 3層に似るがAs-C混黒色土と褐色粘
質土混入

17: 8層に同じ

18: 黒褐色土: As-Cと黄褐色シルト混入

19: 13層に同じ

[地山層土]

20: 黒褐色土: As-C混入 21: 黒色土:
黒はく土。やや粘性有り

22: にぶい黄橙色土: 基盤の洪水層土

(I-I'断面)

[住居廃絶後の土層]

1: 黒褐色土: As-B混入 2: 黒褐色

土: 4層に比しAs-C密に混入 3:
黒色土: As-C混入。所謂As-C混黒色
土 4: 黒褐色土: やや砂質。僅か
にAs-C混入

[ピット覆土]

5: にぶい黄褐色土: As-Cと黄褐色シル
ト混入 6: 黒褐色土: As-Cと黄褐
色シルト混入

[3号住居周溝覆土]

7: 黒褐色土: As-C混入。黄褐色シルト
多く混入

8: 黒褐色土: As-Cと褐色土混入

9: 黒褐色土: 黄褐色土混入

10: にぶい黄褐色土: 僅かにAs-C混入。
崩落土か

11: 黒褐色土: 極少量のAs-C含む

12: 黒褐色土: As-Cと褐色土混入。崩落
土か

13: 黒色土: 黄褐色土混入。崩落土か

[地山層]

14: 黒褐色土: 所謂As-C混黒色土層下の
黒色土 15: 黄褐色土: 基盤の洪水
層

(A-A'断面)

[住居廃絶後の土層]

1: 黒褐色土: As-A混入の溝覆土を混入

2: 褐灰色土: As-A混入の溝からの
掘込みか 3: 黒色粘質土: 粘性強。
As-B下水田耕作土 4: 褐灰色粘質
土: 粘性強い洪水層土 5: にぶい
黄褐色土: Hr-FA含む洪水層土

6: 黒褐色土: As-B混入

[18号土坑覆土]

7: 褐灰色土: As-Cと黒色・黄褐色シル
ト混入 8: 黒色土: As-Cと黄褐色
シルト混入 9: にぶい黄褐色土・
黒色シルト混入

[3号住居周溝覆土]

10: 黒褐色土: As-C・褐色シルト・粘
土 僅かに混入

11: 黒色土: 所謂As-C混黒色土

12: 黒褐色土: As-C・Hr-FA混入。Hr-
FAは5層から侵入か

13: 9層に同じ

14: 黒褐色土: 黄褐色シルト混入

15: 灰黄褐色土: 褐色シルト粒混入

16: 6層に同じ

17: 黒褐色土: As-Cと褐色シルト粒混入

18: 黒褐色土: As-C混入し黄褐色シルト
粒密に混入

19: 黒褐色土: やや砂質。褐色掛かる。
僅かにAs-C混入

20: 黒褐色土: As-C僅かに混入

21: にぶい黄褐色粘質土: 粘性強。褐色
シルト粒混入

22: 黒色土: As-C・黄褐色シルト粒混入

23: 黒褐色土: As-C・黄褐色シルト粒僅
かに混入

24: 暗褐色土: やや砂質。As-C混入

[地山層土]

25: 黒色土: 所謂As-C混黒色土 26: 褐
色粘質土: 基盤層

(G-G'断面)

[3号住居覆土か]

1: 黒褐色土: As-C混入

[3号住居柱穴5覆土] (17号土坑)

2: 黒色粘質土: 黄褐色シルト粒混入

3: 黒褐色粘質土: 褐色土粒含む

[3号住居掘り方覆土]

4: 黒色粘質土: As-C・褐色土混入

5: 黒色土: As-C混入

6: 黒色土: As-Cと褐灰色土混入

7: 黒褐色土: 褐灰色土多量に混入

8: 暗褐色土: 褐色土粒に黒色土混入

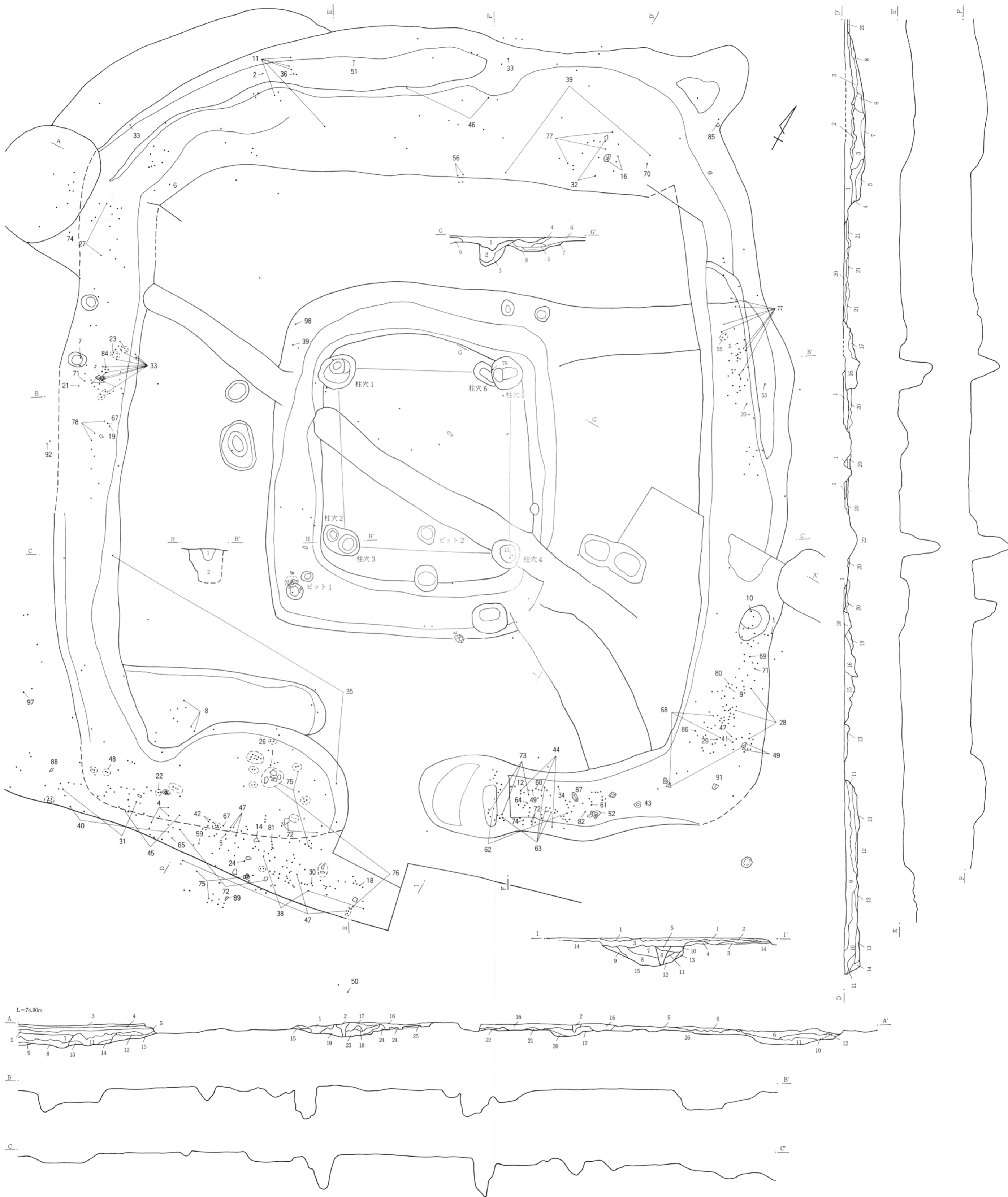
(H-H'断面)

[3号住居柱穴3覆土] (28号土坑)

1: 黒褐色土: As-C・黄褐色混入。締まり
弱い(柱痕か)

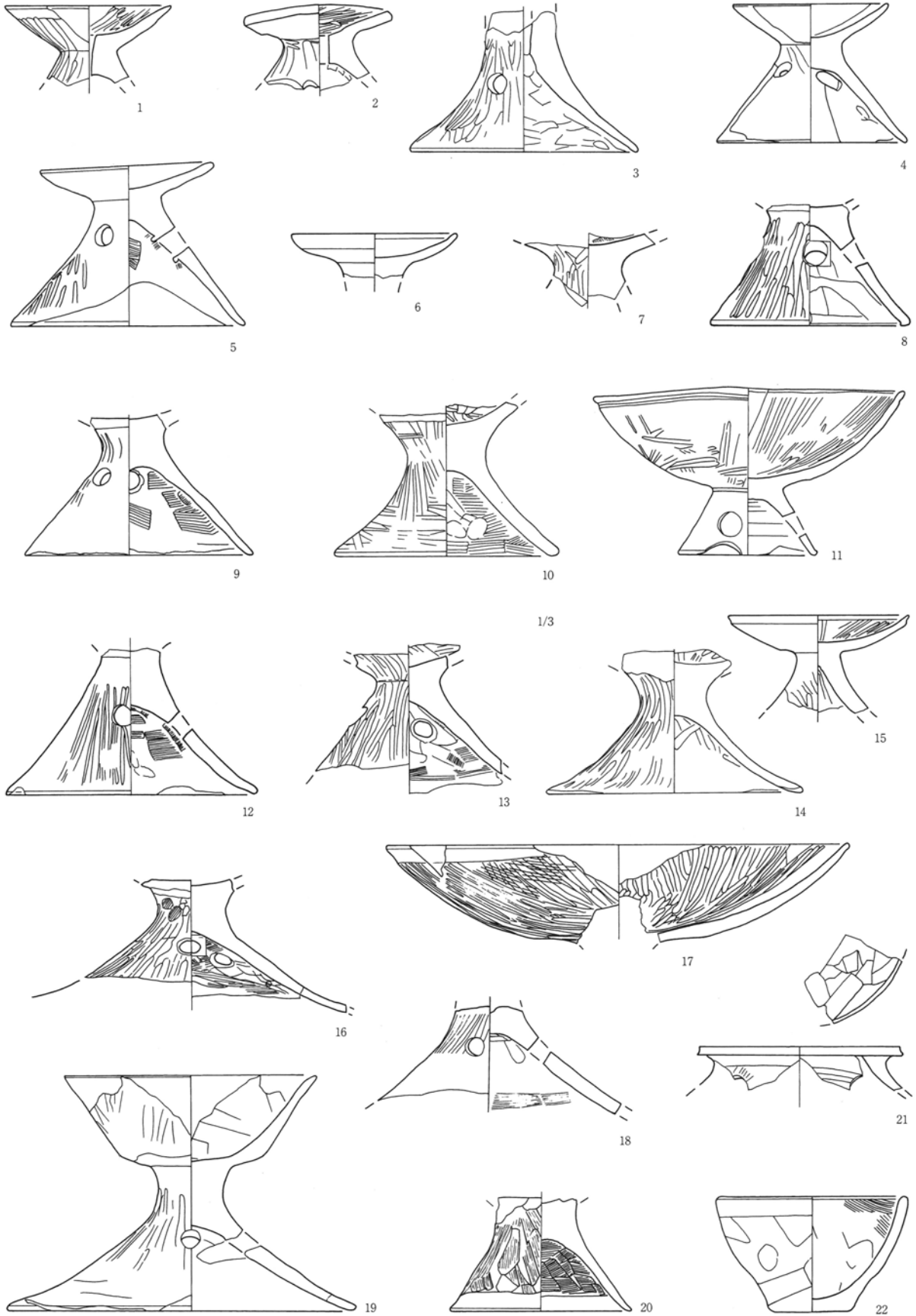
2: 暗褐色土: 褐灰色粘質土・黄褐色シル
トと極少量のAs-C混入

第194図の1 7-3-3号住居



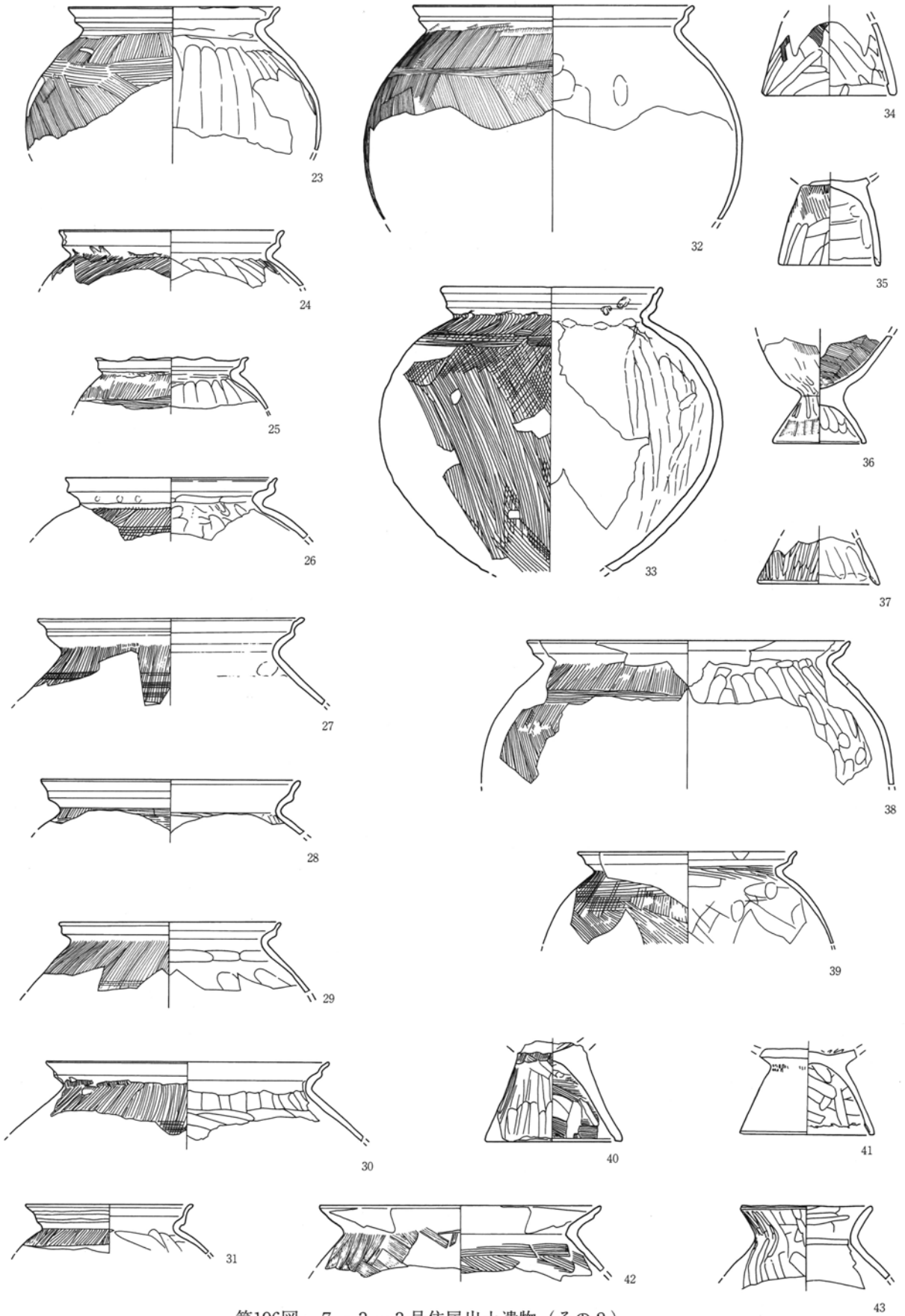
第194図の2 7-3-3号住居

第3節 7区の遺構と遺物

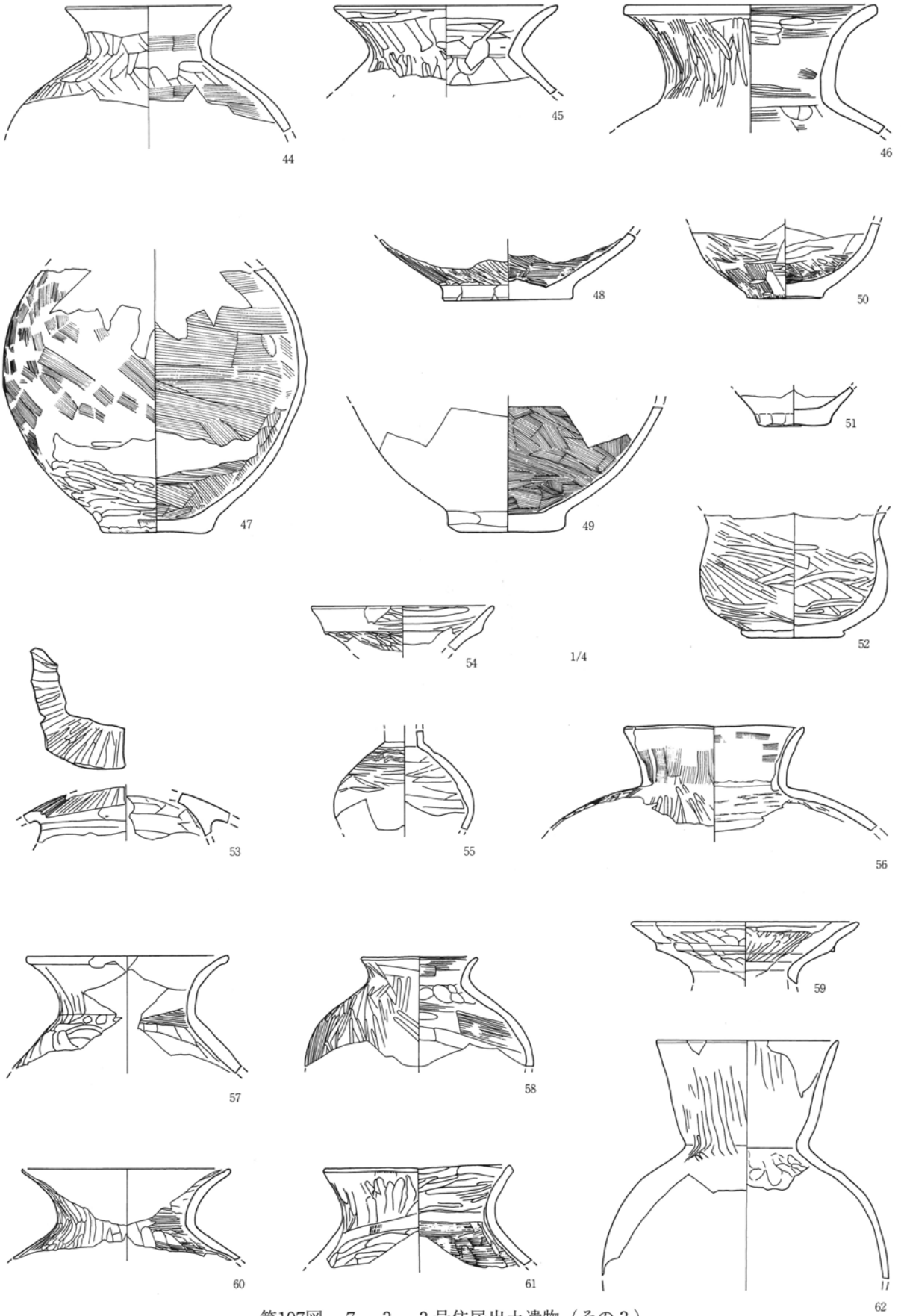


第195図 7-3-3号住居出土遺物(その1)

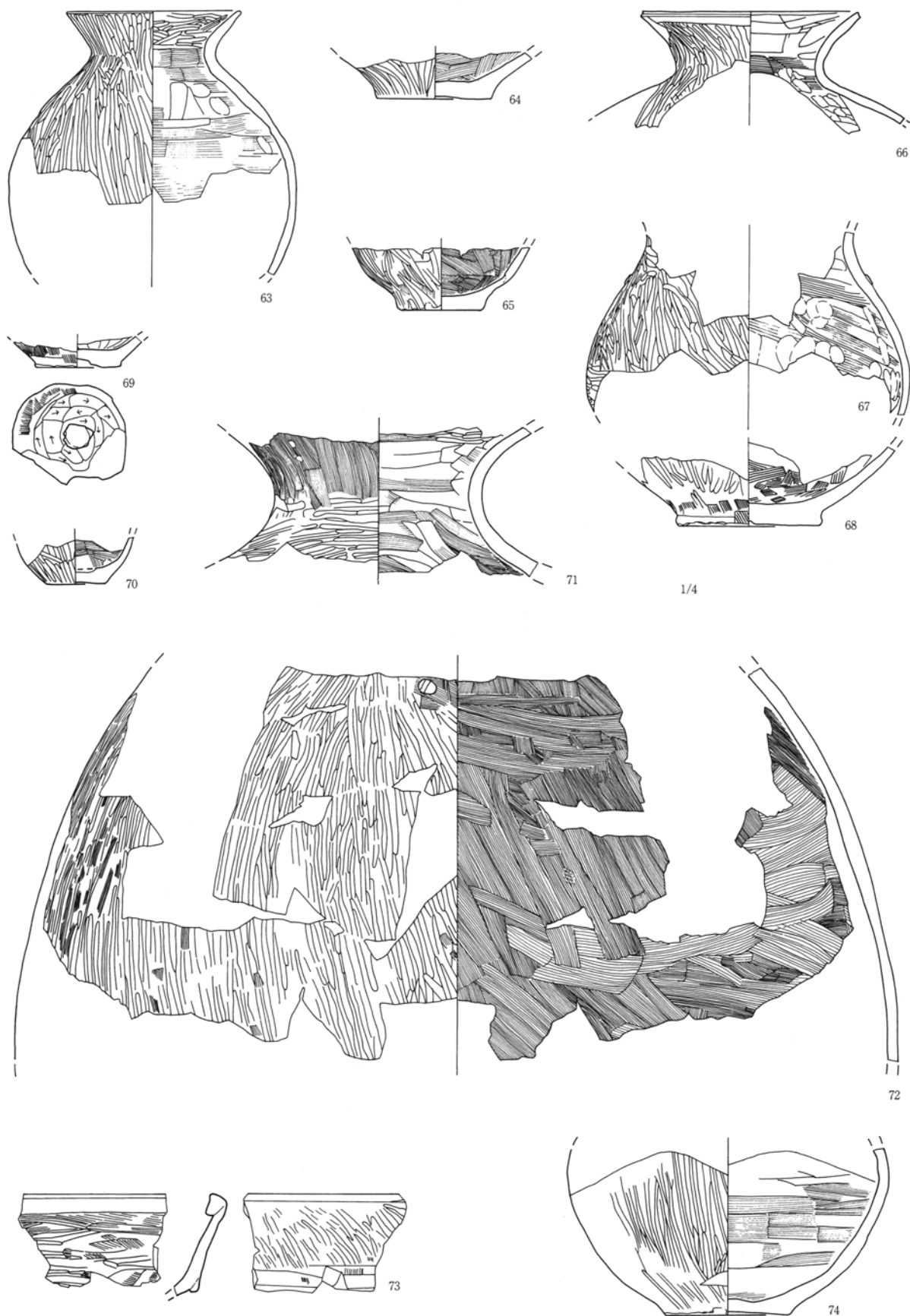
第2章 発見された遺構と遺物



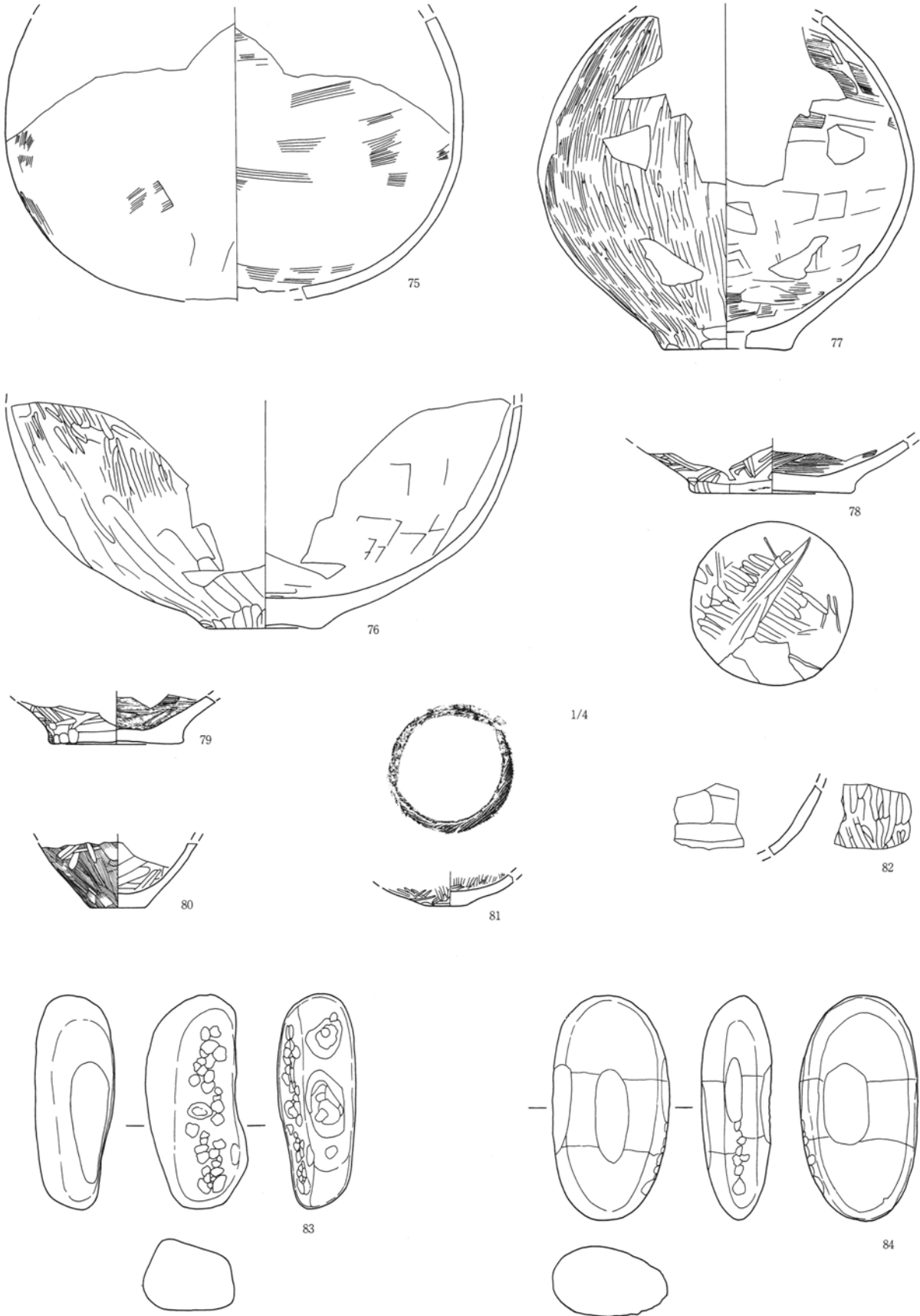
第196図 7-3-3号住居出土遺物(その2)



第197図 7-3-3号住居出土遺物(その3)



第198図 7-3-3号住居出土遺物(その4)



第199図 7-3-3号住居出土遺物(その5)

第2章 発見された遺構と遺物



第200図 7-3-3号住居出土遺物(その6)

(2) 7-3-4号住居(第201図、図版83・99)

概要 本住居は7区中南部、上述の7-3-3号住居の北西に近接して位置する。他遺構との重複関係は認められなかった。

本住居は遺存状態が悪く、僅かに土師器の高坏(1)・小型甕(2)・ミニチュアの土師器甕(3)片が出土しただけであった。しかし本住居はこれらの遺物から凡そ3世紀末葉期の所産として把握される。

規模 径：5.76×5.55m

〔掘り方周溝〕 幅：52cm 深さ：10cm

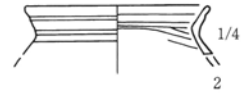
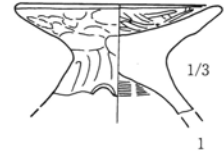
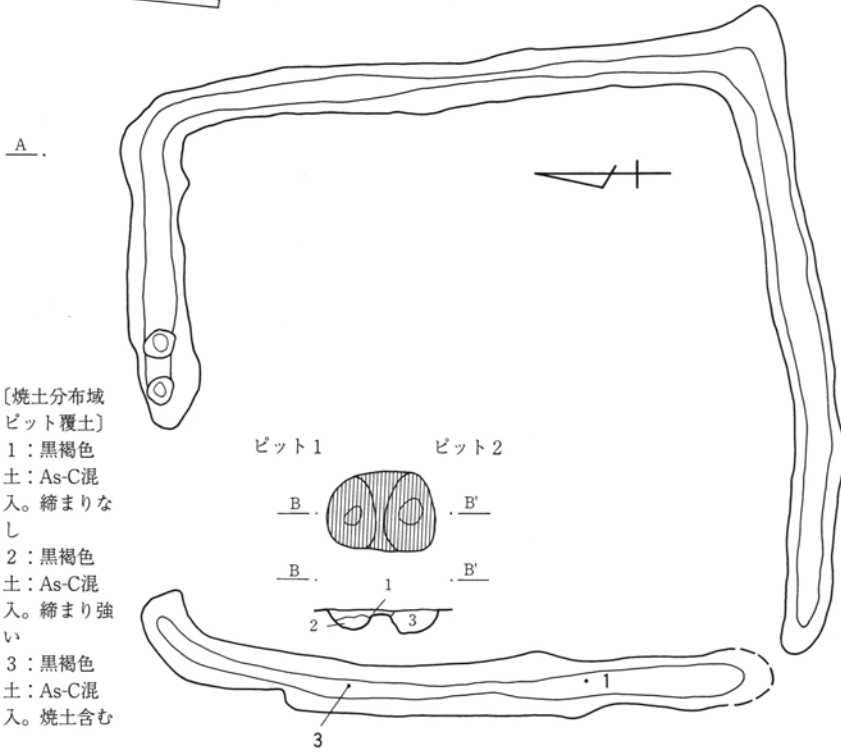
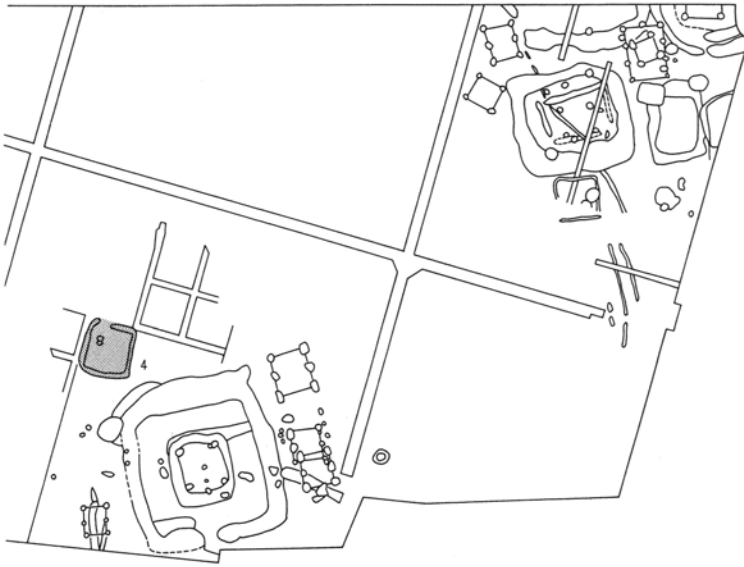
〔ピット1〕 径：57×37cm 深さ：15cm

〔ピット2〕 径：61×21cm 深さ：20cm

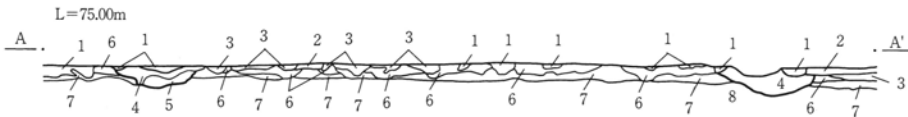
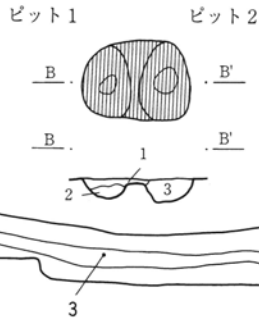
構造 本住居は掘り方面が確認されただけであったためその構造を詳らかにすることはできなかったが、本住居のプランは、南北方向に主軸を設定した場合、方形に近い隅丸台形を呈するものであった。

第3節 7区の遺構と遺物

本住居は掘り方を有し、これを黒色土・暗褐色土等で埋め戻している。掘り方は周溝を伴うもので、周溝は北西部で128cm途切れている。また南西隅部も17cm程途切れているが、この部分は形態から元々連続していたものと判断される。また北西部にその中東部から南部にかけて焼土の分布する長円形様の焼土分布箇所があるが、その分布域には南北に連なるように2基のピットが掘削



- [焼土分布域
ピット覆土]
1：黒褐色
土：As-C混
入。締まりな
し
2：黒褐色
土：As-C混
入。締まり強
い
3：黒褐色
土：As-C混
入。焼土含む



[住居廃絶後の埋土]

- 1：暗褐色砂質土：As-B混入
2：黒褐色土：As-B混入
3：褐色土：As-C・Hr-FP混入

[4号住居掘り方覆土]

- 4：黒色土：As-Cと8層土混入
5：暗褐色土：多量の8層土粒と若干のAs-C混入

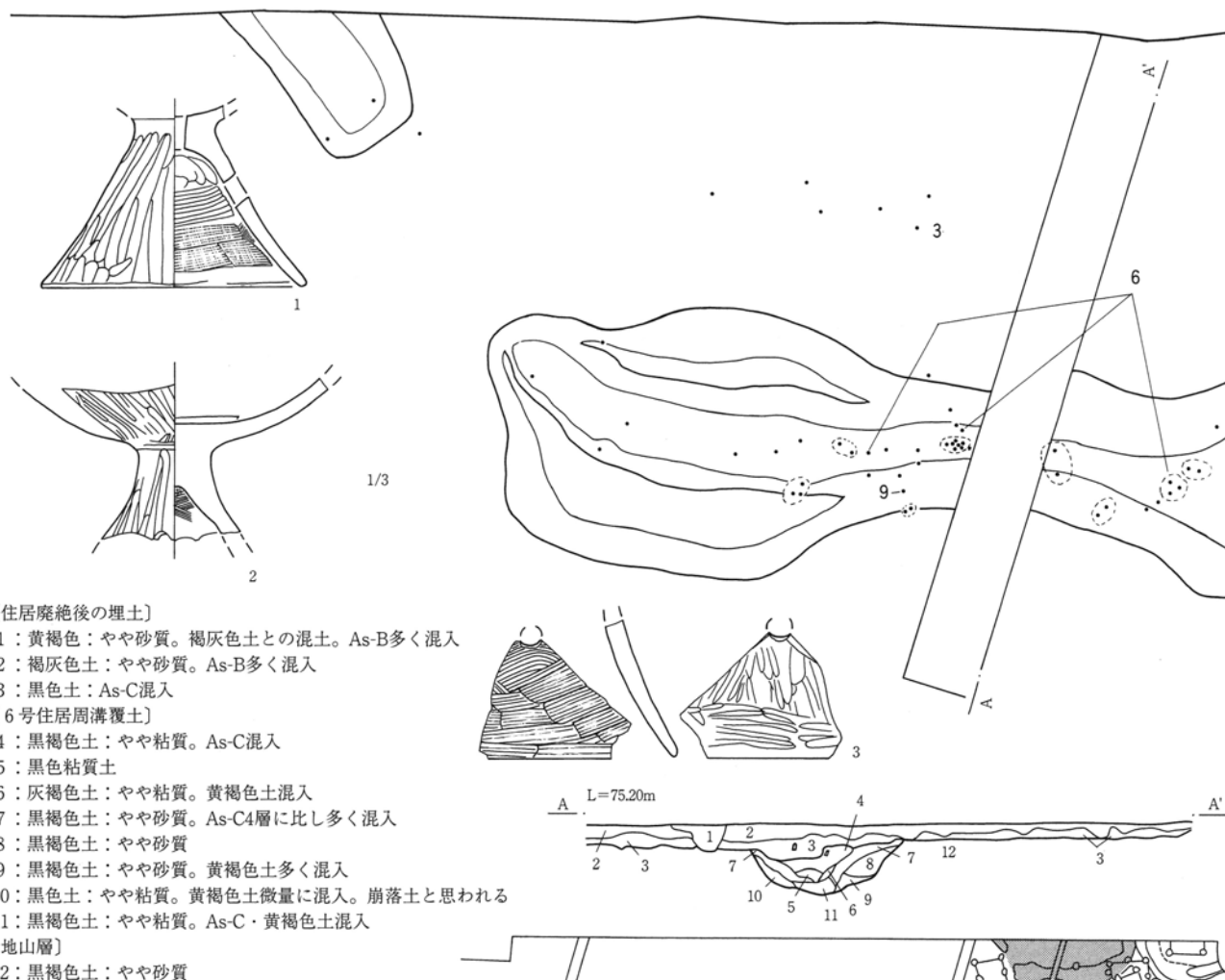
[地山層土]

- 6：As-C混黒色土
7：黒色粘質土
8：褐色砂質土

されている。尚、焼土分布箇所は位置的に東西・南北の中心ラインから偏っているため炉に関するものとは考えられないが、性格は不明である。

また掘り方面まで後世の掘削等が及んでいたので床面の構造は明らかにできず、住居の規模から想定される柱穴等も確認できなかった。

第201図 7-3-4号住居と出土遺物



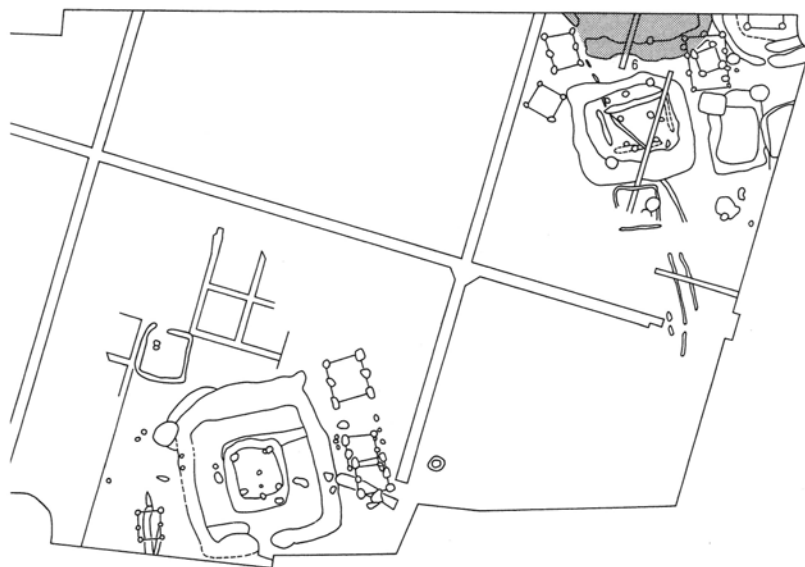
(3) 7-3-6号住居

(第202図、図版83・99)

概要 本住居は7区北東部に在るが、住居の過半は北側調査区外に出ていて周溝の一部を確認したに過ぎなかった。

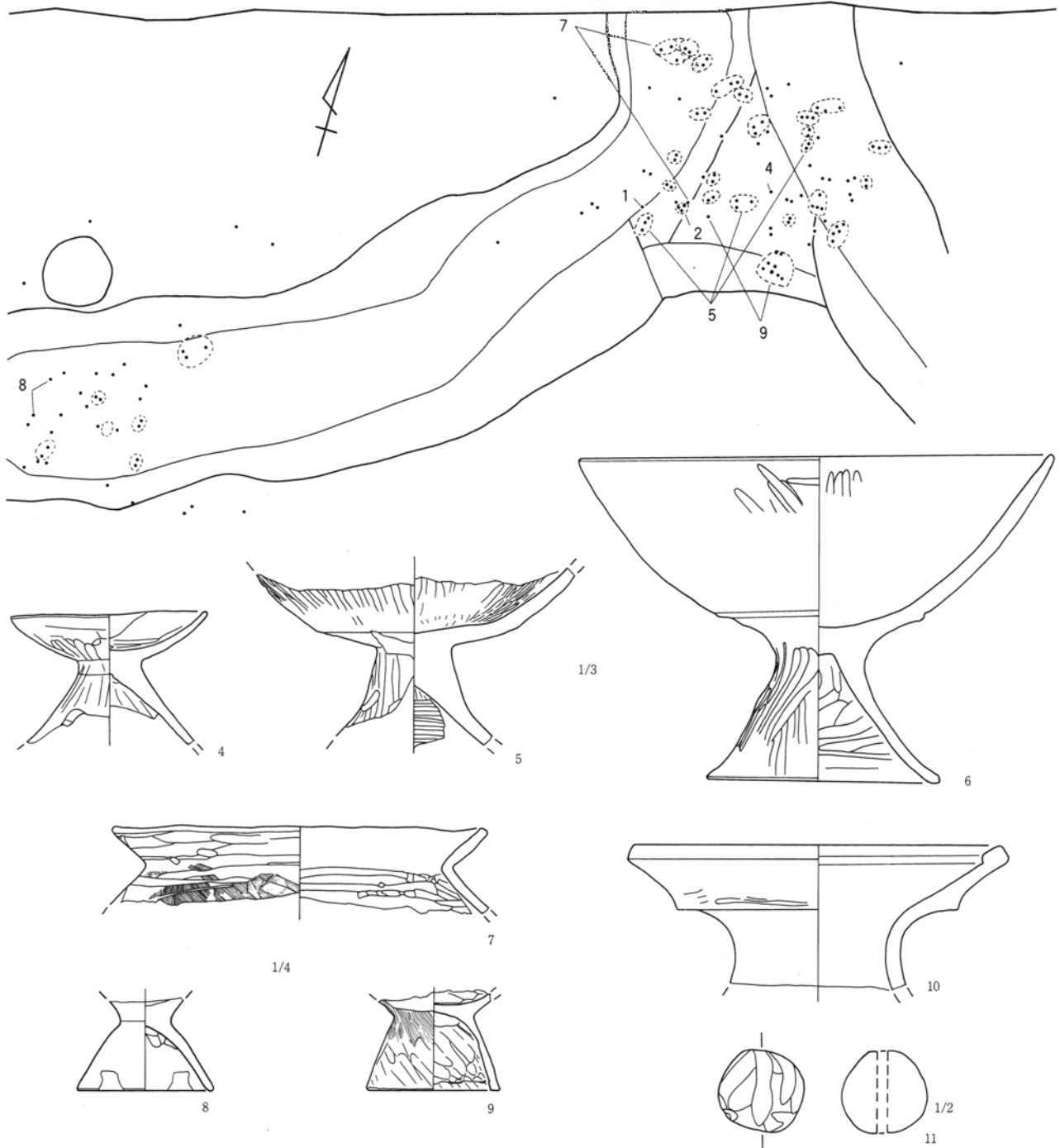
また7-3-6号掘立柱建物や7-3-11号住居と重複する。その新旧は特定できなかったが、断面写真の観察から本住居の方が古いことを認識できた。

出土遺物は周溝中西南部と東部から38号溝に至る区域に集中し、後者では38号溝が本住居を切るらしいことから、当該区域の同溝出土遺物も本住居に属するものとして扱った。尚、出土遺物には若干量の



第202図の1 7-3-6号住居と出土遺物

上位層からの流入品もあったが、土師器器台(1・3)・高坏(2・4~6)・甕(7)・台付甕(8・9)・壺(10)・土錘(11)から概ね3世紀末の所産と把握される。



第202図の2 7-3-6号住居と出土遺物

規模 確認範囲：7.8×3.4m

〔掘り方周溝〕 幅：100~224cm 深さ：50cm

〔入り口〕 幅：182cm

構造 本住居は周溝を持つ大型の住居址であるが、上述のように住居本体は北側、調査区外に在り、周溝の一部を調査できたに過ぎなかつたので全容は詳

らかでない。

調査区内に於いて周溝はやや開き気味の^{かすがい}錠状を呈するが全体としては隅丸方形を呈していたものと思慮される。また南西部に溝の途切れる場所が在り、ここが入り口と考えられる。

その掘削形態は箱堀状であるが、その幅員は一定せず、入り口部の東側は幅の1m程と狭くなる。

第2章 発見された遺構と遺物

(4) 7-3-7号住居(第203~206図、図版84・100・101)

概要 本住居は7区北東部に位置する周溝を伴う住居址だが、住居本体の遺存状況は良好ではなく、掘り方を調査できたに過ぎなかった。また7-3-37号溝と重複するが新旧関係は特定できなかった。

本住居では上位層から混ざり込みである6世紀の土師器碗(27)や8世紀後半の土師器の坏(25)や甕(26)も出土したが、土師器の高坏(1~4)、甕(5)、壺(6~8・10)や、弥生土器の壺片(9・11)など古墳時代前期のものを中心とする比較的多くの出土遺物を得た。こうした出土遺物から本住居は概ね3世紀末葉の所産として把握されるが、出土遺物の多くは周溝から出土しており、特にその南西隅部の分布が濃かった。この他、球形の土

錘(12)、台石(13)、砥石(14)、こも編み石としての使用が想定される磨石(15~21・23)とこも編み石(22)の出土があり、凹石(24)の出土も見られた。

規模 全体径(周溝含む):12.5×11.6m

住居本体径:(737)×(500)cm

[周溝] 幅:97~302cm 深さ:26cm

[掘り方周溝](東側) 長さ:(380)cm 幅:(40)cm

(南側) 長さ:(531)cm 幅:(52)cm

(西側) 長さ:389cm 幅:7~50cm 深さ:12cm

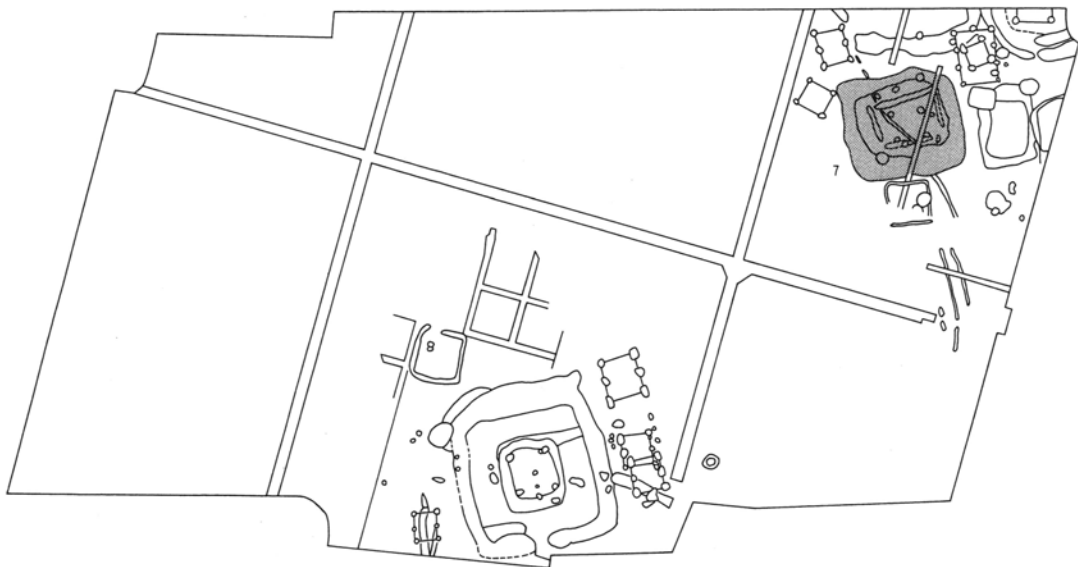
(北側) 長さ:647cm 幅:22~68cm 深さ:18cm

[柱穴1] 径:54×51cm 深さ:33cm

[柱穴2] 径:54×51cm 深さ:32cm

[柱穴3] 径:60×60cm 深さ:40cm

[柱穴4] 径:57×54cm 深さ:38cm



(B-B'断面)

[住居廃絶後の埋土]

- 1: 黒褐色土: As-B混入
 - 2: 黒褐色土: 僅かにAs-C混入
 - 3: 暗褐色土: 焼土粒・黄褐色シルト粒混入。平安期住居覆土と同じと考える
 - 4: 黒褐色土: As-Cと黄褐色シルト混入
 - 5: 黒色土: 黄褐色シルト混入。崩落土と考える
 - 6: 黒褐色土: As-C・黄褐色シルト粒混入
 - 7: 黒褐色土: 9層に比しAs-C少ない
 - 8: 黒褐色土: As-C僅かに混入
 - 9: 黒色土: 所謂As-C混黒色土
- [7号住居周溝覆土]
- 10: 黒色土: As-C混入。9層に粘性強い

- 11: 黒色土: As-C混入。9・10層に比しAs-C少ない
 - 12: 黒色土: As-C密に混入
 - 13: 黒褐色土: 黄褐色シルト混入
 - 14: 黒色土: 黄褐色シルト混入。粘性強
 - 15: 黒褐色土: 僅かにAs-C混入。崩落土と考える
 - 16: 黒褐色土: におい黄褐色シルト混入
- [地山層土]
- 17: 黒褐色土: As-C混土だがAs-C少ない
 - 18: 黒褐色土: やや砂質

- 3: 黒褐色土: 2層に比しAs-C少ない

4: 黒色土: As-C混黒土

[7号住居周溝覆土]

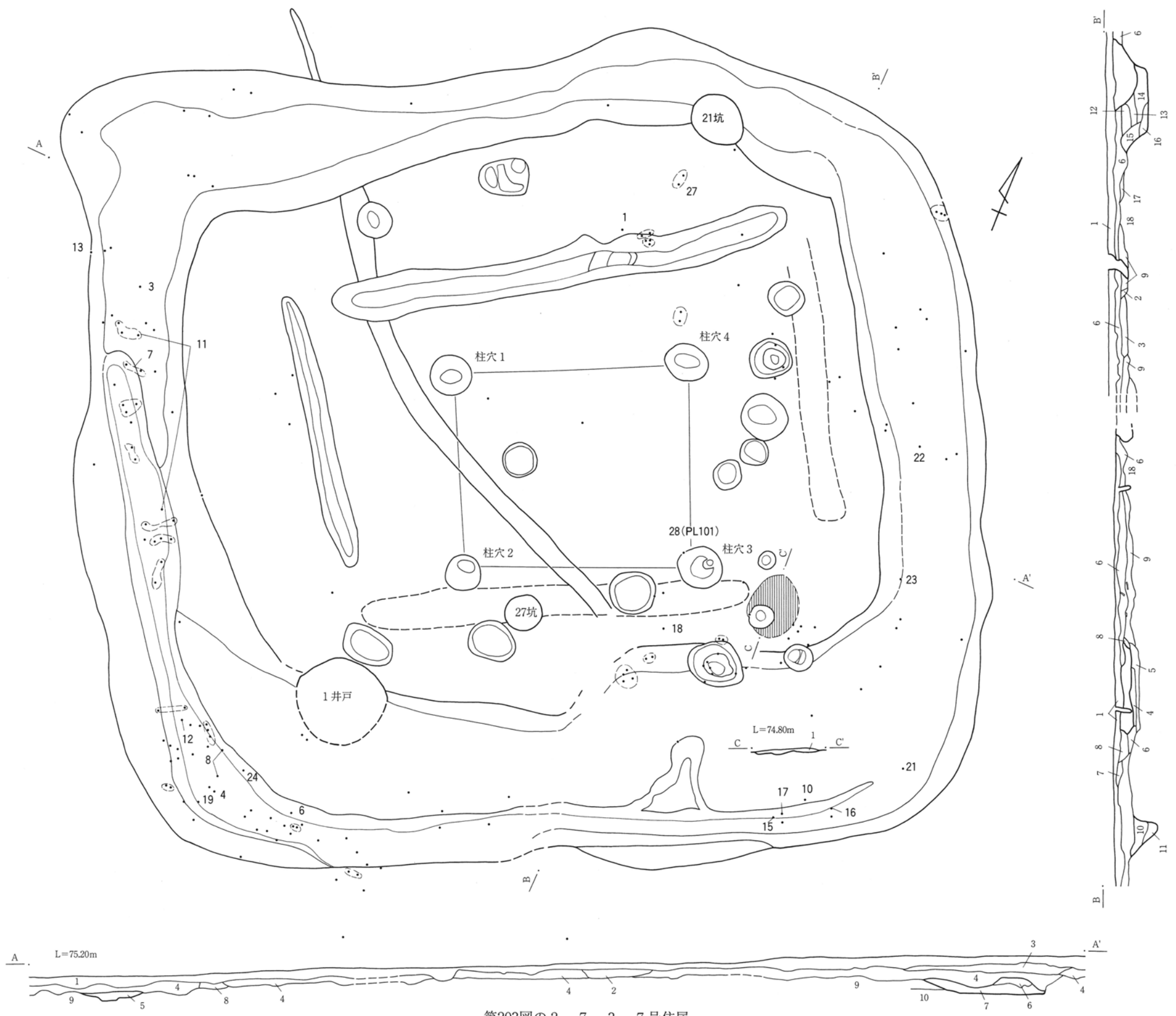
- 5: 黒色土: 2層に比しAs-C密に混入
 - 6: 黒褐色土: 褐色粘質土とAs-C混入
 - 7: 黒褐色土: As-Cとにおい黄褐色シルト混入
- [地山層土]
- 8: 黒褐色土: As-C僅かに混入
 - 9: 黒褐色土: やや砂質
 - 10: 黒褐色土: におい黄褐色シルト混入

(C-C'断面)

[焼土跡覆土]

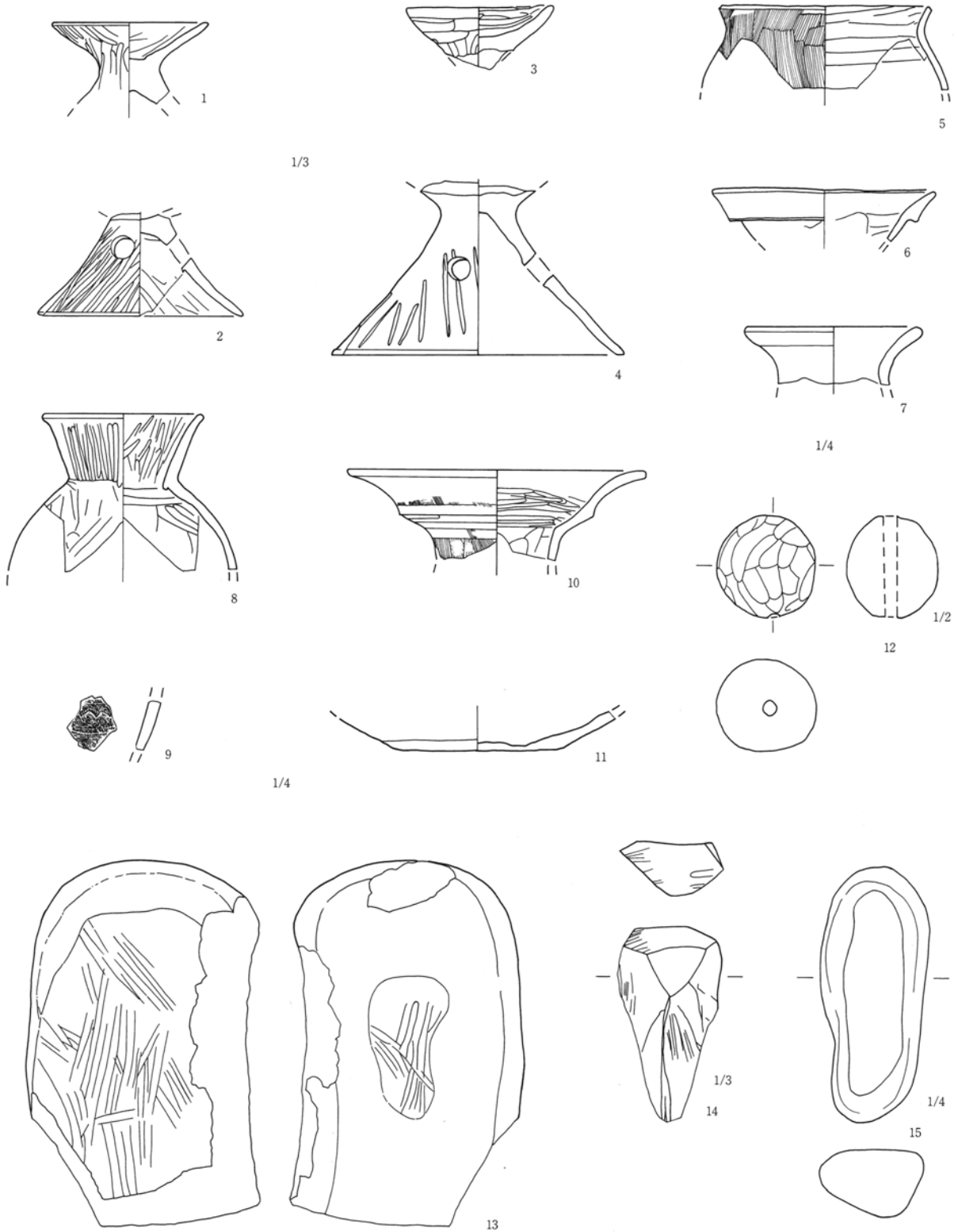
- 1: 黒褐色砂質土: As-C・焼土粒・黄褐色土混入

第203図の1 7-3-7号住居



第203図の2 7-3-7号住居

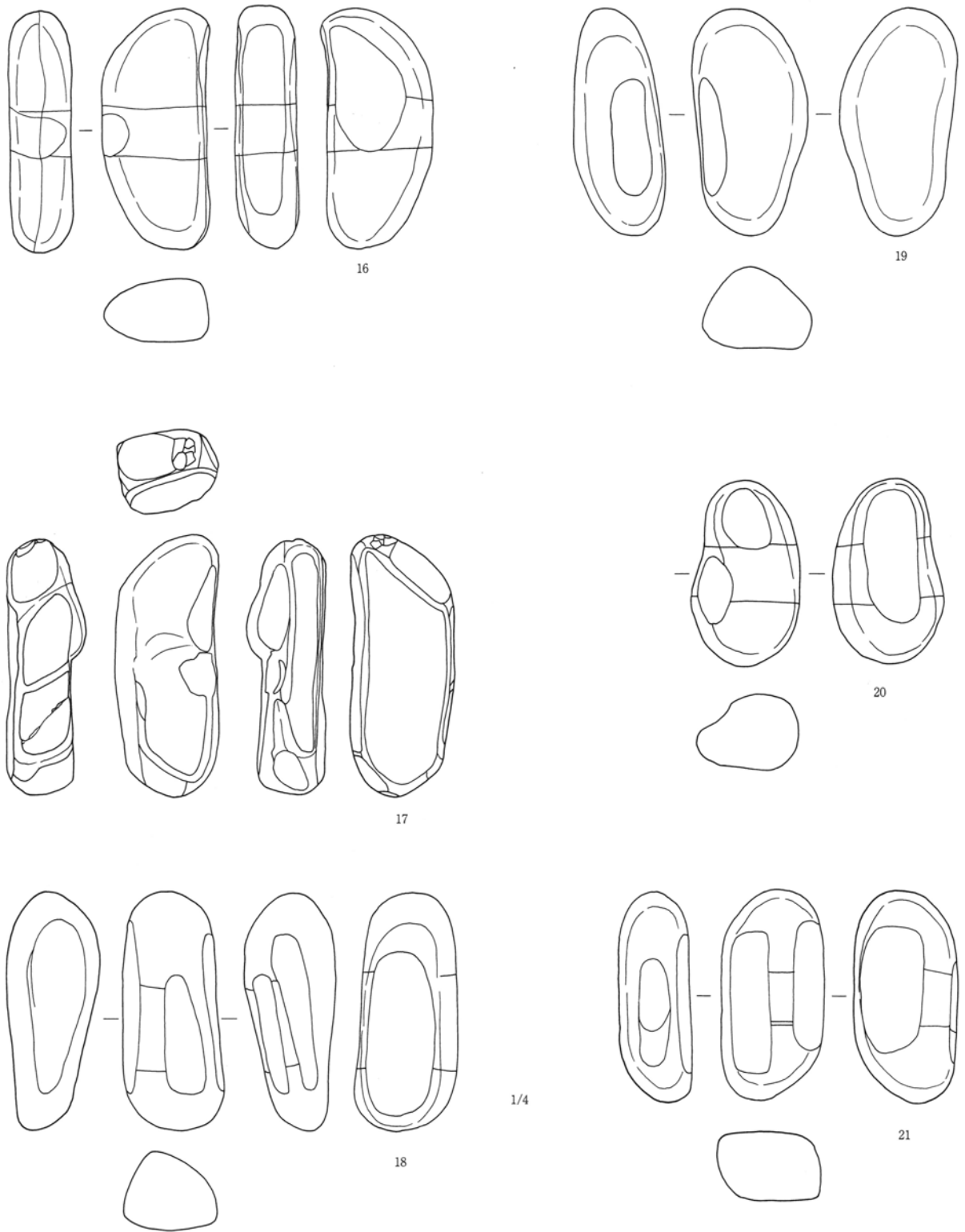
第3節 7区の遺構と遺物



第204図 7-3-7号住居出土遺物(その1)

構造 上述のように本住居は周溝を持つ竪穴住居であるが、上位部分が後世の耕作等によって削られて

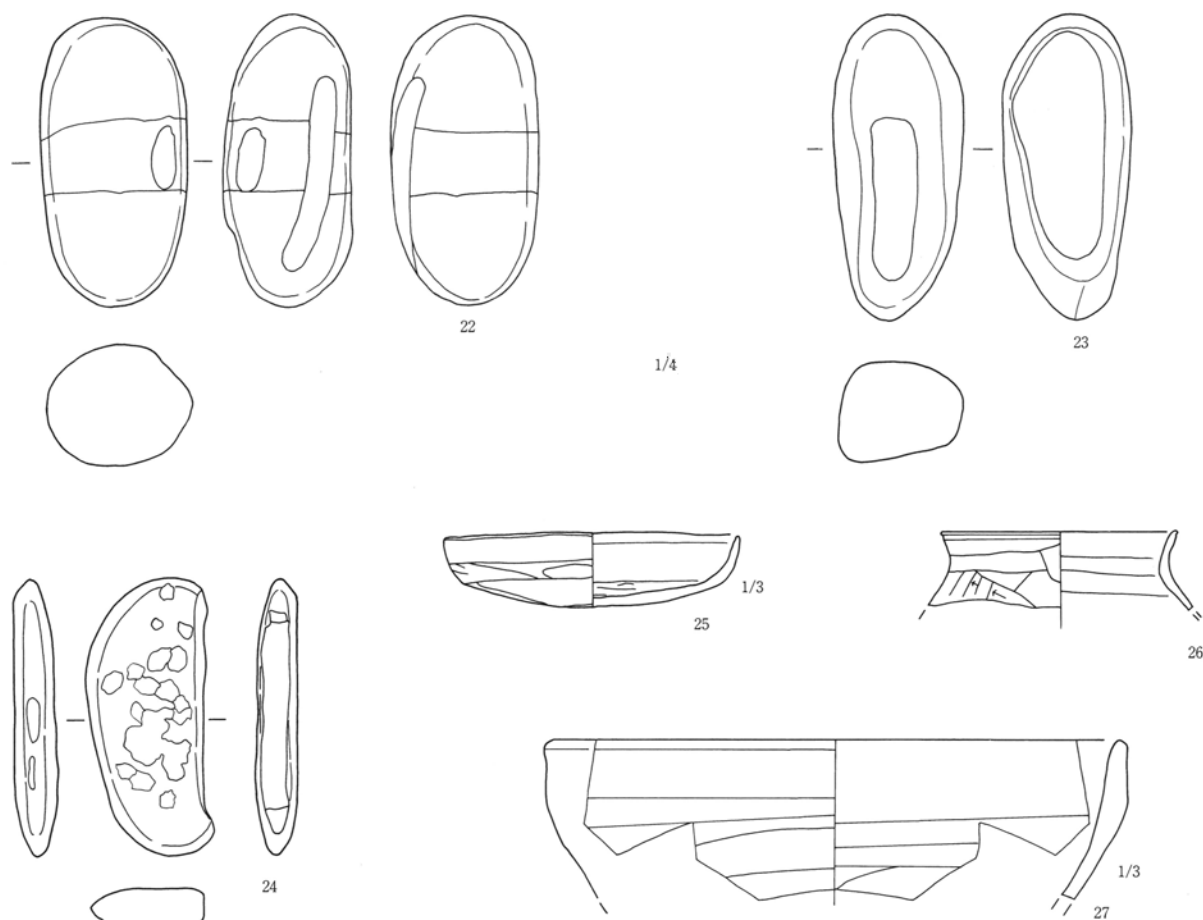
掘り方面を確認できたに過ぎないため、全体の構造を詳らかにすることはできなかった。



第205図 7-3-7号住居出土遺物（その2）

本住居の住居本体のプランは横長の長方形を呈するようである。しかし周溝の形状はやや崩れていてその幅員も一定しないのであるが、本来は住居本体

よりは正方形に近い形状の隅丸方形プランの掘削ラインを呈していたものと判断される。尚、その北東部はもともと欠かれていたようである。



第206図 7-3-7号住居出土遺物（その3）

周溝の幅員には広狭があり、概して南側が広く北側が狭いものの、凡そ180cm程が平均的幅員であったようである。また南側の溝から西側溝中南部にかけては、南側では南壁沿いの、西側では溝中央の溝底面から幅49~68cm、深さ10~15cmを測る小溝が更に掘削されている。尚、7-3-3・6号溝と異なり、本住居の周溝には開口部等は設けられていない。

竪穴住居の本体は周溝に囲まれた東西9.2m、南北7.9m以内の区域の中央より40cm程北に寄った位置に在るが、上述のように周溝のプランがやや不整形であるため住居本体と周溝との間の空間も東側では27~58cmと狭く、南側では40~135cm、西側では130~160cm、北側では25~158cmと幅がある。また住居本体と周溝間の区画の南東隅部では東西66cm、南北89cmを測る楕円形を呈する焼土の分布域が在ったが、位置的に炉とは考えられない。尚、

6-2-65号住居でも同様の位置に焼土の分布する箇所が確認されている。

住居本体は掘り方を有している。掘り方には周溝状の掘り込みが掘削されているが、北側と東側は連続していた様子が窺えるものの、西側の溝はその南端に、北側の溝はその西端に途切る箇所がある。また南東部も欠けていたようである。

一方、後世の掘削が掘り方まで及んでいたため床上の構造は不明瞭で、炉や貯蔵穴等も明らかにできなかった。一方、掘り方面では幾つかのピットを確認したが、このうち4基については柱穴と認識された。認識した柱穴は東西にやや長い方形の配置を成すもので、住居中央よりは南に寄る位置に掘削され、掘り方の南側周溝に接している。住居の形態に鑑みて東西方向を旨方向と想定するが、柱間は桁間で270cmと281cm梁間で315cmと320cmを測った。

第2章 発見された遺構と遺物

(5) 7-3-8号住居 (第207図、図版84・101・102)

概要 本住居は7区北東部に位置し、7-3-6・7・10・11号住居と近接する。

本住居の遺存状況は良好ではなく、僅かに掘り方面の一部を調査できたに過ぎなかった。また本住居は7-3-10号住居、7-3-1号竪穴遺構及び7-3-25号土坑と重複し、後二者には切られているが、10号住居との新旧は明確には特定できなかったものの、遺構確認順位の関係から本住居の方が新しいものと判断される。

本住居からは上位層からの掘り込みに伴う遺物を含む若干量の土器類の出土を見たが、その主体は土師器高坏(1)等古墳時代前期所産の遺物であった。こうした土器類の他、凹石(2)やこも編み石(3)も見られた。このような出土遺物、特に土器の状態から、本住居も周囲の7区3面の竪穴住居と同様3世紀末葉の所産ではないかと判断される。

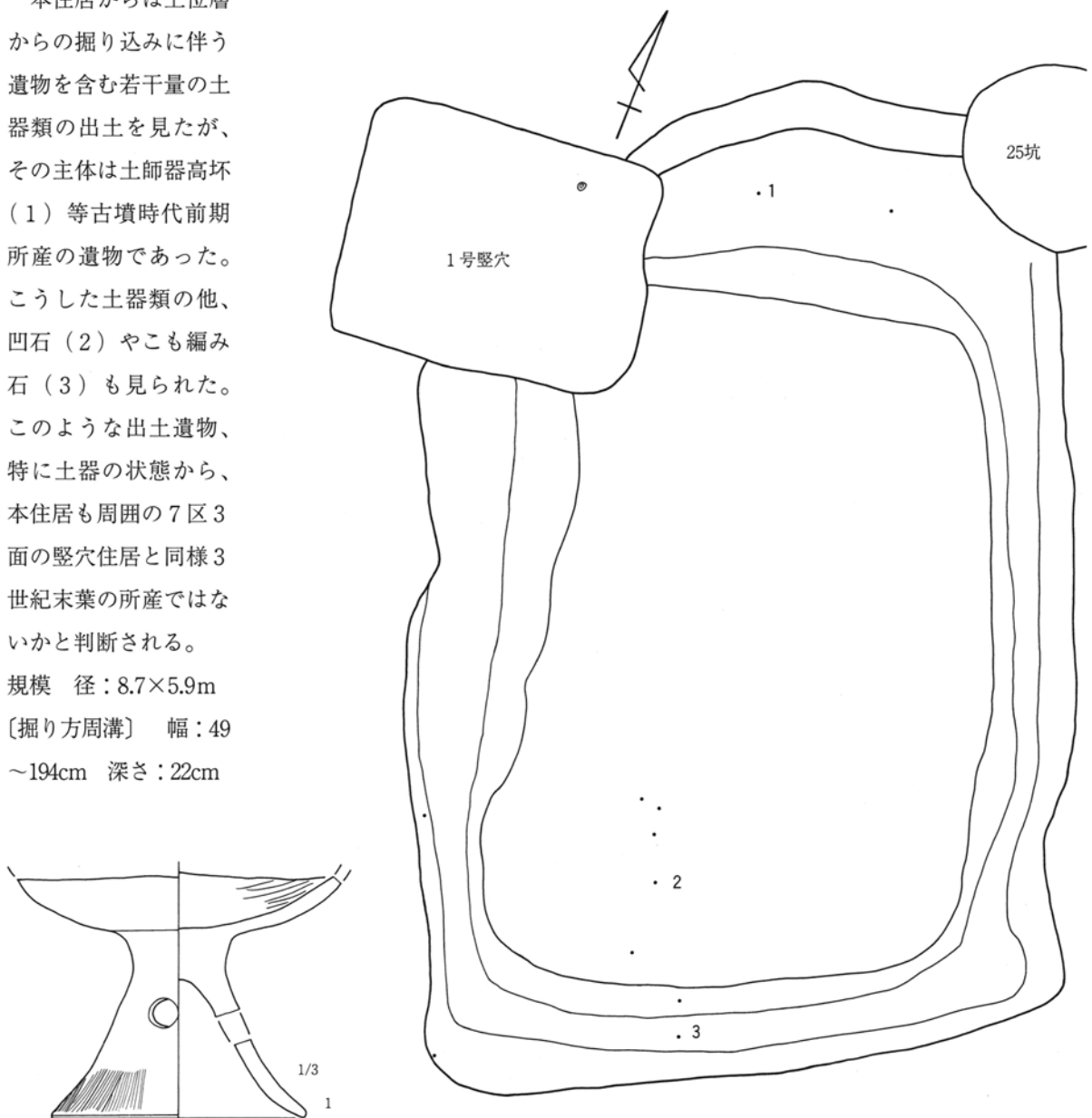
規模 径：8.7×5.9m

〔掘り方周溝〕 幅：49

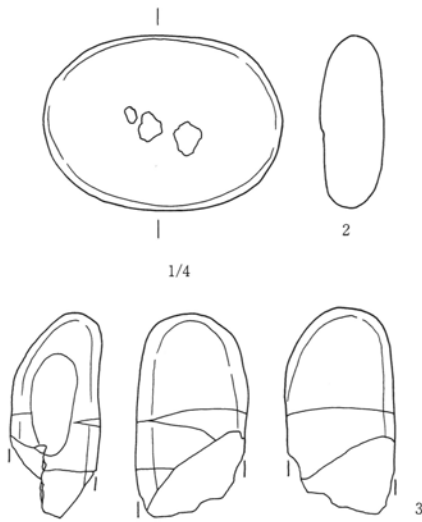
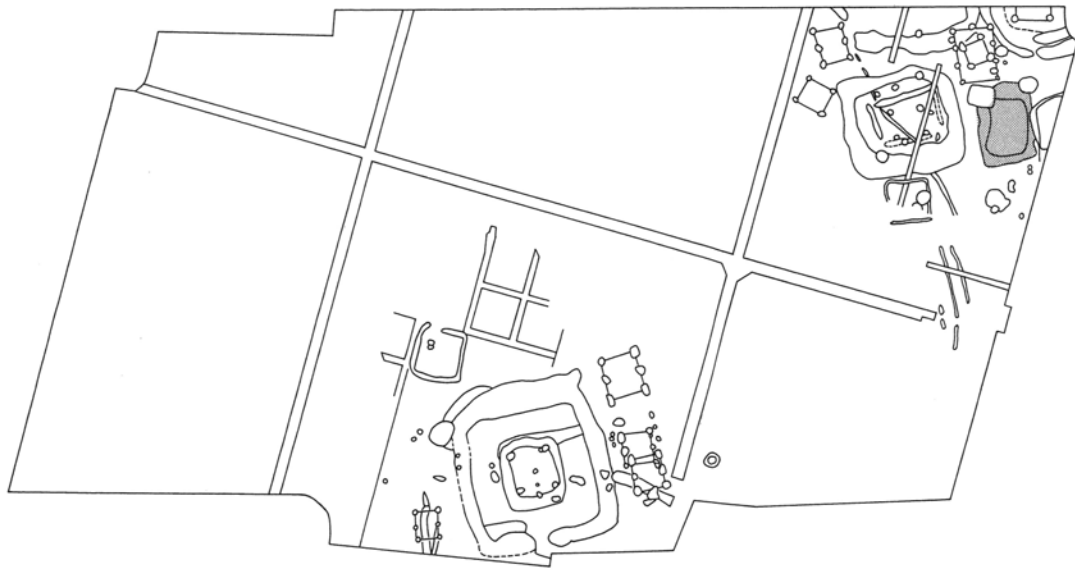
～194cm 深さ：22cm

構造 上述のように本住居は掘り方まで後世の掘削が及んでいたため、その大半の状況を詳らかにすることはできなかったのであるが、以下のような所見を得ることはできた。

本住居のプランについては北東隅部を25号土坑、北西隅部を1号竪穴遺構に切られるためはっきりしないのであるが、現況に於いては主軸を北北西-南南東に持つ縦長の隅丸方形のプランをベースとして、北東角部が欠け或いは折れを有する形状を呈するものであろうと判断される。



第207図の1 7-3-8号住居と出土遺物



第207図の2 7-3-8号住居と出土遺物

本住居は掘り方を有しており、掘り方には周溝状の掘り込みが施されている。この周溝状の掘り込みは箱掘り状を呈するもので、深さは概ね一定であるが、その幅員は東側と南側では70~80cm程で、西側の南端部では50cm程、西側の過半と北側の中・東部では150cmを越える規模があって一定していない。また北西隅部は狭くなっている様子が窺える。尚、掘り方の埋土の記録も残せていない。

また掘り方面でも高位部分の構造明瞭ではないので、床面より上の状況は全く確認することはできなかった。加えて貯蔵穴、柱穴は掘り方面に於いても確認することはできなかった。

(6) 7-3-9号住居(第208図、図版84・102)

概要 本住居は方形の圍繞遺構で、平地式住居と判断される。7区北東部に位置し、7-3-2号井戸に切られて遺存状況は不良である。

本住居からは僅かな量の上位層からの混入物を含む若干量の土師器片の出土が見たが、その主体を成すものは古墳時代前期の遺物であった。この中にある土師器の器台(1・2)と甕(3)から、本住居は周囲の竪穴住居同様概ね3世紀末葉の所産として把握される。

規模 確認範囲：4.7×3.2m

〔周溝〕 幅：20cm 深さ：6cm

〔炉〕 径：88×(80)cm 深さ：7cm

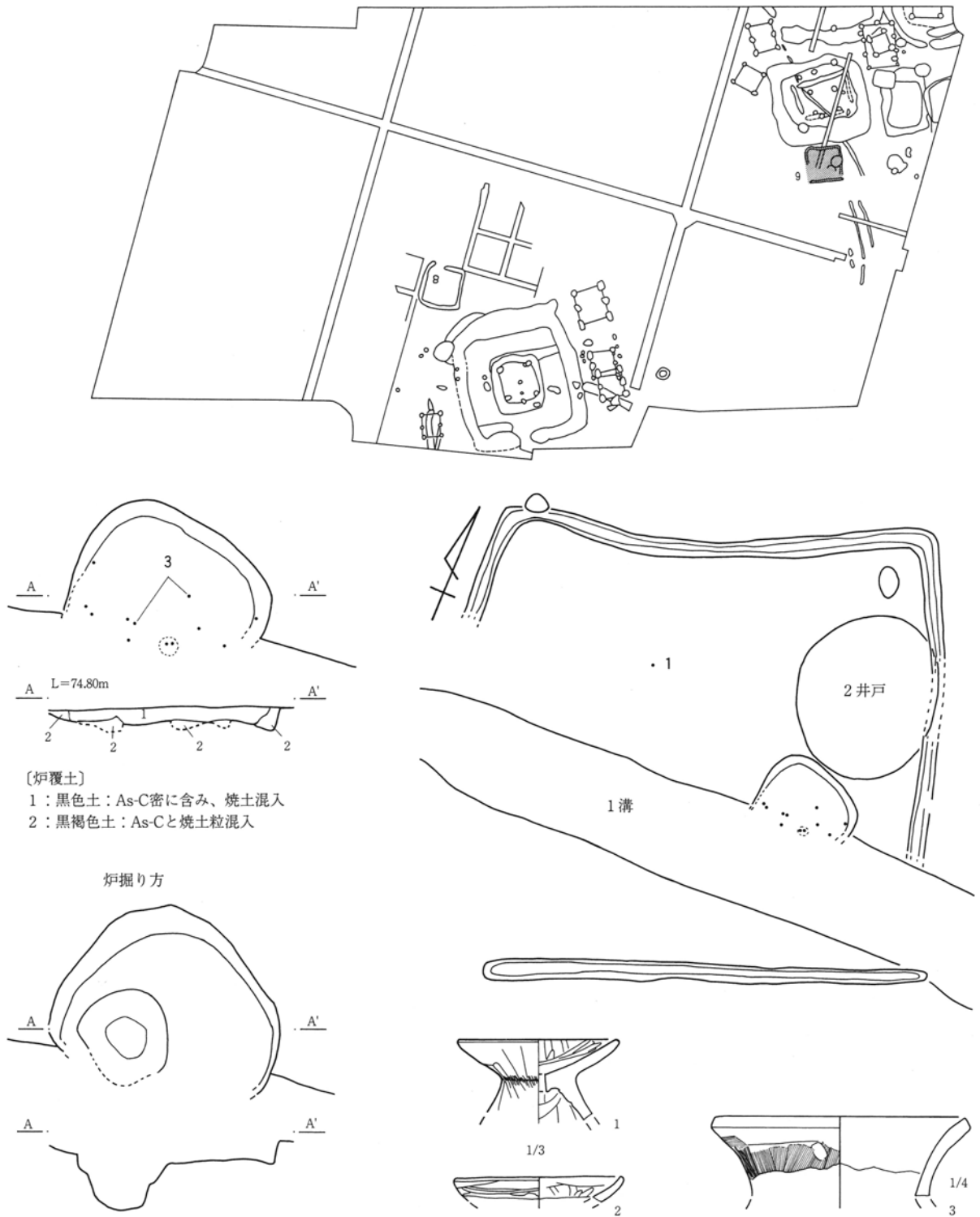
〔炉掘り方〕 径：109×95cm 深さ：10cm

〔炉掘り方ピット〕 径：44×42cm 深さ：34cm

構造 上述のように本住居の遺存状況は良好ではないため、その全容は詳らかにできなかった。

本住居のプランは東北東-西南西に主軸を持つ長方形様のものであるが、北辺は陥没するように南方方向に屈曲し、東辺は東側に膨らむ。

さて本住居は住居の断面に関する記録が残されていないため、床面・掘り方の有無は確認できなかったが、周溝や炉の関連遺構の確認から床面に近い位置であろうと解釈される。



〔炉覆土〕
 1：黒色土：As-C密に含み、焼土混入
 2：黒褐色土：As-Cと焼土粒混入

第208図 7-3-9号住居と出土遺物

周溝は南西部を除いて確認されたが、遺構の依存状況に鑑み、恐らくは壁際を一周していたものと想定している。尚、周溝は幅員や深さは一定していて、比較的整った形態を見せている。

また住居東部のやや南寄りには軸方向が住居の軸方向に対して45°程傾く隅丸方形プランを呈する地床炉が確認されている。炉は1層土に覆われたもの(第208図の左側上)が当初の燃焼面であったものと

判断している。この炉は掘り方（第208図の左側下）を持っており、その規模は燃烧部に対して一回り大きく、これを焼土粒を含む黒褐色土で埋め戻して燃烧面を造っている。また炉の掘り方のやや西寄りには方形プランの柱穴様のピットが確認されたが、このピットは別遺構の可能性もある。

このように炉や周溝を確認することはできたが、柱穴等他の遺構を確認することはできなかった。

(7) 7-3-10号住居（第209図、図版84）

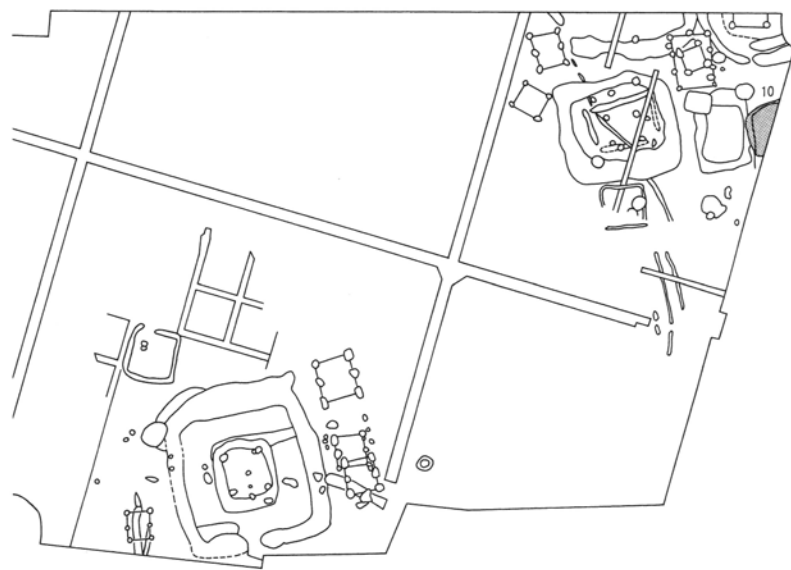
概要 本住居は7区北東部に位置する方形の圍繞遺構で、平地式住居と思慮される。遺存状況は不良で、加えて住居の過半が調査区外に在るため、その一部を調査できたに過ぎなかった。

本住居はその西端が7-3-8号住居と重複するが、新旧を明確は特定できなかったものの、8号住居の調査終了後に本住居が確認、調査されていることから本住居の方が古いものと判断される。

本住居に出土遺物なく時期の特定には至らなかったが、3面に調査されていることから古墳時代中期以前、上述のように8号住居より古いとするならば3世紀末葉以前の所産として把握されよう。

規模 確認範囲：5.2×3.1m

〔周溝〕 幅：44cm 深さ：14cm



第209図 7-3-10号住居

構造 上述のように、本住居はその過半が調査区外に在るためその全容を詳らかにすることはできなかったが、確認範囲の状況から、北西-南東方向に軸を持つ隅丸方形のプランを呈するものと判断される。

また土層断面の記録も残せなかったため掘り方の有無は特できず、調査面が床面なのか掘り方に入っているのかも特定できなかった。

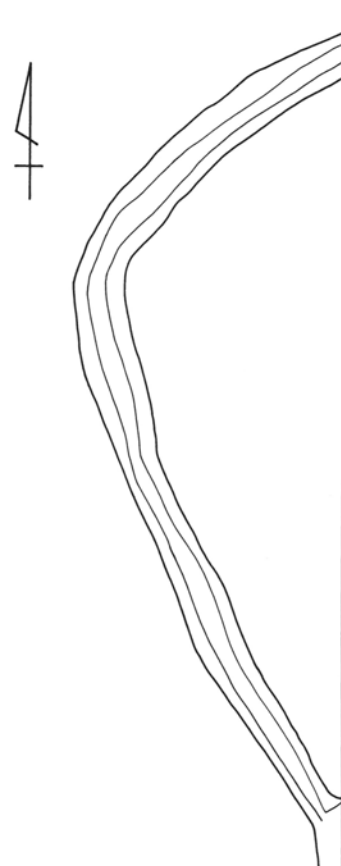
確認した遺構には周溝がある。周溝は箱堀状で幅員・底面の変化も少なく比較的整った形状を呈している。しかし乍ら柱穴、貯蔵穴、炉などは確認できなかった。

(8) 7-3-11号住居（第210図、図版83・84・102）

概要 本住居は7区北東隅に部に所在する。

7-3-6号掘立柱建物と重複するが、断面写真の観察から本住居の方が新しいことを確認した。

本住居には僅かな量の上位層に属する土師器片や弥生土器壺片（1）を含む出土遺物を得たが、その



第2章 発見された遺構と遺物

中心は古墳時代前期の土器片であった。時期特定には至らなかったが、出土遺物と遺構の構造から推して3世紀末葉頃の所産であろうと判断している。

尚、西側周溝は調査時点では38号溝として処理している。

規模 確認範囲：10.6×5.3m

〔住居本体確認範囲〕 576×381cm

〔周溝（東側）〕 幅：(177) cm 深さ：17cm

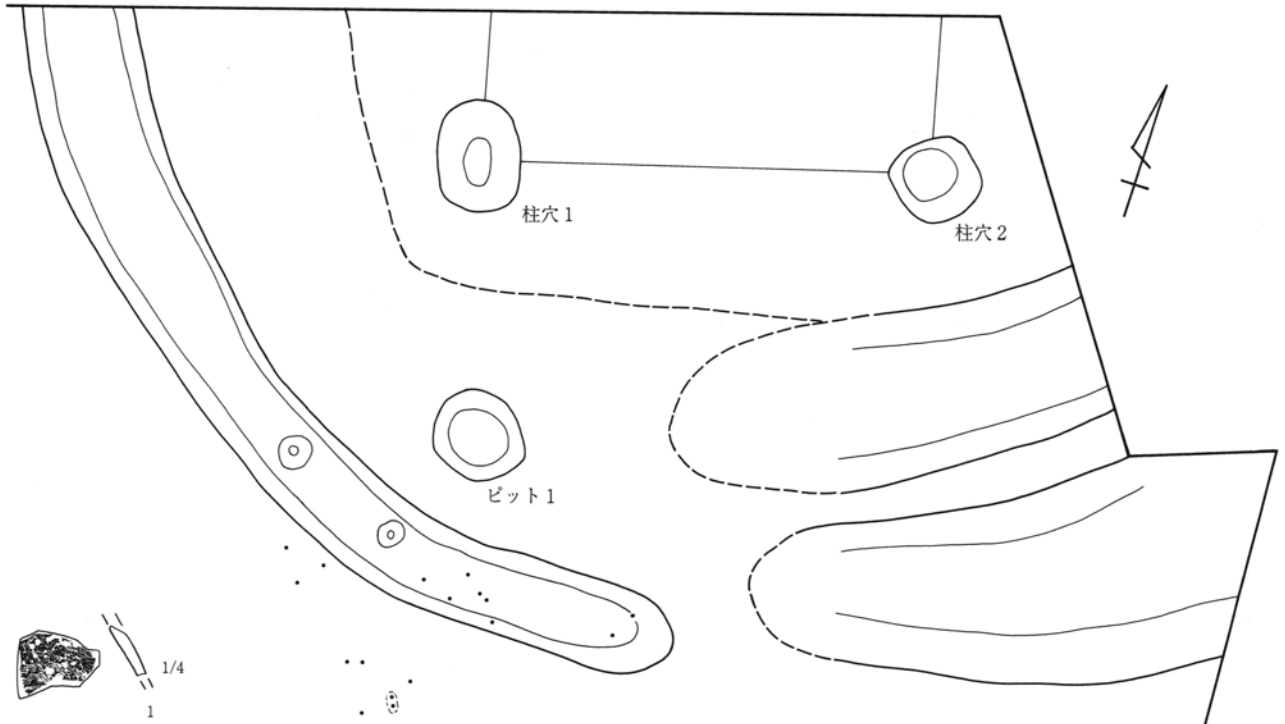
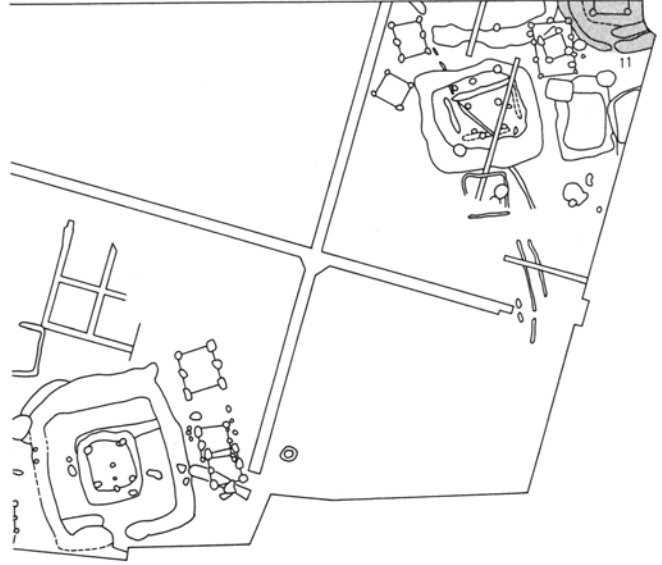
〔周溝（西側）〕 幅：91cm 深さ：28cm

〔掘り方周溝〕 幅：134cm 深さ：13cm

〔柱穴1〕 幅：66×89cm 深さ：33cm

〔柱穴2〕 幅：72×65cm 深さ：22cm

〔ピット1〕 幅：74×70cm 深さ：8 cm



第210図 7-3-11号住居と出土遺物

構造 本住居は周溝を持つ竪穴住居であるが、上述のようにその過半が調査区外に在り、また大きく削平されているため全容は詳らかにできなかった。

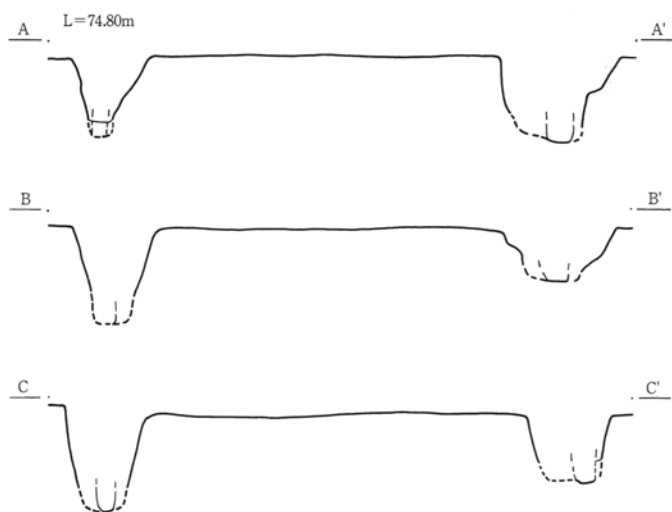
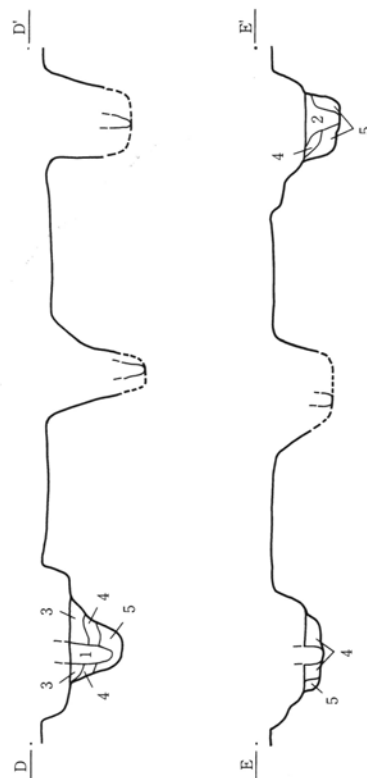
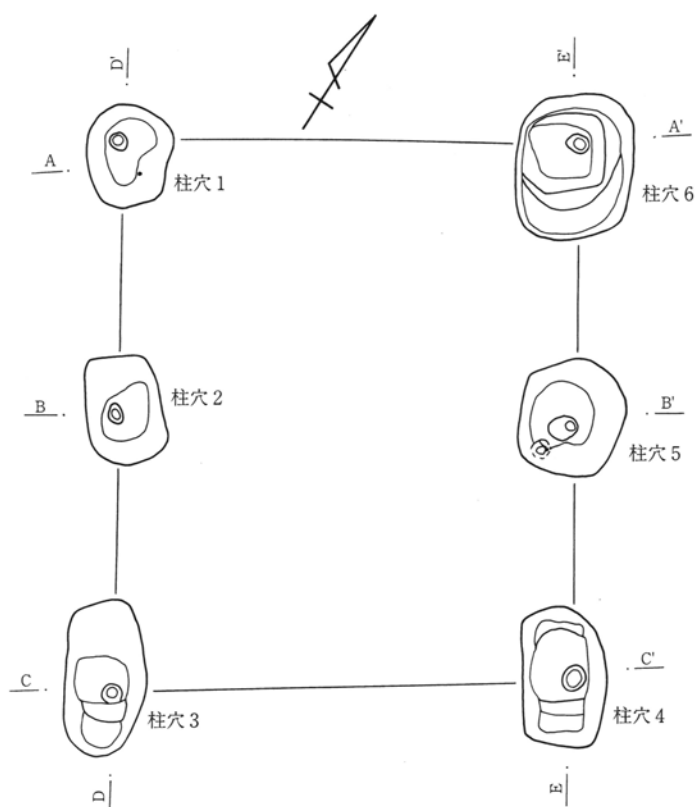
確認範囲での周溝の掘削ラインは円形に近く、住居本体は方形若しくは隅丸方形のプランを呈するものであった。

周溝は70cm程途切れて東西に分かれて喰い違う

が、東側の周溝は西側に対し倍以上の幅員を持つ。

一方、住居本体は北北西-南南東に主軸を持ち、東側周溝と同様の規模・形状を持つ周溝状の掘り込みを伴う掘り方を有する。床面或いは炉は確認できなかったが、掘り方面に於いて規模の大きい柱穴2基を確認したが、その柱間は355cmを測る。

尚、住居の入り口は周溝の途切れる南側に在る。

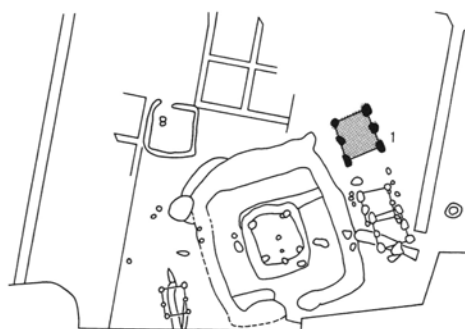


〔柱痕埋土〕

- 1：褐色粘質土：下層は5層土の類似土が入る
- 2：暗褐色土：As-C・褐灰色シルト・黄褐色シルト混入。
縮まりなし

〔柱穴覆土〕

- 3：黒褐色土：As-C混黒色土と黄褐色シルト混入
- 4：暗褐色土：As-C混黒色土と黄褐色シルト粒多く混入
- 5：黒褐色土：黒色粘質土と主に黄褐色シルト混入



第211図 7-3-1号掘立柱建物

(9) 7-3-1号掘立柱建物 (第211図、図版85・102)

概要 本掘立柱建物は7区中南部、7-3-3号住居北寄りの東側に位置する。

土師器等を出土したが、時期は特定できなかった。

しかし3面の遺構で、出土遺物が3号住居同様上位層からの流入もあるが古墳時代前期の遺物を中心とすること、律令期に多い棟持柱を持つ建物でないことから、概ね4～5世紀の所産と把握される。

第2章 発見された遺構と遺物

規模 範囲：4.4×5.2m

建物規模：3.7×4.3m

〔柱穴1〕 径：71×80cm 深さ：65cm

〔柱穴2〕 径：65×72cm 深さ：76cm

〔柱穴3〕 径：66×130cm 深さ：79cm

〔柱穴4〕 径：65×116cm 深さ：52cm

〔柱穴5〕 径：83×98cm 深さ：47cm

〔柱穴6〕 径：86×117cm 深さ：65cm

〔梁間間尺〕 365～370cm (平均 368cm)

〔桁間間尺〕 198～226cm (平均 207cm)

構造 本建物は棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。主軸は北西－南東方向にあり、柱間は梁間が桁間に対して平均で1.78倍の規格を有する。

柱穴のプランは多様だが概ね隅丸方形を基本とし、底面は平底気味である。柱は柱痕や途中段階の形状観察から凡そ径10～15cm程と判断されるが、建物重量は石守の値(1986)で450kg程と推定されることから推して高床式ではなく平地式の建物であったと推定される。

(10) 7-3-2号掘立柱建物(第212図、図版85・102)

概要 本掘立柱建物は7区中南部、7-3-3号住居の東側に位置する。7-3-3号掘立柱建物と重複するが新旧は特定できなかった。

古い時期の土師器片僅か2片と剥片1点(1)を出土しただけで時期特定には至らなかったが、7-3-1号掘立柱建物同様3面の遺構で、棟持柱を持たないことから凡そ4・5世紀の所産と認識される。

規模 範囲：3.7×4.3m

建物規模：3.1×3.1m

〔柱穴1〕 径：77×128cm 深さ：68cm

〔柱穴2〕 径：94×99cm 深さ：83cm

〔柱穴3〕 径：50×69cm 深さ：63cm

〔柱穴4〕 径：59×112cm 深さ：65cm

〔柱穴5〕 径：60×67cm 深さ：53cm

〔柱穴6〕 径：59×63cm 深さ：68cm

〔梁間間尺〕 295～308cm (平均 299cm)

〔桁間間尺〕 142～167cm (平均 155cm)

構造 本建物も主軸が北西－南東方向を向く、棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物であるが、柱間は桁間に対して平均で梁間が約2倍(1.94倍)の規格を有する。また桁間は南北で広さが異なり北半は南半に対して1.15倍とやや広い。

柱穴のプランは多様で、柱穴1・4は隅丸長方形、柱穴2は隅丸台形、柱穴3は楕円形、柱穴5・6は隅丸方形を呈する。また断面に見られる柱痕と途中段階の平面観察所見から柱は径8～16cm程と想定され、従って建物重量は石守の値(1986)で370kg程と推定されるため、本建物も1号掘立柱建物と同じく平地式建物であったと想定される。

(11) 7-3-3号掘立柱建物(第213図、図版85・102)

概要 本掘立柱建物は7区中南部に位置し、新旧は特定できなかったが北端部が7-3-2号掘立柱建物と重複し、7-3-36号溝に切られる。

本建物からは柱穴から3世紀末葉の土師器壺(1)僅か2点が出土しただけで時期の特定には至らなかった。しかし、本建物も3面に確認された遺構で棟持柱を持たないことから4～5世紀の所産として把握することができる。

規模 範囲：4.1×4.3m

建物規模：3.0×3.6m

〔柱穴1〕 径：71×111cm 深さ：50cm

〔柱穴2〕 径：(60)×54cm 深さ：54cm

〔柱穴3〕 径：83×108cm 深さ：60cm

〔柱穴4〕 径：86×104cm 深さ：50cm

〔柱穴5〕 径：62×82cm 深さ：50cm

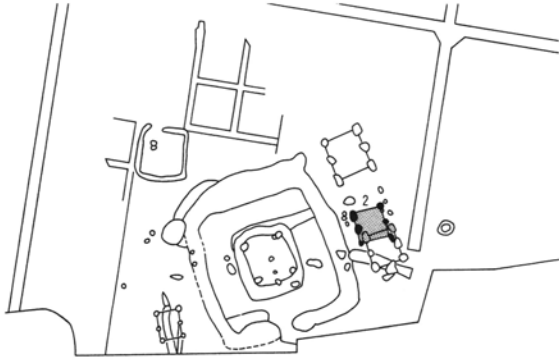
〔柱穴6〕 径：70×97cm 深さ：46cm

〔梁間間尺〕 288～302cm (平均 297cm)

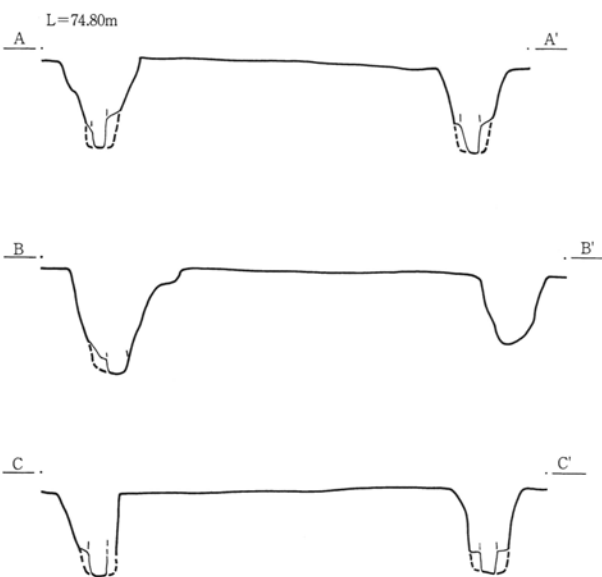
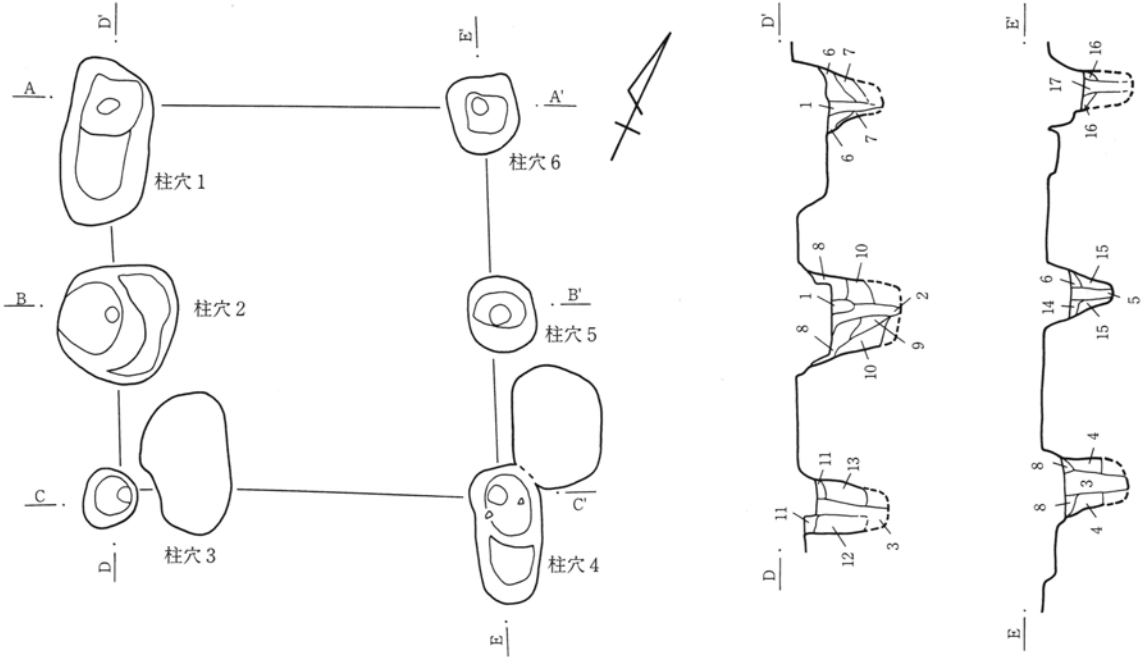
〔桁間間尺〕 155～180cm (平均 166cm)

構造 本建物も7-3-1・2号掘立柱建物同様に主軸が北西－南東方向を向く、棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。建物の平面形は比較的整った長方形を呈しているが、西側列の中位の柱穴(柱穴2)の掘削位置はやや南に寄っている。また柱間は桁間に対して梁間が平均で1.79倍の規模であった。

第3節 7区の遺構と遺物



柱穴のプランは柱穴1・4～6は隅部の形状に違いはあるものの隅丸長方形を呈しており、柱穴2は方形を呈している。また柱穴3は底面が方形様を呈するものの確認面に於いては楕円形を呈するものであった。柱の径は断面に見られた柱痕と途中段階でのプランの観察から見ると、1・2号掘立柱建物と異なり16～24cm程と太いものであった。従って本建物は石守の値(1986)で1,110kg程と1・2号掘



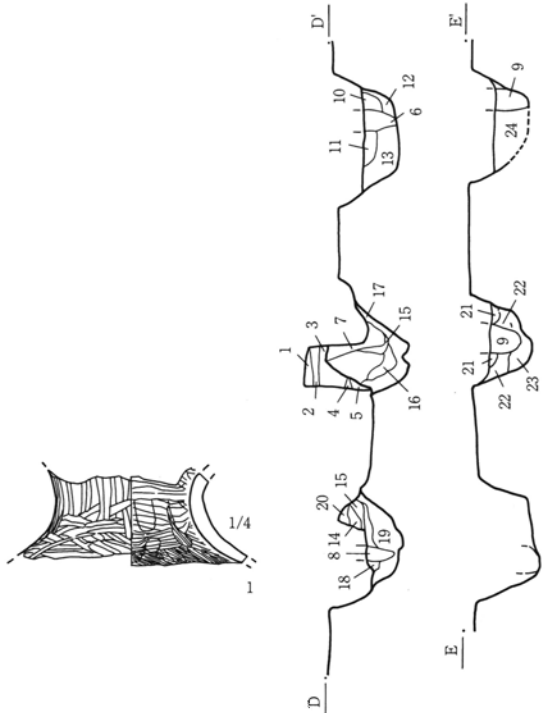
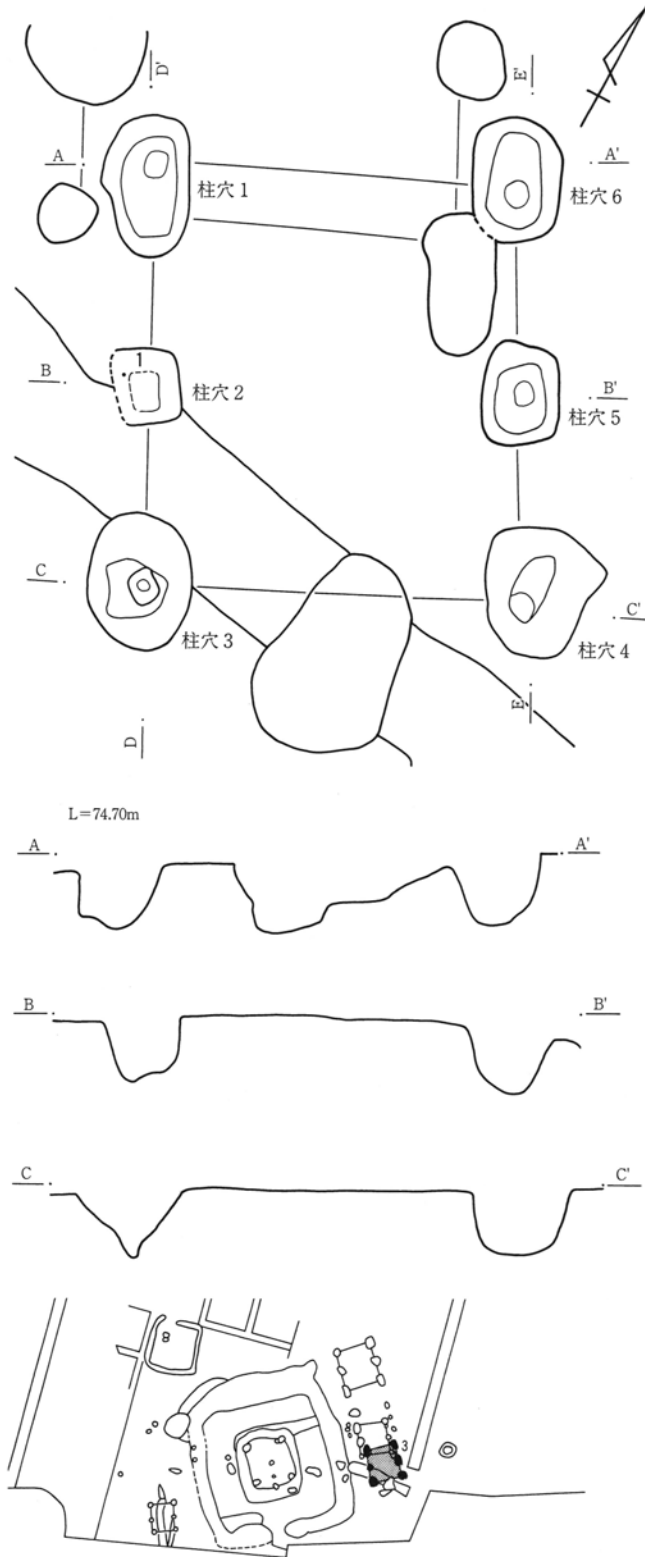
[柱痕埋土]

- 1：褐灰色土：ブロックでボロボロする
- 2：暗褐色粘質土：黄褐色シルト混入。10層に比し締り弱い
- 3：暗褐色土：褐色土及び黄褐色土粒混入土多く混入。締まりなし
- 4：褐灰色土：ブロックでボロボロする
- 5：黒褐色土：褐灰色粘質土と黒色土混入。締まりなし

[柱穴覆土]

- 6：黒色粘質土
- 7：黄褐色土：黒色土と多量の地山シルト混入
- 8：黒褐色粘質土
- 9：暗褐色粘質土
- 10：暗褐色粘質土：黄褐色シルト混入
- 11：黒褐色土：As-C混黒色土と黄褐色土多く混入
- 12：暗褐色土：褐色粘質土と黒色土混入。粘性有り
- 13：暗褐色土：褐色粘質土と黄褐色土粒多く混入
- 14：褐灰色土：黒色土粒混入
- 15：褐色シルト質土
- 16：暗褐色土：黒色土と褐灰色土混入
- 17：黒褐色土：黒色粘質土・褐灰色土混入

第212図 7-3-2号掘立柱建物



[36号溝覆土等]

- 1：褐色土：As-B混入
- 2：暗褐色土：As-C混入
- 3：暗褐色土：As-C混入。砂質感あり
- 4：黒褐色粘質土：As-C混入
- 5：暗褐色土：As-C・砂粒混入

[柱痕埋土]

- 6：暗褐色土：黒色土・黄褐色シルトと多量の褐灰色土粒混入
- 7：暗褐色土：As-C混入。若干粘性有り
- 8：黒褐色粘質土：褐灰色土粒混入
- 9：黒褐色粘質土：As-C混入。ボンボンする

[柱穴覆土]

- 10：暗黄褐色：黄褐色シルト多量に混入。粘性有り
- 11：暗褐色土：黒色粘質土・褐灰色粘質土混入。粘性有り
- 12：褐灰色粘質土
- 13：黒褐色土：黒色粘質土・黄褐色シルト・褐灰色土混入。粘性有り
- 14：黒褐色土：黒色粘質土・黄褐色シルト粒多量に混入
- 15：暗褐色土：黒色土・褐灰色土粒混入
- 16：黒褐色土：黒色粘質土・褐灰色粘質土混入
- 17：暗褐色土：黒色粘質土・褐色土と多くの褐灰色粘質土混入
- 18：黒褐色粘質土
- 19：褐灰色砂質土
- 20：暗褐色土：As-C混入
- 21：黒褐色粘質土：As-C少量混入
- 22：黄褐色土：黒色土と黄褐色土多く混入
- 23：暗褐色土：黒色土と褐灰色土多量に混入
- 24：暗褐色粘質土：As-C若干混入

立柱建物に対し2倍近い荷重に耐えられるものであり高床式となりうるものであるが、建物の平面形態の近似から1・2号掘立柱建物同様平地式建物であったものと考えている。

第213図 7-3-3号掘立柱建物と出土遺物

(12) 7-3-4号掘立柱建物 (第214図)

概要 本建物は7区中南部に位置し、新旧は特定できなかったが谷地形に伴う溝状の窪地と重複する。

出土遺物は古墳時代前半期の土師器3片だけで時期は特定できなかったが、3面の遺構であり、棟持柱を持たないことから概ね4・5世紀の所産と認識される。

規模 範囲：3.0×3.4m

建物規模：2.3×2.9m

〔柱穴1〕 径：41×49cm 深さ：34cm

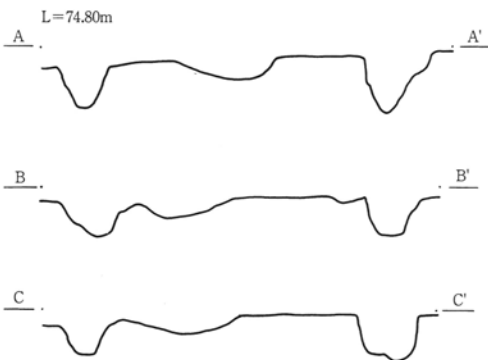
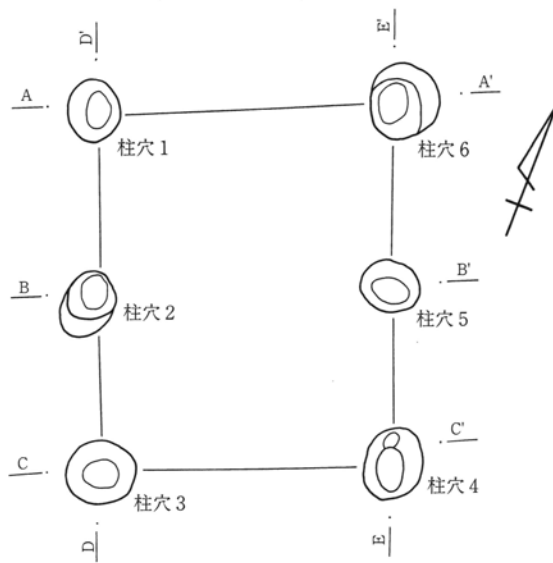
〔柱穴2〕 径：41×54cm 深さ：23cm

〔柱穴3〕 径：56×52cm 深さ：24cm

〔柱穴4〕 径：44×55cm 深さ：29cm

〔柱穴5〕 径：48×39cm 深さ：32cm

〔柱穴6〕 径：55×56cm 深さ：43cm



〔梁間間尺〕 229～234cm (平均 232cm)

〔桁間間尺〕 142～148cm (平均 145cm)

構造 本建物は主軸が北北西—南南東方向を向く、棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。柱間は桁間に対して梁間が平均で1.61倍の広さを持つ。

柱穴のプランは柱穴1・2・5が楕円形、柱穴3が円形、柱穴4・6が隅丸方形を呈する。尚、本建物もその形態的近似から7-3-1～3号掘立柱建物と同じく平地式建物であったと推定される。

(13) 7-3-5号掘立柱建物 (第215図、図版85)

概要 本建物は7区北東部、7-3-6号住居の西側に中南部に位置する。

古墳時代前期中心の土師器が若干量出土したが、時期は特定に至らなかった。しかし本建物は3面の遺構であり、柱穴の覆土と、棟持柱を持たないことから概ね4・5世紀の所産と認識される。

規模 範囲：3.5×4.9m

建物規模：2.9×3.6m

〔柱穴1〕 径：64×62cm

深さ：46cm

〔柱穴2〕 径：54×59cm

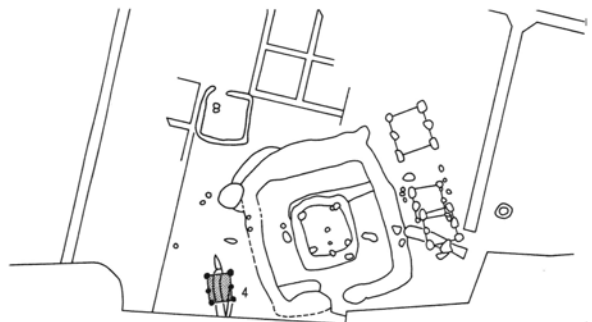
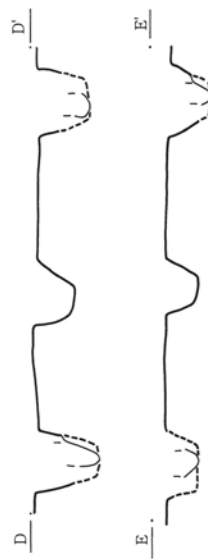
深さ：26cm

〔柱穴3〕 径：52×54cm

深さ：42cm

〔柱穴4〕 径：69×55cm

深さ：52cm



第214図 7-3-4号掘立柱建物

第2章 発見された遺構と遺物

〔柱穴5〕 径：47×49cm 深さ：34cm

〔柱穴5〕 径：48×61cm 深さ：35cm

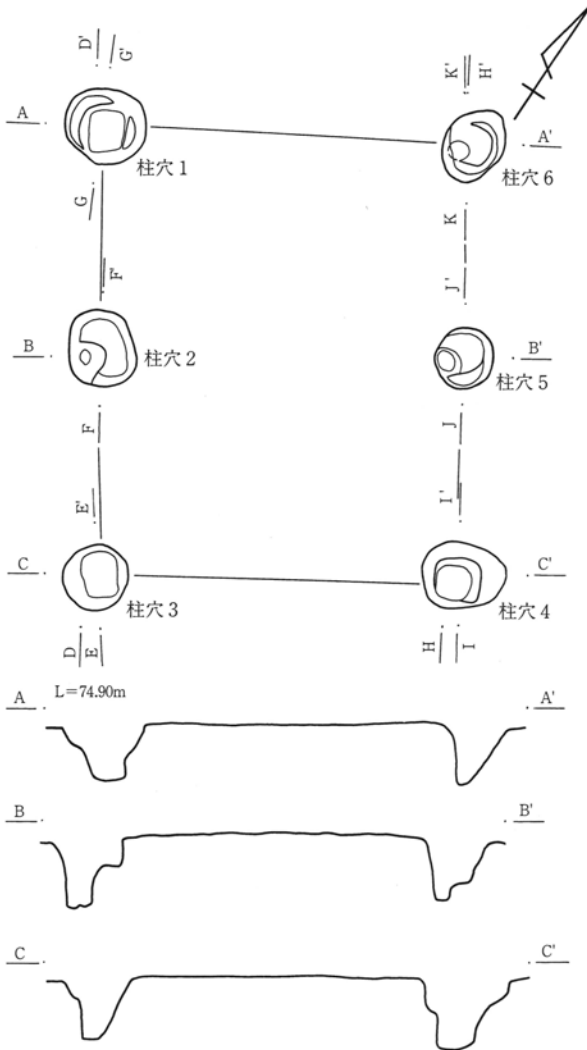
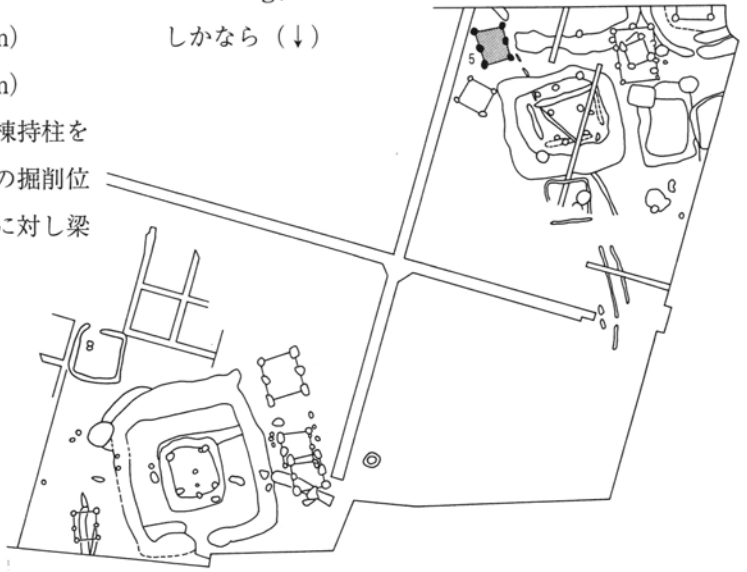
〔梁間間尺〕 283~290cm (平均 287cm)

〔桁間間尺〕 170~183cm (平均 178cm)

構造 本建物は北西-南東方向に主軸取る棟持柱を持たない1×2間の掘立柱建物である。柱の掘削位置は比較的整っており、柱間は平均で桁間に対し梁間の方が1.61倍程の長い。

柱穴のプランは何れも底面は隅丸方形を呈しているが、確認面では柱穴1・4・6が楕円形、柱穴2が隅丸方形、柱穴3・5が円形を呈する。また柱の径は断面に見える柱痕の観察からは7

~15cm程と想定されるもので、石守の値(1986)では400kg程に
しかなら(↓)



〔柱痕埋土〕

- 1：黒褐色土：As-C混入。黄褐色砂を柱穴外周に持つ
- 2：黒褐色土：黒色土・褐灰色土混入。ポロポロしている

〔柱穴覆土〕

- 3：黒褐色土：As-C多く混入
- 4：黒褐色粘質土：As-C少量混入
- 5：黒色粘質土
- 6：黒褐色土：As-Cと黄褐色砂（ブロック）混入

第215図 7-3-5号掘立柱建物

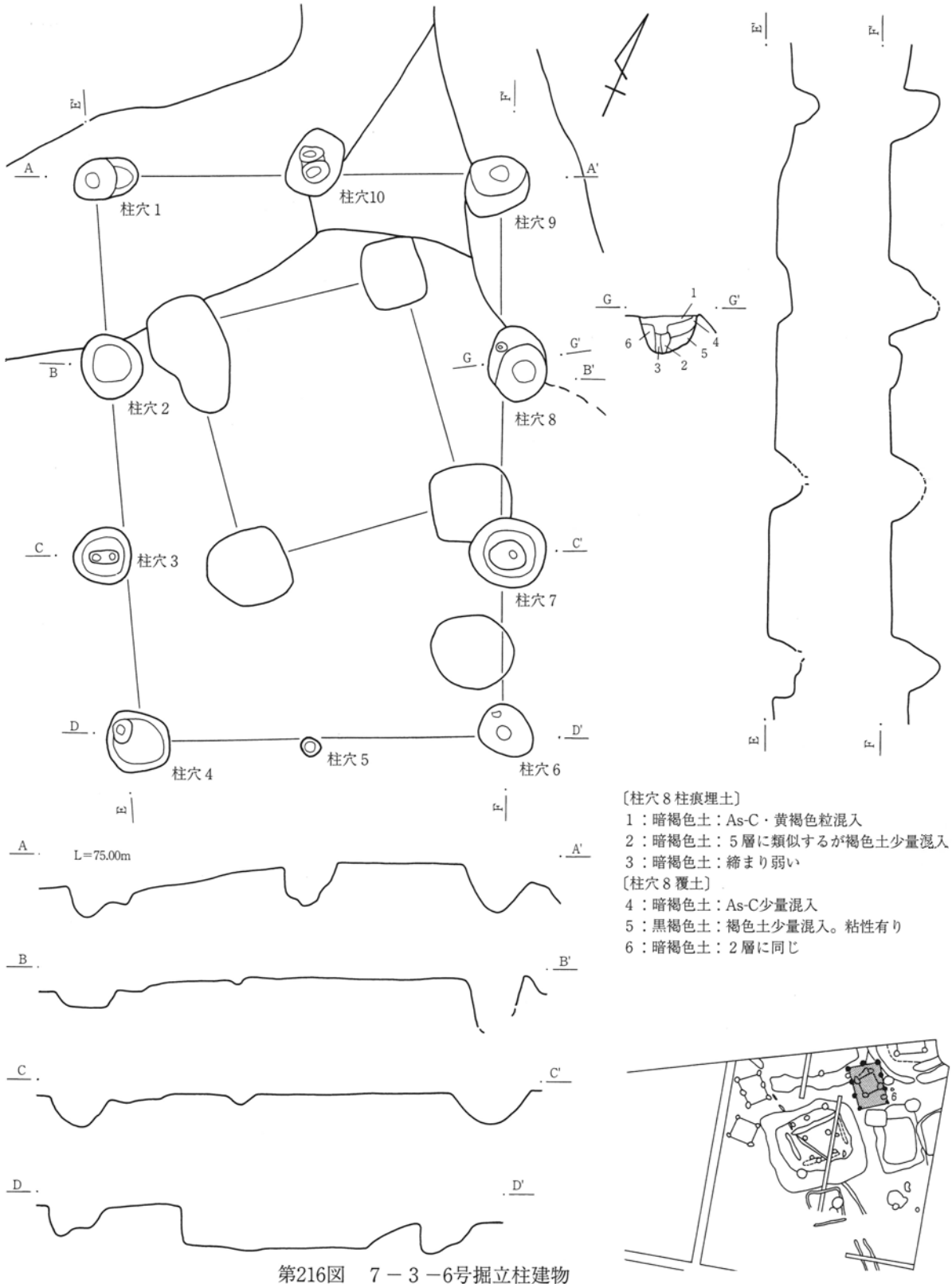
ないため、7-3-1・2号掘立柱建物と同じく平地式建物であったものと判断される。

(14) 7-3-6号掘立柱建物 (第216図、図版85)

概要 本建物は7区北東部に位置する。

7-3-7号掘立柱建物が本建物に入れ子になるよ

うに重なり、一方建物の北側では7-3-6号住居と切り合うが、何れに対しても新旧を特定することはできなかった。



第216図 7-3-6号掘立柱建物

第2章 発見された遺構と遺物

本建物からは上位層からの流れ込みを含む若干量の土師器片の出土があった。その中心は古墳時代前期の遺物であるが、時期特定には至らなかった。3面に発見調査されたことと、柱穴8の覆土の観察所見とを併せて4～5世紀の所産と考えられるが、棟持柱を有する律令期的な掘立柱建物であるため、あまり古い段階の所産ではない可能性も考慮される。

規模 範囲：4.7×6.3m

建物規模：4.1×5.7m

〔柱穴1〕 径：64×40cm 深さ：28cm

〔柱穴2〕 径：58×62cm 深さ：19cm

〔柱穴3〕 径：56×57cm 深さ：32cm

〔柱穴4〕 径：61×60cm 深さ：29cm

〔柱穴5〕 径：(18)×(18)cm 深さ：45cm

〔柱穴6〕 径：56×47cm 深さ：30cm

〔柱穴7〕 径：77×69cm 深さ：37cm

〔柱穴8〕 径：58×74cm 深さ：51cm

〔柱穴9〕 径：65×60cm 深さ：47cm

〔柱穴10〕 径：52×66cm 深さ：44cm

〔梁間間尺〕 173～218cm (平均 195cm)

〔桁間間尺〕 187～199cm (平均 178cm)

構造 本建物は北西-南東方向に主軸取る、7区3面に調査された掘立柱建物群の中で唯一棟持柱を有する2×3間の掘立柱建物である。柱の掘削位置は長方形プランに配列して比較的整ってはいるものの、棟持柱である柱穴5と10、及び側柱の柱穴3と8は若干外側に出ている。柱間は桁間、梁間共に1.9m程の長さでほぼ等しい。

柱穴のプランは、柱穴5は底面附近のみの確認であったので不明であるが、柱穴1・8が楕円形、柱穴2・3・7が円形、柱穴4・10が方形、柱穴6・9が隅丸方形を呈する。またその形態は柱穴2～4が筒状である以外は挿鉢状を呈するものである。一方、柱は柱穴8の断面に見られた柱痕の観察からは径12cm程と想定されるが、仮に全ての柱の径がこれによれば建物の重量は石守の値(1986)で750kg程となり、本建物は平地式の建物であったと推定される。

(15) 7-3-7号掘立柱建物(第217図、図版85)

概要 本建物は7区北東部に在り、7-3-6号掘立柱建物の中程に入れ子になるように重複するが新旧を特定することはできなかった。

本建物からの出土遺物はなく、また遺構形態からも時期の推定に与するようなデータが得られなかったため時期も特定できなかった。尚、現状では3面に確認、調査されている遺構であるため5世紀以前の所産と考えたい。

規模 範囲：3.1×5.2m

建物規模：2.2×2.5m

〔柱穴1〕 径：74×117cm (74×73cm)

深さ：52cm

〔柱穴2〕 径：84×74cm 深さ：69cm

〔柱穴3〕 径：82×80cm 深さ：64cm

〔柱穴4〕 径：59×68cm 深さ：54cm

〔梁間間尺〕 223～224cm (平均 224cm)

〔桁間間尺〕 241～249cm (平均 245cm)

構造 本建物は北西-南東方向に主軸取る1×1間の掘立柱建物である。柱の掘削位置は方形に近い長方形で比較的整った配列を見せている。梁間に対する桁間は平均で100：109でほぼ等しい。

柱穴のうち柱穴1の南側は別のピットであると判断されるため北側部分を以って本建物の柱穴とすると、柱穴1～4は共に方形に近い隅丸方形のプランを呈する。掘削形態は箱状で深くしっかりしている。尚、柱の規模等を想定することはできず、建物の構造も想定できなかった。

(16) 7-3-8号掘立柱建物(第217図)

概要 本建物は7区北東部に在り、7-3-7号住居の北西隅の西側、7-3-5号掘立柱建物の南に位置している。他遺構との重複は認められなかった。

本建物に出土遺物は認められず、時期の特定にも至らなかった。また7-3-7号掘立柱建物と同様に遺構形態からも時期の推定に与するデータはなく、3面に確認、調査されている遺構であるため、現時点では5世紀以前の所産と考えたい。

規模 範囲：3.3×

3.8m

建物規模：2.7×

3.2m

〔柱穴1〕 径：50

×53cm 深さ：

12cm

〔柱穴2〕 径：54

×58cm 深さ：

29cm

〔柱穴3〕 径：46

×60cm 深さ：

16cm

〔柱穴4〕 径：58

×76cm 深さ：

14cm

〔梁間間尺〕 262

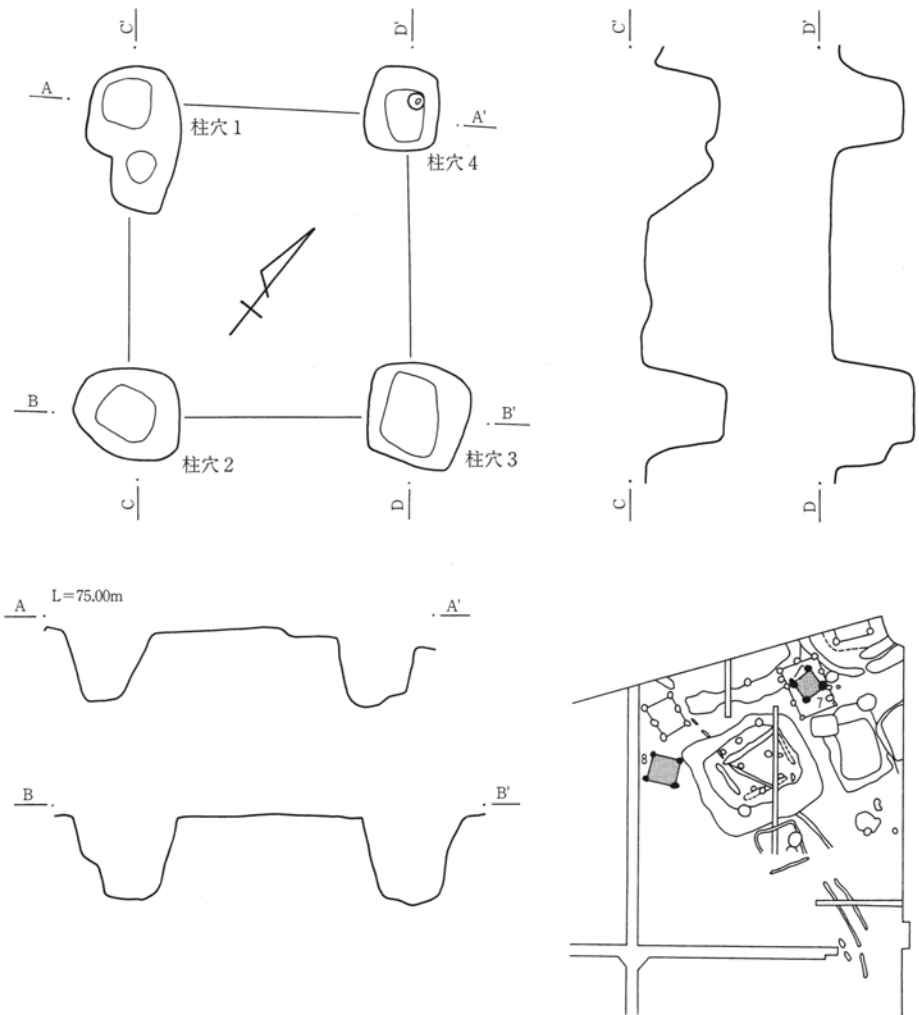
～269cm (平均

266cm)

〔桁間間尺〕 292

～323cm (平均

308cm)



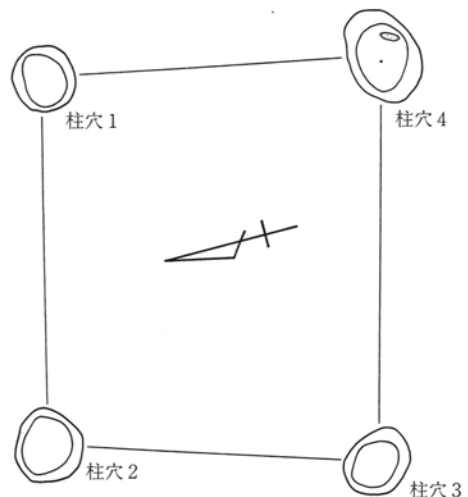
構造 本建物は東北東-西南西方向に主軸取る1×1間の掘立柱建物である。柱の配置は南側に広がる台形状を成す。柱位置は柱穴中央に想定したが、梁間に対して桁間は1：1.1～1.2と長い。

柱穴のプランは何れも楕円形で、掘削形態は円筒状を呈する。尚、本建物も柱の規模等を想定する記録が得られず、建物の構造も想定できなかった。

(17) 7-3-35号溝 (第218図、図版85・102)

概要 本溝は7区中南部、7-3-3号住居の北西側周溝の外側に重なるように位置する。また南側で7-3-18号土坑とも重複するが、新旧は特定できなかった。

本溝には須恵器甕(2)等上位層からの流入品を含む多くの出土遺物があったが、中心を成す3世紀末葉の壺(1)等古墳時代前期の土師器片が本溝の時期を示すものと判断される。



第217図 7-3-7・8号掘立柱建物

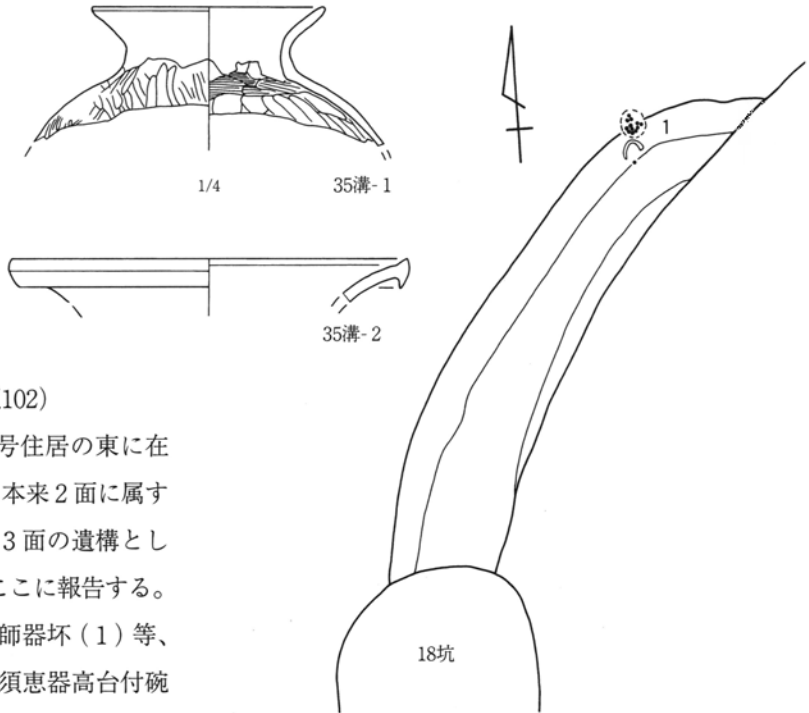
また、掘削意図は特定できなかったが、竪穴住居の周溝或いは掘り方の可能性も考慮される。

第2章 発見された遺構と遺物

規模 長さ：6.1m 幅：124cm以上
深さ：10cm

構造 本溝は3号住居周溝から西側に出て、走向を南西に転じ、同周溝に沿って弧を描き乍走向を南に転じて18号土坑に達する。

掘削形態は箱堀状を呈する。



(10) 7-3-36号溝 (第218図、図版102)

概要 本溝は7区中南部、7-3-3号住居の東に在って、7-3-3号掘立柱建物を切る。本来2面に属する遺構であるが、調査・整理段階で3面の遺構として処理し、2面に含めなかったためここに報告する。

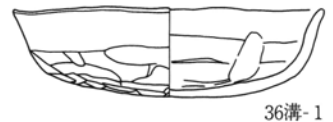
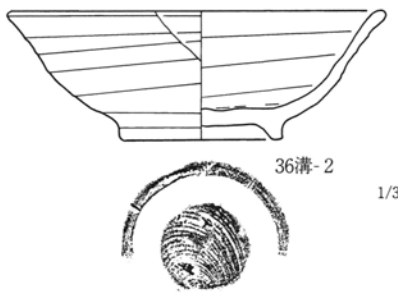
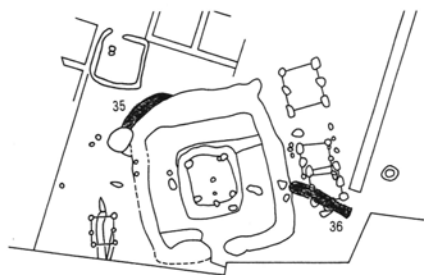
本溝に於いては9世紀前半期の土師器坏(1)等、古墳時代以降の出土遺物を得たが、須恵器高台付碗(2)の出土から、本溝は10世紀前半期頃の所産と判断される。

尚、掘削意図を特定することはできなかった。

規模 長さ：6.7m 幅：120cm 深さ：32cm

構造 本溝は3号住居周溝から東に出て、極緩に弧を描き乍走向を東北東に変ずる。

掘削形態は箱堀状を呈する。



〔溝埋没後の土層〕

1：褐色土：As-B混入

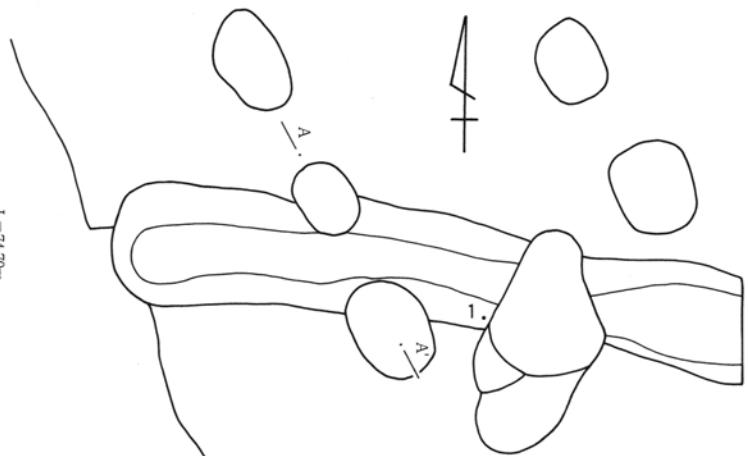
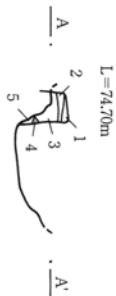
〔36号溝覆土〕

2：暗褐色土：As-C混入

3：暗褐色土：As-C混入。砂質感あり

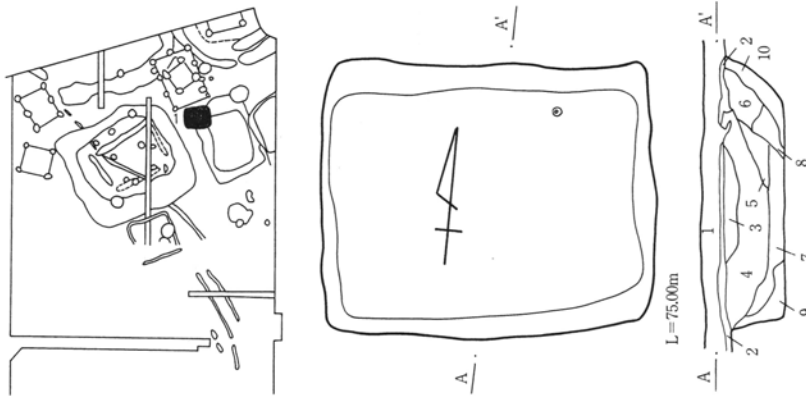
4：黒褐色粘質土：As-C混入

5：暗褐色土：As-C・砂粒混入



第218図 7-3-35・36号溝と出土遺物

第3節 7区の遺構と遺物



第219図 7-3-1号竪穴状遺構

〔竪穴埋没後の土層〕

- 1：黒褐色砂質土：As-B多量に含む
- 2：1層に比しAs-B少なく黒色粘質土混入
- 〔1号竪穴覆土〕
- 3：黒褐色土：やや砂質。As-C含む
- 4：3層に同じだが黄褐色砂ブロックで混入
- 5：黒褐色土：やや砂質。As-C・黄褐色砂微量に含む
- 6：4層土に黒色粘質土混入
- 7：4層に同じだが砂質強く黄褐色砂のブロック大きい
- 8：黒褐色土：やや砂質
- 9：黒褐色土：やや砂質。黄褐色土多く混入。崩落土か
- 10：黒色土：やや粘質。崩落土と思われる

(19) 7-3-1号竪穴状遺構 (第219図、図版85)

概要 本遺構は7区北東部に位置する。7-3-8号住居と重複するが、本遺構の方が新しい。

出土遺物はなく時期は特定できなかったが、覆土と重複関係から概ね4～5世紀の所産と判断される。

尚、本遺構はその規模から推して竪穴住居の可能性も有するが、掘削意図は特定されなかった。

規模 径：265×220cm 深さ：40cm

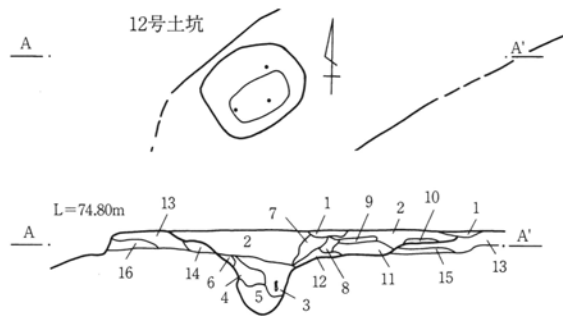
構造 東西に主軸を取る、長方形のプランを呈する。しっかりした箱形の形態を呈する。

(20) 7-3-12・22・27号土坑

(第220～221図、図版86・102)

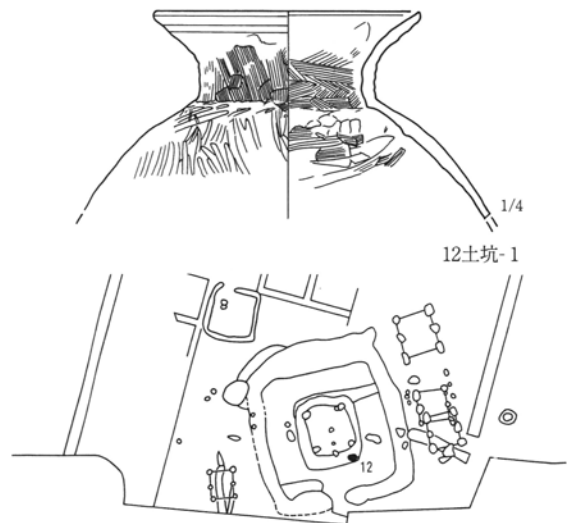
概要 7-3-12号土坑は7区中南部に位置し、7-3-3号住居を切る。また7-3-22・27号土坑は7区北東部に在って22号土坑は7-3-3号井戸を切る。

12号土坑では3世紀末葉の土師器壺(1)等古墳時代前期頃の遺物が出土したが、As-C混黒色土を掘り込み、焼土を含むため竪穴住居の竈掘り方、或いは7～12層の竈を切る柱穴で竈出現期以降の所産と思慮される。一方22・27号土坑に出土遺物はなく、覆土の観察から22号土坑は15世紀後半以降の概ね中



〔土坑埋没後の土層〕

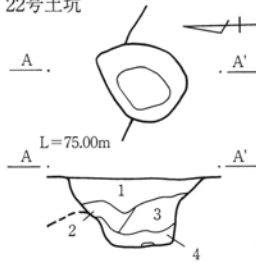
- 1：暗褐色土：As-B混入
- 〔12号土坑覆土〕
- 2：黒褐色土：As-C・褐灰色土・黄褐色シルト混入
- 3：暗褐色土：焼土粒・褐色土・As-C混入
- 4：暗褐色土：3層同様だがAs-Cは混入しない
- 5：黒褐色土：黒色粘質土と褐色土混入
- 6：黒色粘質土
- 7：黒褐色土：As-C混黒色土
- 8：暗褐色土：As-C混黒色土と焼土粒・砂混入
- 9：乳白色砂層：砂岩か
- 10：黄褐色土：黒色粘質土と多量の焼土粒混入
- 11：黒色土：As-Cと多量の褐灰色土混入
- 12：黒褐色土：焼土多量に混入
- 〔3号住居掘り方覆土〕
- 13：7層に同じ
- 14：11層に同じ
- 15：黒褐色土：As-C少量混入の黒色粘質土に褐灰色土混入
- 16：黒褐色土：As-C含まない黒色土



第220図 7区3面の土坑群と出土遺物(その1)

第2章 発見された遺構と遺物

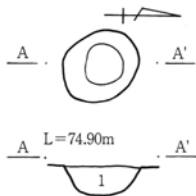
22号土坑



[22号土坑覆土]

- 1: 褐灰色土: 黒色・黄褐色シルトとAs-B混入
- 2: 褐灰色砂質土: 黒色シルト混入
- 3: 褐灰色土: As-Bと黄褐色シルト混入
- 4: 褐灰色土: As-Bと黒色・黄褐色シルト混入

27号土坑



[27号土坑覆土]

- 1: 暗褐色土: As-B混入

世末葉、27号土坑は凡そ中世の所産と認識され、共にその形態から柱穴と想定される。

尚、このように12号土坑は2面、22・27号土坑は1面に属するが、3面に発見、調査し、整理段階でも上位面に含めなかったためこの項で報告した。

規模 (12号土坑) 径: 78×67cm 深さ: 58cm

(22号土坑) 径: 78×60cm 深さ: 28cm

(27号土坑) 径: 64×52cm 深さ: 29cm

構造 プランは12号土坑が土坑本体で隅丸方形、22号土坑は楕円形、27号土坑は円型を呈する。

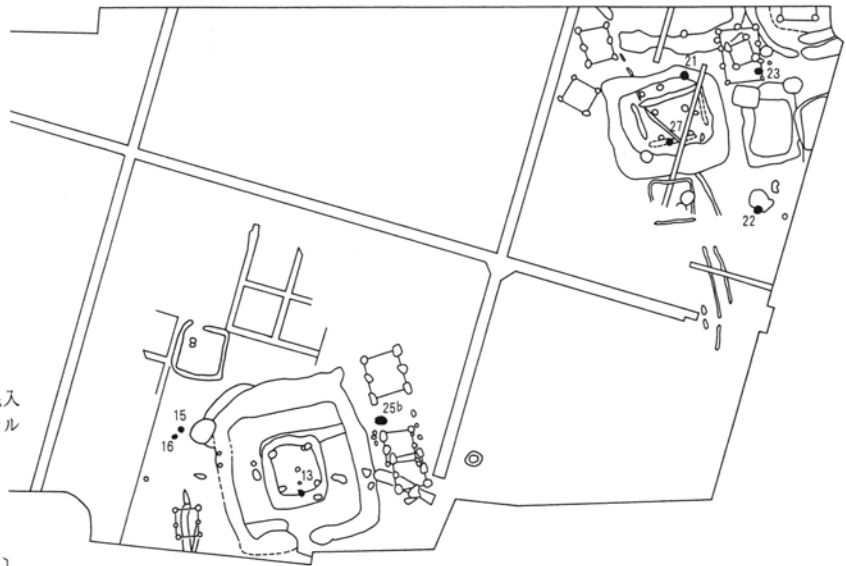
掘削形態には共に柱穴状で、12・27号土坑は丸底、22号土坑は楕鉢状の底面形態である。

(5) 7区3面の土坑群(その1-柱穴-)

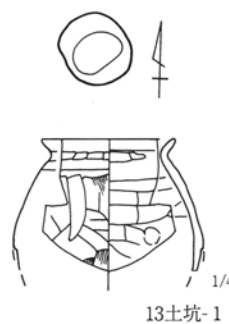
(第221図、図版86・102)

概要 上述の7-3-12・22・27号土坑を除いて7区3面では11基の土坑を調査したが、次にこのうち柱穴の可能性が考えられる7-3-13・15・16・21・23・25b号土坑の6土坑について報告する。

13~16・25b号土坑は7区中南部、21・23号土坑は北東部に位置し、21号土坑が7-3-7号住居と、23号土坑が7-3-6号掘立柱建物と重複するが新旧をは特定することはできなかった。

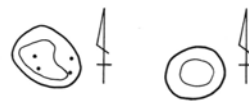


13号土坑

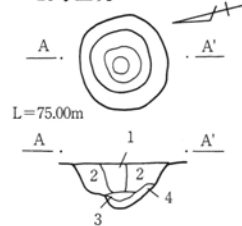


13土坑-1

15・16号土坑



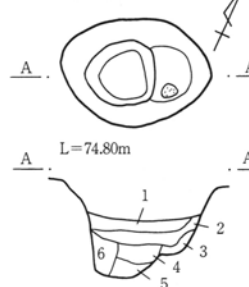
23号土坑



[23号土坑覆土]

- 1: 黒褐色土: やや粘質、白色軽石混入。柱痕か
- 2: 灰褐色土: 黒色土混入
- 3: 褐灰色粘質土: 粘性強い。柱跡の底に粘土を敷いている
- 4: 黒色土: やや粘質、黄褐色砂ブロックで混入

25b号土坑



[25b号土坑覆土]

- 1: 黒色土: As-C混入
- 2: 黒褐色土: 黄褐色砂質土混入
- 3: 黒色土: 粘性やや強
- 4: 黒褐色土: やや砂質感あり
- 5: 黒褐色土: 粘性4層に比し強いが似る
- 6: 黒色粘質土: 粘性強

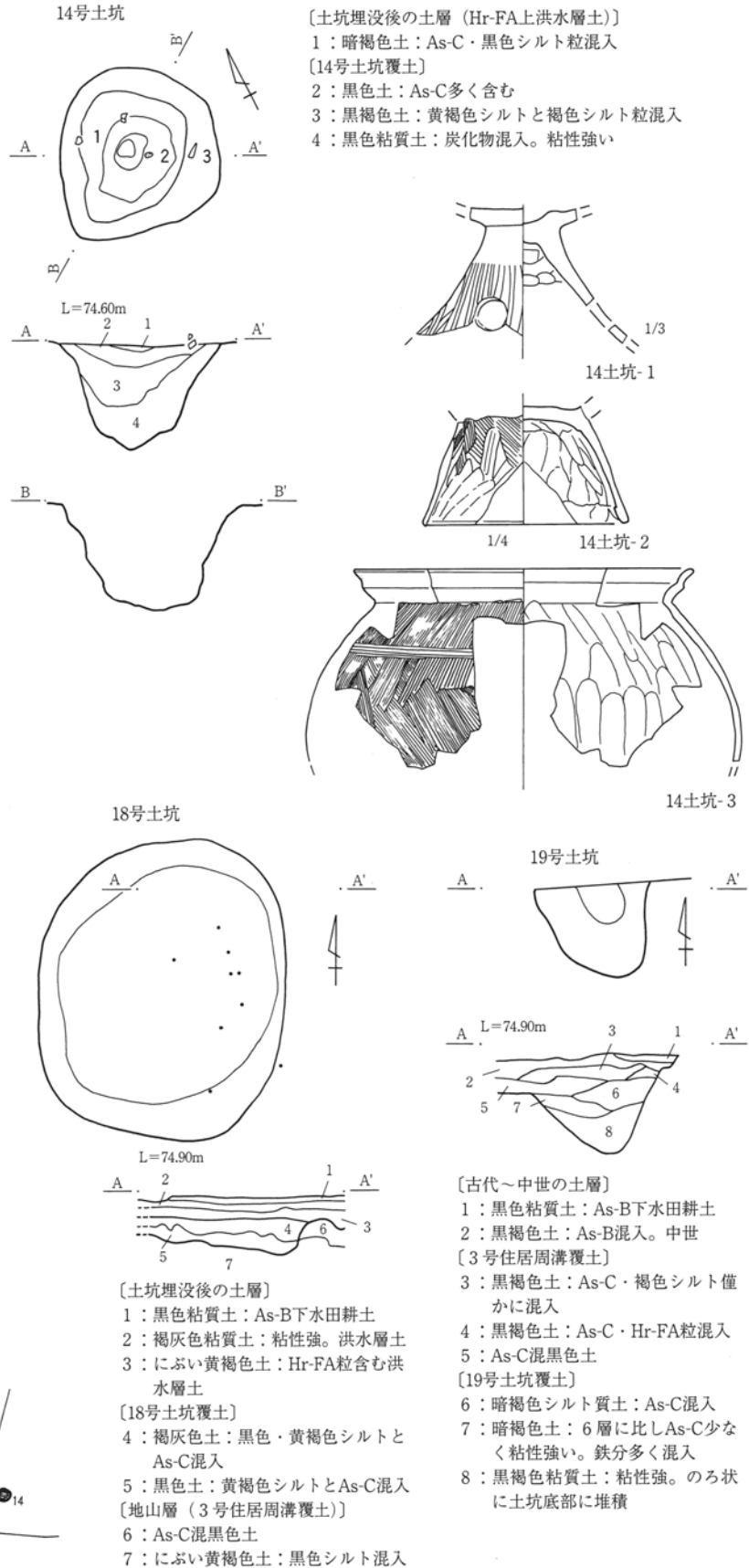
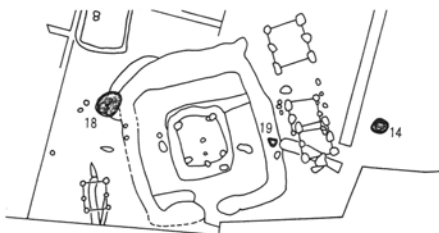
第221図 7区3面の土坑群と出土遺物(その2)

また13号土坑は3世紀末葉の土師器小型甕(1)等を含む古墳時代前期を中心とする、15(・25)号土坑からも古墳時代前期中心の何れも若干量の出土遺物を得たが時期特定には至らず、概ね4~5世紀の所産できるに過ぎない。

- 規模** (13号土坑) 径: 60×54cm 深さ: 35cm
 (15号土坑) 径: 48×39cm 深さ: 16cm
 (16号土坑) 径: 48×39cm 深さ: 16cm
 (21号土坑) 径: 80×70cm 深さ: 26cm
 (23号土坑) 径: 76×70cm 深さ: 37cm
 (25b号土坑) 径: 120×84cm 深さ: 89cm

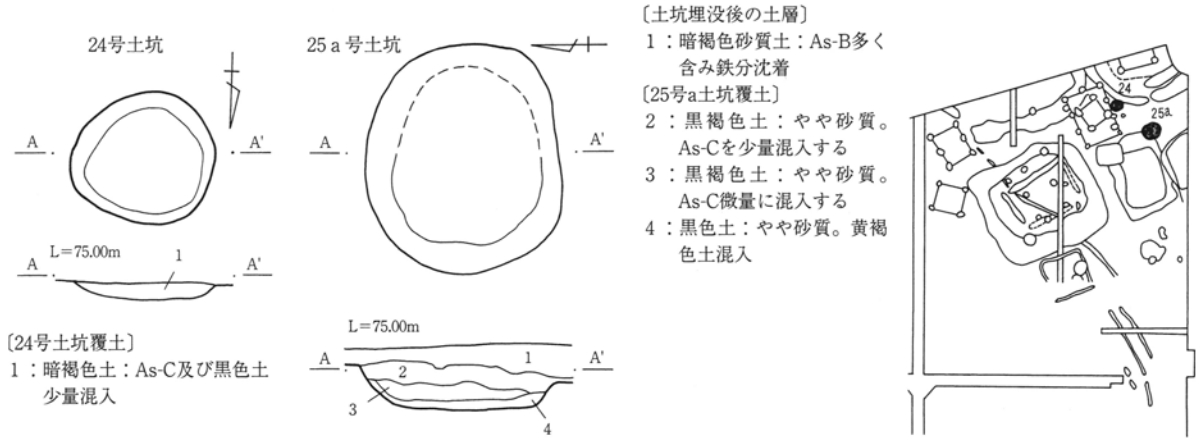
構造 プランは13・21・23号土坑が隅丸方形、15・16・25b号土坑が楕円形を呈するが、25b号土坑は下位では隅丸方形を呈する。

またその形態は13・15・16・23号土坑が碗形、21・25b号土坑がロウト状を呈するが、23号土坑は底面に荷重によるらしい塑性変形が見られ粘土が貼られる。尚土層断面等による柱の太さは21号土坑が23cm以上、23号土坑が16cm、25号土坑が26cm以上であった。



第222図 7区3面の土坑群と出土遺物(その3)

第2章 発見された遺構と遺物



第223図 7区3面の土坑群（その4）

(22) 7区3面の土坑群（その2）

（第222～223図、図版86）

概要 7区3面で上位層及び柱穴の可能性のあるもの以外の土坑としては、7-3-14・18・19・24・25a号土坑の5基がある。このうち18号土坑は7-3-3号住居・7-3-35号溝と、19号土坑は3号住居と、24号土坑は7-3-6号掘立柱建物と、25a号土坑と7-3-8号住居と重複するが、18号土坑が3号住居・35号溝を、25a号土坑が8号住居を切る以外は新旧関係を特定できなかった。

このうち14号土坑は土師器高坏（1）・台付甕（2・3）の出土から概ね3世紀末葉の所産と判断される。また25a号土坑も古墳時代前期頃の土師器片の出土を見たが時期の特定に至らず、18・19・24号土坑と併せて4・5世紀の所産と把握されるに過ぎなかった。

また、これらの土坑の掘削意図は特定できなかった。

規模（14号土坑）径：160×148cm 深さ：97cm

（18号土坑）径：260×216cm 深さ：29cm

（19号土坑）径：100×（80）cm 深さ：49cm

（24号土坑）径：116×104cm 深さ：20cm

（25a号土坑）径：186×156cm 深さ：22cm

構造 14・18・24・25a各土坑のプランは隅丸方形を呈するが、このうち18・19号土坑は円形に近い。また19号土坑はその南側を調査できたに過ぎないので詳らかでないが、楕円形を呈するものと想定される。

掘削形態は14・19号土坑が播鉢形を呈し、18・24・25a号土坑は箱状を呈する。

(23) 7-3-1号井戸（第224図、図版86）

概要 本井戸は7区北東部に位置し、7-3-7号住居の周溝西南部で重複するが、新旧関係を特定することはできなかった。

本井戸からは古墳時代前期頃の土師器が僅か3片出土しただけで、時期を特定することはできなかった。但し覆土にはAs-Cが含まれ、一方Hr-FA等が含まれていないため概ね4・5世紀の所産として把握することはできよう。

湧水層はアグリの状態から確認面下60cm余り、底面から45cm程の位置にあったことが窺われるのであるが、側壁の自然堆積層の記録が残されていないため、湧水層を特定することはできなかった。

規模 径：130×125cm 深さ：105cm

〔井筒部〕 径：68×74cm

構造 本井戸は井筒朝顔型の井戸である。

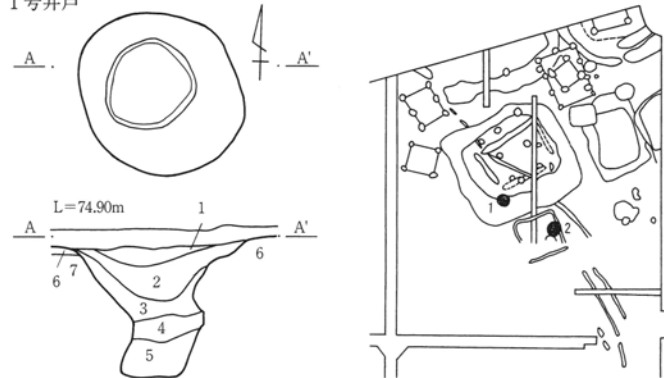
プランは楕円形を呈するが、井筒部のプランは隅丸方形に近い円型状を呈している。

底面は平底で底面附近は筒状を呈する。井戸全体の中程やや下寄りでは東側が10cm程抉れてアグリを形成していることが記録されているが、アグリの全容は不明である。尚、井戸の上位は開いている。

(24) 7-3-2号井戸（第224図、図版103）

概要 本井戸は7区北東部に位置し、調査の途中までは26号土坑として処理していたが、その後掘削のし直しによって井戸と認定されている。

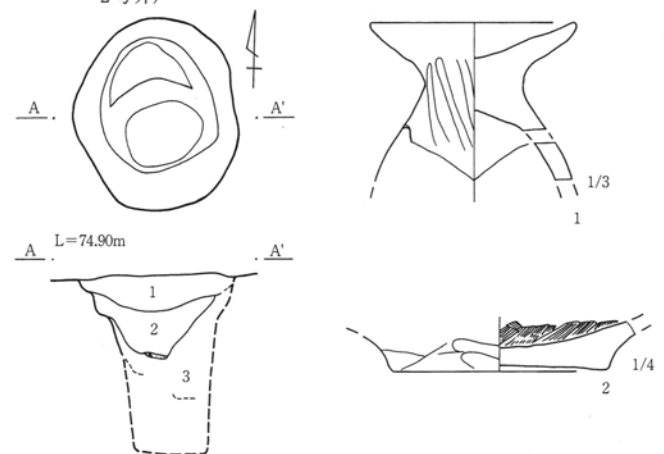
1号井戸



〔1号井戸覆土〕

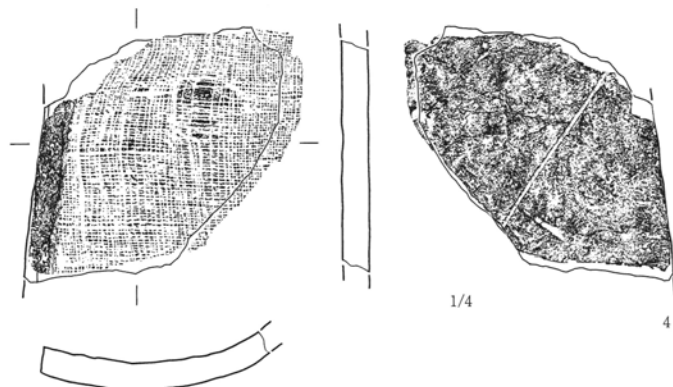
- 1：黒褐色土：黄橙色土粒と僅かなAs-C混入
- 2：暗褐色土：黄橙色土粒多量に混入。やや砂質
- 3：黒褐色土：やや粘質
- 4：黒褐色土：3層より粘性強
- 5：黒色土：粘性強
- 〔地山層〕
- 6：As-C混黒色土
- 7：褐色土

2号井戸



〔2号井戸覆土〕

- 1：黒褐色土：As-B・As-Cと黄褐色土粒混入
- 2：黒褐色土：黄橙色シルト粒混入
- 3：黒色土：粘性強。黄褐色シルト混入



第224図 7-3-1・2号井戸と出土遺物

本井戸は7-3-9号住居の東壁近くで同住居と重複しているが、本井戸の方が新しい。

本井戸からは3世紀末葉の土師器高坏（1）・壺（2）など古墳時代前期の土師器片を中心とした時期の出土遺物を得ているが、律令期の須恵器碗（3）や女瓦（4）の出土も見られ、最上位の1層にはAs-Bが含まれることから律令期以降の所産と判断される。従って本井戸は本来2面或いは1面に属させるべきものであるが、3面に発見、調査し、整理段階でも1・2面に含めて処理しなかったためこの項で報告することとした。

尚、本井戸は井戸認定後の記録が不十分であったため、アグリや湧水層の位置を確認或いは推定することはできなかった。

規模 径：152×130cm 深さ：139cm

〔井筒部〕 径：90×73cm

構造 本井戸は井筒朝顔型の井戸である。

プランは隅丸の五角形楕を呈しているが、井筒部のプランは楕円形を呈するものである。

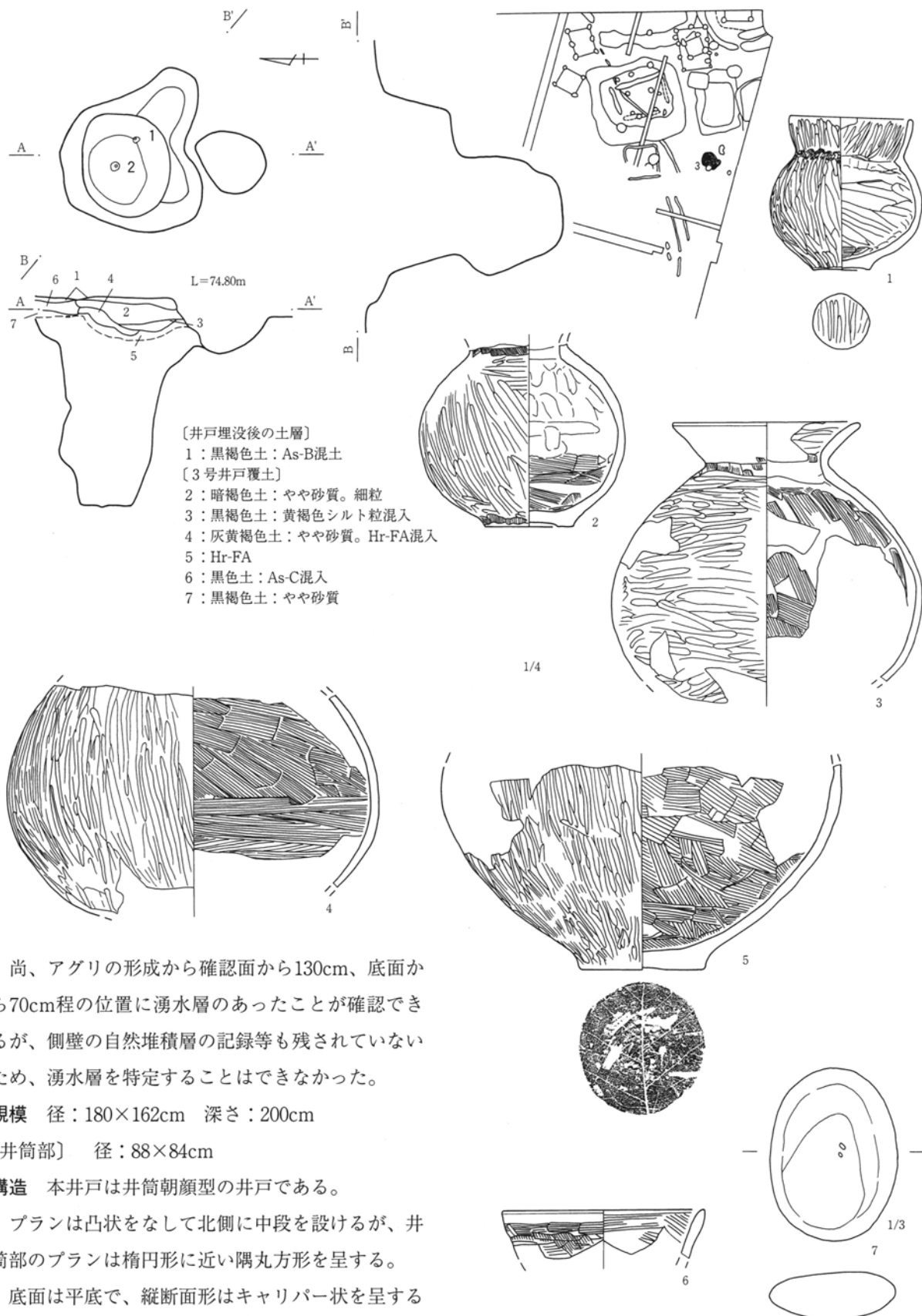
底面は平底で井筒部は高さ1m程を測るが、細かい形状は明瞭ではない。アグリの有無も確認できなかった。上位は北側に中段を有して開く。

(25) 7-3-3号井戸(第225図、図版86・103・104)

概要 本井戸は7区北東部に位置し、7-3-22号土坑と重複し、これに切られている。

本井戸からは板碑片と思われるもの（8）や律令期の土器類等上位層に属する遺物も出土しているが、その主体を成すものは古墳時代前期の土師器類であった。また覆土上位にはHr-Fがクレーター状に堆積していることから、Hr-FA降下の6世紀初頭段階には既に埋没していたことが確認される。従って本井戸は古墳時代前・中期の所産として把握されるのであるが、土師器の小型甕（1）や壺（2～4）、甕（5）の出土から概ね3世紀末葉の所産であろうと判断されるものである。この他、本井戸からは磨石等の遺物の出土も見られた。

第2章 発見された遺構と遺物



尚、アグリの形成から確認面から130cm、底面から70cm程の位置に湧水層のあったことが確認できるが、側壁の自然堆積層の記録等も残されていないため、湧水層を特定することはできなかった。

規模 径：180×162cm 深さ：200cm

[井筒部] 径：88×84cm

構造 本井戸は井筒朝顔型の井戸である。

プランは凸状をなして北側に中段を設けるが、井筒部のプランは楕円形に近い隅丸方形を呈する。

底面は平底で、縦断面形はキャリパー状を呈するが、やや井戸のやや下寄りの壁面が3～22 cm程抉れて、アグリが形成されている。

第225図 7-3-3号井戸と出土遺物

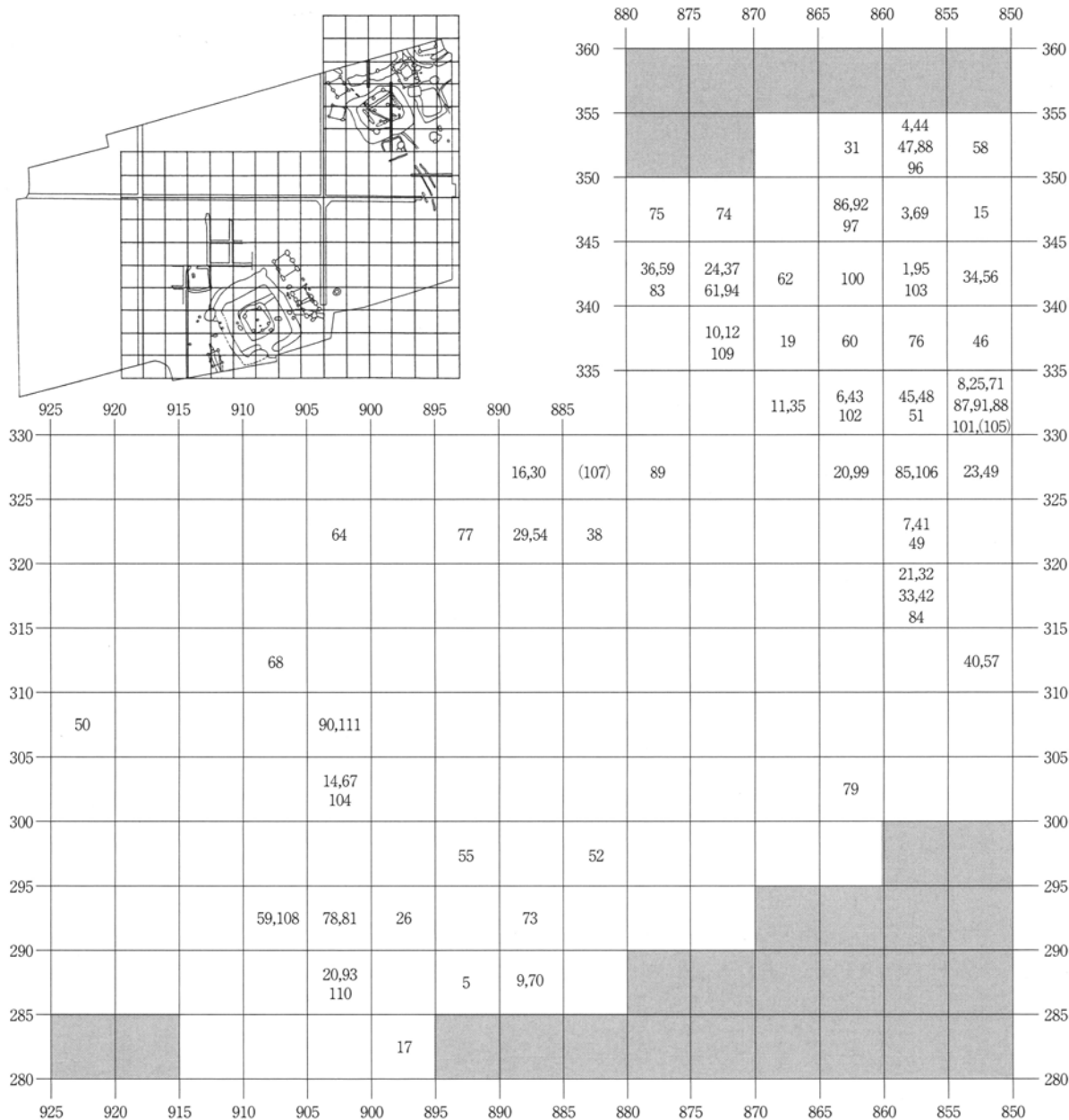
(26) 7区3面遺構外の遺物

(第226～235図、図版104～111)

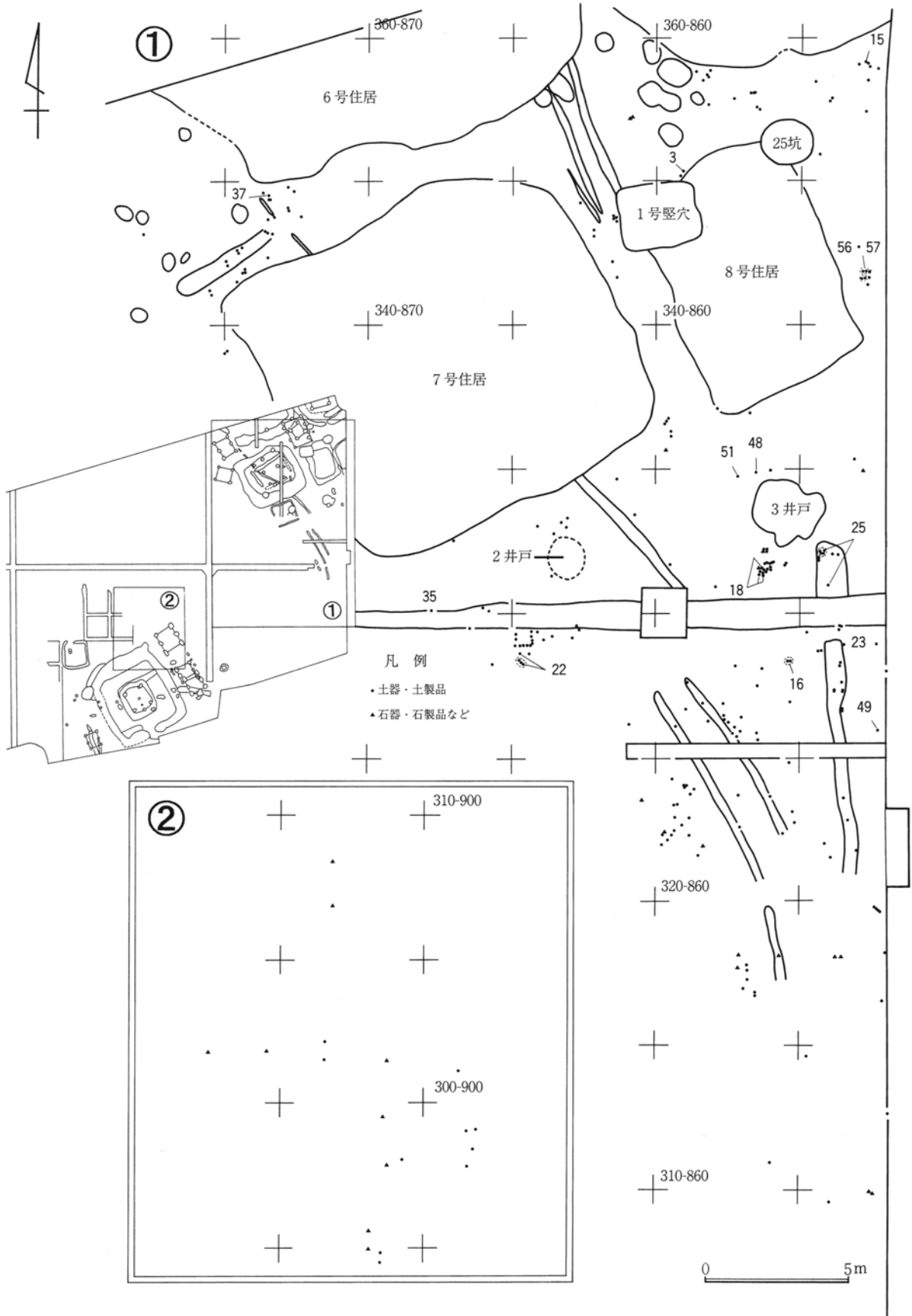
概要 本稿では7区3面の遺構以外から出土した遺物を取り扱うが、分離が完全にはできなかつたため、一部2面の遺物や遺構内の出土遺物も含まれている。

3面に於いては住居等の分布域である中南部と北西部の微高地部分に於いて古墳時代前期の遺物を中心に、上位層である平安時代を中心とする2面或いは1面からの流入品、或いは下位層の縄文時代の遺物も含む多量の出土遺物を得た。

これらの出土遺物には、3世紀末葉を中心とする古墳時代前期の土師器器台(1)・高坏(2～6)・埴(7)・小型壺(8)、弥生土器(9・15・16・20・23)や土師器(10～14・17～19・21・22・24・25・112)の壺、弥生土器と考えられるもの(26)や土師器(27・28)の甕、同じく土師器の台付甕の脚部(29・30・113)、また土錘(31～44・116～118)もあり、上位層のものでは古墳時代後期の小型甕(47)や奈良(114)・平安時代(45・46)の坏或いは台付甕(48)などの土師器、奈良時代の坏(49・51)や高台[303頁へ]

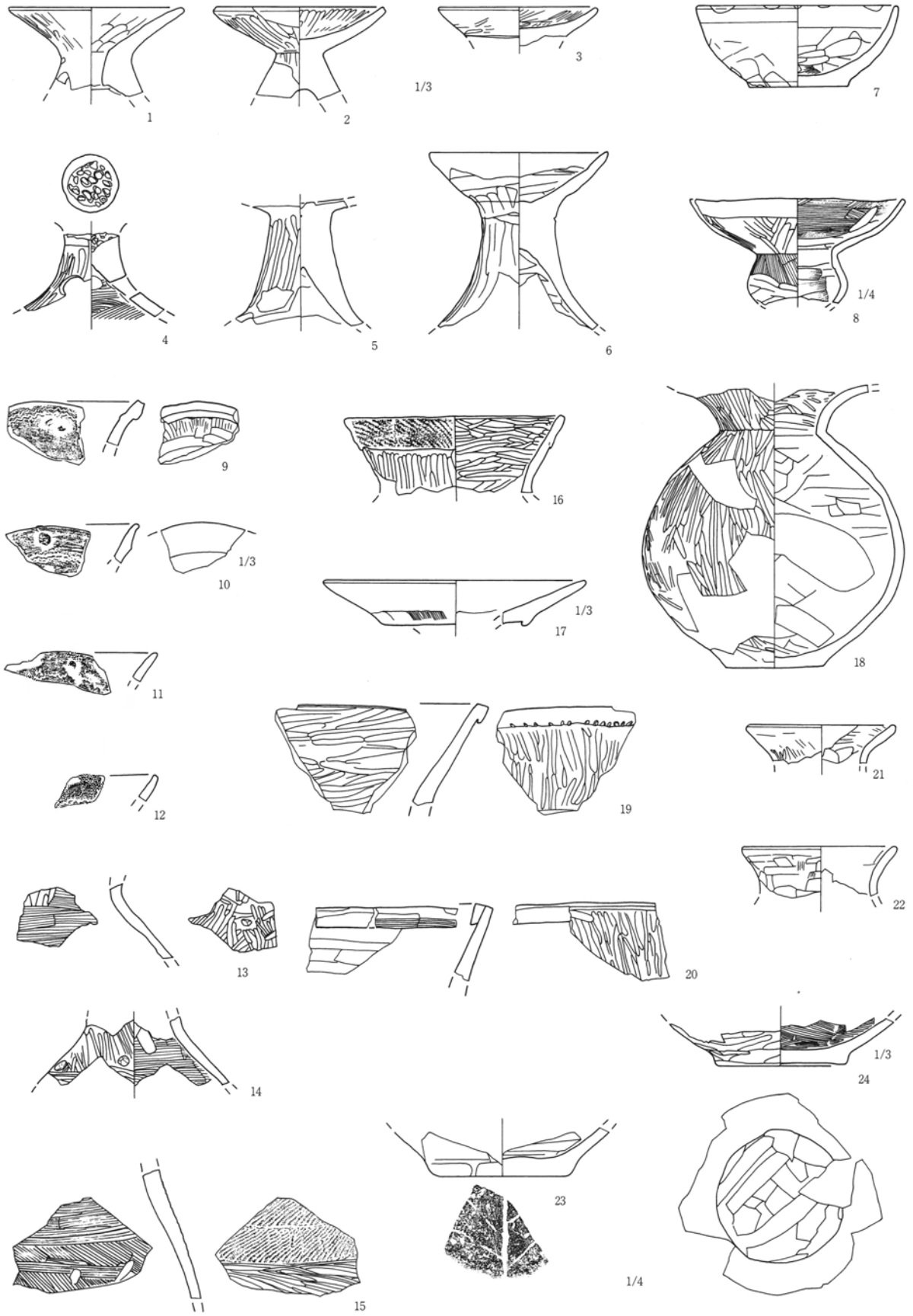


第226図 7区3面遺構外取り上げ遺物出土グリッド概念図



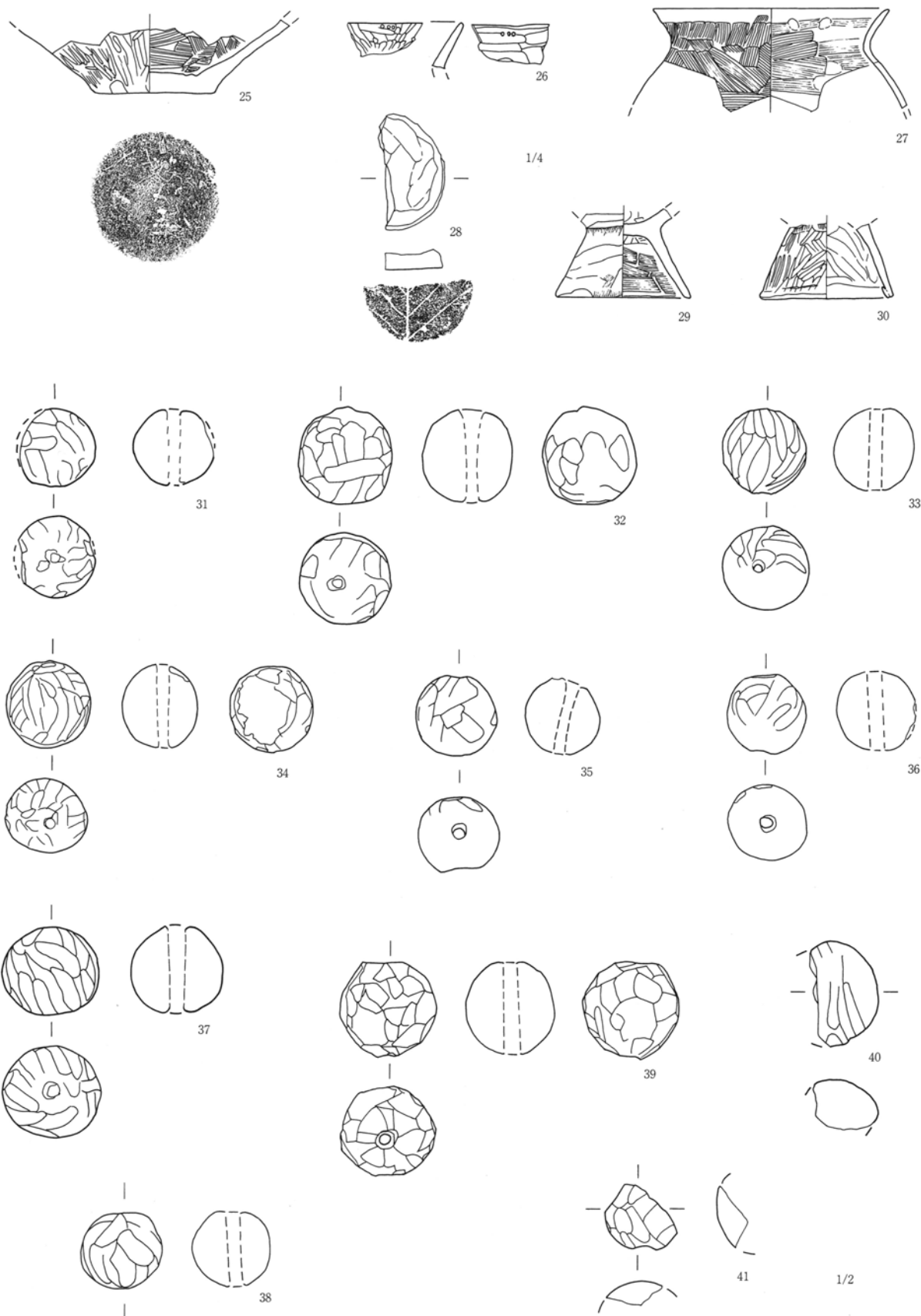
第227図 7区3面遺構外出土遺物分布図

第3節 7区の遺構と遺物

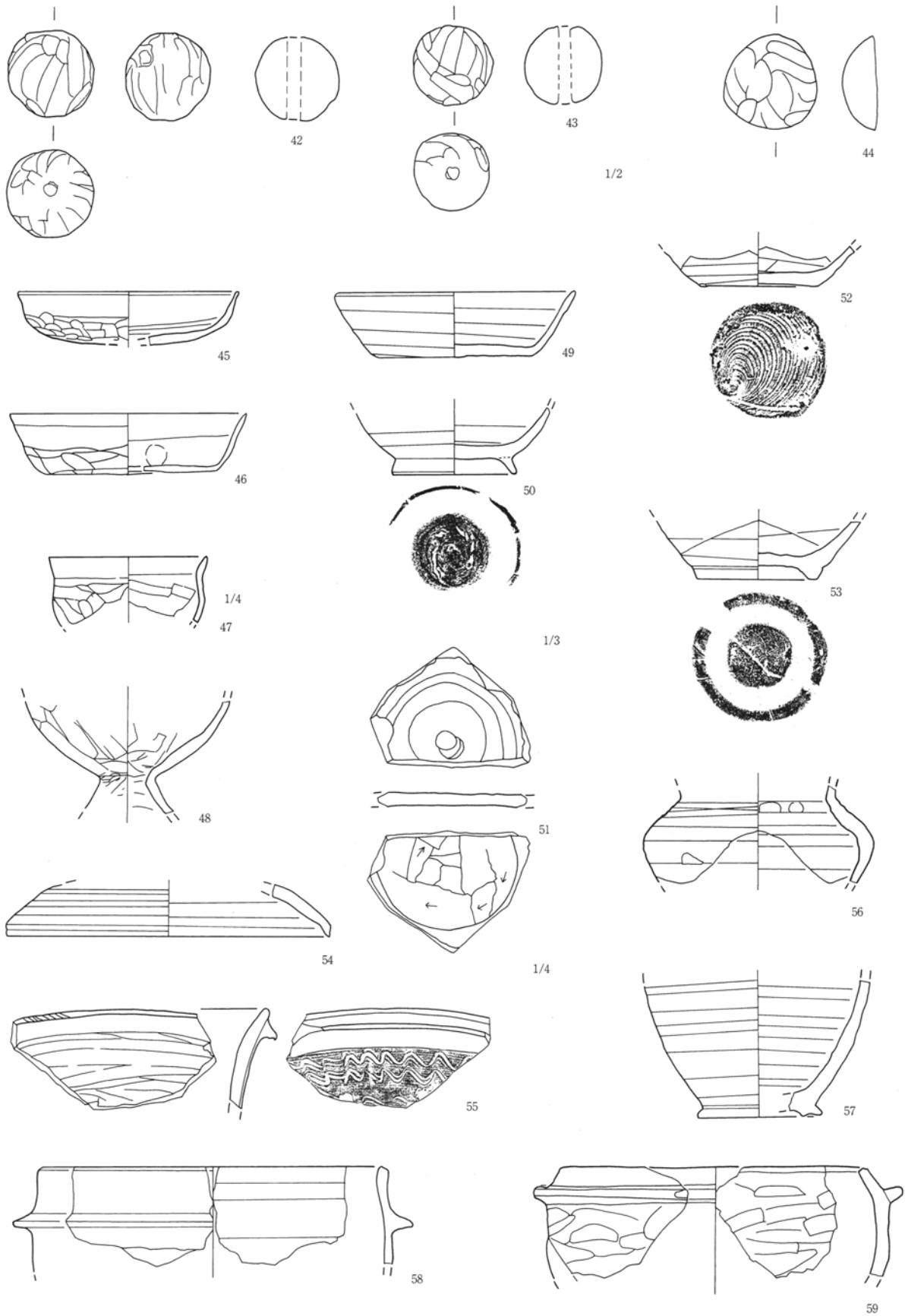


第228図 7区3面遺構外の出土遺物（その1）

第2章 発見された遺構と遺物

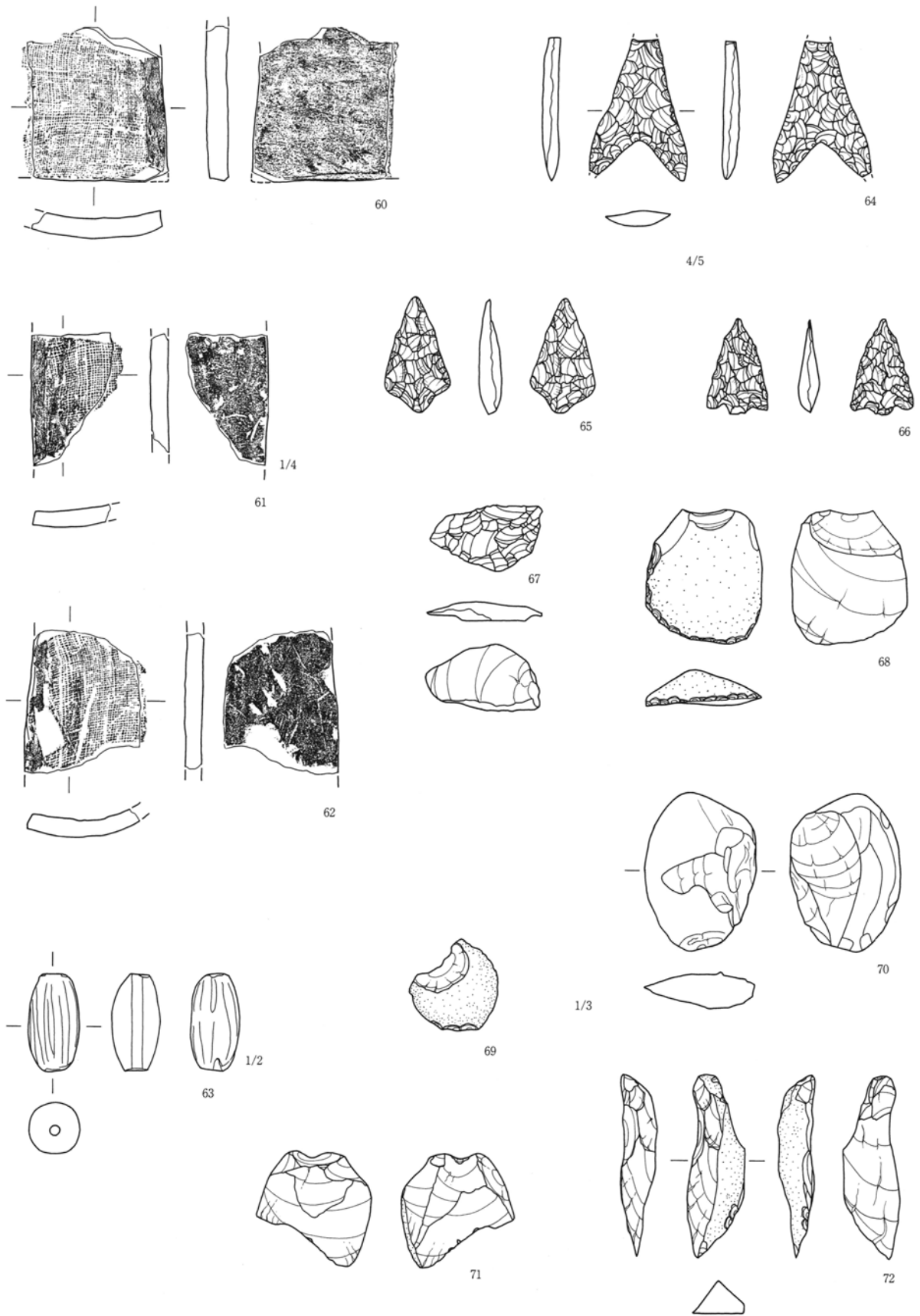


第229図 7区3面遺構外の出土遺物（その2）

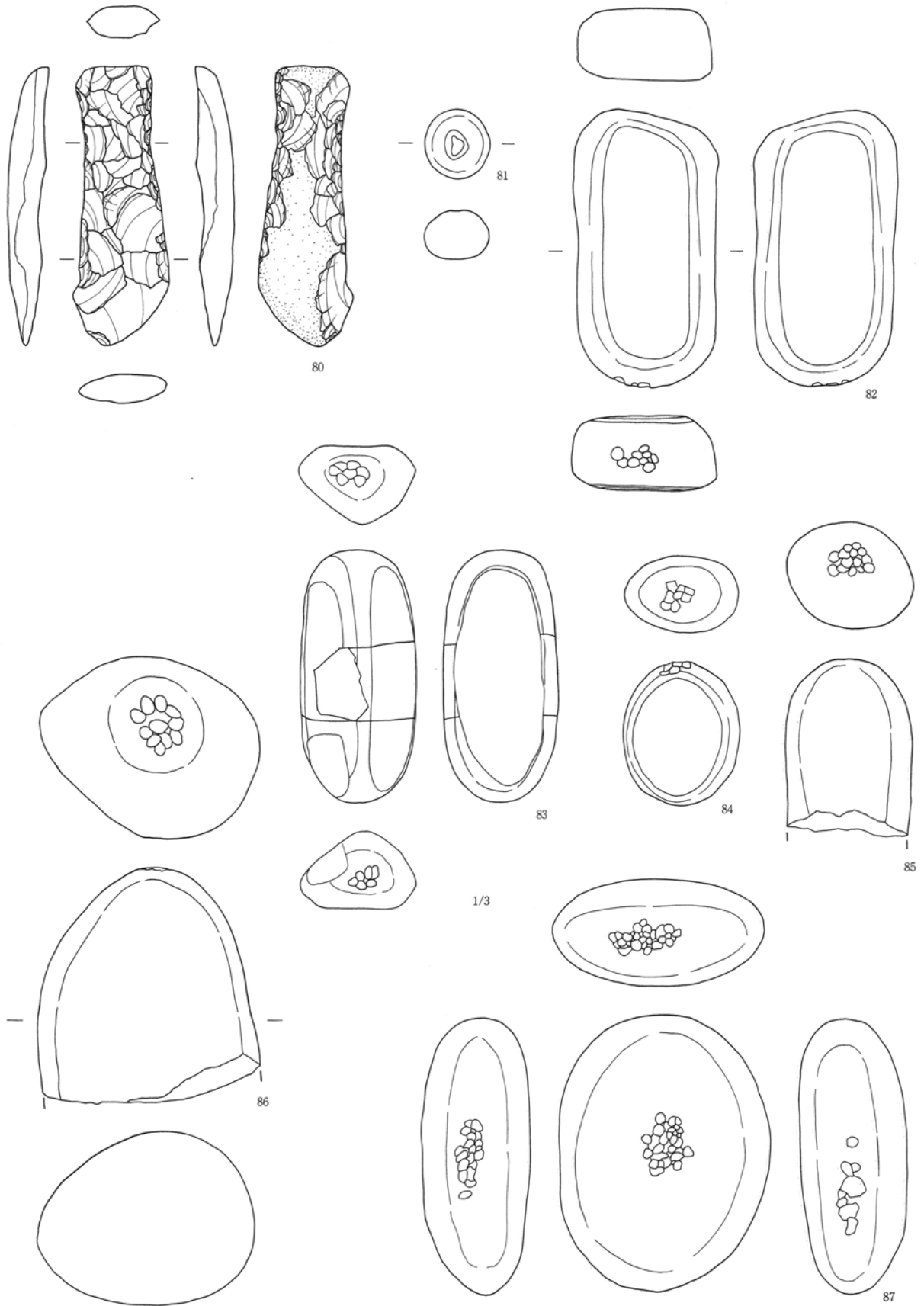


第230図 7区3面遺構外の出土遺物 (その3)

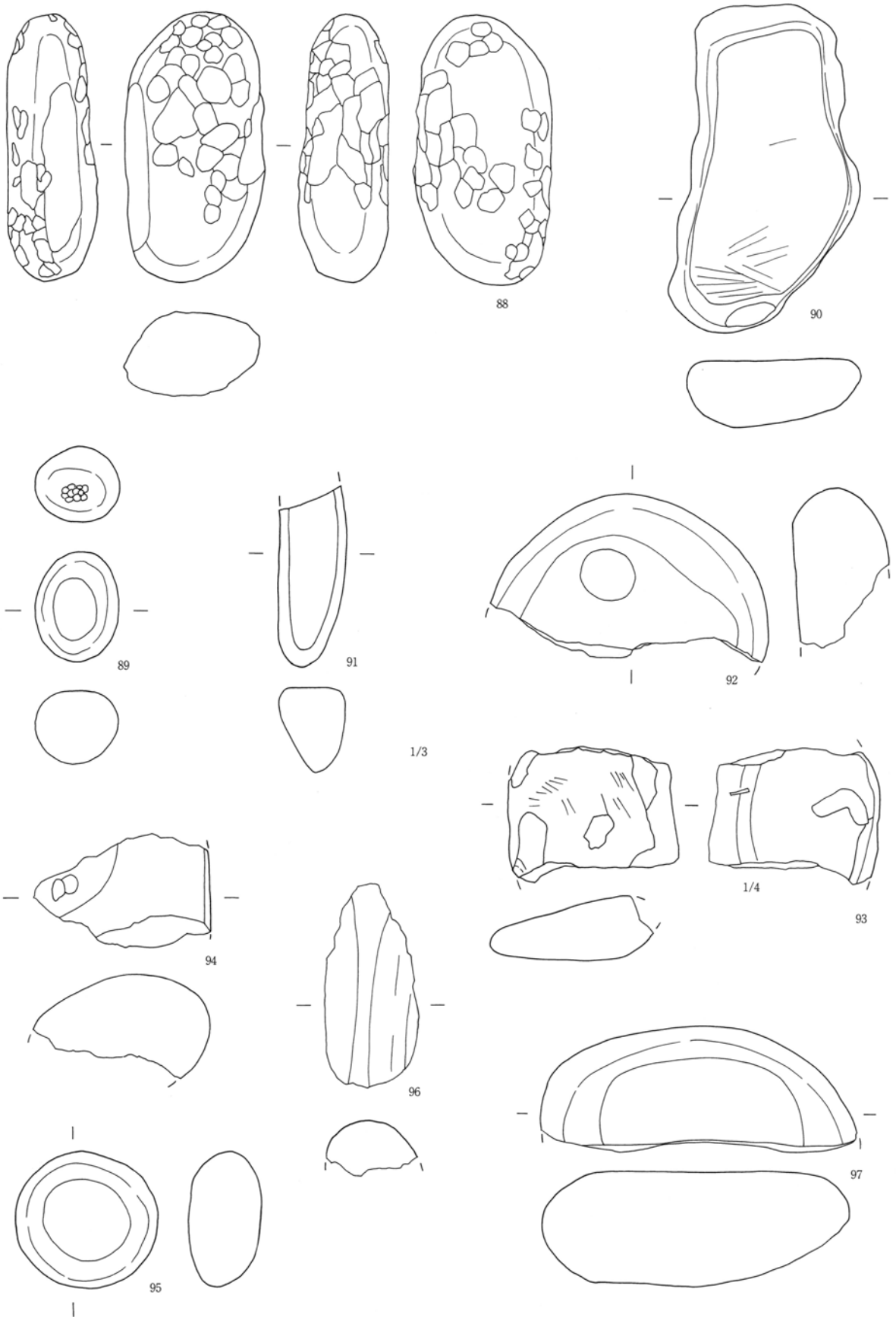
第2章 発見された遺構と遺物



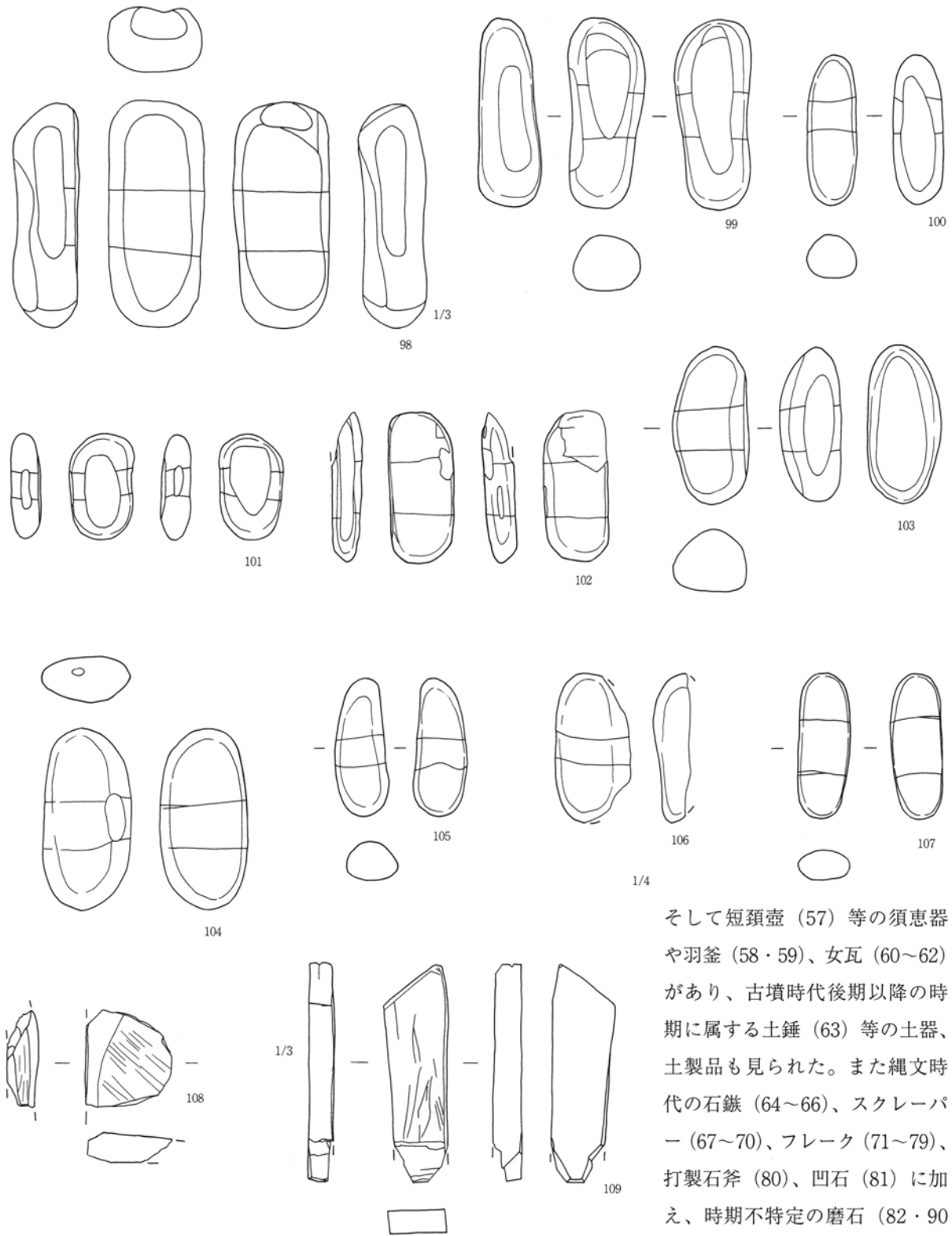
第231図 7区3面遺構外の出土遺物（その4）



第232図 7区3面遺構外の出土遺物（その5）（73～79はP L110）



第233図 7区3面遺構外の出土遺物(その6)

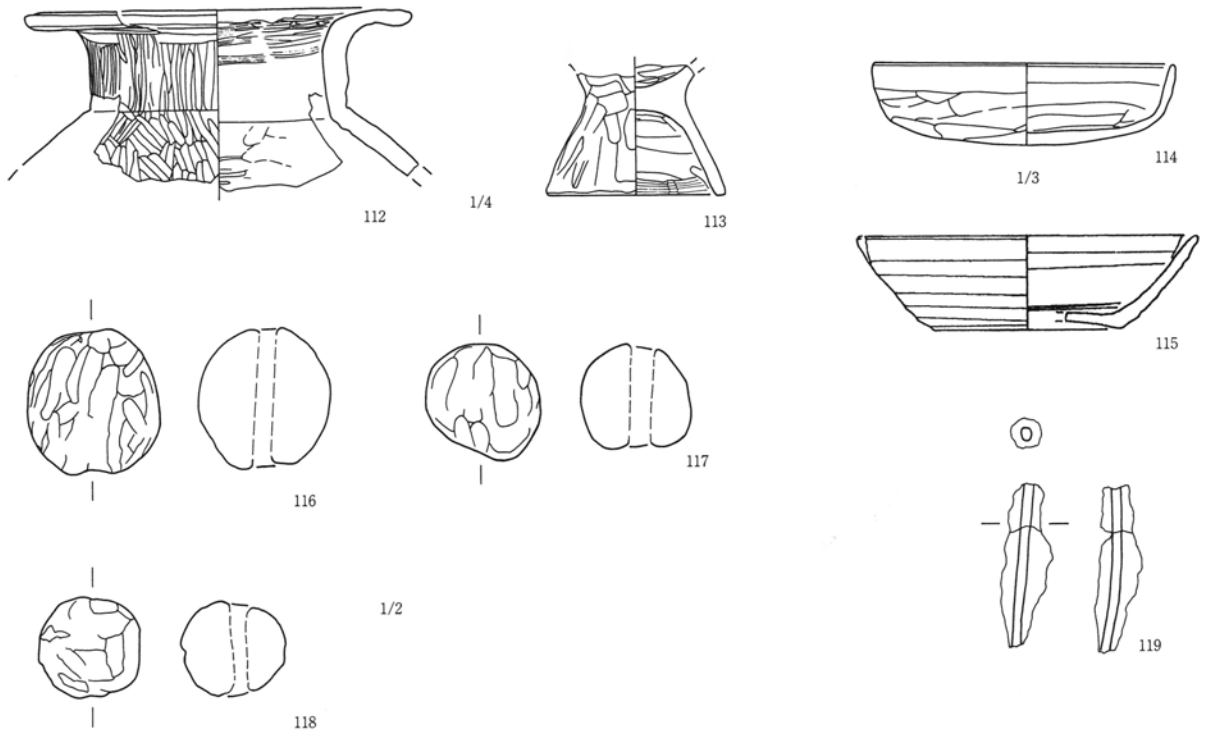


第234図 7区3面遺構外の出土遺物(その7)(111はP L110)

付碗(50)・短頸壺(56)や平安時代に属する坏(52・115)・高台付碗(53)・蓋(54)・甕(55)

そして短頸壺(57)等の須恵器や羽釜(58・59)、女瓦(60~62)があり、古墳時代後期以降の時代に属する土錘(63)等の土器、土製品も見られた。また縄文時代の石鏃(64~66)、スクレーパー(67~70)、フレーク(71~79)、打製石斧(80)、凹石(81)に加え、時期不特定の磨石(82・90~103)、敲石(83~89)、こも編み石(104~107)、砥石(108・109)といった石器、石製品の出土もあり、或いは板碑片と思われるもの(110・111)や角釘(119)も採集されている。

第2章 発見された遺構と遺物



第235図 7区3面遺構外の出土遺物（その8）

第3章 5～7区小結

第1節 自然科学分析

(1) はじめに

本節では6区の土壌を資料とした実施した科学分析について記載する。この科学分析は株式会社古環境研究所に委託、実施したもので、同社は平成10年10月28日に現地にてサンプリング調査を行い、1999年（平成11年）3月4日付で分析結果の報告書（以下「分析報告書」とする）を提出している。この報告書については一部を除きそのまま次頁（306頁）以下に掲載している。

この分析報告書中変更したのは、サンプリング位置・地点名の誤りと図及び図・表・写真番号である。このうち図についてはテフラ・放射性炭素年代測定とプラント・オパール、花粉分析の三者について作製、提出されているが、図中の柱状図が同一のものを使用していたため、紙数の都合上合成し、一つの図として掲載した。また図・表・写真番号は、本報告書の記載に準拠して付したので記しておく。尚、分析報告書には元々個々の鑑定者名は記されていない。

(2) 科学分析の委託と鑑定要件

本科学分析は平成10年10月15日に委託されたもので、鑑定要件は次のようなものであった。

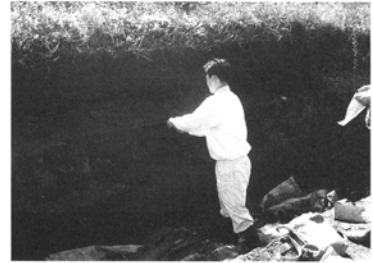
①委託内容

本遺跡では多種のテフラが確認されている。テフラの中には、噴出年代の明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を求め、遺構の構築年代や遺跡立地の堆積年代を明らかにする。また、本遺跡立地における遺構検出黒色土直下の腐敗土壌及び調査面下2 m程のテフラ下泥炭層の木片について年代を明らかにするとともに、遺跡の立地した環境を復元する。

②分析内容

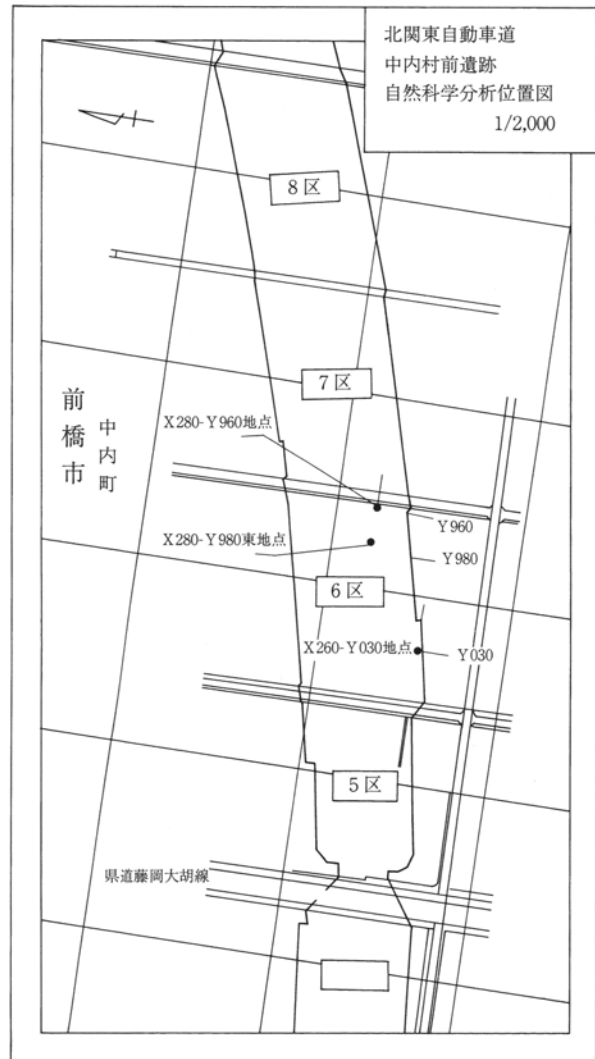
遺構及び土層の年代に関する資料を得るためにテフラ検出分析と屈折率測定を行う。

遺跡下の植物遺体について年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を行う。



また、花粉分析を行い古環境復元を行う。

水田遺構について、植物珪酸体分析を行い、遺跡土壌から微化石を検出分析し、イネの消長を検討する。



第236図 科学分析サンプリング位置図

(3) 『群馬県、中内村前遺跡の自然科学分析』

株式会社 古環境研究所

1. 中内村前遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

前橋台地に分布する後期更新世以降の堆積物中には、浅間火山や榛名火山をはじめとする北関東地方とその周辺の火山の他、九州地方の鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで中内村前遺跡においても、土層や遺構の年代に関する資料を得るためにテフラ検出分析と屈折率測定を行うことになった。調査分析の対象となった地点は、6区X280-Y980東地点、6区X280-Y980、6区X260-Y030の3地点である。

2. 土層の層序

(1) 6区X280-Y980東地点

6区X280-Y980東地点では、下位より暗灰色泥層（層厚10cm以上）、木本類の植物遺体混じり暗褐色泥炭層（層厚5cm）、成層したテフラ層（層厚29cm）、木本類の植物遺体混じり灰色砂層（層厚28cm）、層理の発達した凝灰質灰色砂層（層厚33cm）、円磨された白色軽石混じり灰色砂層（層厚10cm、軽石の最大径18mm）、灰褐色砂礫層（層厚57cm、礫の最大径27mm）、灰色砂層（層厚18cm）、若干褐色がかった灰色砂層（層厚27cm）、暗灰色土（層厚6cm）、黒色土（層厚10cm）、黒褐色土（層厚19cm）、黒色土（層厚13cm）が認められる（第237図-1）。

これらのうち成層したテフラ層は、下部の黄白色軽石層（層厚25cm、軽石の最大径7mm）と上部の成層した桃灰色火山砂質細粒火山灰層（層厚4

cm）からなる。

(2) 6区X280-Y980地点

6区X280-Y980では、下位より灰色粘質土（層厚10cm以上）、褐灰色土（層厚11cm）、黒灰色土（層厚5cm）、灰色軽石に富む暗灰色土（層厚6cm、軽石の最大径4mm）、黒色粘質土（層厚5cm）、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層（層厚2cm、軽石の最大径5mm）、灰色砂質土（層厚6cm）、暗褐灰色土（層厚7cm）、暗灰色土（6cm）、暗褐色土（4cm）、褐灰色粗粒火山灰層（層厚7cm）、黒褐色砂質土（層厚8cm）、黄色砂質土（層厚10cm）、黄灰色土（層厚4cm）、灰色土（層厚18cm）が認められる（第237図-1）これらのうち、褐灰色粗粒火山灰層については、その層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間B軽石テフラ（As-B, 新井, 1979）に同定される。

発掘調査では、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層の直下から、水田遺構が検出されている。

(3) 6区X260-Y030地点

6区X260-Y030では、下位より亞円礫混じり灰色砂層（層厚24cm以上）、灰色砂質土（層厚13cm）、砂混じり暗灰色土（層厚15cm）、黒灰色土（層厚8cm）、灰色軽石に富む暗い灰色土（層厚5cm、軽石の最大径4mm）、黒灰色粘質土（層厚5cm）、白色軽石混じり黄色細粒火山灰層（層厚1cm、軽石の最大径3mm）、灰色砂質土（層厚12cm）、暗灰色土（層厚5cm）、黒色土（層厚0.2cm）成層したテフラ層（層厚5.5cm）、黒灰色砂質土（層厚7cm）、黄色砂層（層厚1cm）、灰色砂質土（層厚13cm）、黄褐色砂質土（層厚7cm）、灰色土（層厚12cm）、褐灰色土（層厚5cm）、灰色表土（層厚23cm）が認められる（第237図-2）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、褐灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）からなる。このテフラ層については、その層相からAs-Bに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析方法

6区X280-Y980東地点、6区X280-Y980、6区X260-Y030の3地点において採取された合計10点の資料を対象にテフラ検出分析を行い、示標テフラの検出同定を試みた。テフラ検出分析の手順は、次のとおりである。

- 1) 資料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実態顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。6区X280-Y980東地点では、資料番号11の軽石層にとくに多くの白色軽石（最大径5.7mm）が含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石が含まれている。このテフラは、層相を合わせて考慮すると、約1.3~1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）に同定される。その上位の資料番号10にも、白色軽石（最大径7.1mm）が多く含まれている。

さらに資料番号7や5には、スポンジ状によく発泡した白色軽石（最大径1mm）や、あまり発泡の良くない灰色軽石（最大径0.9mm）がごく少量含ま

地 点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の砂最大径
6区X280-Y980東	1	+	灰色	1.3
	3	-	-	-
	5	+	灰、白	0.9, 1.1
	7	+	白	1
	9	-	-	-
	10	+++	白	7.1
	11	++++	白	5.7
6区X280-Y980	1	+++	白	2.2
	2	+++	白	4.3
6区X260-Y030	1	++	灰白	1.2

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度,
+: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.

第1表 中内村前遺跡におけるテフラ検出分析結果

れている。最上位の資料番号1には、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石（最大径1.3mm）が少量検出された。この軽石は、その特徴から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 新井, 1979）に由来すると考えられる。ただしAs-Cの主な包含層は、資料番号1の直上の土層に相当する。

6区X280-Y980では資料2及び1ともに、発泡があまり良くない白色軽石（最大径4.3mm）が多く含まれている。この軽石の班晶には、斜方輝石や角閃石が含まれており、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）または6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 相田, 1989, 町田・新井, 1992）に由来すると考えられる。資料番号2については屈折率測定を行い、同定精度の向上を図った（後述）。

6区X260-Y030では、資料1にスポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石（最大径1.3mm）が少量含まれている。この軽石は、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、6区X280-Y980東地点の試料番号10および6区X280-Y980の試料番号2の2資料について、温度一定型位相差法（新井, 1972, 1993）により屈折率を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を第2表に示す。6区X280-Y980東地点の試料番号10には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が認められた。火山ガラス（n）および斜方輝石（γ）の屈折率は、各々1.501-1.503と1.708-1.711である。これらの特徴は、As-YPに含まれるテフラ粒子のそれと一致する。したがって、試料番号10に含まれるテフ

地 点	試料	重 鉱 物	屈 折 率
6区X280-Y980東	10	opx>cpx, (ho)	gl (n) : 1. 501-1. 503 opx (γ) : 1. 708-1. 711

6区X280-Y980	2	opx, ho (cpx, ep)	gl (n) : 1. 501-1. 502 opx (γ) : 1. 709-1. 712 ho (γ) : 1. 672-1. 678

gl: 火山ガラス, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石, ep: 緑簾石. 屈折率は, 温度一定型相差法 (新井, 1972, 1993) による

第2表 中内村前遺跡における屈折率測定結果

ラ粒子は, As-YPの噴火に伴って放出されたテフラ粒子の可能性が非常に大きい。

6区X280-Y980の試料番号2には, 重鉱物として斜方輝石や角閃石のほか, ごく少量の単斜輝石や緑簾石が認められた。火山ガラス (n), 斜方 (γ), 角閃石 (n2) の屈折率は, 順に1.501-1.502と1.709-1.712である。これらの特徴は, Hr-FAに含まれるテフラと一致する。したがって, 試料番号2のテフラはHr-FAに同定される。このことから, 本地点において検出された水田遺構は, Hr-FAに覆われていると考えられる。

II. 中内村前遺跡6区における放射線炭素年代測定

1. 試料と方法

試料の採取地点	試料	種類	前処理・調整	測定法
X280-Y290東	¹⁴ C-1	腐食質土壌	酸洗浄・低濃度処理・ベンゼン合成	β線法

X280-Y980東	¹⁴ C-2	木片	酸-アルカリ-酸洗浄・ベンゼン合成	β線法

2. 測定結果

試料	¹⁴ C年代 (年BP)	δ ¹³ C (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年BP)	暦年代	測定No. Beta-
¹⁴ C-1	5700±60	-22.9	5740±609	交点: BC4565 2σ: BC4750 To 4460 1σ: BC4690 To 4605	125277

¹⁴ C-2	13590±80	-229.8	13510±80	交点: - 2σ: - 1σ: -	125278

5. 小結

中内村前遺跡において, 地質調査とテフラ検出分析さらには屈折率測定を行った。その結果, 下位より浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.3~1.4万年前), 浅間C軽石 (As-C, 4世紀中葉), 榛名二ツ岳洪川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭), 浅間Bテフラ (As-B, 1108年) が検出された。発掘調査により検出された水田遺構の層位は, Hr-FAの直下にある。

文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代遺構の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52
 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 坂口 一 (1986) 榛名山二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, p.297-312.

1) ^{14}C 年代測定値

資料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\sigma^{13}\text{C}$ 測定値

資料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比から千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\sigma^{13}\text{C}$ 測定値から資料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動を補正することにより、暦年代(西暦)を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い資料には適用できない。暦年代の交点とは補正 ^{14}C 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ (68%確立率)・ 2σ (95%確率)は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代幅を示す。

III. 中内村前遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物の枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984)。

2. 資料

資料は、6区X280-Y980と6区X260-Y030地点か

ら採取された13点である。資料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手段で行った。

1) 資料を105℃で24時間乾燥(絶乾)

2) 資料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)

3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理

4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散

5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去

6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成

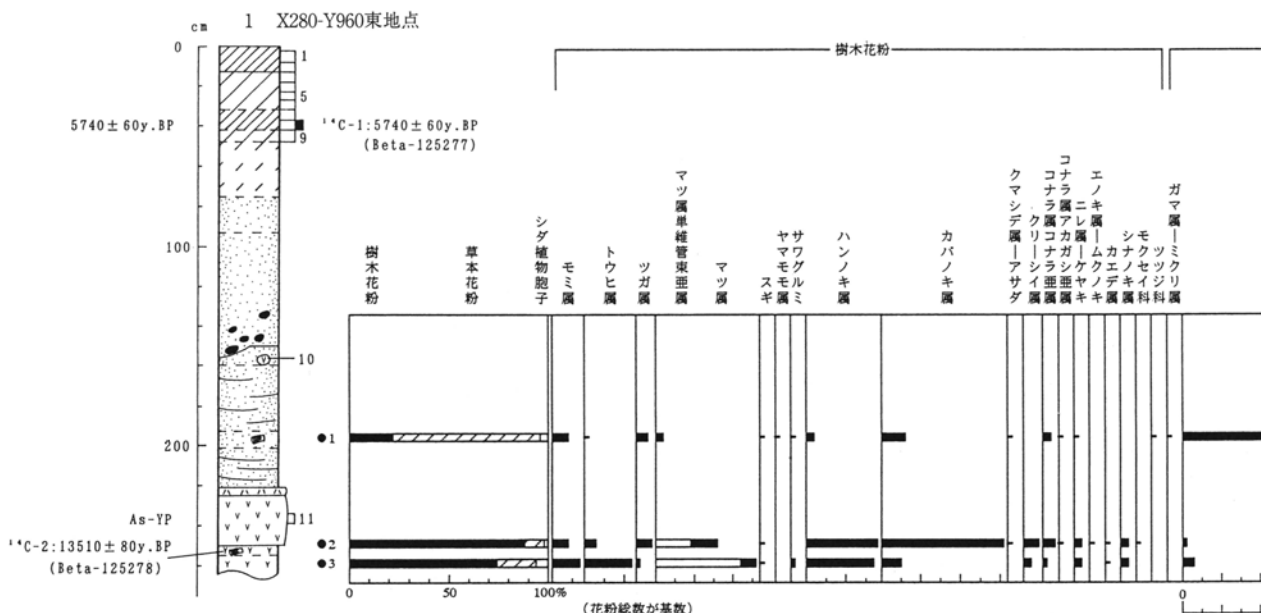
7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。資料1gあたりのガラスビーズ個数に、計算されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率をかけて、資料1g中のプラント・オパールの個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に資料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、タケ亜科は0.48である。

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科(おもにネザサ節)の主要な5分類群



第237図の1 科学分析土層柱状図、プラント・オパール分析結果、花粉分析ダイアグラム

に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表および第237図-1・2に示した。写真図版112・113に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や検査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが資料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、関東周辺では密度3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	6区X280-Y980東								6区X260-Y030				
		3	4	4'	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	76	67	53	52	38	23			38	98	15		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	23		15	22	23	23	30	15	23		106	38	68
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	23		15	30	15	30	8	45	8	23	30	8	30
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	8	30	105	30	23	15	38	8	15	15	30	45	30

推定生産量（単位：kg/m²・cm）

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	2.23	1.98	1.55	1.54	1.11	0.66			1.12	2.89	0.45		
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.44		0.95	1.42	1.43	1.90	0.95		1.45		6.70	2.37	4.26
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.28		0.19	0.37	0.19	0.37	0.09	0.56	0.09	0.28	0.38	0.09	0.37
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.04	0.14	0.51	0.14	0.11	0.07	0.18	0.04	0.07	0.07	0.15	0.22	0.14

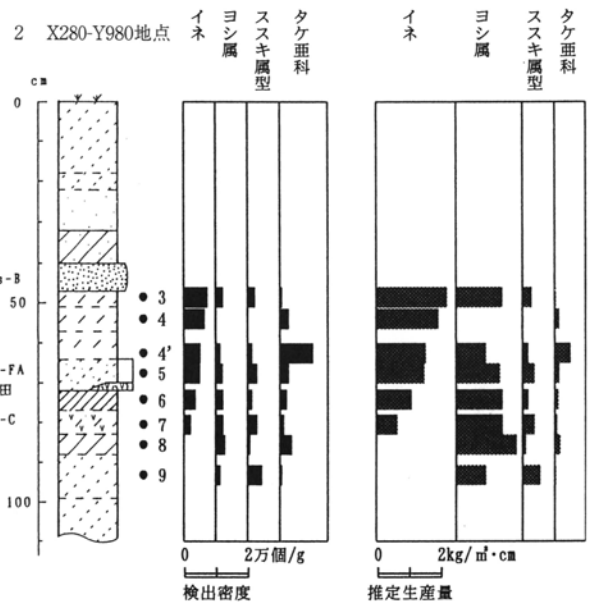
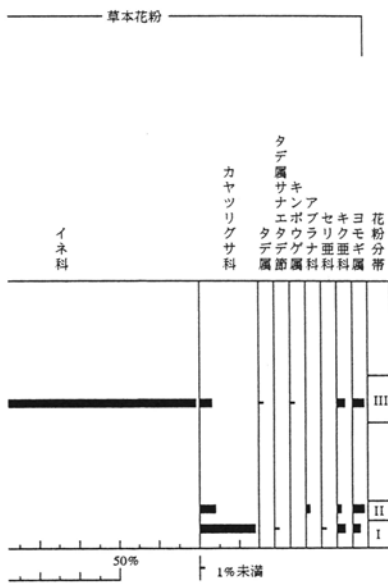
※試料は仮比重を1.0と仮定して算出。

第3表 群馬県、中内村前遺跡におけるプラント・オパール分析結果

1) 6区X280-Y980地点（第237図-1）

As-B直下層（資料1）からAs-Cの下層（試料9）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）からAs-C混層（試料7）までの各層からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が7,600個/gと高い値であり、その下層（試料4～5）でも5,200～6,700個/gと高い値である。また、水田遺構が検出されたHr-FA直下層（試料6）でも3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

As-C混層（試料23）では密度が2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、

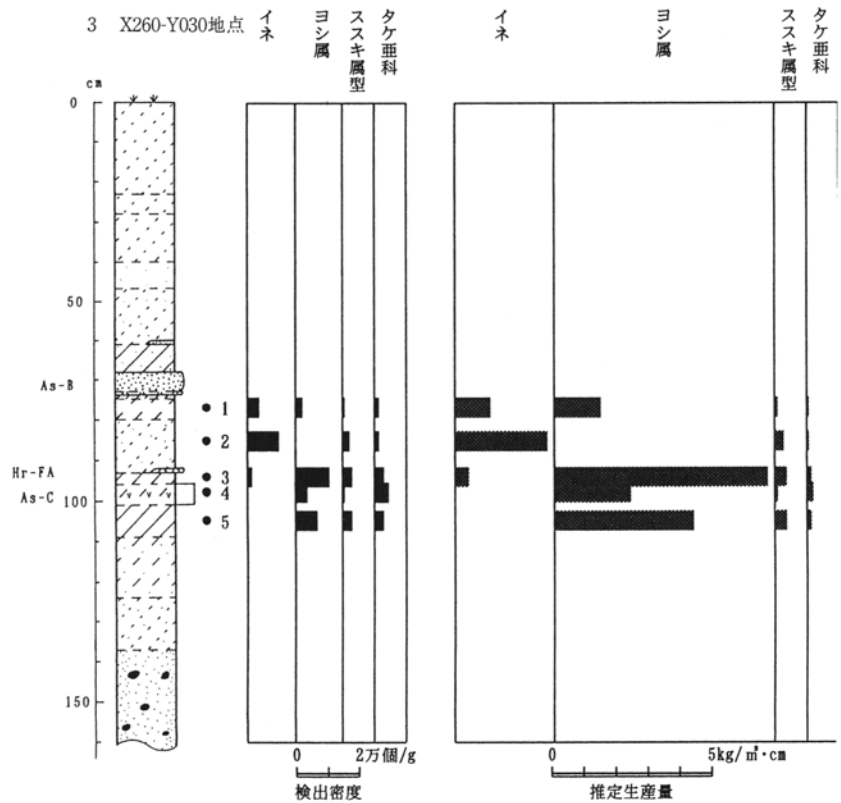


稲作が行われていた期間短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2) 6区X260-Y030地点 (第237図 - 2)

As-B直下(試料1)からAs-C下の下層(試料5)までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)からHr-FA直下層(試料3)までの各層からイネが検出された。このうち、As-Bの下層(試料2)では密度が9,800個/gと高い値であり、As-B直下層(試料1)

でも3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Hr-FA直下層(試料3)では密度が1,500個/gと低い値である。



第237図の2 科学分析土層柱状図、プラント・オパール分析結果、花粉分析ダイアグラム

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討する

ことによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、イネ以外ではおおむねヨシ属が優勢であり、特に6区X260-Y030地点のAs-C前後層ではヨシ族が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的環境であったと考えられ、Hr-FA直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していた可能性も考えられる。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出された榛名山二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）直下層からはイネが大量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また浅間Bテフラ（As-B, 1108年）直下層やHr-FAの上層などでも稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、Hr-FA直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）— 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

IV. 中内村前遺跡における花粉分析

1. 試料

試料は、6区X280-Y980地点から採取された3点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

2. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を

参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無氷酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石灰酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。検鏡はプレパラート作成後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。

花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分離した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（—）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

3. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉21、草木花粉10、シダ植物孢子2形態の計33である。これらの学名と和名および粒数を第4表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属、マツ属単維管束亜属、スギ、ヤマモモ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属ムクノキ、カエデ属、シナノキ属、モクセイ科、ツツジ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、キンボウゲ属、アブラナ科、セリ亜科、キク亜科、ヨモギ属〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴

As-YPの下層（試料3）では、マツ属単維管束亜属、トウヒ属、モミ属などの針葉樹およびハンノキ属（生態上からハンノキとみなされる）やカバノキ

属などの広葉樹が優占する。草本花粉はカヤツリグサ科が比較的高率に出現する。As-YP直下層（試料2）では、カバノキ属が高率になり、マツ属単維管束亜属、トウヒ属、モミ属などの針葉樹が減少する。As-YPの上位層（試料1）では、イネ科が圧倒的に優占し、樹木花粉は低率になる。

4. 花粉分析から推定される植生と環境

浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 約1.3~1.4万年前）の下層の堆積当時は、ハンノキの湿地林やカバノキ

属などの落葉広葉樹林が分布しており、周辺地域にはゴヨウマツ類（マツ属単維管束亜属）、トウヒ属、モミ属を主とする亜高山帯（亜寒帯）針葉樹林が優勢に分布していたと推定される。草本では抽水植物を主とするカヤツリグサ科が多く、ハンノキと共に湿地に生育していたと考えられる。これらの植生から、寒冷でやや乾燥した気候が示唆される。As-YP直下層では、乾燥地を好むカバノキ属の森林が拡大し、ゴヨウマツ類、トウヒ属、モミ属を主とする針葉樹林が縮小したと考えられる。このことから、気候の乾燥化が示唆される。

As-YPの上位層では、ヨシ属などのイネ科を主とする草本が極めて優勢な植生が展開したと推定される。周辺はカバノキ属の森林が優勢であり、寒冷で乾燥した気候下にあったと推定される。

文献

- 中村純（1973）花粉分析，古今書院，p.82-110.
 島倉巳三郎（1973）日本植物の花形形態．大阪市自然学博物館収蔵目録第5集，60p.
 中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

分類群		6区X280-Y980グリッド東		
学名	和名	1	2	3
Arboreal pollen 樹木花粉				
<i>Abies</i>	モミ属	12	15	26
<i>Picea</i>	トウヒ属	2	13	43
<i>Tsuga</i>	ツガ属	10	15	5
<i>Pinus</i>	マツ属	7	27	13
<i>Pinus subgen. Haploxyton</i>	マツ属単維管束亜種	2	37	78
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	1	2	3
<i>Myrica</i>	ヤマモモ属	1		
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	2		4
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	5	72	58
<i>Betula</i>	カバノキ属	21	120	18
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシダ属-アサダ	1	1	
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ		14	9
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	6	13	5
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1	7	8
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		1	
<i>Acer</i>	カエデ属		1	1
<i>Tilia</i>	シナノキ属		9	6
<i>Oleaceae</i>	モクセイ科		3	
<i>Ericaceae</i>	ツツジ科	1		
Nonarboreal pollen 草本花粉				
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	1		
<i>Gramineae</i>	イネ科	226	4	9
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	9	16	49
<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	3		
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節			1
<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属	1		
<i>Cruciferae</i>	アブラナ科		4	
<i>Apiodeae</i>	セリ亜科			1
<i>Asteroideae</i>	キク亜科	5	5	8
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	9	11	7
Fern spore シダ植物孢子				
Monolate type spore	単条溝孢子	14	7	20
Trilate type spore	三条溝孢子		2	1
Arboreal pollen	樹木花粉	73	352	277
Nonarboreal pollen	草本花粉	254	40	75
Total pollen	花粉総数	327	392	352
Unknown pollen	未同定花粉	5	4	5
Fern spore	シダ植物孢子	14	9	21
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)

第4表 中内村前遺跡における花粉分析結果

V. 中内村前遺跡出土木材の樹種同定

1. 試料

試料は、6区X280-Y980グリッドの東地点のAs-YP上位と下位から採取された2点の材である。

2. 方法

カミソリを用いて、新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果を第5表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

a. トウヒ属 *Picea* マツ科 PL112～114

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平両樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部に正常な垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なトウヒ型で、1分野に3～6個存在する。放射仮道管の有縁壁孔対の断面は、壁孔縁の先端が角張っているもの、壁孔縁に鋸歯状の突起を持つものが多く、孔口も小さい。

接線断面：放射組織は単列で1～20細胞高であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

b. フジ *Wisteria floribunda* DC. マメ科
PL112～114

横断面：年輪のはじめに大型で丸い道管が、1～2列配列する環孔材である。晩材部では中型の道管

のほかにごく小型の道管が多数集合して木部柔組織とともに接線方向の帯状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は同性に近い異性放射組織で、1～8細胞幅である。

4. 所見

浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 約1.3 - 1.4万年前）の下位から検出された材はトウヒ属、上位から検出された材はフジと同定された。トウヒ属はアカエゾマツ、エゾマツ、トウヒがあり、アカエゾマツとエゾマツは北海道に自生し、トウヒは関東山地、中部山岳地、大台ヶ原に自生する。温帯上部から寒冷な亜寒山帯ないし亜寒帯に分布する常緑針葉樹である。フジは本州、四国、九州に分布する、つる性の落葉木本であり、河辺や沢沿いの森林に多く自生する。

文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100

(4) 科学分析報告に対する所見

以上のように株式会社古環境研究所提出の科学分析報告書を掲載した。科学分析委託のまとめとして報告された所見を埋蔵文化財サイドとして鑑定要件に照らして若干検討してみたいと思う。

① 年代

鑑定要件の第一は「遺構の構築年代や遺跡立地の堆積年代を明らかにする」ためのテフラの分析と遺構検出黒色土直下の腐敗土壌及び調査面下2m程のテフラ下泥炭層の木片について年代を明らかにすることであった。

これに対し鑑定ではAs-B、Hr-FA、As-C、AS-YPが確認され、調査段階で認識、処理してきたテフラが地質学的にも確認されることになった。但し、報文中のAs-Cの4世紀中葉という年代は考古学的

試料	出土地点	樹種 (和名/学名)
材1	As-YP上位	フジ <i>Wisteria floribunda</i> DC.
材2	As-YP下位	トウヒ属 <i>Picea</i>

第5表 中内村前遺跡の樹種同定結果

には20年ほど前の古い見解であり、調査段階（最近まで）では4世紀初頭、現在では3世紀末葉（或いは4世紀初頭）とするのが一般的である。

また出土炭化物の放射性炭素年代測定も実施したが、As-C下の「黒ぼく土」の炭化物にはB.P.5,740±60年という年代が与えられた。黒ぼく土は縄文時代以降形成されたと考えられている土壌であるが、当遺跡に於いても少なくとも縄文時代中期には黒ぼく土が形成されていたことを確認することができた。一方フジと同定されたAs-YP下の前橋泥炭層出土炭化物にはB.P.13,510±80年という年代が与えられた。

② 環境復元

鑑定要件の二点目は花粉分析によるAs-YP降下前後の遺跡の立地した環境の復元であった。

これについて鑑定所見は、前橋泥炭層形成期には周辺地域には亜高山帯（亜寒帯）針葉樹林があり、遺跡地には湿地林や落葉広葉樹林が分布していること、しかしAs-YP直下層では針葉樹林が縮小し、乾燥地を好むカバノキ属の森林の拡大、As-YP上位層では周辺はカバノキ属の森林となり、遺跡地ではイネ科を主とする草本が極めて優勢で、寒冷で乾燥した気候であったと報告している。出土木材の鑑定所見もこの傾向を示している。本遺跡の更新世末期は乾燥化が漸次進行し、環境の変化する時期ではあったことが確認されたが、旧石器遺跡の形成は認め

第2節 5～7区小結

(1) 5～7区の調査の概略

以上のように6～7区では多くの遺構を発見、調査し、遺物の出土を見てきた。各区に於ける概要は第2章1～3節の冒頭に述べてきたので重複するが、以下にその概要をまとめる。

6区の中央～中南部と北東部に微高地があつて低地部が広がる5・6区と微高地を△形に谷地形が切る7区では中世以降の溝・土坑が確認されたが、特に6区に於いては鉤形プランの溝で有機的に結合す

められなかった。

③ イネの消長の検討

三点目の鑑定要件は水田遺構についてプラント・オパール（植物珪酸体）分析を行い、イネの消長を検討することであった。

鑑定の結果、イネのプラント・オパールはHr-FA直下層で多量に検出され、Hr-FAの上層やAs-B直下層などでも稲作の可能性が高いという成績が得られた。またHr-FA下水田は、それ以前にヨシ属などが生育する湿地的な土地を利用したものとされている。

この結果を遺構に照らしてみると、Hr-FA・As-B層直下には水田遺構があり、Hr-FA上にもHr-FA・FP洪水層による埋没水田が確認されているので水田耕作の実施は考古学的にも明らかである。問題なのはHr-FA下水田の下位である。発掘調査ではHr-FA下水田下にはAs-Cの復旧水田と判断した水田址が確認されているが、鑑定ではイネのプラント・オパールは東側のX280-Y980東地点では水田とされ得る基準の3000個/gに対し、2300個/gが確認されたものの、特にAs-C復旧水田と位置的に一致するはずの西側のX260-Y030地点では全く確認できていない。こうした分析結果に対しては、復旧水田が開削時点で放棄されているか、或いは開墾時の掘削は別として耕作が試料の採取位置まで及んでいなかった等が考えられるが、現時点で結論を導き出すことはできなかった。

る2箇所の屋敷遺構とその間の郭状に使用された区画を確認した。この屋敷遺構群は概ね15世後半以降のものであった。また、5・7区ではAs-B降下後の復旧水田も発見された。

As-B降下時点（1108）では低地・谷地部を中心に水田址が広がっていた。また6区中央～中南部の微高地を中心に6・7区で9世紀前半期を中心とする時期の集落が展開し、低地部ではHr-FA・FP洪水埋没の水田址が確認された。また5～7区の低地部では6世紀初頭のHr-FA埋没水田が確認された。尚、古墳時代後期～平安時代の土地利用については

自然地形に基づいて土地利用から、律令期に入ってから条里区画に基づいた土地利用へと移行することも確認された。

その下位、6区中東部と7区中南部、北東部で3世紀末葉の集落が確認された。また、6区西部ではAs-Cの復旧水田を確認したが、プラント・オパール分析では水田としては認められなかった。

(2) 周溝をもつ建物

上述のように6・7区の3地点からは弥生時代～古墳時代への移行期に当たる時期の竪穴住居10軒と溝2条、土坑12基、井戸1基が確認され、在地系、東海系、北陸系の要素の見られる出土遺物が得られた。こうした遺構、遺物の中で注目されたのは6軒の周溝を伴う住居遺構であった。以下、この周溝を伴う住居遺構（以下「周溝をもつ建物」¹⁾とする）について若干の検討を行いたいと思う。

① 北陸地方における研究

周溝をもつ建物は東北から九州にかけての全国で確認（岡本1998）されている。こうした建物は高橋保が新潟県柏崎市の下谷地遺跡で周溝状の土坑群を伴う遺構を（高橋1971）、久々忠義が富山県上市町の江上A遺跡の建物（SB14）と溝（SD03）を検討する中で登呂遺跡のものに近似した建物を想定（久々1981）したのを始めとして北陸地方で認識されるようになったものである。その後、南久和は周溝の形態を平面形態で3タイプ、断面形態で2タイプに分類して、弥生時代中期から古墳時代前期のもの検討から平地式建物の可能性が高いと評価し（南1991）、岡本淳一郎は周溝を伴う建物は北陸以外に起源を持つもので竪穴のものと平地式のものとがあると指摘し、周溝については土坑タイプ、広溝タイプ、狭溝タイプの3タイプに分類して、後述するように北陸地方の事例を通してそれぞれの継続時期を示している（岡本1997）。

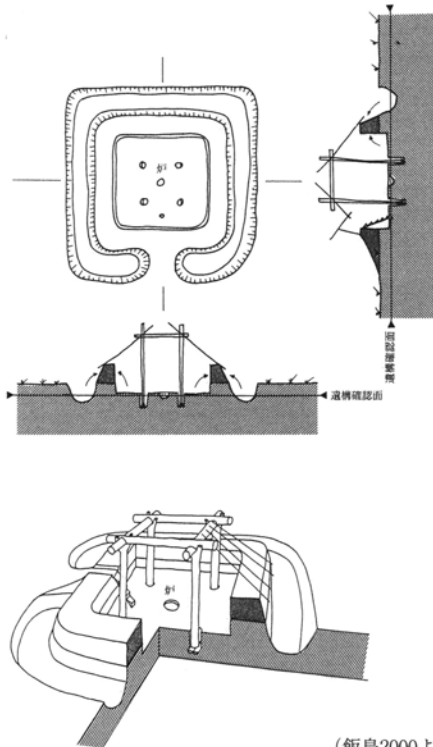
② 関東地方における研究

一方、関東に於ける周溝を持つ建物の研究は周溝墓研究の延長線上にあり、加納俊輔（加納1992）に

よる埼玉県鍛冶谷・新田口遺跡や伊藤敏行・及川良彦（伊藤・及川1996）による豊島馬場遺跡の方形周溝墓の検討を通して、“方形周溝墓”の中に別用途の遺構も含まれるのではないかという疑義を発端に研究が始まっている。その後、方形周溝墓同士の切り合いに疑問を呈した飯島義雄（飯島1998）、及川良彦（及川1998）らによって方形周溝墓の一部が墓ではなく周溝をもつ（有する）建物であると認識されるに至る。飯島は北陸・越後、群馬県、埼玉県の事例を検討し、周溝を持つ建物について大阪府長原遺跡（今津1991）の周堤をもつ竪穴住居を標準的なイメージとして、北陸・畿内・関東では周溝を持つ建物が安定的に存在すると指摘した。また、こうした「『周壁半盛土竪穴式住居』のイメージ」が当時の墓に反映したとの解釈を示している。一方、及川は後の武蔵を中心とする関東と北陸、東海地方の事例を分析して平面的に中央の一箇所が途切れる中央（幅広）陸橋型の方形周溝墓とされていたものを建物跡として分析し、低地部に見られ、東海では弥生時代中・後期、北陸では弥生時代中期から古墳時代前期、関東では古墳時代初頭から一般的になって古墳時代中期まで検出されるとしている。

こうした及川や飯島の周溝を持つ建物という考え方に対して福田聖は方形周溝墓の見直しを行い（福田1999abc・2000ab）、方形周溝墓と周溝をもつ建物の特徴を抽出して両者の相同と相違を示し、周溝を持つ建物の識別の目安を示しているが、「安易に振り分ける危険を感じる」とその識別の難しさを指摘している（福田2000b）。また嶋村一志は東京都の豊島馬場遺跡の発掘調査報告書で及川、飯島の指摘を検討しつつ方形周溝墓群の分析を行い、周溝墓として肯定される要素、否定される要素、住居として肯定される要素、否定される要素を示している（嶋村1999）。しかし嶋村は住居説に慎重な立場を取っており、周溝墓群が集落であった可能性も残しつつ墓域であったとの立場を取っている。

一方、同じ年に及川良彦は新たな資料を追加検証して周溝を持つ建物の存在を再確認し（及川1999）、



第238図 「周溝を持つ建物」の推定復元

或いは周溝の平面形態の変化が弥生時代後期から古墳時代前期にかけての南関東に於ける竪穴住居の変化と一致することを指摘した(及川2000)。また嶋村と共に豊島馬場遺跡の周溝墓を報告(長瀬1999)した長瀬出は同遺跡の集溝墓群の再検討を行い、これらを周溝墓と周溝を持つ建物跡に分離する作業を実施(長瀬2000)している。一方群馬県の三和工業団地I遺跡例を検討した坂口一は、竪穴住居の壁溝から(トンネル等を使用して)直接排水するものがあることを報告し、こうした壁溝を利用する排水施設を持つものの施工者が「東海地方東部から直接的な移住と見るのが妥当」と結論付けている(坂口1999)。飯島義雄は周溝を持つ建物の復元案を提示し(第238図)、加えて周溝を持つ建物の一部に見られる連結溝に着目して、上屋部に降った雨水を最終的に居住域外に誘導する「排水溝」と解釈している(飯島2000)。春山秀行は坂口の示した壁溝を利用した排水施設を持つ建物が丘陵上にも分布するのに対し、一般的なものが低地帯の遺跡に限定されるという立地の違いを指摘し、北陸系土器の流入との関連を示唆している(春山2002)。

③ 群馬県下の周溝を持つ建物

現在、知る限りに於いて群馬県下では6遺跡、26軒の“周溝をもつ建物”が認識されている。次に、これに下拙が形態の検討等からその可能性を考えた2例を加えた“建物”の概要を述べたいと思う。尚、本書を含め各報告書に掲載された実測図には作図対象に差異があり、或いは建物(住居)に伴わない、或いは重複が認識される遺構の記載も見られたため、検討を行うに当っては各図を下拙(石守)の判断で加筆修正した平面図を使用することとする。²⁾

a. 上之手八王子遺跡

群馬県内で最も早く当該の遺構が認識されていたのは烏川と関越自動車道の交差点に程近い佐波郡玉村町上之手の上之手八王子遺跡³⁾である。上之手八王子遺跡の建物(住居)が周溝をもつことは調査当時から認識されていたが、一連の研究の中で初めて取り上げたのは飯島義雄(飯島1998)であった。建物は何れも4世紀前半期のBH-102・116・149・161・176号住居(以下本稿では「八王子102・116・149・161・176」と表記する)の5軒である。

八王子102の建物本体は径6m強の方形を呈する竪穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は直径15m程の円形プランを呈する幅狭の浅い掘り込みのもので、西側に開口部があるようである。

八王子116の建物本体は径7m程の竪穴住居で、主軸は概ね北を向く。周溝は東西幅16m程の南に開くコ字形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、東側で北側或いは本建物の北を西側から巻くように入る溝と合流して南東方向続いている。

八王子149の建物本体は径7m程の方形様のプランを呈する竪穴住居で、主軸は北北東を向く。周溝は二重になっており、内側のものは直径12m程の円形または隅丸方形を呈する幅狭のもので、外側のものは直径20m程の幅広の隅丸方形プランを呈する。双方共掘り込みは浅く開口部が無い可能性がある。

八王子161の建物本体は床面の一部が残された竪穴住居⁴⁾である。周溝は主軸が北西を向く径15×16

m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、東側南端に開口部がある。

八王子176の建物本体は径7m弱の方形を呈する竪穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は二重にあり、内側のは直径13m程の幅狭のもの、外側のは直径18m程の幅広のもので共に隅丸方形のプランを呈する浅い掘り込みのものである。内側の周溝では南側中央のやや東寄り、外側の周溝では東側南端に開口部がある。また、外側の周溝は南西隅で北西から流下してくる溝に合流し、東南東方向に流れている。

b. ^{かみのて}上之手八王子遺跡（追加）

上之手八王子遺跡には2基の方形周溝状遺構がある。調査段階では竪穴住居としては認識されず、一方「積極的に方形周溝墓とする根拠はなかった」（玉村町1991）と報告されている。しかし、1号方形周溝状遺構（以下「八王子1」と表記する）は報告書中の実測図の検討から周溝は南辺が開口し、接続溝を伴う几字状のプランを呈する可能性が考慮されたために、一方2号方形周溝状遺構（以下「八王子2」と表記する）は東側隅部に開口部が、西側隅部には連結溝を伴うものかと思われる分岐箇所があり、柱穴と思われるピットが見られたことなどから、共に周溝を持つ建物と解釈した。時期は出土遺物から八王子1は3世紀末葉（～4世紀前半）、八王子2は4世紀前半期と判断される。

八王子1の建物本体は認められない。周溝は径9m弱のやや小型の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側が大きく開口する。

八王子2には建物本体のものと判断される柱間3m程の柱穴らしいピット二箇所がある。周溝は径13×12m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、西側隅部が南方に向かって短く分岐している。飯島義雄の言う接続溝に続くものと解釈した。

c. ^{さんわ}三和工業団地I遺跡

三和工業団地I遺跡⁵⁾は北関東自動車道伊勢崎インターチェンジ近くの伊勢崎市三和町の台地上に立地する遺跡である。発見された周溝をもつ建物は12号住居（以下「三和12」と表記する）の1軒で、時期は出土遺物から3世紀末葉～4世紀初頭と判断される。尚、本稿では扱わないが三和12と同様壁溝から竪穴外に排水し、排水溝を共有する形式の竪穴住居9号住居が東側下流部で確認されている。

三和12の建物本体は径5.5×5m程の横長の長方形プランを呈する竪穴住居で、主軸は北西を向く。主たる周溝は径12m程の丸靱形プランのもので、住居南西壁の中程壁溝から出る鉤形の周溝が前者の南西隅から伸びる排水溝に垂直に接続する。周溝は共に幅狭で掘り込みは深い。

d. ^{かみのていしづか}上之手石塚遺跡

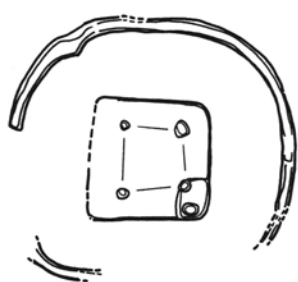
上之手石塚遺跡⁶⁾は上之手八王子遺跡の南に近接して位置する。周溝をもつ建物は59号住居（以下「石塚59」と表記する）の1軒である。時期は出土遺物から（3世紀末葉～）4世紀前半と判断される。

石塚59は建物本体が径6m程の方形プランの竪穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は径12m強の方形プランの幅狭のもので、掘り込みはやや浅い。

e. ^{よこてゆでん}横手湯田遺跡

本遺跡の西部、前橋市南西の横手町・亀里町・鶴光路町にまたがる横手湯田遺跡⁷⁾の第13面からはA区1号住居跡、B区1～5号住居跡、D区1号住居跡の（以下本稿では「湯田A1・B1・B2・B3・B4・B5・D1」と表記する）の7軒の周溝をもつ建物を確認している。何れも微高地上に造られ、3世紀末葉の所産と把握されるが湯田B4は少し古い要素も持つ。

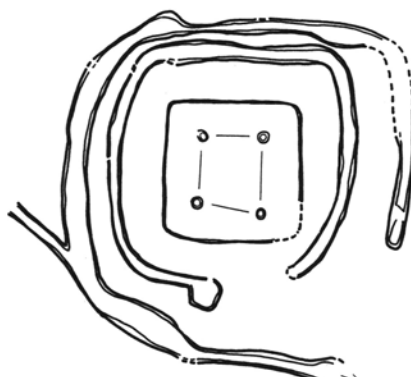
湯田A1の建物本体は恐らく主軸を北に向ける4本柱の建物であるが、攪乱が大きく竪穴住居なのか平地建物かを含め構造は不詳である。周溝は10m程で方形プランを呈するやや幅広で浅い掘り込みのものであり、南側中央に狭い開口部がある。



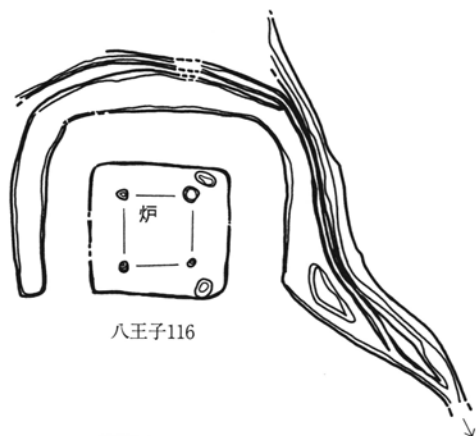
八王子102
(上之手八王子遺跡)



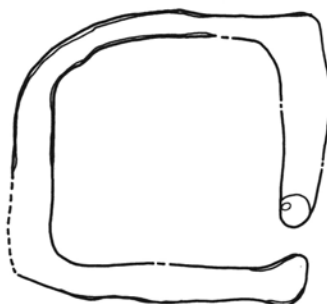
八王子149



八王子176



八王子116



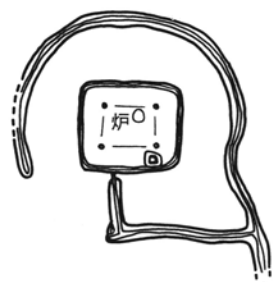
八王子161



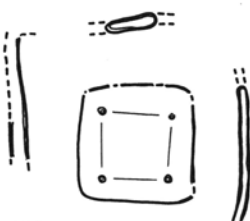
八王子1



八王子2



三和12 (三和工業団地I遺跡)



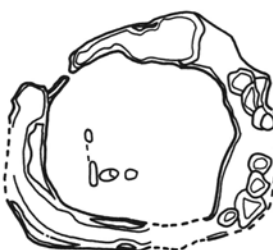
石塚59
(上之手石塚遺跡)



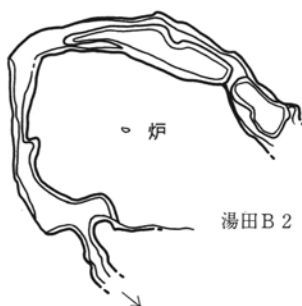
湯田A1
(横手湯田遺跡)



湯田B3



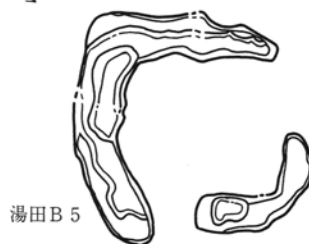
湯田B1



湯田B2



湯田B4



湯田B5



湯田D1

第239図 群馬県地域の周溝をもつ建物 (その1) (石守による加筆修正図)

第3章 5～7区小結

湯田B1の建物本体は堅穴式か平地式の建物か不明だが、掘り方を有するため前者の可能性を持つ。周溝は直径13×14m程の隅丸方形プランで幅広の浅い掘り込みのものである。主軸は概ね北を向き、北東隅部に開口部があるようである。

湯田B2の建物本体は中央に地床炉を確認したのみである。周溝は径15×13m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側に開口部があるようである。

湯田B3の建物本体の形態は堅穴式か平地式かを含め明瞭でないが、柱間3m程の柱穴が残る。幅狭の浅い掘り込みの周溝の一部が北辺と東辺に確認された。土坑が連続したもののようにも見受けられる。開口部は北側にある。

湯田B4の建物本体は堅穴式か平地式か判然としないが、地床炉を持ち柱間3.5m程の柱穴が残る。周溝は直径16m弱で円形プランの幅広の浅い掘り込みのもので、南側に開口部を持ち、その西側の周溝は方形様に広がっている。

湯田B5の建物本体は確認されなかったが、遺構全体として主軸は北西を向く。周溝は径12m程の隅丸方形を呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側西端に開口部を持つ。

湯田D1では位置的に柱穴と判断されるピットが残る。本体建物は北北西を向くようで、周溝は全体として径8×7m程の隅丸方形プランの幅広の浅い掘り込みのものであるが、西側の溝だけは内側に入り込んで幅狭である。南東と西側に開口部を持つ。

e. 横手早稲田遺跡

横手早稲田遺跡⁹⁾横手湯田遺跡の北側に近接する、前橋市南西の横手町に所在する遺跡である。この横手早稲田遺跡の第5面からはⅡ区1号住居、Ⅲ区1～4・6の（以下本稿では「早稲田Ⅱ1・Ⅲ1・Ⅲ2・Ⅲ3・Ⅲ4・Ⅲ6」と表記する）の6軒の周溝をもつ建物を確認している。早稲田Ⅱ1・Ⅲ1・Ⅲ3・Ⅲ4・Ⅲ6は3世紀末葉の所産として把握され、早稲田Ⅲ2も古墳時代前期の住居として認識さ

れる。

早稲田Ⅱ1の建物本体は柱間3m程の柱穴2基と地床炉を有する平地建物と思われるものである。周溝は径14m以上の隅丸方形プランを呈する幅狭の浅い掘り込みのものである。

早稲田Ⅲ1の建物本体は径3.5m程の主軸が北を向く堅穴住居で、焼失家屋であった。周溝は直径9m強の円形プランを呈する幅狭の浅い掘り込みのもので、南側西寄りに開口部を持つ。

早稲田Ⅲ2は柱穴と炉を確認したが、堅穴住居か平地式建物かは不明。南側に幅狭の浅い掘り込みの周溝の一部が残る。

早稲田Ⅲ3の建物本体は径5m強の堅穴住居で、主軸は北を向く。建物本体の北西に幅狭の浅い掘り込みの周溝と思われるものが見られる。

早稲田Ⅲ4の建物本体は径6m程の堅穴住居で、主軸は北西を向く。南に開口部を持つ幅広の浅い溝が南東と西側を包み、共伴不明の溝が北に延びる。

早稲田Ⅲ6の建物本体は径5m弱の堅穴住居で、主軸は北を向く。南辺が開口し、几字形プランを呈する幅広の浅い周溝が西、北、東側を半周する。

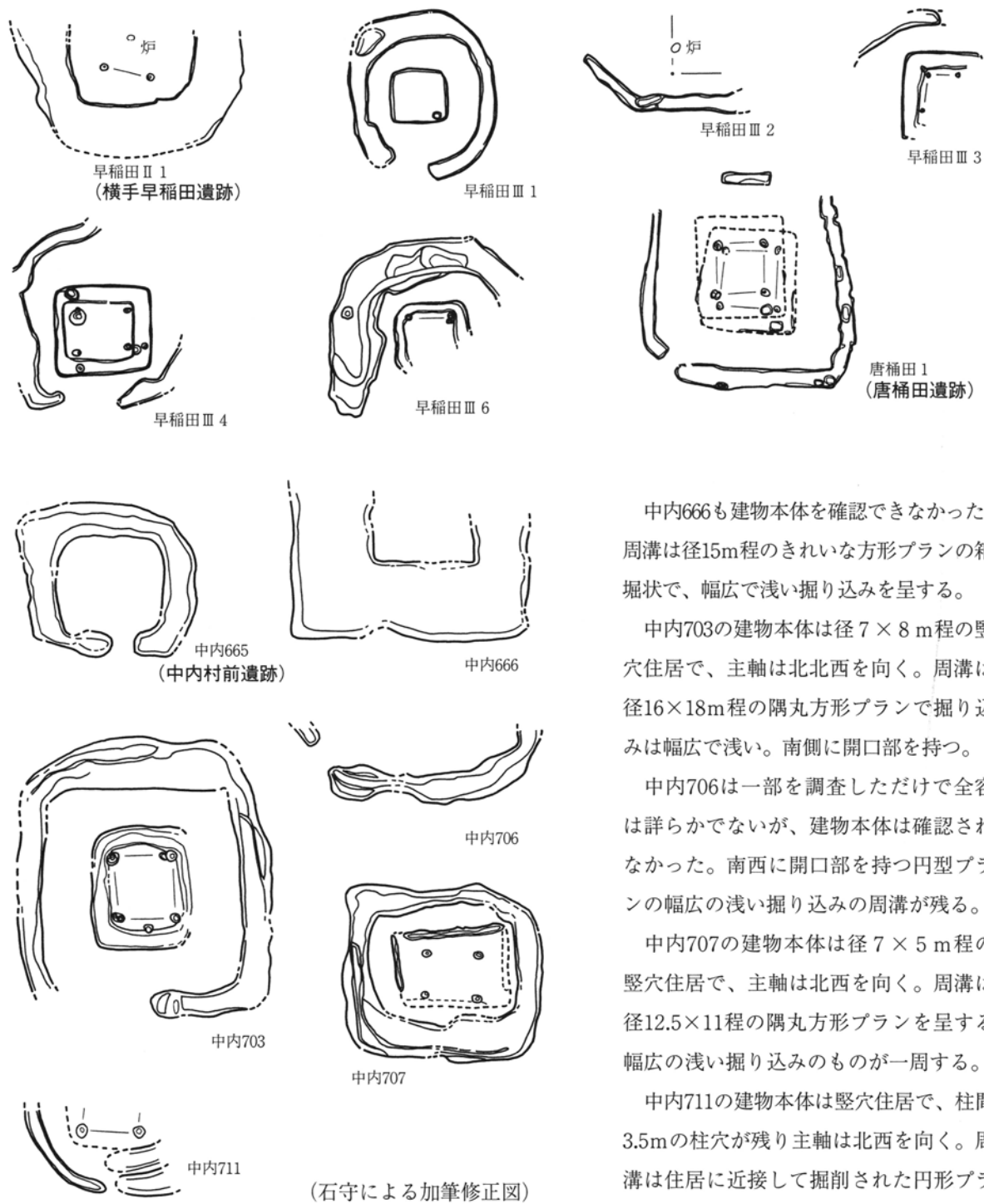
f. 唐桶田遺跡

唐桶田遺跡¹⁰⁾は群馬県東部の太田市脇屋の大間々扇状地上に立地する。この遺跡の周溝をもつ建物（以下「唐桶田1」とする）は第1方形周、2・4号住居として報告されているもので、飯島義雄（飯島2003）が詳細に検討を行い、周溝をもつ建物として評価したものである。

唐桶田1の建物本体は重複する2軒の堅穴住居で、共に径6m前後を測り、主軸は北及び北北西を向く。周溝は幅狭の浅い溝で、南西隅部に開口部を持つ。また周溝底部に土坑様の深い掘削も見られる。

g. 中内村前遺跡

本遺跡では6区65・66号住居、7区3・6・7・11号住居の（以下では「中内665・666・703・706・707・711」と表記する）の6軒の周溝をもつ建物を確認し



第240図 群馬県地域の周溝をもつ建物（その2）

中内666も建物本体を確認できなかった。周溝は径15m程のきれいな方形プランの箱堀状で、幅広で浅い掘り込みを呈する。

中内703の建物本体は径7×8m程の竪穴住居で、主軸は北北西を向く。周溝は径16×18m程の隅丸方形プランで掘り込みは幅広で浅い。南側に開口部を持つ。

中内706は一部を調査しただけで全容は詳らかでないが、建物本体は確認されなかった。南西に開口部を持つ円型プランの幅広の浅い掘り込みの周溝が残る。

中内707の建物本体は径7×5m程の竪穴住居で、主軸は北西を向く。周溝は径12.5×11程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのものが一周する。

中内711の建物本体は竪穴住居で、柱間3.5mの柱穴が残り主軸は北西を向く。周溝は住居に近接して掘削された円形プランの幅狭の浅い掘り込みのものである。

た。何れも3世紀末葉の所産として把握している。

中内665の建物本体は確認されなかった。径11m程の隅丸方形プランを呈する幅広の浅い掘り込みのもので、南側に開口部を持つ中央陸橋型を呈する。

④ 群馬県下の周溝をもつ建物の傾向

以上のように群馬県下で“周溝をもつ建物”として調査された6遺跡、26軒建物と、その可能性を考え或いは指摘された2遺跡3軒の遺構について概要を述べてきた。これら29遺構のうち八王子1、湯田

B5、中内665・666・706は本体の建物が確認されなかったことから周溝墓である可能性も考慮される。また残る28遺構についても周溝と内画との出土遺物の比較、検討が充分行い得なかったことから、周溝と内画（の遺構）とが確実に一つの遺構と断定するには至らなかったのであるが、少なくとも建物の確認された23遺構については建物が周溝の中に収まっていることなどから推して周溝をもつ建物である可能性が高いものと判断している。

さて、建物を確認できなかつたものなど10遺構を除く23遺構の建物本体について見ると、竪穴住居が17軒、平地式住居と認識されるもの1軒、竪穴住居の掘り方構造を勘案すれば平地式建物であった可能性が考慮されるのではあるが、竪穴式、平地式何れの建物かが判別できなかつたものが6軒あった。このように県内の調査例としては竪穴住居に伴うものが主流を占めていることが窺われる。

次に上述の23軒のうち、本体建物のパーツの少なかった湯田B2、湯田D1、早稲田Ⅲ2、そして周溝の一部しか確認されていない早稲田Ⅲ3と北側で溝が開いている早稲田Ⅲ4を除く19例を取り上げて若干の検討を行ってみたいと思う。

この19例の建物本体は竪穴住居15軒、平地式建物1軒で、その何れか判別のつかなかつたものが3軒であった。これらの建物は凡そ6～13m、平均で径9.1m程を測る周溝に囲まれた内画に建てられており、その設置位置は建物本体の輪郭或いは柱穴の特定できなかつた八王子2・149、湯田B1を除く何れの建物も内画中央付近に建物の中心がくるものであった。また建物の規模は竪穴住居では径が凡そ2～2.5m、平均2.5m程を測った。また建物の外周と周溝の内縁までの距離には長短があつたが、竪穴住居では平均で2m（1～26m）程を測った。

周溝は一重のものが殆どであつたが、八王子149・176は二重であつた。また平面形態が方形を基調とするものは八王子2・149（外）・161・176（内・外）、石塚59、湯田A1・B3、唐樋田1、中内703・707の10軒で、円形を基調とするものは八王

子102・149（内）、湯田B1・B4、早稲田Ⅱ1・Ⅲ1、中内711の7軒、几字状を呈するものは八王子116、三和12、早稲田Ⅲ6の3軒であつた。尚、三和12は南側に鉤形の溝が付属している。周溝の幅は幅広と見られるものが八王子2・116・149（外）・161、湯田B1・B3・B4、早稲田Ⅱ1・Ⅲ6、中内703・707の10軒で、幅狭と見られるものが八王子102・176（内・外）・149（内）、三和12、石塚59、湯田A1、早稲田Ⅲ1、唐樋田1、中内711の10軒11条であつた。また確認面の位置によって差異が出るが、周溝の深さは三和12だけが深く、他の17軒は浅いものであつた。

⑤ 周溝をもつ建物の形態分類

このように県下の周溝を持つ建物の周溝は形態的にバラエティーがあり、分類もできそうであるが、北陸地方に於いては南久和（南1991）、岡本淳一郎（岡本1997）らによって既に周溝の形態分類が試みられている。このうち南は周溝の形状について

A1タイプ 平面形態は馬蹄形または略環状、半環状になっていて、周溝は途切れ出入口となっているもので、「水溜りタイプ」とでもいうべきもの。

A2タイプ 平面形態はA1タイプと同じで、「辺の端部以外のどこか」で他の排水路に連続しているもので、明らかに排水機能を意識して作られているもの。

Bタイプ 周溝の一端が、「の」字と「し」字が連続して「のし」状に他の溝や崖などにつながっており、明らかに排水用の周溝とかがえられるもの。「排（放）水タイプ」とでもいうべきもの。周溝の途中で枝溝がつくものもある。の2種類3形態に分類し、その他「直線状のもの、屈曲しているが圍繞しないものなどがある」としている。また断面形態については「広浅タイプ」と「細深タイプ」に二分されると分類している。

一方、岡本は土坑が連続して周溝状をなし周堤を持つ「土坑タイプ」と周堤を持つ「広溝タイプ」防

湿・排水機能を重視した「狭溝タイプ」に大別している。

下拙は両氏の分類を勘案し、群馬県下の周溝をもつ建物の周溝の形態に鑑みて以下のような分類を考えた。まず周溝のラインについては

囲繞型 周溝が一周するもの（また一周すると想定されるもの）

開口型 周溝の一部（主に南辺）に開口部が見られる、或いは開口部に準じた溝幅の狭まる箇所のあるもの。

馬蹄型 周溝が馬蹄形または几字状を呈するもの。

の3形態に分類し、囲繞型と開口型では更に

方形型 方形、或いは隅丸方形を基調とするもの

円形型 円形を基調とするもの

に分けた。また溝の幅については岡本分類に指摘されたような広狭があるため

広溝型 凡そ150cm以上の溝幅を有するもの

狭溝型 凡そ150cm以下の溝幅であるもの

の2形態に分類した。尚、幅広の方形囲繞型に分類した湯田B3は南分類による「土坑タイプ」の可能性がある。また、溝の深さについては「浅」「深」があるが、後者は三和12の1軒のみであった。

以上の形態分類によって群馬県下の19軒の周溝をもつ建物を分類したのが第241図である。分類した建物は資料の時期が近似することもあって、特に時期差は認められなかった。

⑥ 若干の所見

上記のように群馬県下の“周溝を持つ建物”について形態分類を試みた。以下、こうした作業を通して得られた多少の所見を述べてみたいと思う。

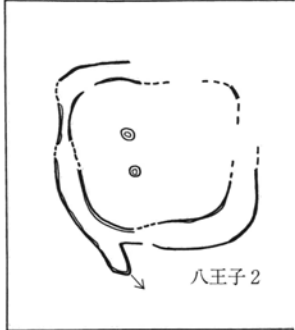

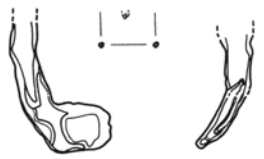
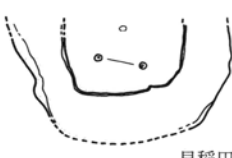


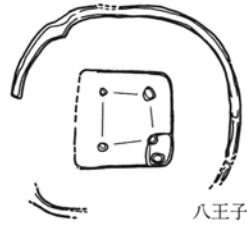
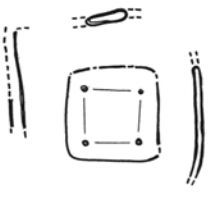




群馬県に於いて、周溝を持つ建物は弥生時代から古墳時代の移行期に突然現れるものであり、前の時期に先行するような遺構の存在を知らない。また確認していない資料も少なくないと思われるのははっきりしたことは申し上げられないが、5形態のうち囲繞型は北陸地方に、開口型は南関東に、馬蹄型は

東海地方に多く見られる。従って周溝を持つ建物は少なくとも東海、北陸、南関東の各地域から持ち込まれた建築方法であろうと判断されるのである。

溝幅について岡本（1997）は、広溝タイプは北陸地方では「ほとんどが平野上に立地し、狭幅タイプも平野上に立地するものが多いが、丘陵上に立地するものも見られる」としている。これに対し群馬県下の周溝をもつ建物でも狭溝型の三和12が台地上に在って、狭溝型、広溝型の双方を含む他の建物が低地部を中心にあることから、群馬県地方でも北陸地方と同様の分布状態のあったことが確認された。また広溝型、狭溝型の周溝は、北陸地方では前者が弥生時代中期中葉から古墳時代前期後半、後者が弥生時代中期後葉から古墳時代前期後半に見られる（岡本1997）ため、群馬県下の例も時期的に齟齬はない。しかし土坑タイプは岡本（1997）によると弥生時代中期前葉から弥生時代後期後半にかけてのものであるため、仮に湯田B1の東側周溝と湯田B3が岡本分類の土坑タイプに属するならば、こうした土木施工が北陸地方で消滅してから少しの間、群馬県地方で続けられていたことになるのである。

また囲繞周溝型と開口周溝型に見られる方形、円形の形態の相違について、及川良彦は弥生時代後期の円形から終末期の隅丸方形、古墳時代前期の方形へ変化する南関東の竪穴住居変遷と一致すると指摘している（及川1999）が、群馬県下では円形型、方形型の双方が（3世紀末葉～4世紀前半期の）同時期に並存し、また県内の弥生時代後期から古墳時代前期の建物のプランは方形または長方形を呈するため、南関東で見られた住居形態の変更に伴う変化としては認められなかった。群馬県地域でのこうした形態の相違については、寧ろ南関東或いは北陸の周溝の掘削形態がそのまま持ち込まれているためではないかと思慮されるのである。



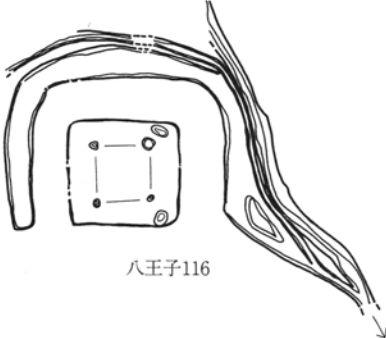


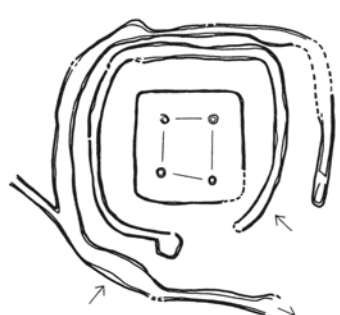
さて、周溝をもつ建物の周溝について岡本淳一郎（岡本1997）は、「土坑タイプと幅広タイプ」は「防湿機能もあるが掘削土を周堤の盛り土とし」、「狭溝タイプは周溝が防湿・排水機能を重視し周堤への盛

	囲繞型		開口
	円形型	方形型	円形型
広溝型	 <p>八王子2</p>	 <p>八王子149</p>	 <p>湯田B 4</p>
	 <p>早稲田II 1</p>	 <p>中内707</p>	 <p>湯田B 1 (土坑タイプか)</p>
狭溝型	 <p>八王子102</p>	 <p>石塚59</p>	 <p>早稲田III 1</p>
	 <p>八王子149</p>	 <p>湯田B 3</p>	 <p>中内711</p>
		(土坑タイプ)	

第241図の1 群馬県地域の周溝をもつ建物の分類

土はされなかった」と解釈している。群馬県地域の建物では狭溝型の周溝の建物であっても周堤が設けられていたと考えるものの、周溝を持つ建物が三和12例を除いて低地部に建築されている点を考慮すれば防湿、防水、排水機能を念頭に置いていた可能性

は大いにあり得ることで、そうした機能を考えるのが一般的であろう。また飯島義雄（飯島2000）は連結溝の存在に着目して連結溝が「雨水対策を主とした排水溝」であると解釈しているが、今回取り上げた県内各遺跡では土地の傾斜が概ね北北西から南南

型		馬蹄型	
方形型			
 <p>八王子161</p>  <p>中内703</p>	 <p>八王子116</p>  <p>早稲田Ⅲ 6</p>	広溝型	
			 <p>湯田A 1</p>  <p>八王子176</p>

第241図の2 群馬県地域の周溝をもつ建物の分類

東方向にあり、開口型や馬蹄型の建物の開口部が南に多いことも流入する雨水対策を裏付けるものと考えられ得るのである。

しかし、中内村前遺跡や湯田遺跡では低地部の中でも谷地を避けて微高地に選地して建築しており、

中内村前遺跡では周溝を持たない堅穴住居も同時に建築されている。更に平地式建物と想定される掘立柱建物が周溝を持つ建物と同時期であるとするならば、単に防水、防湿、排水機能があるからというだけでは説明がつかないように、また建物本体の規模からは主要建物だからともいい切れないように思う。寧ろ下拙は（それが実際にどの程度実用に供したかは別として）周溝を持つ建物跡は防水・防湿・排水機能を伴う建物低地部でのそうした土地に於ける建築施工法の一つと認識されていて、建物建設に当って、東海・北陸・南関東の各地域から伝えられた設計法或いは工法を実際に施工してみたものの痕跡ではなかったかと考えるのである。

⑦ 終わりに

以上のように、群馬県地域の周溝をもつ建物を概観し、若干の考察を試みてきた。紙面と時間的な制約、更には下拙の力不足によって十分な分析、検討を

行うことはできなかったのであるが、上述のように群馬県地域に於ける周溝を持つ建物の建築が、低地部での建物建築に当って、東海、北陸、南関東の各地域で低地部での建物建築で行われていた施工技術・方法が活用され、実際に建築が施されたものであると解釈したのである。中内村前遺跡の周溝をもつ建物についても北陸地方や南関東地域の施工方法が施されたと思われる形態的な特長を見出すことができるのであるが、一方で当該建物の出土遺物にも在地系、東海系（南関

東系)、北陸系の技法が施された土器類を見ることが出来る。こうした状況を見るに、本遺跡に対しては(ヒトの移動の有無は別として)遺物だけではなく、遺構についてもそうした広域からの技術(或いは作法)の流入または導入、そして活用が行われていたことが想定できるように思うのである。

さて、本遺跡に於ける周溝をもつ建物は飯島義雄氏の指摘を受けた調査担当が検討、認定したもので、下拙も妥当であると判断して整理作業を行ってきたものである。発掘調査から整理作業にかけてのこうした判断に大きな間違いはなかったと思うが、本節での検討作業を通して、少なくとも群馬県地域ではある形態を以て単純に周溝を持つ建物とするにはまだまだデータの蓄積が充分ではないように感じたのである。上述のような成果はあったものの、一方で周溝を持つ建物の認定に当っては、飯島義雄が唐樋田1に対して行った(飯島2003)ような詳細な検討を行っていく必要があるように感じるのである。

最後に本節執筆に当って情報の提供などの協力を戴いた同僚の相京建史、友廣哲也、綿貫邦男の各氏に感謝申し上げたい。

註

- 1) 周溝をもつ建物には他にも「周溝を有する建物」といった別の呼び方もあるが、本稿では最初にこうした建物の名称を記した岡本淳一郎(1997)と本県資料を最初に提示した飯島義雄(飯島1998)に倣って「周溝をもつ建物」を使用することとした。
- 2) 加筆修正は報告書の平面図及び同図の等高線、断面図、エレベーション図、報文に基づいて行った。しかし下拙の判断に基づくものなので、報告書に当って比較検討願えれば幸いである。
- 3) 玉村町教育委員会「上之手八王子遺跡」1991 8～23・39～41頁
- 4) 報告書の実測図には貯蔵穴等をもとに復元したとする径8×6m程の建物本体が図示されていたが、周溝との軸方向にズレが見られたため、修正図には採用しなかった。
- 5) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「三和工業団地I遺跡(2)―縄文・古墳・奈良・平安時代他編―」1999 31～37頁
- 6) 玉村町教育委員会「上之手石塚遺跡」2000 6～7頁
- 7) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「横手南川端遺跡・横手湯田遺跡」1991 115～118・121～122頁
- 8) 報告書の実測図には建物本体のラインが図示されていたが、周溝との軸方向にズレが見られたため、また、炉とされる近接した二箇所の焼土跡も図示されていたが、灰の堆積も見られ焼失家屋と判断されたため、共に修正図には採用しなかった。
- 9) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡。横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡」2001 166～173・237～252・257～261頁
- 10) 太田市教育委員会「唐樋田遺跡発掘調査報告書」1999 10～15・84～85頁

11) 周堤については、時代は下るがHr-FP被覆の住居跡でしばしば確認されている。下拙は一般の堅穴住居跡の壁際に見られる所謂三角堆積はその残欠であると解釈(石守晃「堅穴住居と堅穴住居遺構について」『研究紀要17』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999)しており、堅穴掘削時の排土の処理として周堤を設けることは一般的に行われていたと考えている。

文献

- 飯島義雄 1998 「古墳時代前期における「周溝をもつ建物」の意義」『群馬県立歴史博物館紀要 第19号』65～78頁
- 飯島義雄 1999 「古墳時代前期集落の研究における排水溝の意義」『佐藤広史君追悼論文集 一所懸命 佐藤広史君を偲ぶ会 225～235頁』
- 飯島義雄 2003 「古墳時代前期における「周溝をもつ建物」の意義」『利根川 24・25』利根川同人 384～393頁
- 伊藤敏行・及川良彦 1996 「第二章 東京都の方形周溝墓」『関東の方形周溝墓』同成社 71頁
- 今津啓子 1991 「杉中駒太郎氏による建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG89-8)略報」『平成元年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』(財)大阪市文化財協会 129～147頁
- 岡本淳一郎 1997 「『周溝をもつ建物』について」『埋蔵文化財調査概要 ―平成8年度―』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 133～139頁
- 岡本淳一郎 1998 「弥生時代周溝遺構に関する一考察」『富山考古学研究 紀要 創刊号』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 48～50頁
- 及川良彦 1998 「関東地方の低地遺跡の再検討」『青山考古 第15号』青山考古学会 1～34頁
- 及川良彦 1999 「関東地方の低地遺跡の再検討(2)」『青山考古 第16号』青山考古学会 35～66頁
- 及川良彦 2001 「関東地方の低地遺跡の再検討(3)」『青山考古 第18号』青山考古学会 85～144頁
- 加納俊介 1992 「方形周溝墓研究の再出発」『西相模の三・四世紀 方形周溝をめぐって』東海大学校地内遺跡調査団 260頁
- 久々忠義 1981 「6. 江上A遺跡」『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町遺構編―』上市町教育委員会 12～14頁
- 坂口 一 1999 「2 周溝の巡る住居について」『三和工業団地I遺跡(2)―縄文・古墳・奈良・平安時代編―』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 262～265頁
- 嶋村一志 1999 「第VI章 小穴」『豊島馬場遺跡II』東京都北区教育委員会 1999 362-364頁
- 高橋 保 1979 「1. 遺構の性格について」『北陸自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書 下谷地遺跡』新潟県教育委員会 41～42頁
- 長瀬 出 1999 「第V章 第2節 方台部に建物址を伴う「周溝墓」について」『豊島馬場遺跡II』東京都北区教育委員会 1999 353-361頁
- 長瀬 出 1999 「東京都豊島馬場遺跡における「方形周溝墓」の再検討」『法政考古学 第26集』法政考古学会 200 1-26頁
- 福田 聖 1999a 「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(1)―周溝墓とは何かを探るための試み―」『埼玉考古』埼玉考古学会 31～54頁
- 福田 聖 1999b 「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(2)―周溝墓とは何かを探るための試み―」『研究紀要 第15号』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 35～71頁
- 福田 聖 1999c 「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(3)―周溝墓とは何かを探るための試み―」『土曜考古 第23号』土曜考古学研究会 59～80頁
- 福田 聖 2000a 「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(4)―周溝墓とは何かを探るための試み―」『埼玉考古』埼玉考古学会 65～78頁
- 福田 聖 2000b 「方形周溝墓の再発見」(ものが語る歴史3) 同成社

〔おわりに〕

本書では平成9年～10年にかけて行われた中内村前遺跡の発掘調査のうち、5～7区の調査成果を報告した。特に弥生時代から古墳時代にかけての時期の集落址が注目され、考察においても当該期で最近注目されている周溝を持つ建物を取り上げた。本書が第1分冊同様、前橋市南部の歴史研究に活用願えれば幸いである。

ところで、第2分冊作製中に特に印象的な二つのできごとがあった。一つは本年3月末日を持って当遺跡の整理班で活躍してくれた高橋真紀子氏が定年退職を迎えたことである。氏のさらりとした立ち居振舞いは、スムーズな仕事の進行に一役かってくれたものである。長年のご尽力に感謝申し上げたい。

もう一つはとても悲しい出来事だが、本遺跡の発掘調査時のチームリーダー下城正氏が去る5月17日、52歳の若さで逝去されたことである。完成した版下を眺めながら現場で奮闘する氏の姿を思い出し、発掘調査を共にする機会を失ったことに気付き悲しみを新たにした。ご冥福をお祈り申し上げた

い。

さて、第2分冊に伴う整理作業は、煩雑な図面の処理や予定外に出てきた遺物との格闘となった。今回も頼りない担当を支えて整理班諸氏には尽力戴いた。巻末にスナップ写真を掲載して感謝の意を表したい。また飛び込み仕事で保存処理室、写真室、3スペース（機械実測）班の諸氏の手も再三煩わせた。心よりの感謝を申し上げたい。

最後になるが、第2分冊の作製にご支援を賜った日本道路公団、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、いろいろな面で適切な助言、協力を賜った関係各位や同僚諸氏に感謝して稿を閉じたいと思う。

〔参考文献〕（本文掲載分を除く）

石守晃『掘立柱建物の重量に関する一試験』「研究紀要3」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1986

坂口一・三浦京子『奈良・平安時代の土器の編年』「群馬県史研究24」群馬県史編さん委員会1986

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥荒子遺跡」（中沢悟編）2000

中村和男『掘立柱建物の用途を推測するための建築学的アプローチ』「財団法人茨城県教育財団 研究ノート 10号」2001



遺物一覽

遺物一覧

5区の出土遺物

5-1 5区1面の出土遺物

5-1-1号爆烈坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	41-000201	焼夷弾	-	-	筒部・頭部等か

5-1-As-B下水田(覆土)

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000501	施釉陶器碗	口径(10.2) 残高 4.6	体~底部1/3。表裏施釉、貫入	近世か	第11図-1	PL7
2	10-000502	施釉陶器急須	注口径 1.5 残高 4.1	注口部片。内面も施釉。茶漉し部分剥離	近・現代	第11図-2	PL7
3	10-000503	施釉陶器甕捏鉢	底径(20) 残高 3.9	腰~底部破片。内外面施釉。底部上底で内面若干摩耗	現代	第11図-3	PL7

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001501	土師器甕口縁部	1	8	古墳時代前期中心	15	11-001512	陶器碗底部	1	28	
5	11-001502	土師器甕体部	3	4	古墳時代前期中心	16	11-001513	陶器急須体部	1	10	
6	11-001503	土師器壺体部	2	5	古墳時代前期中心	17	11-001514	施釉陶器碗口縁部	3	13	
7	11-001504	土師器甕口縁部	1	6	平安時代中心	18	11-001515	施釉陶器碗体部	2	9	
8	11-001505	土師器甕体部	2	3	平安時代中心	19	11-001516	施釉陶器甕口縁部	1	10	
9	11-001506	土師器坏口縁部	3	5	平安時代中心	20	11-001517	磁器碗口縁部	1	10	江戸時代
10	11-001507	土師器坏体~底部	3	5	平安時代中心	21	11-001518	磁器碗体部	1	2	大正時代
11	11-001508	土師器壺口縁部	1	10	平安時代中心	22	11-001519	磁器碗底部	1	4	現代
12	11-001509	須恵器甕口縁部	1	2		23	21-001301	黒色安山岩剥片	1	2	
13	11-001510	須恵器碗底部	1	8		24	41-000202	鉄片か?	2	2	
14	11-001511	陶器甕体部	1	20		25	91-000401	ボタン	1	1	

5-1-グリット出土遺物

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
250-100As-B下水田グリット出土遺物					
1	11-001520	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
290-075As-B下グリット出土遺物					
2	11-001521	土師器甕体部	1	2	平安時代中心

5-1-東半部

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001522	土師器坏底部	2	3	平安時代中心	2	11-001523	須恵器甕体部	1	52	

5-1-耕作土

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001524	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心	2	11-001525	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心

5-1 5区2面の出土遺物

5-2-11号フクド

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001526	須恵器甕体部	1	120	

5-2-1号井戸

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000504	土師器坏	口径(14.0) 底径(8.6) 器高 1.9	1/4。口縁~体部内面横撫で。底部内面縦撫で。体部外面~底面鋭削り後体部撫で	8世紀後半	第16図-1	PL-7
2	10-000505	土師器甕	口径(20.0) 残高 6.9	口縁~肩部片。コ字状口縁。口縁横撫で。肩部内面縦撫で後指撫で、外面鋭削り	9世紀前半	第16図-2	PL-7

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001527	土師器壺体部	7	31	古墳時代前期中心	6	11-001530	土師器坏口縁部	9	50	平安時代中心
4	11-001528	土師器甕口縁部	6	47	平安時代中心	7	11-001531	土師器坏底部	60	180	平安時代中心
5	11-001529	土師器甕体部	23	40	平安時代中心	8	11-001532	須恵器碗体~底部	3	20	

5-2-2号井戸

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001534	磁器碗口縁部	1	2	現代

5-2-C混下水田(フクド)

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001535	土師器甕体部	9	56	古墳時代前期中心
2	11-001536	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
3	11-001537	土師器甕口縁部	1	20	平安時代中心
4	11-001538	土師器甕体部	29	61	平安時代中心
5	11-001539	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心
6	11-001540	土師器坏体~底部	26	42	平安時代中心
7	11-001541	土師器坏底部	12	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-001542	須恵器甕体部	1	10	
9	11-001543	須恵器碗口縁部	3	10	
10	11-001544	須恵器碗体部	1	2	
11	11-001545	須恵器碗体~底部	2	10	
12	11-001546	瓦	1	30	近・現代
13	31-000101	炭化物	4	2	

5-2面

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000301	石鏡	径 3.1×1.5 厚 0.5	有蓋鏡。縁辺二等辺三角形をなす	黒色頁岩	第19図-1	PL7
2	10-000506	灰釉陶器碗	底径 7.6 残高 2.3	腰部下位から高台部。内面に施釉	10世紀初頭、大原	第19図-2	PL7
3	10-000507	土師器小型甕	口径(9.0) 残高 3.6	口縁~肩部破片。表裏面荒れる。肩部内面指撫で	3世紀末葉	第19図-3	PL7

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001548	土師器甕体部	15	92	古墳時代前期中心
5	11-001549	土師器台付甕口縁部	2	8	古墳時代前期中心
6	11-001550	土師器台付甕体部	1	1	古墳時代前期中心
7	11-001551	土師器壺体部	30	192	古墳時代前期中心
8	11-001552	土師器壺底部	1	30	古墳時代前期中心
9	11-001553	土師器甘部口縁部	1	2	古墳時代前期中心
10	11-001554	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-001555	土師器甕体部	15	62	平安時代中心
12	11-001556	土師器坏口縁部	3	11	平安時代中心
13	11-001557	土師器坏体~底部	24	33	平安時代中心
14	11-001558	土師器坏底部	9	17	平安時代中心
15	11-001559	須恵器甕体部	2	78	
16	11-001560	須恵器碗口縁部	1	10	
17	11-001561	須恵器碗体~高台部	2	30	

5-グリット出土遺物

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
075-085グリット出土遺物					
1	11-001562	土師器甕口縁部	1	1	平安時代中心
2	11-001563	土師器坏体~底部	2	3	平安時代中心
250-080グリット出土遺物					
3	11-001564	土師器甕体部	9	52	古墳時代前期中心
4	11-001565	土師器甕体部	2	2	平安時代中心
5	11-001566	土師器坏体~底部	8	15	平安時代中心
6	11-001567	須恵器碗口縁部	1	10	
7	11-001568	須恵器碗底部	1	35	
250-085グリット出土遺物					
8	11-001569	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
9	11-001570	土師器碗口縁部	1	2	古墳時代前期中心
10	11-001571	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期中心
250-120グリット出土遺物					
11	11-001572	土師器甕口縁部	1	1	平安時代中心
255-080グリット出土遺物					
12	11-001573	土師器甕体部	2	20	古墳時代前期中心
13	11-001574	土師器坏体~底部	5	3	平安時代中心
14	11-001575	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期中心
255-085グリット出土遺物					
15	11-001576	土師器甕体部	7	30	古墳時代前期中心
16	11-001577	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心
17	11-001578	土師器坏体~底部	2	1	平安時代中心
18	11-001579	須恵器碗口縁部	1	9	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
255-100グリット出土遺物					
19	11-001580	土師器甕口縁部	1	9	平安時代中心
20	11-001581	土師器坏底部	1	1	平安時代中心
255-105グリット出土遺物					
21	11-001582	土師器甕体部	1	8	古墳時代前期中心
22	11-001583	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
23	11-001584	土師器坏体部	2	2	平安時代中心
24	11-001585	須恵器甕底部	1	98	
255-120グリット出土遺物					
25	11-001586	土師器台付甕体部	1	2	古墳時代前期中心
26	11-001587	土師器坏体~底部	2	2	平安時代中心
27	11-001588	須恵器高台付碗体~底部	1	10	
28	11-001589	施釉陶器体部	1	2	
255-125グリット出土遺物					
29	11-001590	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心
30	11-001591	土師器坏体~底部	3	2	平安時代中心
270-065グリット出土遺物					
31	11-001592	土師器坏体~底部	1	1	平安時代中心
270-080グリット出土遺物					
32	11-001593	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
33	11-001594	須恵器碗体~底部	1	6	C まじり黒
270-085グリット出土遺物					
34	11-001595	土師器甕口縁部	2	10	古墳時代前期中心
35	11-001596	土師器甕体部	4	10	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
270-085グリット出土遺物					
36	11-001597	土師器坏体~底部	8	17	平安時代中心
37	11-001598	須恵器碗体部	1	2	平安時代中心
38	11-001599	須恵器碗体~底部	6	22	平安時代中心
39	11-001600	須恵器碗口縁部	1	3	平安時代中心
270-100グリット出土遺物					
40	11-001602	土師器甕体部	9	10	古墳時代前期中心
41	11-001603	土師器坏体部	4	2	平安時代中心
270-105グリット出土遺物					
42	11-001604	土師器甕口縁部	1	24	平安時代中心
43	11-001605	土師器甕体部	4	3	平安時代中心
44	11-001606	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心
45	11-001607	土師器坏体~底部	3	20	平安時代中心
46	11-001608	土師器小型壺体部	1	2	平安時代中心
270-120グリット出土遺物					
47	11-001609	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
48	11-001610	土師器甕体部	1	1	古墳時代前期中心
49	11-001611	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心
50	11-001612	土師器坏体~底部	1	1	平安時代中心
270-125グリット出土遺物					
51	11-001613	土師器甕体部	4	5	古墳時代前期中心
52	11-001614	土師器高坏口縁部	1	2	古墳時代前期中心
53	11-001615	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
54	11-001616	土師器坏体~底部	4	2	平安時代中心
55	11-001617	須恵器甕体部	1	20	
270-800グリット出土遺物					
56	11-001618	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
57	11-001619	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
58	11-001620	土師器坏底部	3	6	平安時代中心
275-085グリット出土遺物					
59	11-001621	土師器壺体部	2	5	古墳時代前期中心
60	11-001622	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
61	11-001623	土師器坏底部	2	4	平安時代中心
275-100グリット出土遺物					
62	11-001624	土師器高坏坏部	1	20	古墳時代前期中心
275-120グリット出土遺物					
63	11-001625	土師器壺体部	2	2	古墳時代前期中心
64	11-001626	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
275-125グリット出土遺物					
65	11-001627	土師器甕体部	3	6	古墳時代前期中心
66	11-001628	土師器壺体部	1	3	古墳時代前期中心
67	11-001629	土師器甕体部	2	1	平安時代中心
68	11-001630	土師器坏口縁部	2	3	平安時代中心
69	11-001631	土師器坏底部	3	5	平安時代中心
70	11-001632	須恵器碗体部	2	3	
290-080グリット出土遺物					
71	11-001633	土師器坏口縁部	3	14	平安時代中心
290-090グリット出土遺物					
72	11-001634	土師器甕体部	1	1	古墳時代前期中心
73	11-001635	土師器坏口縁部	3	12	平安時代中心
74	11-001636	土師器坏体~底部	10	14	平安時代中心

6区の出土遺物

6-1 6区1面の出土遺物

6-1-4号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001637	土師器甕体部	2	3	平安時代中心
2	11-001638	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001639	土師器坏体～底部	2	12	平安時代中心

6-1-6号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001640	土師器壺底部	1	10	古墳時代前期中心
2	11-001641	土師器甕口縁部	1	9	平安時代中心
3	11-001642	土師器甕体部	1	7	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001643	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
5	11-001644	土師器坏体～底部	4	14	平安時代中心
6	11-001646	土師器高坏口縁部	1	9	平安時代中心

6-1-9号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001647	土師器坏体～底部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001648	軟質陶器内耳鍋体部	1	19	

6-1-13号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001649	土師器甕体部	5	60	古墳時代前期中心
2	11-001650	土師器台付甕脚部	1	30	古墳時代前期中心
3	11-001651	土師器埴体部	1	4	古墳時代前期中心
4	11-001652	土師器壺口縁部	1	30	古墳時代前期中心
5	11-001653	土師器壺体部	5	50	古墳時代前期中心
6	11-001654	土師器甕口縁部	10	39	平安時代中心
7	11-001655	土師器甕体部	27	109	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-001656	土師器甕底部	1	2	平安時代中心
9	11-001657	土師器坏口縁部	20	74	平安時代中心
10	11-001658	土師器坏体～底部	29	101	平安時代中心
11	11-001659	土師器埴口縁部	2	29	平安時代中心
12	11-001660	須恵器甕体部	5	64	
13	11-001661	須恵器碗口縁部	1	8	
14	11-001662	軟質陶器甕体部	1	37	

6-1-14号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001663	土師器坏体～底部	5	18	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001664	須恵器碗体部	1	1	

6-1-15号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001665	土師器坏口縁部	12	38	平安時代中心
2	11-001666	土師器坏体～底部	17	53	平安時代中心
3	11-001667	須恵器甕口縁部	6	26	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001668	須恵器甕体部	12	31	
5	11-001669	須恵器碗口縁部	2	6	
6	11-001670	須恵器碗体～底部	1	2	

6-1-16号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000302	磨石	残存 6.8×5.5×2.6	河床石破片。研磨痕残る	流紋岩	第24図-1	PL48

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001671	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
3	11-001672	土師器甕体部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001673	土師器坏体～底部	3	16	平安時代中心
5	11-001674	須恵器碗底部	1	5	

6-1-18号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001675	土師器甕体部	2	3	平安時代中心

遺物一覧

6-1-20号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000508	土師器坏	口径(11.3) 器高 4.1	1/6。口縁横撫で。体～底部外面笥削り。内面笥撫で	6世紀後半	第52図-1	PL53
2	10-000509	青磁碗	残存 3.5×2.9 厚 0.45	口縁部破片。凌ぎややだれ、色調やや茶が掛かる	龍泉窯系	第52図-2	PL53
3	10-000510	青磁碗	残存 3.5×3.4 厚 0.4	口縁部破片。凌ぎややだれる	龍泉窯系	第52図-3	PL53
4	10-000511	青磁壺	残存 3.7×4.4 厚 1.0	肩部破片。残高4.2cm。色調やや茶が掛かる	龍泉窯系	第52図-4	PL53
5	10-000512	軟質陶器鉢	口径(32.4) 器高 14.8	1/6。口縁～腰部中心に1/6。表裏面撫で調整。腰部外面指撫で痕顕著。体部外面に「×」の刻。内面下位磨耗痕顕著	15世紀後半頃	第52図-5	PL53
6	10-000513	軟質陶器鉢	残存 8.2×8.2 厚 1.55	片口付近破片。口端部平ら。内面の片口右に菊紋の刻印	15世紀前半頃か	第52図-6	PL53
7	10-000514	軟質陶器鉢	残存 12.3×8.8 厚 1.3	口縁部破片。口縁部平。内面口端近くに菊紋の刻印。外面に笥の当り痕残る	15世紀前半頃か	第52図-7	PL53
8	10-000515	軟質陶器鉢	残存 8.6×6.7 厚 0.95	片口付近破片。器肉やや薄く、口端部丸まる	15世紀後半頃か	第52図-8	PL54
9	10-000516	軟質陶器鉢	残存 9.0×9.0 厚 1.1	口縁部破片。器肉やや薄く、口端部丸まる	15世紀後半頃か	第52図-9	PL54
10	10-000517	軟質陶器鉢	残存 9.9×12.5 厚 1.1	口縁～体部破片。器肉やや薄く、口縁部平らで内に尖る	15世紀後半頃か	第52図-10	PL54
11	10-000518	焼締陶器甕	残存 14.2×11.2 残高 11.0	口縁破片。常滑産。口端部外反して上下両端に引かれる		第52図-11	PL54
12	10-000519	軒平瓦	残存 11.7×6.5 厚 1.2	上縁残る破片。厚薄い。外面笥調整、内面に布目痕残る		第52図-12	PL54
13	20-000303	石製鉢	口径(27.4) 器高 10.4	1/5。幅 2cm程の片口付く。内面磨耗痕顕著	粗粒輝石安山岩	第52図-13	PL54
14	20-000304	石製鉢	口径(30.0) 器高 12.8	1/4。上面研磨により平ら。腰～底部内面に磨痕	粗粒輝石安山岩	第52図-14	PL56
15	20-000305	石臼	口径(22.0) 器高 8.3	上臼1/4。下側側縁欠損。磨合せ面磨耗顕著。径 5cm程の供給孔一部残る	粗粒輝石安山岩	第52図-15	PL55
16	20-000306	石臼	残存 9.4×6.7×5.9	上臼破片。磨合せ面残る	粗粒輝石安山岩	第52図-16	PL55
17	20-000307	五輪塔風輪	径 11.2×1.20 残高 14.3	空輪部と基部半面欠損。横断面隅丸方形様。茎部上端に幅 1.5cm、深さ 1mm強の溝廻る	粗粒輝石安山岩	第52図-17	PL54
18	20-000308	砥石	径 4.8×4.6 残長 7.1	上下側欠損。表・左右側面に研磨痕跡。表左側面に削痕残り、裏面は削りによる整形痕残る	砥沢石	第52図-18	PL55
19	20-000309	砥石	径 3.0×2.7 残長 9.9	下位欠損。表裏・左右側面に研磨痕、右側面に削痕残る	砥沢石	第52図-19	PL56
20	20-000310	砥石	径 3.4×3.0 残長 10.3	下部欠損し、裏面剥離。表裏・左右側面に研磨痕残る。中位は研磨進み、径2.1×1.5cmと狭まる	デイスait	第53図-20	PL55
21	20-000311	砥石	径 3.2×2.9 残長 4.4	上端付近破片。欠損多し。表裏・左右面に研磨面残る	砥沢石	第53図-21	PL55
22	20-000312	砥石	径 2.7×2.5 残長 2.7	上下位欠損。表面と左右側面に研磨面残る	砥沢石	第53図-22	PL55
23	20-000313	敲石	4.3×3.5×9.65	上下端部と表面に敲打痕、表裏面に狭い研磨痕残る	粗粒輝石安山岩	第53図-23	PL55
24	20-000314	敲石	3.6×3.05×11.05	上下両端に敲打痕残り、表面が研磨面となって平らになっている	粗粒輝石安山岩	第53図-24	PL56
25	20-000315	磨石	4.5×4.3×4.4	球状を呈し、全面に磨耗痕残る。側面を中心に敲打痕見られる	粗粒輝石安山岩	第53図-25	PL56
26	40-000202	碗型鉄滓	9.4×8.9×3.3	鉄分多い		-	PL55

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
27	11-001676	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心	38	11-001687	須恵器碗底部	1	48	灰釉
28	11-001677	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心	39	11-001688	焼締陶器甕体部	21	1718	
29	11-001678	土師器甕体部	6	57	平安時代中心	40	11-001689	軟質陶器鉢口縁部	9	790	
30	11-001679	土師器坏口縁部	5	13	平安時代中心	41	11-001690	軟質陶器鉢体部	11	123	
31	11-001680	土師器坏体～底部	12	46	平安時代中心	42	11-001691	軟質陶器鉢底部	7	1223	
32	11-001681	土師器坏底部	1	4	平安時代中心	43	11-001692	軟質陶器内耳鍋体部	1	44	
33	11-001682	土師器壺口縁部	1	15	平安時代中心	44	11-001693	肥前磁器	1	14	
34	11-001683	土師器高坏脚部	1	46	平安時代中心	45	21-001302	板破片	1		
35	11-001684	土師器高坏底部	1	4	平安時代中心	46	21-001303	石	10	2328	
36	11-001685	須恵器甕体部	1	132		47	31-000102	自然木			
37	11-001686	須恵器高台付碗体～底部	2	12	平安時代						

6-1-21号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000520	土師器高坏	最大径 7.2 残高 8.0	裾部除く脚部片。紋り後外面笥磨き、内面指撫で	5世紀	第54図-1	PL56
2	20-000316	打製石斧	11.8×(7.7)×2.4	分銅型。一部欠損。左右非対称	黒色頁岩	第54図-2	PL58
3	10-000521	軟質陶器鉢	底径(12.5) 残高 6.8	腰～底部1/3。器肉厚い。外面に指頭痕残り、内面磨痕顕著	14世紀か	第54図-3	PL56
4	10-000522	軟質陶器鉢	残存 14.8×8.7 厚 1.1	口縁～体部破片。器肉やや薄い。内面下位に磨痕	15世紀後半か	第54図-4	PL56
5	20-000317	砥石	残存 15.0×7.9× 16.6	大型の砥石片。上面に凹面となった研磨面を残す	粗粒輝石安山岩	第54図-5	PL57
6	20-000318	砥石	径 1.9×1.8 残長 5.5	両端側欠損。泥付着。上下・左右の4面に研磨面残す	砥沢石	第54図-6	PL57
7	20-000319	台石	残存 6.5×9.1×6.4	直方体の石材使用。上面に研磨面を持つ	ひん岩	第54図-7	PL57
8	20-000320	石臼	径(26.0) 器高 7.9	下臼3/5。非貫通の心棒孔穿たれ、径1.7cm。底面凹面	粗粒輝石安山岩	第54図-8	PL57

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-001694	土師器甕体部	4	23	古墳時代前期中心
10	11-001695	土師器壺体部	1	18	古墳時代前期中心
11	11-001696	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
12	11-001697	土師器坏体～底部	12	37	平安時代中心
13	11-001698	土師器高坏脚部	1	50	平安時代中心

6-1-22号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001703	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001704	土師器甕体部	2	4	平安時代中心

6-1-23号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001707	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
2	11-001708	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
3	11-001709	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心

6-1-25号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001712	土師器甕口縁部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001713	土師器甕体部	3	14	古墳時代前期中心
3	11-001714	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心
4	11-001715	土師器壺体部	3	90	古墳時代前期中心

6-1-26号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001719	土師器甕体部	1	20	古墳時代前期中心
2	11-001720	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心
3	11-001721	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心

6-1-27号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001723	土師器甕体部	2	22	古墳時代前期中心
2	11-001724	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
3	11-001725	土師器甕体部	6	8	平安時代中心

6-1-29号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000321	打製石斧	残存 6.3×3.4 厚1.1	小型の短冊型。一端欠損	細粒輝石安山岩	第25図-1	PL48

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001728	弥生壺底部	1	6	
3	11-001729	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

6-1-30号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001731	土師器甕体部	1	30	古墳時代前期中心

6-1-31号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001732	土師器甕体部	1	20	古墳時代前期中心
2	11-001733	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心
3	11-001734	土師器甕体部	6	22	平安時代中心
4	11-001735	土師器坏口縁部	5	11	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
14	11-001699	須恵器甕体部	1	42	
15	11-001700	軟質陶器鉢口縁部	2	87	
16	11-001701	軟質陶器鉢体部	2	414	
17	11-001702	軟質陶器鉢底部	13	1044	
18	21-001304	石	2	2457	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001705	土師器坏口縁部	3	4	平安時代中心
4	11-001706	土師器坏体～底部	3	11	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001710	土師器坏体～底部	2	6	平安時代中心
5	11-001711	須恵器甕体部	1	55	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001716	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心
6	11-001717	土師器甕体部	1	8	平安時代中心
7	11-001718	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001722	須恵器甕体部	1	70	
5	21-001305	石	2	13	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001726	土師器坏口縁部	7	32	平安時代中心
5	11-001727	土師器坏体～底部	6	38	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001730	土師器坏体～底部	2	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001736	土師器坏体～底部	10	20	平安時代中心
6	11-001737	須恵器甕体部	3	86	
7	11-001738	須恵器甕壺頸部	1	6	
8	21-001306	石	1	60	

遺物一覧

6-1-32号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001739	土師器甕底部	1	53	古墳時代前期中心

6-1-33号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001740	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001741	土師器甕体部	3	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001742	土師器坏体~底部	5	7	平安時代中心
4	11-001743	須恵器甕体部	2	15	

6-1-44号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001744	土師器甕口縁部	2	10	古墳時代前期中心
2	11-001745	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
3	11-001746	土師器甕底部	1	30	古墳時代前期中心
4	11-001747	土師器甕口縁部	17	65	平安時代中心
5	11-001748	土師器甕体部	76	161	平安時代中心
6	11-001749	土師器坏口縁部	31	89	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-001750	土師器坏体~底部	78	118	平安時代中心
8	11-001751	須恵器甕口縁部	7	49	
9	11-001752	須恵器甕体部	10	230	
10	11-001753	須恵器碗底部	9	76	
11	11-001754	軟質陶器甕体部	5	79	

6-1-72号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	21-001307	石	3	67	

6-1-1土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001755	土師器壺体部	2	20	古墳時代前期中心
2	11-001756	土師器壺底部	1	50	古墳時代前期中心
3	11-001757	土師器器台脚部	1	50	古墳時代前期中心
4	11-001758	土師器甕口縁部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001759	土師器甕体部	9	20	平安時代中心
6	11-001760	土師器坏底部	6	10	平安時代中心
7	11-001761	須恵器高台付碗高台部	1	3	

6-1-3土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001762	土師器甕体部	1	1	平安時代中心

6-1-7土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000523	かわらけ	口径 8.0 器高 1.9	右回転轆轤成形。底面寛調整。口縁部に煤付着。	15世紀末~16世紀	第29図-1	PL48
2	10-000524	かわらけ	口径 8.0 器高 1.8	回転轆轤成形。底面寛調整。口縁部に煤付着。	15世紀末~16世紀	第29図-2	PL48
3	40-000203	銅銭「大定通宝」	径 2.525×2.515 厚 0.125	本銭	初鑄821年	第29図-3	PL48
4	40-000204	銅銭「開元通宝」か	径 測定不可 厚 0.120	破片。本銭の可能性有り	初鑄1179年	第29図-4	PL48
5	40-000205	銅銭「元祐通宝」	径 2.440×2.440 厚 0.135	銭文は鑄写しで判読が難しく、裏面は平らである	模鑄銭	第29図-5	PL48
6	40-000206	銅銭「元符通宝」	径 2.390×2.340 厚 0.145	銭文は鑄写しで判読が難しい。赤銅質で裏面のはやや平ら	模鑄銭	第29図-6	PL48
7	40-000207	銅銭「元(符)通宝」	径 2.410×2.425 厚 0.200	銭文は鑄写しで判読が難しい。孔は狭く裏面は平らである。厚い	模鑄銭	第29図-7	PL48
8	40-000208	銅銭「政和通宝」	径 2.420×2.425 厚 0.140	孔は丸孔で、裏面やや平らである	模鑄銭	第29図-8	PL48
9	40-000209	銅銭「洪武通宝」	径 2.300×2.305 厚 0.160	銭文は判読難。孔は狭く、銭肌もやや荒れている。厚い	模鑄銭	第29図-9	PL48
10	40-000210	銅銭「永楽通宝」	径 2.520×2.500 厚 0.145	孔小さく、銭肌やや荒れる。仕上げやや不良	模鑄銭	第29図-10	PL48
11	40-000211	銅銭「朝鮮通宝」	径 2.360×2.395 厚 0.155	孔小さく、銭文は鑄写しか。仕上げやや不良	模鑄銭	第29図-11	PL48
12	40-000212	銅銭「□□通宝」	径 2.405×2.430 厚 0.160	銭文判読困難。赤銅質で厚い。裏面平ら	模鑄銭	第29図-12	PL48
13	40-000213	銅銭	径 2.455 厚 0.135	銭文判読不能。鑄溜まり見られ、不足箇所有り。裏面平ら	模鑄銭	第29図-13	PL48
14	40-000214	銅銭	径 2.425×2.400 厚 0.135	銭文判読不能。赤銅質。銭肌荒れ、裏面平ら	模鑄銭	第29図-14	PL48
15	40-000215	銅銭	厚 0.125	破片。銭文判読不能。仕上げ不良。裏面平ら	模鑄銭	第29図-15	PL48
16	40-000216	銅銭	径 2.340×2.375 厚 0.155	銭文不詳。銭肌荒れる。裏面はやや平らである	模鑄銭	第29図-16	PL49
17	40-000217	銅銭	径 2.400 厚 0.1135	銭文判読不能。仕上げ・銭肌やや不良。裏面平らである	模鑄銭	第29図-17	PL48

遺物一覧

6-1-8土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001763	土師器甕体部	5	30	平安時代中心
2	11-001764	土師器甕底部	1	2	平安時代中心
3	11-001765	土師器坏底部	2	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001766	土師器埴口縁部	1	5	平安時代中心
5	11-001767	須恵器碗口縁部	1	10	

6-1-9土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001768	土師器甕口縁部	6	30	平安時代中心
2	11-001769	土師器甕体部	2	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001770	土師器坏口縁部	4	20	平安時代中心
4	11-001771	土師器坏体～底部	7	10	平安時代中心

6-1-11土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図番番号	図版番号
1	10-000525	土師器坏	口径(13.4) 残高 3.9	1/4。口縁～体部内面横撫で。底部内面縦撫で。体部外面 底面削り後体部撫で	9世紀前半	第63図-1	PL58

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001772	土師器甕口縁部	5	10	平安時代中心
3	11-001773	土師器甕体部	26	91	平安時代中心
4	11-001774	土師器坏体～底部	33	92	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001775	須恵器坏口縁部	11	20	
6	11-001776	須恵器碗口縁部	2	10	
7	11-001777	須恵器碗底部	1	4	

6-1-12土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001778	土師器甕口縁部	2	10	平安時代中心
2	11-001779	土師器甕体部	9	30	平安時代中心
3	11-001780	土師器甕底部	1	10	平安時代中心
4	11-001781	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001782	土師器坏底部	14	20	平安時代中心
6	11-001783	須恵器碗口縁部	2	4	
7	11-001784	須恵器壺体部	1	2	

6-1-14土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001785	土師器壺体部	2	40	古墳時代前期中心
2	11-001786	土師器埴口縁部	1	20	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001787	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
4	11-001788	土師器坏底部	2	4	平安時代中心

6-1-27土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001789	土師器甕体部	2	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001790	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

6-1-30土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001791	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001792	土師器甕体部	1	5	平安時代中心

6-1-33土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001793	土師器甕体部	4	4	平安時代中心
2	11-001794	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001795	土師器坏体～底部	2	4	平安時代中心

6-1-35土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001796	土師器坏体～底部	3	25	平安時代中心

6-1-37土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001797	土師器坏体～底部	5	21	平安時代中心

遺物一覧

6-1-41・42土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001798	土師器壺体部	1	30	古墳時代前期中心
2	11-001799	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001800	土師器坏体～底部	1	3	平安時代中心

6-1-43土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001801	須恵器碗口縁部	1	6	

6-1-47土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001802	土師器坏体～底部	1	6	平安時代中心
2	11-001803	須恵器壺体部	1	12	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-0001804	灰釉陶器碗	1	3	

6-1-52土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001805	土師器甕口縁部	1	11	古墳時代前期中心

6-1-54・65土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001806	土師器甕体部	1	5	平安時代中心

6-1-53土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001807	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心
2	11-001808	土師器坏体～底部	2	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001809	器種特定できず	1	1	

6-1-55土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001810	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-001811	土師器甕体部	3	12	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001812	土師器坏体～底部	6	21	平安時代中心

6-1-56～59土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000322	磨石	4.2×3.8×13.0	河床礫使用。左右側面に研磨面残す	砂岩	第33図-1	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001813	土師器台付甕口縁部	1	36	古墳時代前期中心
3	11-001814	土師器甕体部	3	10	平安時代中心
4	11-001815	土師器甕底部	1	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001816	土師器坏口縁部	1	9	平安時代中心
6	11-001817	土師器坏体～底部	3	8	平安時代中心
7	11-001818	須恵器甕体部	1	14	

6-1-60・76土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000526	灰釉陶器碗	底径 8.5 残高 2.6	腰～底部1/3。内外面釉残る	10世紀初頭、大原	第34図-1	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001819	土師器壺体部	1	4	古墳時代前期中心
3	11-001820	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001821	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
5	11-001822	土師器坏体～底部	6	12	平安時代中心

6-1-66土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001823	土師器甕体部	2	9	平安時代中心
2	11-001824	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001825	土師器坏体～底部	12	26	平安時代中心

遺物一覽

6-1-67土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001826	土師器甕体部	2	15	古墳時代前期中心
2	11-001827	須恵器甕体部	1	157	

6-1-69土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001829	土師器甕体部	2	18	平安時代中心
2	11-001830	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

6-1-70土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001832	土師器坏体~底部	1	22	平安時代中心

6-1-72土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001833	土師器甕体部	2	5	古墳時代前期中心
2	11-001834	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
3	11-001835	土師器甕体部	1	3	平安時代中心

6-1-74土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001839	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心

6-1-75土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001841	土師器甕体部	1	14	古墳時代前期中心

6-1-79土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001843	土師器甕体部	1	19	古墳時代前期中心
2	11-001844	土師器坏体~底部	4	9	平安時代中心

6-1-84・85土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001846	土師器甕体部	2	5	平安時代中心

6-1-86土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001848	土師器甕体部	2	6	平安時代中心
2	11-001849	土師器坏体~底部	2	7	平安時代中心

6-1-89土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001851	土師器甕体部	3	15	古墳時代前期中心
2	11-001852	土師器壺体部	3	40	古墳時代前期中心
3	11-001853	土師器甕体部	3	4	平安時代中心

6-1-99・100土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001857	土師器甕口縁部	1	23	平安時代中心

6-1-67・68土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001828	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001831	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001836	土師器坏口縁部	2	14	平安時代中心
5	11-001837	土師器坏口縁部	2	22	在地
6	11-001838	土師器坏体~底部	1	13	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001840	土師器台付甕脚部	1	5	古墳時代前期中心

6-1-78土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001842	土師器甕体部	1	1	古墳時代前期中心

6-1-80土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001845	土師器坏体~底部	2	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001847	須恵器碗体~底部	2	4	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001850	須恵器碗体~底部	1	5	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001854	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
5	11-001855	土師器坏体~底部	4	9	平安時代中心
6	11-001856	須恵器甕体部	1	13	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001858	土師器甕体部	2	9	平安時代中心

遺物一覽

6-1-103土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001859	土師器坏口縁部	1	9	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001860	土師器坏体~底部	1	4	平安時代中心

6-1-104土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001861	土師器壺口縁部	1	50	古墳時代前期中心
2	11-001862	土師器甕口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-001863	土師器甕体部	2	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001864	土師器坏口縁部	1	7	平安時代中心
5	11-001865	土師器坏体~底部	3	6	平安時代中心
6	11-001866	須恵器碗底部	1	25	

6-1-105土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001867	土師器甕体部	2	20	古墳時代前期中心
2	11-001868	土師器甕口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-001869	土師器甕体部	11	22	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001870	土師器坏口縁部	3	14	平安時代中心
5	11-001871	土師器坏体~底部	7	26	平安時代中心
6	11-001872	須恵器甕体部	1	3	

6-1-106土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001873	土師器甕体部	2	5	平安時代中心
2	11-001874	土師器坏体~底部	6	16	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001875	須恵器碗体部	1	5	

6-1-106土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001876	土師器甕体部	1	8	平安時代中心
2	11-001877	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001878	土師器坏体~底部	3	10	平安時代中心
4	11-001879	須恵器甕口縁部	2	12	

6-1-114土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001880	土師器甕体部	2	48	古墳時代前期中心
2	11-001881	土師器甕体部	1	5	平安時代中心

6-1-115土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001882	土師器壺体部	1	8	古墳時代前期中心
2	11-001883	須恵器甕体部	2	29	

6-1-116土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001884	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001885	土師器坏体~底部	2	5	平安時代中心

6-1-125・126土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001886	土師器甕体部	5	50	古墳時代前期中心
2	11-001887	土師器甕体部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001888	土師器坏口縁部	1	4	平安時代中心
4	11-001889	土師器坏体~底部	4	11	平安時代中心

6-1-133土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001890	土師器甕体部	1	12	平安時代中心

6-1-149土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001891	土師器甕口縁部	1	1	平安時代中心
2	11-001892	土師器甕体部	1	7	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001893	土師器坏体~底部	5	15	平安時代中心

遺物一覧

6-1-150土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	50-000601	焼骨	1.5×3.5×0.5	長骨片	人骨か	-	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001894	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心

6-1-151土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001895	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心

6-1-152土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000527	焼締陶器磨皿	底径 8.0 残高 1.1	底部。右回転軸整形。内面に格子状の卸目、軸垂	近世	第64図-1	PL58
2	30-000101	木片	1.9×1.2×8.1	破片。削り痕残る	杭か	-	PL58

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001896	土師器甕口縁部	3	38	平安時代中心
4	11-001897	土師器甕体部	10	42	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001898	土師器坏口縁部	1	10	平安時代中心
6	11-001899	土師器坏体～底部	5	9	平安時代中心

6-1-153土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001900	土師器甕体部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001901	土師器坏体～底部	2	12	平安時代中心

6-1-156土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001902	土師器甕体部	2	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001903	土師器坏体～底部	3	14	平安時代中心

6-1-157土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001904	土師器壺体部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001905	土師器台付甕底～脚部	1	40	古墳時代前期中心

6-1-162土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-0001906	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心

6-1-169土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001907	土師器甕体部	2	3	平安時代中心
2	11-001908	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001909	須恵器甕体部	1	27	
4	11-001910	須恵器碗口縁部	1	4	

6-1-172土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000528	土師器甕	口径(21.4) 残高 6.5	口縁～肩部片。口縁横撫で。肩部内面斲撫で、外面斲削り	8世紀後半	第151図-1	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001911	土師器甕体部	7	29	平安時代中心
3	11-001912	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001913	土師器坏体～底部	4	22	平安時代中心

6-1-173土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001914	土師器甕体部	2	14	平安時代中心
2	11-001915	土師器坏口縁部	3	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001916	土師器坏体～底部	2	12	平安時代中心

遺物一覧

6-1-176土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001917	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心	2	11-001918	土師器坏体~底部	1	12	平安時代中心

6-1-179土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000529	須恵器坏	口径(12.1) 器高 4.1	1/4. 回転轆轤整形。底面糸切り。内外面黒色処理	9世紀前半	第37図-1	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001919	土師器甕体部	1	20	古墳時代前期中心	5	11-001922	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-001920	土師器壺体部	1	18	古墳時代前期中心	6	11-001923	須恵器碗口縁部	1	2	
4	11-001921	土師器甕体部	1	7	平安時代中心						

6-1-1井戸

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	30-000102	つるべ把手か	径 4.0×2.0 長さ 28.1	両端近くに径5mm程と中央上位に径3mm程の穿孔。一部に削り痕残る。	右側表面炭化	第40図-1	PL49

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001924	土師器甕体部	1	20	古墳時代前期中心	5	11-001927	土師器坏体~底部	1	1	平安時代中心
3	11-001925	土師器壺体部	2	16	古墳時代前期中心	6	11-001928	軟質陶器鉢口縁部	1	118	
4	11-001926	土師器甕口縁部	3	14	平安時代中心						

6区1面遺構外の遺物

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000530	土師器坏	口径(12.5) 器高(2.5)	1/2. 口縁横撫で。体~底部外面寛削り。	8世紀後半	第45図-1	PL49
2	10-000531	土師器坏	口径(12.6) 器高 3.9	破片。口縁横撫で。体~底部外面寛削り、内面撫で後暗紋施紋	9世紀前半	第45図-2	PL49
3	10-000532	土師器坏	口径(11.2) 器高 3.1	破片。口縁横撫で。体~底部外面指撫でと寛削り、内面撫で後暗紋施紋	9世紀前半	第45図-3	PL49
4	10-000533	土師器坏	口径(11.3) 器高 3.9	1/3. 口縁横撫で。体~底部外面寛削り、内面撫で。底部内面に「×」の刻書	9世紀前半	第45図-4	PL49
5	10-000534	土師器坏	口径(13.6) 器高 3.6	破片。口縁横撫で。体~底部外面指撫でと寛削り、内面撫で	9世紀前半	第45図-5	PL51
6	10-000535	土師器坏	口径(12.5) 器高 4.3	破片。口縁横撫で。体~底部外面寛削り、内面撫で	9世紀前半	第45図-6	PL50
7	10-000537	土師器坏	口径 12.5 器高 3.5	1/2. 口縁横撫で。体~底部外面寛削り、内面撫でで漆塗布痕残る	9世紀後半	第45図-7	PL50
8	10-000536	土師器坏	口径(12.4) 器高 3.0	1/3. 口縁横撫で。体~底部外面寛削り、内面撫で	9世紀前半	第45図-8	PL50
9	10-000538	漆付き土師器坏	残存 2.4×1.2 厚 0.4	土師器坏底部破片。内面に漆皮膜付着	漆工関連か	第45図-9	PL51
10	10-000539	須恵器坏	底径 7.1 厚 0.9	回転轆轤整形。底面回転寛削り	8世紀前半	第45図-10	PL50
11	10-000540	須恵器坏	口径(13.9) 器高 3.6	1/6. 右回転轆轤整形。回転糸切り。底面に指頭痕残る	9世紀後半	第45図-11	PL50
12	10-000541	須恵器碗	口径(13.7) 底径(8.0) 器高 4.5	1/4. 右回転轆轤整形。回転糸切り後、底面周縁に回転寛調整。酸化焙焼成。内面磨きで吸炭による黒色処理。底面に「方」の墨書	10世紀後半	第45図-12	PL51
13	10-000542	須恵器碗	底径(7.0) 残高 3.4	体~底部1/4. 右回転轆轤整形。回転糸切り	11世紀前半	第45図-13	PL50
14	10-000543	土師器高坏	口径(11.4) 器高(8.6)	坏底面の突起を脚で巻いて装着。坏部内面・脚部外面上位寛磨き。坏部外面指撫で、脚部内面指撫で	4世紀前半	第45図-14	PL51
15	10-000544	土師器高坏	口径 9.6 裾径 8.0 器高 7.4 脚高 2.4	焼成良好。脚部内面に黒漆塗布痕。口縁高く脚部短。口縁横撫で。脚部外面・体~底部内面指撫で。頭部外面・脚部内面指撫で	6世紀前半	第45図-15	PL51
16	10-000545	土師器台付甕	脚裾径 7.3 残高 5.6	焼成良好腰~脚部片。甕部外面寛削り、内面指撫で。脚部横撫で後、内面指撫で	9世紀後半	第45図-16	PL51
17	10-000546	土師器甕	径 6.4×4.1 厚 0.45	体部破片。外面に粘土(竈天井材か)、煤付着	9世紀	第45図-17	PL51
18	10-000547	須恵器羽釜	口径(-) 残高 10.6	口縁~体部破片。吉井型羽釜。酸化焙焼成	10世紀後半	第45図-18	PL51
19	10-000548	須恵器平瓶	底径 5.2 器高 4.5	水滴に使用か。角材△形の摘み付き、無口縁垂直気味	8世紀前半	第46図-19	PL51
20	10-000549	かわらけ	口径 7.2 器高 1.8	灯明皿。左回転轆轤整形。口縁に煤付着	15世紀後半	第46図-20	PL51
21	10-000550	軟質陶器鉢	残存幅 10.9 残高 9.1	口縁や内湾し、口端尖る。使用痕顕著	14世紀後半	第46図-21	PL51
22	10-000551	軟質陶器鉢	残存幅 13.0 残高 7.3	口端丸まる。使用痕残る	15世紀前半	第46図-22	PL51
23	20-000324	石鏃	長 1.8 幅 1.3 厚 0.2	小型の無茎鏃。面として湾曲が見られる	チャート	第46図-23	PL51
24	20-000325	砥石	残長 5.3 幅 3.9 厚 1.8	下位欠損、割れ口残る。上面と左側面に鋸痕。表裏左右面に研磨痕。残存部下端は厚3.4mmと薄くなるまで使用。	流紋岩	第46図-24	PL52
25	20-000326	砥石	残存 1.2×3.3×2.4	先端部破片。左側欠損。表裏に研磨面残る	砥沢石	第46図-25	PL52

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
26	20-000327	敲石	11.2×5.4×4.4	上端に敲打痕、右側面に研磨痕残り、中位に磨耗痕廻る	粗粒輝石安山岩 こも編み石に転用	第46図-26	PL52
27	20-000328	敲石	8.4以上×5.2×(4.8)	下位欠損。上端に敲打痕。中位に磨耗痕廻る	粗粒輝石安山岩 こも編み石に転用	第46図-27	PL52
28	20-000329	敲石	10.9×5.4×3.5	下端欠損。上端に敲打痕。右側面に研磨伴う抉れ。磨耗痕廻る	ひん岩 こも編み石に転用	第46図-28	PL52
29	20-000330	敲石	12.5×5.8×4.1	表裏側面に敲打痕残り。表面に6.4×5.1cmの研磨面	珪質頁岩 こも編み石に転用	第46図-29	PL52
30	20-000331	磨石	9.9×9.1×3.2	表面に研磨面。裏面に弱い研磨面	文象斑岩	第47図-30	PL52
31	20-000332	台石	残存 8.0×6.4×3.3	破片。表面に煤、鉄片付着	鍛冶に使用か 凝灰質砂岩	第47図-31	PL51
32	20-000333	こも編み石	8.4×3.2×1.8	中位に磨耗痕廻る	輝緑岩	第47図-32	PL52
33	20-000335	こも編み石	8.8×3.8×2.4	中位に磨耗痕廻る	ひん岩	第47図-33	PL52
34	20-000334	こも編み石	14.8以上×6.1×4.0	中位に磨耗痕廻る	細粒輝石安山岩	第47図-34	PL52
35	40-000218	銅銭「永楽通宝」	径 測定不能 厚 0.130	破片。本銭。	初鑄。1408年	第47図-35	PL52
36	40-000219	銅銭「朝鮮通宝」	径 2.410×2.410 厚 0.130	孔やや狭い。不足箇所ある可能性あり。裏面やや平ら	模鑄銭か	第47図-36	PL52
37	40-000220	銅銭「皇武通宝」か	径 2.325×2.310 厚 0.160	銭文判読難。孔丸孔。銭肌荒れ、鑄溜まりあり。裏面平らで厚い	模鑄銭	第47図-37	PL52
38	40-000221	銅銭「皇宗通宝」	径 2.360 厚 0.135	銭文判読やや難。仕上げ不良。銭肌やや荒れ、裏面やや平ら	模鑄銭	第47図-38	PL52
39	40-000222	銅銭「祥符元宝」	径 2.445×2.440 厚 0.130	鑄写し。孔小さく、裏面やや平ら	模鑄銭	第47図-39	PL52
40	40-000223	銅銭「□□通宝」	径 測定不能 厚 0.145	銭文判読困難。銭肌荒れ、裏面平ら	模鑄銭	第47図-40	PL52
41	40-000224	銅銭「□□通宝」	径 2.260 厚 0.100	銭文判読困難。丸孔気味。裏面やや平ら	模鑄銭	第47図-41	PL52
42	40-000225	銅銭	径 2.440×2.540 厚 0.189	銭文判読不能。孔小さく、鑄溜まり残る。裏面やや平ら	模鑄銭	第47図-42	PL53
43	40-000226	銅銭	径 2.250×2.330 厚 0.140	銭文判読不能。仕上げやや不良。孔やや小さく、丸孔気味。裏面平ら	模鑄銭	第48図-43	PL53
44	40-000227	銅銭	径 測定不能 厚 0.115	銭文判読不能。銭肌荒れ、仕上げやや不良。裏面平ら	模鑄銭	第48図-44	PL53
45	40-000228	鉄鏃	残径 4.5×3.1 厚 0.7	逆刺の深い闊袂の平根鏃。先端と逆刺・茎端部は欠損	中世か	第48図-45	PL53
46	40-000229	刀子	径 0.7×0.7 残長 6.2	茎部破片。角柱状を呈し、先端で刃側で狭まる	第48図-46	PL53	
47	40-000230	角釘	径 0.6×0.5 残長 10.8	両端欠損。上側横断面円形を呈す	5寸釘か	第48図-47	PL53
48	40-000231	鉄製品	径 1.0×0.6 残長 5.6	両端欠損。扁平な箱形で両端が表裏逆方向に薄くなる	用途不詳	第48図-48	PL53
49	40-000232	鉄製品	径 0.9×0.8 残長 3.0	欠損品。く字状を呈する。元側角柱、先側円柱状。	用途不詳	第48図-49	PL53

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-1面						6-1-1面					
50	11-001929	土師器甕口縁部	14	120	古墳時代前期中心	82	11-001961	須恵器高台付碗高台部	1	20	
51	11-001930	土師器甕体部	72	485	古墳時代前期中心	83	11-001962	須恵器碗体部	3	13	
52	11-001931	土師器甕底部	1	40	古墳時代前期中心	84	11-001963	須恵器碗底部	1	10	
53	11-001932	土師器壺口縁部	3	36	古墳時代前期中心	85	11-001964	須恵器高台付碗体部	26	416	
54	11-001933	土師器壺体部	81	517	古墳時代前期中心	86	11-001965	須恵器高台付碗底部	37	400	
55	11-001934	土師器台付甕体部	5	13	古墳時代前期中心	87	11-001966	須恵器高台付碗口縁部	4	13	被熱痕有
56	11-001935	土師器甕口縁部	87	87	平安時代中心	88	11-001967	須恵器高台付碗体部	6	20	被熱痕有
57	11-001936	土師器甕体部	378	967	平安時代中心	89	11-001968	須恵器高台付碗底部	3	30	被熱痕有
58	11-001937	土師器坏口縁部	41	143	平安時代中心	90	11-001969	須恵器瓶口縁部	1	21	
59	11-001938	土師器坏体部	1124	3153	平安時代中心	91	11-001970	須恵器瓶底部	1	40	
60	11-001939	土師器坏底部	23	92	平安時代中心	92	11-001971	軟質陶器甕口縁部	1	81	
61	11-001940	土師器坏口縁部	43	312	平安時代	93	11-001972	軟質陶器甕体部	11	638	
62	11-001941	土師器坏口縁部	1	11	古墳時代後期	94	11-001973	軟質陶器鉢口縁部	1	19	
63	11-001942	土師器坏口縁部	2	17	古墳時代後期(6C)・赤色塗彩	95	11-001974	軟質陶器鉢体部	1	95	
64	11-001943	土師器埴口縁部	2	44	平安時代中心	96	11-001975	軟質陶器鉢体部	6	190	
65	11-001944	土師器埴体部	3	15	平安時代中心	97	11-001976	軟質陶器鉢体部	2	292	
66	11-001945	土師器埴体部	2	55	平安時代中心	98	11-001977	灰釉陶器碗体部	2	9	
67	11-001946	土師器甕口縁部	11	93	被熱痕有	99	11-001978	平瓦	4	156	
68	11-001947	土師器甕体部	61	379	被熱痕有	100	11-001979	土管	2	34	
69	11-001948	土師器甕底部	2	33	被熱痕有	101	11-001980	肥前磁器	2	7	
70	11-001949	土師器坏体部	49	210	被熱痕有	102	11-001981	瀬戸美濃陶器	3	16	
71	11-001950	土師器坏口縁部	14	70	奈良時代・被熱痕有	103	11-001982	中国	1	4	龍泉窯系
72	11-001951	土師器坏口縁部	6	43	古墳時代後期(7C)・被熱痕有	104	11-001983	不明磁器	2	8	近代
73	11-001952	土師器高坏脚部	1	35	平安時代中心	105	11-001984	不明陶器	2	11	近代
74	11-001953	須恵器甕口縁部	8	316		106	11-001985	磁器碗	1	10	現代
75	11-001954	須恵器甕体部	73	2484		107	11-001986	施釉陶器甕体部	1	5	
76	11-001955	須恵器甕底部	2	27		108	11-001987	羽釜口縁部	2	70	
77	11-001956	須恵器甕体部	5	90	薄手	109	11-001988	羽釜体部	13	300	
78	11-001957	須恵器甕底部	1	8	薄手	110	21-001308	磨石	2	104	
79	11-001958	須恵器高台付碗口縁部	72	300		111	21-001309	石	6	103	
80	11-001959	須恵器高台付碗体部	63	290		112	11-004919	羽釜鋳部	1	10	
81	11-001960	須恵器甕体部	2	54		113	41-000203	鉄	1	2	
						114	41-000204	高師小僧	1	28	

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-微高地					
115	11-001989	土師器甕口縁部	8	72	古墳時代前期中心
116	11-001990	土師器甕体部	40	410	古墳時代前期中心
117	11-001991	土師器壺口縁部	4	40	古墳時代前期中心
118	11-001992	土師器壺体部	35	290	古墳時代前期中心
119	11-001993	土師器壺底部	4	54	古墳時代前期中心
120	11-001994	土師器台付甕口縁部	7	50	古墳時代前期中心
121	11-001995	土師器台付甕体部	12	28	古墳時代前期中心
122	11-001996	土師器高坏脚部	1	50	古墳時代前期中心
123	11-001997	土師器壙口縁部	2	10	古墳時代前期中心
124	11-001998	土師器甕口縁部	3	8	平安時代中心
125	11-001999	土師器甕体部	5	20	平安時代中心
126	11-002000	土師器甕底部	1	2	平安時代中心
127	11-002001	土師器坏口縁部	2	10	平安時代中心
128	11-002003	土師器坏底部	6	26	平安時代中心
129	11-002009	須恵器甕口縁部	3	112	
130	11-002010	須恵器甕体部	116	3632	
131	11-002011	須恵器甕底部	2	24	
132	11-002012	須恵器碗口縁部	15	41	
133	11-002013	須恵器碗体部	14	50	
134	11-002014	須恵器碗底部	15	124	
135	11-002015	須恵器碗体～底部	17	290	
136	11-002016	須恵器壺	2	17	
137	11-002017	須恵器高台付碗口縁部	85	396	
138	11-002018	須恵器高台付碗体部	16	73	
139	11-002019	須恵器高台付碗底部	60	611	
140	11-002020	須恵器長頸壺頸部	2	240	
141	11-002021	須恵器瓶体部	3	63	
142	11-002022	軟質陶器すり鉢	1	46	
143	11-002023	軟質陶器鉢口縁部	1	7	
144	11-002024	軟質陶器鉢体部	22	523	
145	11-002025	軟質陶器	3	37	
146	11-002026	陶器	2	5	
147	11-002027	不明陶器	1	23	近代
148	21-001310	石	2	122	
6-1-フクド					
149	11-002028	土師器甕体部	22	134	古墳時代前期中心
150	11-002029	土師器甕底部	2	46	古墳時代前期中心
151	11-002030	土師器壺体部	15	88	古墳時代前期中心
152	11-002031	土師器壺底部	1	20	古墳時代前期中心
153	11-002032	土師器甕口縁部	46	196	平安時代中心
154	11-002033	土師器甕体部	282	544	平安時代中心
155	11-002034	土師器甕底部	2	11	平安時代中心
156	11-002035	土師器坏口縁部	57	210	平安時代中心
157	11-002036	土師器壙体～底部	15	43	平安時代中心
158	11-002037	土師器坏口縁部	23	116	平安時代
159	11-002038	土師器坏口縁部	2	14	古墳時代後期
160	11-002039	土師器坏口縁部	3	21	奈良時代
161	11-002040	土師器高坏坏部	5	36	平安時代中心
162	11-002041	土師器壙口縁部	1	5	平安時代中心
163	11-002042	羽釜鈿部	1	10	
164	11-002043	須恵器甕体部	4	65	
165	11-002044	須恵器碗口縁部	3	6	
166	11-002045	須恵器碗体～底部	7	10	
167	11-002046	肥前磁器	1	5	
168	11-002047	不明磁器	2	26	近代
169	11-002048	瀬戸美濃陶器	1	17	
6-1-一括					
170	11-002049	土師器甕口縁部	4	30	古墳時代前期中心
171	11-002050	土師器甕体部	87	480	古墳時代前期中心
172	11-002051	土師器甕底部	4	50	古墳時代前期中心
173	11-002052	土師器壺口縁部	3	40	古墳時代前期中心
174	11-002053	土師器壺底部	2	20	古墳時代前期中心
175	11-002054	土師器壙口縁部	4	18	古墳時代前期中心
176	11-002055	土師器壙体～底部	5	20	古墳時代前期中心
177	11-002056	土師器高坏口縁部	1	20	古墳時代前期中心
178	11-002057	土師器高坏底部	1	15	古墳時代前期中心
179	11-002058	土師器台付甕口縁部	1	1	古墳時代前期中心
180	11-002059	土師器台付甕体部	4	10	古墳時代前期中心
181	11-002060	土師器台付甕脚部	1	10	古墳時代前期中心
182	11-002061	土師器器台脚部	2	10	古墳時代前期中心
183	11-002062	土師器甕口縁部	68	264	平安時代中心
184	11-002063	土師器甕体部	437	978	平安時代中心
185	11-002064	土師器甕底部	4	142	平安時代中心
186	11-002065	土師器甕口縁部	9	78	平安時代
187	11-002066	土師器甕体部	14	201	古墳時代後期
188	11-002067	土師器坏口縁部	197	382	平安時代中心
189	11-002068	土師器坏体～底部	24	84	平安時代中心
190	11-002069	土師器坏底部	3	12	平安時代中心
191	11-002070	土師器坏口縁部	57	280	平安時代
192	11-002071	土師器坏口縁部	15	107	奈良時代
193	11-002072	土師器壙口縁部	2	78	平安時代中心
194	11-002073	土師器壙体～底部	6	181	平安時代中心
195	11-002074	土師器高坏口縁部	13	94	古墳時代後期
196	11-002075	土師器高坏脚部	6	113	平安時代中心
197	11-002076	須恵器碗口縁部	6	28	
198	11-002077	須恵器碗体部	1	1	
199	11-002078	須恵器碗体～底部	14	77	
200	11-002079	須恵器壺頸部	1	19	
201	11-002080	陶器	1	20	
202	11-002081	土管	10	361	
6-1-東表土					
203	11-002083	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
204	11-002084	土師器甕体部	10	40	古墳時代前期中心
205	11-002085	土師器壺体部	23	108	古墳時代前期中心
206	11-002086	土師器坏体～底部	5	9	平安時代中心
207	11-002087	土師器坏底部	2	4	平安時代中心
208	11-002088	土師器壙口縁部	4	14	平安時代中心
209	11-002089	土師器壙体～底部	9	28	平安時代中心
210	11-002090	須恵器高台付碗体～底部	1	4	
6-1-東半表土					
211	11-002091	土師器台付甕体部	1	2	古墳時代前期中心
212	11-002092	土師器甕口縁部	74	287	平安時代中心
213	11-002093	土師器甕体部	307	725	平安時代中心
214	11-002094	土師器甕底部	3	14	平安時代中心
6-1-東表土					
215	11-002095	土師器甕口縁部	4	37	古墳時代後期
216	11-002096	土師器坏体～底部	342	928	平安時代中心
217	11-002097	土師器坏口縁部	34	227	奈良時代
218	11-002098	土師器坏口縁部	84	194	平安時代
219	11-002099	土師器壙口縁部	8	49	平安時代中心
220	11-002100	須恵器甕口縁部	2	64	
221	11-002101	須恵器甕体部	52	990	
222	11-004920	軟質陶器	7	234	

遺物一覽

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-東表土						6区1面東半南西					
223	11-002102	須恵器甕底部	3	55		252	11-002142	須恵器高台付碗体~底部	1	7	
224	11-002103	須恵器碗口縁部	20	100		253	11-002143	土師器坏体~底部	24	93	平安時代中心
225	11-002104	須恵器碗底部	27	117		254	11-002144	須恵器碗口縁部	2	10	
226	11-002105	須恵器高坏脚部	1	11		6-1-東半					
227	11-002106	不明陶器	2	9		255	11-002146	土師器甕体部	3	18	古墳時代前期中心
6区1面集落部						256	11-002147	土師器壺体部	5	46	古墳時代前期中心
228	11-002107	土師器壺体部	1	1	古墳時代前期中心	257	11-002148	土師器台付甕体部	1	2	古墳時代前期中心
229	11-002108	土師器甕口縁部	41	194	平安時代中心	258	11-002157	須恵器碗底部	1	20	
230	11-002109	土師器甕体部	109	286	平安時代中心	6区1面表土					
231	11-002110	土師器甕底部	5	35	平安時代中心	259	11-002149	土師器甕口縁部	22	105	平安時代中心
232	11-002111	土師器坏口縁部	128	157	平安時代中心	260	11-002150	土師器甕体部	103	241	平安時代中心
233	11-002112	土師器坏体~底部	12	350	平安時代中心	261	11-002151	土師器甕底部	3	22	平安時代中心
234	11-002113	土師器坏口縁部	18	115	平安時代	262	11-002152	土師器坏口縁部	30	75	平安時代中心
235	11-002114	土師器坏口縁部	1	6	奈良時代	263	11-002153	土師器坏体~底部	116	347	平安時代中心
236	11-002115	須恵器甕体部	3	71		264	11-002154	土師器坏口縁部	11	58	平安時代
237	11-002116	須恵器碗口縁部	15	63		265	11-002155	須恵器碗口縁部	1	1	
238	11-002117	須恵器碗体~底部	7	35		266	11-002156	須恵器碗体~底部	8	17	
6区1面東半南西集落部						267	11-002158	土師器甕体部	1	6	古墳時代前期中心
239	11-002128	土師器甕体部	1	8	古墳時代前期中心	268	11-002159	須恵器甕体部	1	3	
240	11-002129	土師器甕口縁部	18	136	平安時代中心	269	11-002160	須恵器高台付碗体~底部	1	7	
241	11-002130	土師器甕体部	20	92	平安時代中心	270	11-002161	須恵器碗体~底部	2	7	
242	11-002131	土師器坏口縁部	13	45	平安時代中心	271	11-002162	陶器	1	4	
243	11-002132	土師器坏体~底部	43	185	平安時代中心	272	11-002163	陶器	1	5	未鑑定
244	11-002133	土師器坏口縁部	14	119	平安時代	273	11-002164	軟質陶器	1	29	
245	11-002134	須恵器碗体~底部	2	51		274	11-002165	土師器甕体部	1	4	平安時代中心
246	11-002135	須恵器碗口縁部	1	6		275	11-002166	土師器高付甕口縁部	1	1	平安時代中心
6区1面東半南西						276	11-002167	須恵器甕口縁部	19	95	
247	11-002136	土師器甕口縁部	5	25	平安時代中心	277	11-002168	須恵器甕体部	60	167	
248	11-002137	土師器甕体部	12	42	平安時代中心	278	11-002169	須恵器甕底部	1	1	
249	11-002138	土師器甕底部	2	29	平安時代中心	279	11-002170	土師器坏口縁部	35	78	平安時代中心
250	11-002139	土師器坏口縁部	12	35	平安時代中心	280	11-002174	土師器坏体~底部	81	203	平安時代中心
251	11-002140	土師器坏体~底部	24	93	平安時代中心	281	11-002175	土師器坏口縁部	12	69	平安時代

6-1-石塔類

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000336	五輪塔水輪	24.7×23.8×厚31.5	下面に幅広の出柄を有する。表面荒れるが比較的丁寧に造られる	ニッ岳石	第44図-1	PL49
2	20-000337	板碑台石	41.2×23.4×厚23.0	上面に径5.2×25.2cm、深さ10.1cmのホゾが掘られる。表面と底面にハツリ痕残?	ニッ岳石	第44図-2	PL50

※6-1-As-B 下水田面出土遺物は363頁に掲載

遺物一覧

6-2 6区2面の出土遺物

6-2-1号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00052	土師器坏	口径(15.6) 残高 4.2	口縁横撫で。体部外面削り後指撫で、内面撫で。底面寛削り	8世紀前半。破片	第65図-1	PL58
2	10-00053	土師器坏	口径 11.8 底径 10.0 器高 3.6	1/2。口縁横撫で。体部外面削り後指撫で、内面横撫で。底面左回りの寛削り。底部内面撫で	9世紀前半	第65図-2	PL58
3	10-00054	土師器坏	口径(12.0) 残高 2.9	破片。口縁横撫で。体部外面削り後指撫で、内面横撫で。底面左回りの寛削り	9世紀前半。破片	第65図-3	PL58
4	10-00055	須恵器壺	残存 6.7×2.5 厚 2.5	天井～体部破片。回転軸輪整形。天井部外面左回りの寛削り	8～9世紀	第65図-4	PL58
5	10-00056	土師器甕	口径(23.4) 残高 8.7	口縁～肩部片。口縁横撫で。肩部外面寛削り、内面寛撫で	8世紀後半	第65図-5	PL58
6	10-00057	土師器甕	低径(5.5) 残高 5.0	底～腰部破片。外面寛削り、内面寛撫で	8～9世紀	第65図-6	PL58
7	20-00037	砥石	7.1×2.9×2.3	表裏左右面に研磨面を持ち表裏面は湾曲する。上位表裏面に貫通孔、左側面と上端面から貫通孔に未貫通孔が穿たれる	流紋岩	第66図-7	PL58
8	40-00023	角釘	径 1.1×1.0 残長 10.4	両端腐食。長い四角角錐を呈する。		第66図-8	PL58

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-002176	土師器甕口縁部	29	142	平安時代
10	11-002177	土師器甕体部	147	342	平安時代
11	11-002178	土師器甕底部	7	64	平安時代
12	11-002179	土師器坏口縁部	71	252	平安時代中心
13	11-002180	土師器坏体～底部	134	387	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
14	11-002181	須恵器甕口縁部	1	22	
15	11-002182	須恵器甕体部	1	4	薄い・奈良時代
16	11-002183	須恵器碗体部	9	311	
17	11-002184	須恵器高台付碗底部	1	12	

6-2-2号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00058	須恵器坏	口径(13.5) 器高 4.2	破片。右回転軸輪整形。底面回転糸切り	9世紀後半	第67図-1	PL59
2	10-00059	須恵器坏	口径(11.6) 器高 3.0	3/4。右回転軸輪整形。底面回転糸切り	9世紀後半	第67図-2	PL59
3	10-00060	土師器塊	口径(19.2) 器高 7.9	破片。口縁横撫で。体～底部外面左回りの寛削り、内面寛撫で	6世紀後半	第67図-3	PL59
4	10-00061	土師器甕	残存 7.7×5.9 厚 0.4	口縁破片。口縁横撫で。肩部外面寛削り、内面寛撫で	8世紀後半	第67図-4	PL59
5	10-00062	土師器坏	残存 4.2×3.7 厚 0.5	破片。内面に漆やや厚く付着。口縁横撫で。体～底部外面寛削り、内面撫で	8世紀前半	第68図-5	PL59
6	10-00063	土師器坏	口径 11.8 底径 (8.4) 器高 3.5	1/3。口縁横撫で。体部外面削り後指撫で、底面寛削り。体～底部内面寛撫で	9世紀後半	第68図-6	PL59
7	10-00064	須恵器坏	口径(12.6) 器高 3.4	破片。右回転軸輪整形。底面に高台の剥離痕	9世紀後半	第68図-7	PL59

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
8	11-002185	土師器甕口縁部	24	126	平安時代中心
9	11-002186	土師器甕体部	154	493	平安時代
10	11-002187	土師器甕底部	3	40	平安時代
11	11-002188	土師器坏口縁部	55	114	平安時代
12	11-002189	土師器坏口縁部	11	94	平安時代中心
13	11-002190	土師器坏口縁部	4	32	古墳時代後期(7C前半)
14	11-002191	土師器坏体～底部	130	372	平安時代中心
15	11-002192	須恵器甕口縁部	1	13	
16	11-002193	須恵器甕体部	8	125	
17	11-002194	須恵器甕体部	1	5	薄い

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
18	11-002195	須恵器碗口縁部	10	35	
19	11-002196	須恵器碗体～底部	7	18	
掘り方					
20	11-002197	土師器甕口縁部	4	10	平安時代中心
21	11-002198	土師器甕口縁部	1	22	古墳時代後期(7C前半)
22	11-002199	土師器甕体部	52	140	平安時代
23	11-002200	土師器甕底部	1	15	平安時代
24	11-002201	土師器坏口縁部	10	18	平安時代
25	11-002202	土師器坏口縁部	3	23	平安時代中心
26	11-002203	土師器坏体～底部	48	130	平安時代中心
27	11-002204	須恵器碗体～底部	2	41	

6-2-3号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00065	須恵器甕	口径 48.0 器高 9.0	口縁破片。口縁部上下に引く。	平安時代か	第69図-1	PL59
2	10-00066	土師器甕	残存 20.5×17.0 厚 0.5	口縁下端～体部破片。器肉薄い。口縁横撫で。体部外面寛削り、内面寛撫で。コ字状口縁か	8世紀後半～9世紀	第69図-2	PL59
3	20-00038	砥石	3.1×1.9×(10.5)	両端欠損。表裏左右面に研磨面。表面は研磨により湾曲	流紋岩	第69図-3	PL59
4	20-00039	こも編み石	5.7×3.2×16.3	一部欠損。河床礫を用い、中位に帯状の磨耗痕廻る	珪質頁岩	第69図-4	PL60
5	10-00067	須恵器坏	口径 13.5 底径 6.6 器高 3.5	1/2。酸化焰焼成。右回転軸輪整形。底面回転糸切り後撫で、高台剥離痕	9世紀後半	第69図-5	PL59
6	10-00068	土師器坏	口径(12.8) 器高 3.3	1/6。口縁横撫で。外面体部撫で、底面寛削り。内面寛撫で	9世紀後半	第70図-6	PL59
7	10-00069	土師器塊	口径(20.0) 底径 (14.7) 残高 7.7	1/6。口縁横撫で。体～底部外面寛削り、内面寛撫で	6世紀後半	第70図-7	PL59
8	10-00070	土師器甕	口径(20.2) 残高 7.0	口縁～肩部片。口縁横撫で。肩部外面寛削り、内面寛撫で	8世紀後半	第70図-8	PL59

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
9	11-002205	土師器甕口縁部	20	219	平安時代中心
10	11-002206	土師器甕体~底部	71	316	平安時代中心
11	11-002207	土師器甕底部	2	15	平安時代中心
12	11-002208	土師器坏口縁部	32	129	平安時代中心
13	11-002209	土師器坏体~底部	24	118	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
14	11-002210	土師器埴体~底部	1	46	平安時代中心
15	11-002211	須恵器碗口縁部	3	36	
16	11-002212	須恵器碗体~底部	2	19	
掘り方					
17	11-002213	土師器甕口縁部	4	41	平安時代中心
18	11-002214	土師器甕体部	28	101	平安時代中心

6-2-4号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000571	土師器坏	口径 11.4 底径 7.6 器高 2.8	3/4。口縁内湾し横撫で。外面体部は撫で、底面は寛削り。内面体~底部寛撫で	9世紀後半	第71図-1	PL60
2	10-000572	土師器坏	口径 12.5 底径 8.9 器高 3.8	ほぼ完形。内面に(黒)漆付着。口縁横撫で。外面体部は撫で、底面寛削り。内面寛撫で。	9世紀後半	第71図-2	PL60
3	10-000573	須恵器坏	口径 12.3 器高 3.6	3/4。一部還元焼成。左回転軸整形。底面回転軸調整	9世紀前半	第72図-3	PL60
4	10-000574	須恵器高台付碗	口径 15.5 器高 6.5	3/4。右回転軸整形。底面撫で調整後「奉」の刻書	9世紀前半	第72図-4	PL60
5	10-000575	須恵器坏	底径 5.4 残高 2.9	1/3。右回転軸整形。底面糸切りで2度の切り離し	9世紀後半	第72図-5	PL60
6	40-000201	刀子か	径 0.8×0.5 残長 2.5	扁平小型の鉄片。両端が欠損する		第72図-6	PL60
7	10-000576	土師器壺	底径 8.2 残高 3.5	腰~底部破片。外面寛削り、内面寛磨き	5世紀か	第72図-7	PL60
8	10-000577	土師器甕	口径(18.2) 残高 5.6	口~肩部破片。口縁横撫で。肩部外面寛削り、内面寛撫で	8世紀後半	第72図-8	PL60

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
9	11-002215	土師器甕口縁部	17	90	平安時代中心
10	11-002216	土師器甕体部	91	218	平安時代中心
11	11-002217	土師器甕底部	1	10	平安時代中心
12	11-002218	土師器坏口縁部	19	51	平安時代中心
13	11-002219	土師器坏体~底部	99	245	平安時代中心
14	11-002220	土師器坏体~底部	4	21	奈良時代
15	11-002221	土師器坏体~底部	29	114	平安時代中心
16	11-002222	須恵器甕体部	2	26	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
17	11-002223	須恵器甕底部	2	11	
18	11-002224	須恵器碗口縁部	11	54	
19	11-002225	須恵器碗体~底部	6	34	
掘り方					
20	11-002226	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心
21	11-002227	土師器甕体部	7	19	平安時代中心
22	11-002228	土師器坏体~底部	3	15	平安時代中心
23	11-002229	土師器坏体~底部	1	3	平安時代中心
24	11-002230	須恵器坏蓋体~底部	2	12	

6-2-5号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000578	土師器坏	口径(12.0) 残高 3.3	破片。口縁横撫で。体~底部外面寛削り、内面寛撫で	8世紀前半	第73図-1	PL60
2	10-000579	土師器甕	口径(18.4) 底径 5.8 器高 18.2	1/2。口縁刷毛目後撫で。体部刷毛目による撫で、内面寛撫で。腰~低部内面指撫で、底面上げ底で撫で調整	4世紀後半	第73図-2	PL60
3	10-000580	土師器甕	口径(16.3) 底径 6.3 器高 21.5	1/3。口縁外面撫で、内面刷毛目後撫で。体部外面刷毛目、内面寛撫で。底面平底で撫で	4世紀後半	第73図-3	PL61

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
4	11-002231	土師器甕口縁部	17	78	平安時代中心
5	11-002232	土師器甕体部	93	197	平安時代中心
6	11-002233	土師器坏口縁部	27	65	平安時代中心
7	11-002234	土師器坏体~底部	77	185	平安時代中心
8	11-002235	須恵器甕体部	1	8	器内薄い

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-002236	須恵器碗口縁部	5	17	
掘り方					
10	11-002237	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心
11	11-002238	土師器甕体部	15	64	平安時代中心
12	11-002239	土師器坏体~底部	12	35	平安時代中心

6-2-5・13号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002240	土師器甕口縁部	13	35	平安時代中心
2	11-002241	土師器甕体部	39	84	平安時代中心
3	11-002242	土師器甕底部	2	14	平安時代中心
4	11-002243	土師器坏口縁部	18	51	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002244	土師器坏体~底部	47	98	平安時代中心
6	11-002245	土師器埴口縁部	1	3	平安時代中心
7	11-002246	須恵器碗体部	1	3	
8	11-002247	須恵器碗底部	1	8	

遺物一覧

6-2-6号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000581	土師器坏	口径(11.9) 器高 3.2	1/4。口縁横撫で。体～底部内面縦撫で、外面縦削り	9世紀前半	第74図-1	PL61
2	10-000582	須恵器坏	口径 13.1 底径 8.0 器高 4.0	1/3。右回転轆轤整形。底面回転調整	9世紀前半	第74図-2	PL61
3	20-000340	こも編み石	1.6×1.2×3.6	小さな河床礫を用いる。中位に帯状の磨耗痕跡が廻る	溶結凝灰岩	第74図-3	PL61
4	40-000234	鉄片	2.3×1.1×3.8	片面が平らであるが反対面は凹凸が見られる。用途不明	スラグか	-	PL61
5	10-000583	土師器坏	口径 12.6 器高 3.2	2/3。口縁横撫で。体～底部内面縦撫で、外面縦削り	9世紀前半	第74図-5	PL61
6	20-000341	砥石	5.6×2.5×(7.4)	過半欠損。表裏左右面に研磨面残る。表面に溝状の削痕。左右側面は研磨進み湾曲がみられる	流紋岩	第74図-6	PL61
7	10-000584	土師器甕	口径(19.4) 残高 14.6	口縁～胴部片。口縁横撫で。胴部内面縦撫で、外面縦削り	8世紀後半	第75図-1	PL61

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002248	土師器甕口縁部	78	255	平安時代	12	11-002252	土師器坏体～底部	141	470	平安時代中心
9	11-002249	土師器甕体部	238	808	平安時代	13	11-002253	須恵器甕体部	4	58	
10	11-002250	土師器甕底部	4	38	平安時代中心	14	11-002254	須恵器坏体～底部	12	101	
11	11-002251	土師器坏口縁部	98	78	平安時代中心	15	11-002255	須恵器碗口縁部	10	20	

6-2-7号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002256	土師器甕口縁部	7	29	平安時代中心	5	11-002260	土師器坏体～底部	68	164	平安時代中心
2	11-002257	土師器甕体部	41	88	平安時代中心	6	11-002261	須恵器碗口縁部	2	4	
3	11-002258	土師器甕底部	1	16	平安時代中心	7	11-002262	須恵器碗体部	2	7	
4	11-002259	土師器坏口縁部	17	41	平安時代中心	8	11-002263	須恵器碗底部	1	27	

6-2-8号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000585	土師器坏	口径(12.0) 底径 (8.7) 残高 3.6	1/6。口縁横撫で。内面体～底部撫で。外面体部撫で、底面縦削り	9世紀前半	第77図-1	PL61
2	10-000586	土師器坏	口径(11.8) 底径 (9.0) 残高 3.2	1/4。口縁～内面体部横撫で。底部内面縦撫で。外面体部撫で、底面縦削り	9世紀前半	第77図-2	PL61
3	10-000587	土師器坏	口径 11.8 底径 7.2 残高 3.0	3/4。口縁～内面体部横撫で。底部内面縦撫で。外面体部撫で、底面縦削り	9世紀前半	第77図-3	PL61
4	10-000588	土師器坏	残存 6.7×5.5 厚 0.6	底面破片。底面に墨書。「□子」か		第77図-4	PL62
5	10-000589	須恵器坏	口径 12.5 残高 3.1	右回転轆轤整形。底面回転調整	9世紀前半	第77図-5	PL62
6	10-000590	須恵器坏	口径(11.0) 残高 2.7	右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀前半	第77図-6	PL61
7	10-000591	須恵器坏	口径 12.6 残高 3.5	右回転轆轤整形。底面回転糸切り後回転調整	9世紀前半	第77図-7	PL62
8	10-000592	須恵器焼小瓶	底径(3.6) 残高 3.8	腰部～高台部1/2。轆轤整形で薄手	9世紀か	第77図-8	PL62
9	10-000593	須恵器甕	口径(26.0) 残高 18.5	口縁～胴部破片。胴部内面同心円、外面板叩き	6-2-42住破片	第77図-9	PL62
10	20-000342	敲石(こも編み石)	5.4×3.8×13.2	上端部に敲打痕跡。中位に帯状の磨耗痕残る	ひん岩	第78図-10	PL62

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-002264	土師器甕口縁部	77	315	平安時代	16	11-002269	須恵器甕口縁部	2	3	薄い
12	11-002265	土師器甕体部	335	753	平安時代	17	11-002270	須恵器甕体部	5	193	厚い
13	11-002266	土師器甕底部	9	30	平安時代中心	18	11-002271	須恵器碗口縁部	20	57	
14	11-002267	土師器坏口縁部	128	478	平安時代	19	11-002272	須恵器碗体部	12	43	
15	11-002268	土師器坏体～底部	226	595	平安時代	20	11-002273	須恵器碗底部	7	78	

6-2-9号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000594	土師器坏	口径(11.0) 残高 2.8	破片。口縁～体部内面横撫で。体部外面撫で。低部内面縦撫で、底面縦削り	9世紀前半	第79図-1	PL62

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002274	土師器甕口縁部	3	10	平安時代中心	5	11-002277	土師器坏体～底部	29	84	平安時代中心
3	11-002275	土師器甕体部	18	45	平安時代中心	6	11-002278	須恵器甕底部	1	10	
4	11-002276	土師器坏口縁部	9	34	平安時代中心	7	11-002279	須恵器碗口縁部	1	1	

遺物一覧

6-2-10号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000595	須恵器坏	口径 11.6 底径 4.8 残高 3.5	2/3. 右回転轆轤整形。底面糸切り。腰部外面寛削り。片岩含む	9世紀後半	第80図-1	PL62
2	10-000596	土師器埴	口径(21.0) 残高 9.4	破片。口縁横撫で。体部外面寛削り、内面左回りの寛撫で	6世紀後半	第80図-2	PL62
3	10-000597	土師器埴	口径(21.0) 残高 7.7	破片。口縁横撫で。体～底部外面寛削り、内面寛撫で	6世紀後半	第80図-3	PL62
4	10-000598	須恵器坏	底径 5.6 残高 3.2	口縁欠損。3/4. 右回転轆轤整形。底面糸切り。片岩含む	9世紀後半	第81図-4	PL62
5	10-000599	須恵器坏	口径(13.5) 残高 3.6	口縁～体部破片。右回転轆轤整形	9世紀後半	第81図-5	PL62

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
6	11-002280	土師器甕口縁部	8	61	平安時代中心
7	11-002281	土師器甕口縁部	1	4	石田川
8	11-002282	土師器甕体部	33	123	平安時代中心
9	11-002283	土師器坏口縁部	5	6	平安時代中心
10	11-002284	土師器坏口縁部	6	2	平安時代
11	11-002285	土師器坏口縁部	7	45	奈良時代
12	11-002286	土師器坏口縁部	1	5	古墳時代後期

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
13	11-002287	土師器坏体～底部	22	107	平安時代中心
14	11-002288	須恵器甕体部	2	46	
15	11-002289	須恵器坏体～底部	1	28	
16	11-002290	須恵器碗口縁部	1	1	
掘り方					
17	11-002291	土師器甕体部	1	5	平安時代中心
18	11-002292	土師器坏体～底部	3	11	平安時代中心

6-2-12号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
1	11-002293	土師器甕口縁部	6	38	平安時代中心
2	11-002294	土師器甕体部	33	113	平安時代中心
3	11-002295	土師器甕底部	1	12	平安時代中心
4	11-002296	土師器坏口縁部	13	58	平安時代中心
5	11-002297	土師器坏体～底部	31	81	平安時代中心
6	11-002298	土師器埴口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002299	須恵器甕体部	2	5	薄い
掘り方					
8	11-002300	土師器甕口縁部	3	14	平安時代中心
9	11-002301	土師器甕体部	8	25	平安時代中心
10	11-002302	土師器坏口縁部	6	32	平安時代中心
11	11-002303	土師器坏体～底部	6	18	平安時代中心

6-2-13号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000600	土師器坏	口径 11.4 器高 3.1	1/4. 口縁横撫で。外面体部撫で、底面寛削り。体～底部内面寛撫で	9世紀前半	第83図-1	PL62
2	40-000235	鉄製品	径 0.5×0.6 長さ 4.3	両側欠損。上位扁平、下位各状で空洞	用途不明	第83図-2	PL62
3	10-000601	須恵器双耳瓶	底径 2.4 残高 5.2	肩～底部。径 3mmの孔を穿つ一対の耳を持つ。肩部外面と底部内面に自然釉。底面に回転糸切り痕	9世紀	第84図-3	PL62
4	10-000602	土師器甕	口径(21.0) 残高 5.2	口縁～肩部片。口縁横撫で。肩部外面寛削り、内面寛撫で	9世紀前半	第84図-4	PL63

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
5	11-002304	土師器甕口縁部	10	690	平安時代中心
6	11-002305	土師器甕体部	94	253	平安時代中心
7	11-002306	土師器甕体部	4	30	石田川
8	11-002307	土師器甕底部	1	11	平安時代中心
9	11-002308	土師器坏口縁部	38	194	平安時代中心
10	11-002309	土師器坏体～底部	66	208	平安時代中心
11	11-002310	須恵器甕体部	2	6	
12	11-002311	須恵器坏口縁部	2	10	
13	11-002312	須恵器坏体～底部	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
14	11-002313	須恵器碗口縁部	1	2	
掘り方					
15	11-002314	土師器甕口縁部	9	66	平安時代中心
16	11-002315	土師器甕体部	42	147	
17	11-002316	土師器甕体部	1	1	石田川
18	11-002317	土師器坏口縁部	22	86	平安時代中心
19	11-002318	土師器坏体～底部	7	75	平安時代中心
20	11-002319	須恵器坏口縁部	1	4	
21	11-002320	須恵器坏体～底部	1	6	

6-2-15号住居 ※“15号住居”は何れかの住居に重複して付された番号と判断されるが、何れの住居かは不明

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002321	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心

遺物一覧

6-2-16号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000603	土師器台付甕	口径 9.2 底径 7.0 器高 10.4	完形に近い。口縁・脚部横撫で。甕体～底部内面宛撫で、体部外面宛削り	9世紀後半	第85図-1	PL63
2	10-000604	土師器甕	口径 12.2 残高 15.2	1/5。底面欠損。口縁横撫で。体部内面宛撫で、外面上位横位、下位縦位の宛削り	9世紀後半	第85図-2	PL63
3	10-000605	土師器甕	口径 18.4 残高 5.6	口縁～肩部3/4。口縁横撫で。肩部内面宛撫で、外面横位の宛削り	9世紀後半。逆位 甕袖材に使用	第85図-3	PL63
4	10-000606	須恵器高台付碗	口径(14.0) 底径 6.8 器高 5.1	1/3。表裏面黒色処理。右回転轆轤整形。底面に回転糸切り痕残る。付高台。	9世紀後半	第85図-4	PL63
5	10-000607	土師器坏	口径(12.7) 残高 2.9	破片。体～底部内面に漆付着。口縁横撫で。体～底部内面宛撫で、外面宛削り	7世紀後半	第85図-5	PL63
6	10-000608	土師器坏	底径 7.5 残高 2.2	腰～底部。内面宛撫で。外面宛削り	9世紀後半か	第85図-6	PL63
7	20-000343	敷石	8.2×7.2×(15.2)	片側欠損。先端に敲打痕、裏面に研磨面残す	石英閃緑岩	第85図-7	PL63

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002322	土師器甕口縁部	2	70	平安時代中心	12	11-002326	土師器坏体～底部	26	66	平安時代中心
9	11-002323	土師器甕体部	37	137	平安時代中心	13	11-002327	土師器台付甕脚部	2	124	平安時代中心
10	11-002324	土師器甕底部	1	8	平安時代中心	14	11-002328	須恵器碗口縁部	1	11	
11	11-002325	土師器坏口縁部	8	42	平安時代中心	15	11-002329	須恵器碗体部	1	1	

6-2-17号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000609	土師器坏	口径(11.0) 器高 2.8	破片。口縁～体部内面横撫で。体部外面撫で。底部内面宛撫で、外面宛削り	9世紀前半	第87図-7	PL63

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002330	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心	4	11-002332	土師器坏口縁部	12	33	平安時代中心
3	11-002331	土師器甕体部	21	41	平安時代中心	5	11-002333	土師器坏体～底部	26	59	平安時代中心

6-2-18号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002334	土師器甕口縁部	1	11	平安時代中心	4	11-002337	土師器坏体～底部	9	40	平安時代中心
2	11-002335	土師器甕体部	4	11	平安時代中心	5	11-002338	須恵器碗口縁部	1	3	
3	11-002336	土師器坏口縁部	4	23	平安時代中心						

6-2-19号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000610	土師器坏	口径 13.2 残高 3.0	1/4。口縁横撫で。内面体～底部宛撫で。外面体部宛削り後撫で、左回りの底面宛削り	9世紀前半	第89図-1	PL63
2	10-000611	土師器坏	口径(12.6) 残高 2.8	1/3。口縁横撫で。内面体～底部宛撫で。外面体部宛削り後撫で、左回りの底面宛削り	9世紀前半	第89図-2	PL63
3	10-000612	須恵器高台付碗	口径 11.9 器高 4.9	5/6。焼成良好。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀前半	第89図-3	PL63
4	10-000613	須恵器盤か	口径(19.4) 残高 3.3	破片。口縁横撫で。底部内面宛撫で、外面回転撫で調整	8世紀か	第89図-4	PL64
5	10-000614	土師器甕	口径(23.2) 残高 17.0	口縁～肩部。口縁横撫で。肩部内面宛撫で、外面宛削り	8世紀後半	第89図-5	PL64
6	10-000615	土師器甕	口径(20.6) 残高 11.3	口縁～肩部片。口縁横撫で。肩部内面宛撫で、外面宛削り	9世紀前半	第89図-6	PL63
7	10-000616	土師器甕	底径 7.0 残高 6.0	腰～底部片。内面宛撫で後底部指撫で。外面宛削り	8～9世紀	第89図-7	PL63
8	20-000344	磨石	5.4×4.4×14.4	河床礫使用。上面と右側面に研磨面が見られ、中に帯状の磨耗痕残る	石英閃緑岩 こも羅み石に転用	第89図-8	PL64
9	20-000345	敷石	7.2×3.9×(8.9)	下半欠損。上端に敲打痕残り、下位に帯状の磨耗痕残る	粗粒輝石安山岩 こも羅み石に転用	第89図-9	PL64
10	10-000617	須恵器甕	口径(22.6) 残高 12.0	口縁～肩部1/4。口縁横撫で。肩部内面撫で、外面叩き	8世紀	第89図-10	PL64
11	40-000236	刀子	残存7.8×1.8 厚1.5	基部先端、刃部過半欠損。背突き出し、刃部磨耗により大きく挟れる		第89図-11	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上						床上					
12	11-002339	土師器甕口縁部	29	190	平安時代中心	14	11-002341	土師器甕底部	4	27	平安時代中心
13	11-002340	土師器甕体部	276	730	平安時代中心	15	11-002342	土師器坏口縁部	116	422	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
16	11-002343	土師器坏体～底部	270	841	平安時代中心
17	11-002344	土師器埴口縁部	2	19	平安時代中心
18	11-002345	土師器台付寛脚部	1	33	平安時代中心
19	11-002346	須恵器碗底部	1	1	
掘り方					
20	11-002352	須恵器甕体部	2	20	

6-2-20号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000618	須恵器坏	口径(12.2) 器高 3.9	右回転軸整形。底面回転切り痕。腰部寛調整	9世紀前半	第90図-1	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002353	土師器甕体部	11	31	平安時代中心
3	11-002354	土師器坏口縁部	1	10	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
掘り方					
21	11-002347	須恵器坏体～底部	5	14	
22	11-002348	須恵器碗口縁部	4	16	
23	11-002349	土師器甕口縁部	1	11	平安時代中心
24	11-002350	土師器甕体部	5	126	平安時代中心
25	11-002351	土師器坏体～底部	2	11	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002355	土師器坏体～底部	13	31	平安時代中心
5	11-002356	土師器高坏脚部	1	6	平安時代中心

6-2-21号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000619	土師器坏	口径(12.2) 底径(8.0) 残高 3.6	1/4。外面体部に「平」(か)の墨書。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で。体部外面寛削り後撫で、底面寛削り	9世紀後半	第91図-1	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002357	土師器甕体部	13	30	平安時代
3	11-002358	土師器坏口縁部	16	40	平安時代中心
4	11-002359	土師器坏体～底部	22	57	平安時代中心
5	11-002360	須恵器碗口縁部	3	9	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
掘り方					
6	11-002361	土師器甕体部	17	38	平安時代
7	11-002362	土師器坏口縁部	18	56	平安時代中心
8	11-002363	土師器坏体～底部	20	63	平安時代中心
9	11-002364	須恵器碗口縁部	3	23	

6-2-22号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000620	土師器坏	口径(12.2) 残高 3.2	破片。口縁横撫で。体部外面撫で。体～底部内面寛撫で、底面寛削り	9世紀前半	第91図-1	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002365	土師器甕口縁部	1	10	平安時代中心
3	11-002366	土師器甕体部	8	22	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002367	土師器坏口縁部	6	19	平安時代中心
5	11-002368	土師器坏体～底部	13	46	平安時代中心

6-2-25号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002369	土師器坏底部	2	21	黒色処理

6-2-26号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002370	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
2	11-002371	土師器甕体部	6	18	平安時代中心
3	11-002372	土師器坏口縁部	7	38	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002373	土師器坏体～底部	10	35	平安時代中心
5	11-002374	須恵器甕体部	6	166	
6	11-002375	須恵器碗体～底部	1	4	

6-2-27号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002376	土師器甕口縁部	3	13	平安時代中心
2	11-002377	土師器甕体部	16	57	平安時代中心
3	11-002378	土師器坏口縁部	5	28	平安時代中心
4	11-002379	土師器坏体～底部	19	39	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002380	須恵器甕口縁部	1	34	軟質
6	11-002381	須恵器甕体部	3	69	軟質
7	11-002382	須恵器碗口縁部	1	6	

遺物一覧

6-2-28号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000621	土師器坏	口径(12.5) 底径(7.7) 残高 3.5	1/2。口縁～体部内面横撫で。体部外面指押え。底部内面縦撫で、底面削り。	9世紀後半	第96図-1	PL64
2	10-000622	土師器坏	口径 11.4 器高 3.4	2/3。口縁横撫で。体部内外面指押え。底部内面縦撫で、底面削り	9世紀後半	第96図-2	PL64
3	20-000346	砥石	4.3×3.9×12.8	河床礫使用。表裏左右面に研磨面残り、中に帯状の磨耗痕残る	こもあみみ石に転用	第96図-3	PL64
4	20-000347	台石	16.7×(10.6)×18.7	下部欠損。河床礫の一面に研磨面と敲打痕残る	粗粒輝石安山岩	第96図-4	PL64

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
5	11-002384	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心
6	11-002385	土師器甕体部	15	38	平安時代中心
7	11-002386	土師器甕体部	1	14	石田川
8	11-002387	土師器坏口縁部	10	37	平安時代中心
9	11-002388	土師器坏体～底部	27	109	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-002389	須恵器甕体部	1	45	
11	11-002390	須恵器碗口縁部	1	11	
12	11-002391	須恵器甕体部	2	12	
掘り方					
13	11-002392	土師器坏体部	3	8	平安時代中心
14	11-002393	土師器坏体～底部	3	12	平安時代中心

6-2-29号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002394	土師器甕口縁部	4	11	平安時代中心
2	11-002395	土師器甕体部	8	25	平安時代中心
3	11-002396	土師器甕底部	1	10	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002397	土師器坏口縁部	6	26	平安時代中心
5	11-002398	土師器坏体～底部	5	18	平安時代中心
6	11-002399	須恵器碗口縁部	1	12	

6-2-30号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000623	須恵器蓋	口径(10.5) 残高 2.2	破片。左回転軸轆整形。蓋上半部外面右回りの削り。頂部鈕貼付け時の撫で		第98図-1	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002400	土師器甕口縁部	2	45	平安時代中心
3	11-002401	土師器甕体部	3	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002402	土師器坏口縁部	4	28	平安時代中心
5	11-002403	軟質陶器	2	67	

6-2-31号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000624	須恵器蓋	口径 13.5 器高 2.8	ほぼ完形。右回転軸轆整形。鈕貼付け。蓋外面頂部付近左回りの回転削り	9世紀中葉 埼玉末野産か	第99図-1	PL65
2	10-000625	土師器坏	口径(11.9) 残高 3.1	1/4。口縁横撫で。体部内外面指押え。底部内面縦撫で、底面削り	9世紀前半	第99図-2	PL65
3	40-000251	鉄製鉸具	4.7×2.2×11.1	刺鉄欠損。鉸具は4.6×6.2×1.2cm。下に兵庫鎖が続くが錆がひどく不明瞭		第99図-3	PL65
4	40-000252	鉄製工具	残存9.5×1.5×0.8	柄部は長さ6.1cmで径9×6mmの木質残る。茎は幅6mmで下地巻が施され、横断面形隅丸長方形の縁金具装着。身は径12×6mm、長さ2.7cmの直方体で先端平らに加工	元は鑿か。用途不明	第99図-4	PL65
5	10-000626	甕壁体か	2.8×2.5×3.1	粘質土の焼土化したもの塊		-	PL65
6	10-000627	土師器甕	残径 7.8×6.1 厚 0.5	体部破片。表面刷毛目、内面磨き。上位に焼土した暗褐色土付着	古式土師。甕材に転用か	第100図-6	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002404	土師器甕口縁部	11	89	平安時代中心
8	11-002405	土師器甕体部	73	273	平安時代中心
9	11-002406	土師器甕底部	3	45	平安時代中心
10	11-002407	土師器坏口縁部	4	7	古墳時代後期
11	11-002408	土師器坏口縁部	31	163	黒漆塗布1点含む。平安時代中心
12	11-002409	土師器坏体～底部	62	209	黒漆塗布1点含む。平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
13	11-002410	須恵器甕口縁部	1	26	
14	11-002411	須恵器甕体部	2	18	
15	11-002412	須恵器碗口縁部	1	12	
16	11-002413	須恵器碗底部	1	5	
17	11-002414	須恵器蓋	1	7	
18	11-002415	スレート	1	12	

遺物一覧

6-2-32号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000628	土師器環	口径(12.4) 残高 3.5	破片。口縁～体部内面横撫で。体部外面撫で。底部内面横撫で、底面削り	9世紀前半	第101図-1	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002416	土師器甕口縁部	13	70	平安時代中心
3	11-002417	土師器甕体部	79	165	平安時代中心
4	11-002418	土師器環口縁部	44	160	平安時代中心
5	11-002419	土師器環体～底部	73	187	平安時代中心
6	11-002420	土師器高坏脚部	1	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002421	須恵器甕体部	1	44	
8	11-002422	須恵器蓋	1	5	
9	11-002423	須恵器碗体部	2	3	
10	11-002424		1	3	縄文

6-2-33号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000629	土師器環	口径(12.7) 器高 3.8	破片。口縁横撫で。体～底部内面横撫で。体部外面削り後撫で、底面削り	9世紀前半	第102図-1	PL65
2	10-000630	須恵器蓋	ソマ径 3.2 残高 2.1	頂部片。右回転軸整形。鈕貼付け。頂部付近外面左回りの回転削り	9世紀か	第102図-2	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
3	11-002425	土師器甕口縁部	2	6	平安時代中心
4	11-002426	土師器甕体部	26	83	平安時代中心
5	11-002427	土師器環口縁部	34	132	平安時代中心
6	11-002428	土師器環体～底部	48	184	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002429	須恵器甕体部	2	5	
8	11-002430	軟質陶器	1	17	
掘り方					
9	11-002431	土師器甕体部	3	12	平安時代中心
10	11-002432	土師器環口縁部	1	4	平安時代中心

6-2-34号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000631	須恵器環	底径 6.7 残高 1.9	腰～底部片。右回転軸整形。底面左回りの回転調整	8世紀後半	第103図-1	PL66
2	10-000632	土師器環	口径(11.6) 器高 2.8	1/4。口縁から体部内面横撫で。体部外面削り後撫で、底部内面横撫で。底面削り	9世紀前半	第103図-2	PL65
3	10-000633	土師器環	口径 13.5 器高 3.2	1/3。腰部と底部の屈曲明瞭。口縁から体部内面横撫で。体部外面削り後撫で、底部内面横撫で。底面削り	9世紀前半	第103図-3	PL65
4	20-000350	敷石	5.4×4.1×12.7	上側一部欠損。上端に敲打痕。中位に帯状の磨耗痕	こも編み石に転用砂岩	第103図-4	PL66
5	10-000634	土師器環	口径 12.5 底径 9.5 残高 2.7	1/2。底部欠損。腰部と底部の屈曲明瞭。口縁横撫で。内面体部～底部横撫で。外面体部削り後撫で、底面削り	9世紀前半	第103図-5	PL65
6	10-000635	土師器甕	口径(20.2) 残高 18.0	口縁～体部片。口縁横撫で。体部内面横撫で、外面削り	9世紀前半	第103図-6	PL65

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002433	土師器甕口縁部	1	8	平安時代中心
8	11-002434	土師器甕体部	13	87	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-002435	土師器環口縁部	6	16	平安時代
10	11-002436	土師器環体～底部	12	55	平安時代中心

6-2-35号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000636	須恵器碗	口径(12.1) 残高 2.5	口縁～体部破片。左回転軸整形	9世紀か	第104図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002437	土師器環口縁部	2	14	平安時代中心
3	11-002438	土師器環体～底部	5	9	平安時代中心
掘り方					
4	11-002439	土師器甕口縁部	9	57	平安時代中心
5	11-002440	土師器甕体部	52	130	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002441	土師器環口縁部	34	92	平安時代中心
7	11-002442	土師器環口縁部	3	10	古墳時代後期
8	11-002443	土師器環体～底部	67	187	平安時代中心
9	11-002444	須恵器甕体部	2	39	
10	11-002445	須恵器碗口縁部	7	18	
11	11-002446	須恵器碗体～底部	4	22	

6-2-36号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000351	こも編み石	5.7×3.3×11.9	河床礫使用。中位に帯状の磨耗痕廻る	竈支脚に使用石英閃緑岩	第105図-1	PL66

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002447	土師器甕口縁部	3	15	平安時代中心
3	11-002448	土師器甕体部	6	32	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002449	土師器坏口縁部	3	15	平安時代中心
5	11-002450	土師器坏体～底部	3	13	平安時代中心

6-2-37号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000352	砥石	径 3.8×1.8 残長 6.3	上位欠損。表裏左右面に研磨面残る。表裏面の磨耗顕著	砥沢石	第105図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002451	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
3	11-002452	土師器甕体部	4	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002453	土師器坏口縁部	2	8	平安時代中心

6-2-38号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000637	土師器坏	口径(14.6) 残高 4.0	破片。口縁～体部内面横撫で。底部内面縦撫で。体～底部外面鋭削り後、体部撫で	9世紀前半	第106図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002454	土師器甕口縁部	3	12	平安時代中心
3	11-002455	土師器甕体部	8	23	平安時代中心
4	11-002456	土師器甕底部	1	4	平安時代中心
5	11-002457	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心
6	11-002458	土師器坏体～底部	8	23	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002459	須恵器蓋体～底部	1	8	
掘り方					
8	11-002460	土師器甕口縁部	1	3	平安時代中心
9	11-002461	土師器甕体部	3	7	平安時代中心
10	11-002462	土師器坏口縁部	8	29	平安時代中心
11	11-002463	土師器坏体～底部	9	22	平安時代中心

6-2-39号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000638	須恵器坏	口径 12.9 (6.6) 底径 器高 4.0	1/3。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀後半	第107図-1	PL66
2	20-000353	磨石	4.8×3.1×8.2	河床礫使用。表面に研磨面残す	溶結凝灰岩	第107図-2	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002464	土師器甕口縁部	4	39	平安時代中心
4	11-002465	土師器甕体部	6	18	平安時代中心
5	11-002466	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心
6	11-002467	土師器坏体～底部	1	1	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002468	須恵器蓋	1	2	
8	11-002469	須恵器碗口縁部	2	28	
9	11-002470	須恵器碗底部	1	11	

6-2-40号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000639	土師器甕	口径 21.8 残高 11.5	口縁～体部片。口縁横撫で。体部内面縦撫で、外面鋭削り	9世紀前半	第108図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002471	土師器甕口縁部	5	22	平安時代中心
3	11-002472	土師器甕体部	9	120	平安時代中心
4	11-002473	土師器坏口縁部	2	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002474	土師器坏体～底部	4	16	平安時代中心
6	11-002475	須恵器碗口縁部	1	1	

6-2-41号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000640	土師器坏	口径(10.8) 残高 2.3	破片。口縁横撫で。体～底部内面縦撫で、外面鋭削り後体部指撫で	9世紀前半	第109図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002476	土師器甕口縁部	1	3	平安時代中心
3	11-002477	土師器甕体部	4	11	平安時代中心
4	11-002478	土師器甕体～底部	28	71	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002479	土師器坏口縁部	4	8	平安時代中心
6	11-002480	須恵器碗口縁部	2	6	
7	11-002481	須恵器碗体～底部	4	13	

遺物一覧

6-2-42号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000641	土師器坏	口径(11.2) 残径 3.3	破片。口縁～体部内面横撫で。底部内面寛撫で。体部～底部外面寛削り後体部指撫で	9世紀前半	第110図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002482	土師器甕口縁部	2	10	平安時代中心
3	11-002483	土師器甕体部	41	102	平安時代中心
4	11-002484	土師器坏口縁部	11	53	平安時代中心
5	11-002485	土師器坏体～底部	44	124	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002486	須恵器甕体部	1	42	
7	11-002487	須恵器坏体～底部	1	3	
8	11-002488	須恵器碗体～底部	1	11	
掘り方					
9	11-002489	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心

6-2-43号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002490	土師器甕口縁部	9	43	平安時代中心
2	11-002491	土師器甕体部	42	83	平安時代中心
3	11-002492	土師器甕底部	1	7	平安時代中心
4	11-002493	土師器坏口縁部	20	63	平安時代中心
5	11-002494	土師器坏体～底部	67	141	平安時代中心
6	11-002495	須恵器甕体部	1	234	
7	11-002496	須恵器蓋	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002497	須恵器碗口縁部	3	9	
9	11-002498	須恵器碗体部	1	2	
10	11-002499	須恵器碗底部	1	9	
11	11-002500	須恵器高台付碗口縁部	1	3	
12	11-002501	軟質陶器口縁部	1	3	
13	11-002502	軟質陶器体部	1	32	

6-2-44号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000642	土師器坏	口径(11.2) 残高 2.6	破片。体～底部の屈曲顕著。口縁～体部内面横撫で。底部内面寛撫で。体部～底部外面寛削り後体部指撫で	9世紀後半	第112図-1	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
2	11-002503	土師器甕口縁部	2	24	平安時代中心
3	11-002504	土師器甕体部	27	79	平安時代
4	11-002505	土師器坏口縁部	7	10	平安時代中心
5	11-002506	土師器坏口縁部	1	3	奈良時代
6	11-002507	土師器坏口縁部	2	6	平安時代
7	11-002508	土師器坏体～底部	25	67	平安時代
8	11-002509	土師器碗口縁部	1	11	平安時代中心
9	11-002510	須恵器甕体部	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-002511	軟質陶器鉢口縁部	1	49	
掘り方					
11	11-002512	土師器坏口縁部	3	17	奈良時代
12	11-002513	土師器坏口縁部	1	3	奈良時代・暗紋
13	11-002514	土師器坏口縁部	1	5	平安時代
14	11-002515	土師器坏体～底部	14	37	平安時代中心
15	11-002516	土師器甕口縁部	3	8	平安時代中心
16	11-002517	土師器甕体部	9	38	平安時代
17	11-002518	須恵器蓋	1	6	

6-2-45号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002519	土師器甕体部	3	7	平安時代中心
2	11-002520	土師器坏口縁部	4	10	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002521	土師器坏体～底部	4	21	平安時代中心

6-2-46号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000643	灰軸陶器広口瓶	口径(8.6) 残高 6.6	口縁下位～肩部1/2。口縁と肩部外面に自然軸掛かる	9世紀前半以降	第114図-1	PL66
2	40-000237	鉄滓	4.6×4.4×6.8	鉄分多い。何らかの鉄製品の可能性も残る		-	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
床上					
3	11-002522	土師器甕口縁部	2	13	平安時代中心
4	11-002523	土師器甕体部	10	30	平安時代中心
5	11-002524	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
6	11-002525	土師器坏体～底部	17	29	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002526	須恵器甕体部	4	219	
掘り方					
8	11-002527	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
9	11-002528	土師器坏体～底部	3	12	平安時代中心

遺物一覧

6-2-47号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002529	土師器甕体部	5	6	平安時代中心
2	11-002530	土師器坏口縁部	6	12	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002531	土師器坏体~底部	11	35	平安時代中心

6-2-48号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000644	須恵器高台付碗	口径(14.6) 底径7.2 器高 6.0	1/3. 右回転轆轤整形。底面高台貼付け後撫で、「春」(か)の刻書残る	9世紀後半	第116図-1	PL67
2	20-000354	磨石	4.8×3.1×7.8	小型の河床礫使用。表面と右側面に研磨面の磨り、中位に帯状に磨耗痕通る	こも編み石に転用粗粒輝石安山岩	第116図-2	PL66

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002532	土師器甕口縁部	13	93	平安時代中心
4	11-002533	土師器甕体部	76	243	平安時代中心
5	11-002534	土師器甕底部	1	10	平安時代中心
6	11-002535	土師器坏口縁部	13	53	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002536	土師器坏体~底部	55	221	平安時代中心
8	11-002537	須恵器甕体部	1	50	
9	11-002538	須恵器碗口縁部	3	19	
10	11-002539	須恵器碗底部	2	17	

6-2-49号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002540	土師器甕口縁部	2	5	平安時代中心
2	11-002541	土師器甕体部	24	113	平安時代中心
3	11-002542	土師器甕底部	1	13	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002543	土師器坏口縁部	5	21	平安時代中心
5	11-002544	土師器坏体~底部	8	37	平安時代中心
6	11-002545	須恵器碗口縁部	1	1	

6-2-50号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002546	土師器甕体部	4	16	平安時代中心
2	11-002547	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
3	11-002548	土師器坏体~底部	4	20	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002549	須恵器碗口縁部	2	3	
5	11-002550	須恵器碗体~底部	3	13	

6-2-51号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000645	土師器坏	口径(13.5) 器高 3.2	破片。口縁横撫で。体~底部内面寛撫で後放射状の暗紋施紋、外面鋭削り	9世紀中葉	第119図-1	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002551	土師器甕口縁部	1	12	平安時代中心
3	11-002552	土師器甕体部	68	165	平安時代中心
4	11-002553	土師器甕底部	2	3	平安時代中心
5	11-002554	土師器坏口縁部	23	89	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002555	土師器埴口縁部	2	27	平安時代中心
7	11-002556	須恵器碗口縁部	2	8	
8	11-002557	須恵器碗体~底部	4	13	

6-2-52号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000646	土師器坏	口径(14.8) 残高 3.2	1/3. 内面黒色処理。口縁横撫で、体~底部内面寛撫で、外面鋭削り後体部撫で	9世紀前半	第120図-1	PL67
2	10-000647	土師器坏	口径(12.7) 底径(7.3) 器高 3.5	1/3. 器面荒れる。内面放射状の暗紋。口縁横撫で、体~底部内面寛撫で、外面鋭削り	9世紀中葉	第120図-2	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002558	土師器甕口縁部	1	8	平安時代中心
4	11-002559	土師器甕体部	14	29	平安時代中心
5	11-002560	土師器甕体部	1	10	奈良時代以前

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002561	土師器坏口縁部	5	20	平安時代中心
7	11-002562	土師器坏体~底部	9	20	平安時代中心

6-2-53号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002563	土師器甕体部	1	1	平安時代中心
2	11-002564	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002565	土師器体~底部	1	2	平安時代中心

遺物一覧

6-2-54号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002566	土師器甕口縁部	1	12	平安時代中心
2	11-002567	土師器甕体部	4	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002568	土師器坏口縁部	2	7	平安時代中心

6-2-55号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002569	土師器甕体部	1	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002570	土師器坏口縁部	2	10	平安時代中心

6-2-56号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000648	土師器坏	口径 13.8 残高 4.0	1/4。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で、外面鋭削り後体部撫で	9世紀前半	第124図-1	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002571	土師器甕口縁部	3	23	平安時代中心
3	11-002572	土師器甕体部	38	178	平安時代中心
4	11-002573	土師器坏口縁部	9	51	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002574	土師器坏体～底部	8	17	平安時代中心
6	11-002575	土師器台付甕脚部	1	31	平安時代中心
7	11-002576	須恵器碗口縁部	1	2	

6-2-57号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000649	須恵器坏	口径 12.2 底径 5.8 器高 3.8	3/4。内面荒れる。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀後半	第125図-1	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002577	土師器甕口縁部	2	12	平安時代中心
3	11-002578	土師器甕体部	10	30	平安時代中心
4	11-002579	土師器坏口縁部	9	71	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002580	土師器坏体～底部	19	60	平安時代中心
6	11-002581	須恵器碗体部	1	3	

6-2-59号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000650	土師器坏	口径 12.4 残高 3.2	破片。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で、外面鋭削り後体部撫で	9世紀前半	第126図-1	PL67

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002582	土師器甕口縁部	2	15	平安時代中心
3	11-002583	土師器甕底部	1	3	平安時代中心
4	11-002584	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心
5	11-002585	土師器坏体～底部	4	19	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002586	須恵器甕体部	3	107	
7	11-002587	須恵器碗体～底部	5	33	
8	11-002588	軟質陶器	1	45	

6-2-61号住居

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002589	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002590	土師器坏体～底部	3	7	平安時代中心

6-2-62号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000651	須恵器甕	残存9.8×6.1 厚 1.4	体部破片。下縁に輪積みの剥離痕残る。外面叩き後撫で、内面撫で	平安期か	第129図-1	PL67

6-2-63号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000952	土師器甕	口径(22.0) 残高(7.8)	口～肩部1/4。口縁横撫で、肩部内面寛撫で、外面鋭削り	9世紀前半	第130図-1	PL67
2	10-000953	須恵器坏	口径(13.1) 器高 3.8	1/2。右回転轆轤整形。底部回転糸切り後、縁辺に撫で	9世紀後半	第130図-2	PL67
3	10-000954	須恵器坏	口径 12.0 器高 4.0	一部欠損。右回転轆轤整形。底部回転糸切り痕	9世紀後半	第130図-3	PL67

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002591	土師器甕体部	3	8	平安時代中心	6	11-002593	土師器坏体～底部	2	16	平安時代中心
5	11-002592	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心	7	11-002594	須恵器碗体～底部	1	3	

6-2-64号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000652	須恵器短頸壺	残高 3.4	口縁下位～肩部破片。肩部外面に横位の匏撫で	8世紀	第131図-1	PL67

6-2-65号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000653	土師器高坏	口径(12.9) 残高 4.8	坏部3/4。腰～底部外面匏削り後、内外面全面匏磨き	3世紀末葉	第132図-1	PL67
2	10-000654	土師器高坏	残高 4.4	坏部ほぼ完形。内外面刷毛目調整後匏磨き	3世紀末葉	第132図-2	PL68
3	10-000655	土師器台付甕	口径 11.5 残高 3.7	口縁～肩部1/2。S字状口縁。口縁横撫でで外面に串状工具による剥突。肩部内面指撫で、外面刷毛目	3世紀末葉	第132図-3	PL68
4	10-000656	土師器台付甕	口径(12.4) 残高 8.2	口縁～肩部片。口縁部横撫で、上位に指撫でによる強い凹縁廻る。内外面刷毛目後、肩部内面下位指撫で	4世紀前半か	第132図-4	PL68
5	10-000657	土師器瓢壺	頸部径 20.4 残高 6.8	頸部～肩部片。外面と口縁内面匏磨き、肩部内面指撫で	3世紀末葉	第132図-5	PL68
6	10-000658	土師器甕	口径(18.4) 底径 4.8 器高 24.3	2/3。口縁横撫で、頸部下位に横位の指撫で。体部外面浅い刷毛目、内面上位匏撫で、下位匏削り。底部外面匏削り、底面上げ底気味で撫で	3世紀末葉	第132図-6	PL68
7	10-000659	土師器甕	口径(17.0) 底径 5.2 残高 25.0	1/2。灰白色。口縁横撫で。頸部下位に横位の指撫で。体～底部内外面浅い刷毛目。底部外面匏削り、底面上底気味	3世紀末葉	第132図-7	PL68
8	20-000355	石核	6.1×4.7×10.8	左側縁に裏面から4片の剥片剥離の痕跡残る	黒色頁岩	第132図-8	PL68
9	20-000356	石核	10.6×5.5×12.6	下部切断。左側面上位に剥離痕	黒色頁岩	第132図-9	PL68

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-002595	土師器甕口縁部	7	33	平安時代中心	20	11-002605	土師器高坏体部	1	5	平安時代中心
11	11-002596	土師器甕口縁部	1	3	南掘	21	11-002606	土師器高坏脚部	2	69	平安時代中心
12	11-002597	土師器甕体部	25	83	平安時代中心	22	11-002607	須恵器甕口縁部	1	17	
13	11-002598	土師器甕体部	13	28	南掘り・未注記	23	11-002608	須恵器甕体部	3	79	
14	11-002599	土師器甕体部	9	46	S字状口縁	24	11-002609	須恵器坏口縁部	1	4	
15	11-002600	土師器坏口縁部	18	78	平安時代中心	25	11-002610	須恵器坏体～底部	1	7	
16	11-002601	土師器坏口縁部	12	30	南掘り・未注記	26	11-002611	須恵器碗口縁部	2	14	平安時代
17	11-002602	土師器坏体～底部	32	103	平安時代中心	27	11-002612	須恵器碗底部	2	12	平安時代
18	11-002603	土師器坏体～底部	18	46	南掘り・未注記	28	11-002613	軟質陶器	1	27	
19	11-002604	土師器高坏口縁部	1	25	平安時代中心	29	21-002102	石	3	578	

6-2-66号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000660	土師器高坏か	口径(11.3) 残高 3.2	口縁破片。内外面匏磨き	3世紀末葉	第135図-1	PL69
2	10-000661	土師器壺	口径(12.2) 残高 10.0	口縁～肩部。口縁横撫で。肩部内面匏撫で、外面匏削り	3世紀末葉	第135図-2	PL69
3	10-000662	土師器甕	底径 4.5 残高 4.3	腰～底部片。内面匏撫で。腰部外面刷毛目、底面上げ底気味で粗い匏磨き	3世紀末葉	第135図-3	PL69
4	20-000357	打製石斧	5.6×12.5×2.6	撥型。風化による割れあり。中位が瘤状に盛り上がる	黒色頁岩	第135図-4	PL69
5	20-000358	打製石斧	4.2×(10.2)×1.4	方形の分銅型。上端部欠損。全体に薄手	ホルンフェルス	第135図-5	PL69
6	20-000359	磨石	15.7×(16.7)×4.5	下位欠損。表裏面に剥離痕残る。表面に磨耗痕跡残る	礎石の可能性有粗粒輝石安山岩	第135図-6	PL69
7	20-000360	磨石	9.2×(11.5)×5.1	河床石使用。上下両端に敲打痕、表面に磨耗痕残る	粗粒輝石安山岩	第135図-7	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002614	土師器甕体部	5	8	平安時代中心	11	11-002617	須恵器碗口縁部	1	6	
9	11-002615	土師器甕体～底部	7	28	平安時代中心	12	21-002105	石	1	369	
10	11-002616	須恵器甕体部	2	26							

6-2-1号掘立柱建物

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
Pit 1					
1	11-002618	土師器坏体~底部	1	6	平安時代中心
Pit 2					
2	11-002619	土師器甕体部	4	17	平安時代中心
3	11-002620	土師器坏体~底部	4	12	平安時代中心
Pit 3					
4	11-002621	土師器甕体部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
Pit 3					
5	11-002622	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
6	11-002623	土師器坏体~底部	4	9	平安時代中心
Pit 4					
7	11-002624	土師器坏体~底部	3	7	平安時代中心
Pit 5					
8	11-002625	土師器甕口縁部	2	13	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
Pit 5					
9	11-002626	土師器甕体部	3	6	平安時代中心
10	11-002627	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
11	11-002628	土師器坏体~底部	2	8	平安時代中心
12	11-002629	須恵器碗口縁部	1	3	
Pit 7					
13	11-002630	土師器坏口縁部	2	12	平安時代中心
14	11-002631	土師器坏体~底部	3	14	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
Pit 8					
15	11-002632	土師器甕体部	1	3	平安時代中心
16	11-002633	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心
17	11-002634	土師器坏体~底部	3	7	平安時代中心
18	11-002635	須恵器碗口縁部	1	7	

6-2-45号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000663	土師器坏	口径(14.8) 残高 3.1	破片。口縁横撫で。体~底部内面寛撫で、外面寛削り	9世紀前半	第138図-1	PL69
2	40-000238	スラグか	3.4×1.7×1.5	小片。鉄分少ない。		—	PL69
3	40-000239	スラグか	残存3.2×1.8×1.2	小片。鉄分少ない。砂粒混じる		—	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002636	土師器甕口縁部	1	20	古墳時代前期中心
5	11-002637	土師器甕体部	2	20	古墳時代前期中心
6	11-002638	土師器台付甕口縁部	2	52	古墳時代前期中心
7	11-002639	土師器壺体部	5	38	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-002640	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心
9	11-002641	土師器甕体部	3	15	平安時代中心
10	11-002642	土師器坏口縁部	4	24	平安時代中心
11	11-002643	土師器坏体~底部	4	25	平安時代中心

6-2-46号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002644	土師器甕体部	3	60	古墳時代前期中心
2	11-002645	土師器壺口縁部	1	10	古墳時代前期中心
3	11-002646	土師器甕体部	6	43	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002647	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心
5	11-002648	土師器坏体~底部	7	93	平安時代中心

6-2-47号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002649	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心

6-2-48号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002650	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心

6-2-51号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002651	土師器甕体部	6	20	古墳時代前期中心
2	11-002652	土師器壺体部	1	9	古墳時代前期中心
3	11-002653	土師器甕口縁部	4	30	平安時代中心
4	11-002654	土師器甕体部	11	53	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002655	土師器坏口縁部	3	13	平安時代中心
6	11-002656	土師器坏体~底部	5	13	平安時代中心
7	11-002657	須恵器甕体部	4	160	
8	11-002658	瀬戸美濃陶器	1	4	

6-2-52号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000664	土師器坏	口径 11.2 残高 4.8	破片。内外面黒漆塗布の痕跡。口縁横撫で。体~底部内面寛撫で、外面寛削り	6世紀前半	第139図-1	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002659	土師器甕体部	2	10	古墳時代前期中心
3	11-002660	土師器壺口縁部	2	50	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002661	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心
5	11-002662	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心

遺物一覧

6-2-54号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002663	土師器甕体部	2	14	古墳時代前期中心
2	11-002664	土師器壺体部	5	14	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002664	土師器坏体~底部	1	7	平安時代中心

6-2-55号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000240	鎌	19.2×4.0×0.5	先端欠損。内湾し損耗弱い。右上に折り返し		第143図-1	PL69

6-2-56号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000665	土師器坏	口径 12.8 器高 3.3	1/2。口縁~体部内面横撫で。体部外面撫で。底部内面寛撫で、底面寛削り	8世紀後半	第144図-1	PL69
2	10-000666	土師器坏	残存厚 4.0×3.5 0.45	口縁破片。口縁横撫で。体部外面寛削り	6世紀前半	第144図-2	PL70
3	10-000667	土師器台付甕	底径 10.8 残高 5.8	脚部。内面下端折返しなし。内外面刷毛目	3世紀末葉	第144図-3	PL110

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-002666	土師器甕口縁部	2	20	古墳時代前期中心
5	11-002667	土師器甕体部	9	90	古墳時代前期中心
6	11-002668	土師器壺口縁部	1	5	古墳時代前期中心
7	11-002669	土師器壺体部	4	54	古墳時代前期中心
8	11-002670	土師器甕口縁部	2	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-002671	土師器甕体部	31	112	平安時代中心
10	11-002672	土師器甕底部	1	12	平安時代中心
11	11-002673	土師器坏口縁部	13	54	平安時代中心
12	11-002674	須恵器甕体部	1	13	

6-2-57号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002675	土師器坏口縁部	1	10	6 C前半

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002676	土師器坏体~底部	2	5	平安時代中心

6-2-58号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000668	土師器坏	口径(14.0) 残高 3.0	1/4。口縁から体部内面横撫で。体~底部内面寛撫で。体部外面撫で、底面寛削り	8世紀後半~9世紀前半	第144図-1	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002677	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002678	土師器甕体部	2	7	平安時代中心

6-2-59号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002679	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
2	11-002680	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002681	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心

6-2-61号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000669	土師器坏	口径 12.2 器高 3.2	3/4。口縁横撫で。体~底部内面寛撫で。体部外面撫で。底面左回りの寛削り	8世紀後半~9世紀前半	第143図-1	PL69
2	10-000670	須恵器甕	底径 15.0 残高 4.2	腰~底部片。粗い片岩混入。内面指撫で、外面寛撫で		第143図-2	PL69

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002682	土師器甕口縁部	1	2	古墳時代前期中心
4	11-002683	土師器甕体部	5	54	古墳時代前期中心
5	11-002684	土師器甕体部	1	5	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-002685	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心
7	11-002686	土師器坏体~底部	2	10	平安時代中心

6-2-62号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002687	土師器甕口縁部	5	30	古墳時代前期中心
2	11-002688	土師器甕体部	9	40	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002689	土師器壺体部	11	64	古墳時代前期中心
4	11-002690	土師器壺口縁部	1	20	古墳時代前期中心

遺物一覽

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-002691	土師器甕口縁部	4	30	平安時代中心
6	11-002692	土師器甕体部	6	30	平安時代中心
7	11-002693	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心

6-2-63号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002697	土師器甕体部	6	35	古墳時代前期中心

6-2-67号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002698	土師器甕体部	2	50	古墳時代前期中心

6-2-72号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000671	土師器甕	口径(17.1) 残高 8.4	口縁～肩部1/4。赤味掛かる。口縁横撫で。肩部外面弱い刷毛目、内面篋撫で	3世紀末葉	第145図-1	PL70
2	10-000672	土師器甕	口径(15.8) 残高 3.5	口縁～肩部破片。口縁外面指撫で。口端・口縁内面と肩部外面刷毛目。肩部内面篋撫で	3世紀末葉	第145図-2	PL70
3	10-000673	土師器甕	口径(14.4) 残高 14.5	口縁～胴部3/4。口縁横撫で。体部内面篋撫で、外面やや弱い刷毛目	3世紀末葉	第145図-3	PL70
4	10-000674	土師器甕	口径(17.0) 残高 7.7	口縁～肩部1/4。口縁外面指撫で。口端・口縁内面と肩部外面刷毛目、肩部内面篋撫で	3世紀末葉	第145図-4	PL70
5	10-000675	土師器甕	底径(6.6) 残高 7.3	腰～底部1/2。底面僅かに上げ底。腰部外面上位篋撫で、下位～底面篋削り。腰～底部内面篋磨き	3世紀末葉	第145図-5	PL70
6	10-000676	土師器小型壺	口径 12.7 底径3.6 残高 12.2	口縁一部欠損するもほぼ完形。口縁横撫で。体～底部外面篋削り、内面篋撫で	3世紀末葉	第145図-6	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-002700	土師器甕口縁部	2	20	古墳時代前期中心
8	11-002701	土師器甕体部	8	40	古墳時代前期中心
9	11-002702	土師器壺口縁部	4	16	古墳時代前期中心
10	11-002703	土師器壺体部	8	48	古墳時代前期中心
11	11-002704	土師器台付甕脚部	3	30	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
12	11-002705	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
13	11-002706	土師器甕体部	5	10	平安時代中心
14	11-002707	土師器坏口縁部	1	5	平安時代中心
15	11-002708	土師器坏体～底部	6	15	平安時代中心
16	21-002106	石	3	62	

6-2-183号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002709	須恵器甕体部	1	40	

6-2-198号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002710	土師器甕口縁部	1	50	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002711	土師器甕体部	4	200	古墳時代前期中心

6-2-172号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000677	土師器甕	口径 21.2 残高(6.8)	口縁～肩部破片。口縁横撫で。肩部内面篋撫で、外面へ篋削り	8世紀後半～9世紀前半	第151図-1	PL70

6-2-202号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000678	土師器坏	口径(11.6) 底径(10.0) 残高 2.6	破片。器面に凹凸が見られる。口縁横撫で体～底部内面篋撫でか。体部外面篋削り後撫で、底面篋削り	8世紀後半～9世紀前半	第150図-1	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002712	土師器甕口縁部	1	8	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002713	土師器坏口縁部	4	25	平安時代中心

遺物一覧

6-2-205号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000679	土師器坏	口径(11.8) 残高(3.0)	1/3。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で、外面寛削り後体部撫で	8世紀後半～9世紀前半	第151図-1	PL70
2	10-000680	須恵器蓋	口径18.5 器高5.1	1/4。右回転軸轆轤整形。頂部外面回転削り。環状鈕	8世紀中～後葉	第151図-2	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-002714	土師器坏体～底部	3	9	平安時代中心
4	11-002715	須恵器蓋	1	5	

6-2-206号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002716	土師器甕体部	7	15	平安時代中心
2	11-002718	土師器坏体～底部	4	6	平安時代中心

6-2-207号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002719	土師器甕口縁部	1	6	平安時代中心
2	11-002720	土師器甕体部	6	12	平安時代中心
3	11-002721	土師器坏体～底部	1	3	平安時代中心
4	11-002722	須恵器甕体部	1	3	
5	11-002723	須恵器碗口縁部	1	6	

6-2-208号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000681	土師器坏	口径(11.1) 残高(3.2)	1/4。内面漆塗布か。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で、土外面寛削り後体部撫で	8世紀後半～9世紀前半	第150図-1	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002724	土師器甕口縁部	8	38	平安時代中心
3	11-002725	土師器甕体部	10	39	平安時代中心
4	11-002726	土師器甕底部	1	42	平安時代中心
5	11-002727	土師器坏口縁部	10	44	
6	11-002728	土師器坏体～底部	12	63	

6-2-213号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002729	土師器甕口縁部	1	10	平安時代中心
2	11-002730	土師器甕体部	4	6	平安時代中心
3	11-002731	土師器坏口縁部	6	21	平安時代中心
4	11-002732	土師器坏体～底部	5	15	平安時代中心
5	11-002733	須恵器碗体部	1	3	
6	11-002734	灰軸陶器碗底部	1	21	

6-2-214号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002735	土師器甕口縁部	6	38	平安時代中心
2	11-002736	土師器甕体部	22	118	平安時代中心
3	11-002737	土師器甕底部	1	31	平安時代中心
4	11-002738	土師器坏口縁部	6	37	平安時代中心
5	11-002739	土師器坏体～底部	2	9	平安時代中心
6	11-002740	須恵器碗体部	1	5	

6-2-216号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002741	土師器甕体部	1	3	平安時代中心
2	11-002742	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
3	11-002743	土師器坏体～底部	1	5	平安時代中心

6-2-217号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002744	土師器甕口縁部	2	44	平安時代中心
2	11-002745	土師器甕体部	2	8	平安時代中心
3	11-002746	土師器坏体～底部	3	9	平安時代中心

6-2-218号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002747	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心

6-2-219号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-002748	土師器甕体部	8	16	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-002749	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心

6区水田出土遺物

6-1-As-B下水田面・耕作土

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000682	土師器甕	口径(22.0) 残高 7.3	口縁~肩部片。コ字状口縁。口縁横撫で、肩部内面寛撫で、外面寛削り	9世紀前半 水田耕土出土	第42図-1	PL71
2	10-000683	須恵器坏	口径(12.0) 底径(7.0) 器高 3.7	口縁~底部破片。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀前半 水田面出土	第42図-2	PL71
3	20-000361	石匙	(5.15)×(9.1)×1.4	縦長の石匙。左右両側刃部、上下端部欠損	水田面 珪質頁岩	第42図-3	PL71

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-水田面					
4	11-002750	土師器甕口縁部	4	13	平安時代中心
5	11-002751	土師器甕体部	110	195	平安時代中心
6	11-002752	土師器坏口縁部	29	61	平安時代中心
7	11-002753	土師器坏体~底部	48	91	平安時代中心
8	11-002754	土師器碗体~底部	1	7	平安時代中心
9	11-002755	須恵器碗口縁部	5	11	
10	11-002756	須恵器碗体~底部	3	6	
11	11-002757	軟質陶器	4	94	
12	11-002759	須恵器甕体部	2	38	
6-1-水田面フクト					
13	11-002766	須恵器甕体部	1	31	
14	11-002767	須恵器碗体~底部	1	10	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-As-B下水田耕作土					
15	11-002768	土師器甕口縁部	14	53	平安時代中心
16	11-002769	土師器甕体部	60	133	平安時代中心
17	11-002770	土師器甕底部	2	26	平安時代中心
18	11-002771	土師器坏口縁部	18	67	平安時代中心
19	11-002772	土師器坏体~底部	45	136	平安時代中心
20	11-002773	土師器碗口縁部	1	10	平安時代中心
21	11-002774	須恵器甕体部	11	435	
22	11-002775	須恵器碗口縁部	5	12	
23	11-002776	須恵器碗体~底部	7	55	

6区2面遺構外の出土遺物(グリット取り上げ遺物)

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000684	土師器器台	口径(13.1) 残高 3.8	脚部欠損。受皿部3/4。内外面刷毛目調整後寛磨き	4世紀前半 275-980G	第158図-1	PL71
2	10-000685	土師器坏	口径(14.4) 残高 4.2	口縁~底部片。口縁横撫で、体~底部内面寛磨き、外面寛削り後体部指撫で	6世紀前半 290-975G	第158図-2	PL71
3	10-000686	土師器坏	口径(13.0) 残高 5.8	1/4。口縁~体部内面横撫で。底部内面寛ら撫で。体~底部外面寛削り	6世紀前半 285-015G	第158図-3	PL71
4	10-000687	土師器坏	口径(11.8) 底径 9.3 器高 3.2	1/2。口縁~体部内面横撫で。底部内面寛撫で。体部~底部外面寛削り	8世紀前半 270-980G	第158図-4	PL71
5	10-000688	土師器坏	口径 12.0 底径 10.5 器高 3.0	一部欠損。口縁~体部内面横撫で。体部外面寛撫で。底部内面寛撫で、外面寛削り	8世紀後半 290-990G	第158図-5	PL71
6	10-000689	土師器坏	口径(12.1) 残高(2.9)	1/4。器面荒れる。口縁横撫で体~底部内面寛撫で。体部外面撫で、底面寛削り	9世紀前半 265-975G	第158図-6	PL71
7	10-000690	土師器坏	口径(11.6) 底径(8.3) 器高 3.0	1/4。口縁~体部内面横撫で。体部外面撫で。底部内面寛撫で、底面寛削り	9世紀後半 295-990G	第158図-7	PL71
8	10-000691	土師器坏	底径 7.4 残高 0.8	腰~底部片。内面腰部横撫で、底部寛撫で後指撫で。外面寛削り。底部中央内外面に指押さえ痕	平安期か 295-995G	第158図-8	PL72
9	10-000692	須恵器坏	口径(13.8) 底径(10.0) 器高 3.8	口縁~底部破片。右回転轆轤整形。底面回転糸切り痕残り、腰部に寛調整	8世紀後半 280-980G	第158図-9	PL72
10	10-000693	須恵器坏	口径(12.6) 器高 3.6	1/2。表面のみ還元焰焼成。右回転轆轤整形。底面に回転糸切り痕	9世紀前半 260-980G	第158図-10	PL71
11	10-000694	須恵器坏	口径(12.9) 底径(6.9) 器高 3.1	口縁~底部破片。やや暗い灰色を呈す。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀後半 280-980G	第158図-11	PL72
12	10-000695	須恵器高台付碗	口径(11.3) 底径 6.0 器高 3.6	2/3。高台部欠損。酸化焰焼成で焼きあまい。内面吸炭による黒色処理。右回転轆轤整形。底面に回転糸切り痕	9世紀前半 270-020G	第158図-12	PL71

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
13	10-000696	土師器甕	口径 底径 器高	口縁欠損、肩～底部2/3。体部内面上部部寛撫で、下半部～底部内面指撫で。体部外面刷毛目。底面寛調整か	5世紀後半 305-020G	第158図 -13	PL71
14	10-000697	土師器甕	底径(8.7) 残高 9.2	腰部破片。器面荒れる。外面寛削り	古墳時代後期 290-010G	第158図 -14	PL72
15	10-000698	須恵器長頸壺	底径(11.5) 器高 上部 10.7 下部 11.1	頸～肩部片と体部～底部片。暗灰色で焼成良好轆轤整形。頸部狭く、頸～肩部三段構成。腰部下位回転削り。高台付き、高台・底面撫で調整	9世紀前半 280-980G (6-2-19号住)	第158図 -15	PL72
16	10-000699	灰釉陶器長頸壺	底径(8.6) 残高 8.5	腰～高台部片。轆轤整形。底面回転撫で。高台底部に珪酸質付着	9世紀前半 275-975G	第158図 -16	PL72
17	10-000700	灰釉陶器長頸壺	口径(8.7) 底径 8.2 残高 22.7	口縁～底部1/3。高台欠損。体部内面荒れる。口縁～頸部内外面と肩～胴部外面に灰釉残る。	9世紀中～後半 280-975G	第159図 -17	PL71
18	10-000701	須恵器甕	底径(15.8) 残高	腰～底部破片。腰部内外面叩き整形。底部内面輪積痕残り撫で整形。底面編物の圧痕残る	9世紀か 290-995G	第159図 -18	PL72
19	10-000702	棧瓦	残存 12.5×6.8 厚 1.7	破片。表裏面撫で、側縁筋による撫で調整	17世紀後半以降 290-010G	第159図 -19	PL72
20	10-000703	軟質陶器鉢か	口径(36.0) 残高 14.3	口縁～体部片。胎土精製。轆轤整形。内面に磨耗痕。	260-010G	第159図 -20	PL72
21	20-000362	砥石	6.5×4.1×17.2	粗粒輝石安山岩の河床礫使用。右側縁に研磨面形成。裏面上半右側縁近くに研磨痕残る	285-995G 粗粒輝石安山岩	第159図 -21	PL73
22	20-000363	砥石	4.5×2.5×13.2	粗粒輝石安山岩の箱形の河床礫使用。表裏面に研磨痕残り弱い面を造る。中に磨耗痕廻る	こも編み石転用 290-000G 粗粒輝石安山岩	第159図 -22	PL73
23	20-000364	砥石	4.2×2.9×12.6	珪質頁岩の横断面三角形の河床礫使用。下面の研磨痕顕著。中に磨耗痕跡残る	こも編み石転用 290-980G	第159図 -23	PL72
24	20-000365	砥石	4.3×2.3×(11.6)	下半欠損。粗れん石片岩の河床礫使用。上端に敲打痕残り、中に磨耗痕、また左側縁に研磨痕残る	こも編み石転用 285-995G 粗れん石片岩	第159図 -24	PL72
25	20-000366	砥石	3.8×2.8×(6.3)	中・下位欠損。凝灰質砂岩の河床石使用。上端に敲打痕残り、中に磨耗痕廻る	こも編み石転用 280-980G	第159図 -25	PL73
26	20-000367	打製石斧	4.7×1.5×12.9	黒色頁岩使用。中位が狭まる短冊形。上下端に剥離痕残る	265-985G 黒色頁岩	第160図 -26	PL73
27	20-000368	打製石斧	5.7×1.7×14.2	黒色安山岩使用。撥形を呈す。上端は自然面残り、刃部には使用による剥離痕残る	290-990G 黒色頁岩	第160図 -27	PL73
28	20-000369	石鏃	2.0×0.5×(3.7)	黒色安山岩使用の有茎鏃。切っ先は凸状に突き出しが有り、先端欠損。茎は三角形を呈す。	270-975G 黒色安山岩	第160図 -28	PL73
29	20-000370	石鏃	2.6×(0.35)×3.2	黒色頁岩使用の有茎鏃。表裏面剥離。先端と左側元部先端欠損	290-020G 黒色頁岩	第160図 -29	PL73
30	20-000371	石鏃	1.9×0.4×3.0	黒曜石使用の有茎鏃。側縁やや膨らみ鋸状を呈す	300-020G 黒曜石	第160図 -30	PL73
31	40-000241	鉄斧	長さ(9.5) 刃部幅 4.4 袋部径 3.6×2.1	先端欠損。有袋式無肩撥型。袋部は折り曲げて形成。袋穂内径2.6×0.8cm	295-990G	第160図 -31	PL73
32	40-000242	鉄鎚	長さ 6.6 径 1.3× 1.1 最大幅 1.6	小型の鎚。やや細細り気味の直方体を呈す。暫時使用後に一方の小口が潰される。柄穴は穿たれない	玄能からの転用か 760-975G	第160図 -32	PL73
33	40-000243	鉄鋌	長さ 3.2 頭部径 1.7×1.7 本体長 2.1 径 0.35×0.3	先端欠損。頭は球面状を呈し、本体は短く、6～7角の角錐状を呈する	295-990G	第160図 -33	PL73
34	40-000244	角釘	残長 4.1 径 0.5×0.4	欠損品。先端曲がる	280-980G	第160図 -34	PL73
35	40-000245	角釘	残長 3.3 径 0.5×0.5	欠損品。先端扁平になり切断	265-975G	第160図 -35	PL73
36	10-000704	須恵器坏	底径 6.3 残高 3.6	腰～底部1/4。外面軸掛かる。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	9世紀前半	第158図 2面-1	PL70
37	30-000103	板材	径 8.0×4.1 厚 0.9	破片。上下縁割れ。表裏カンナ痕	ナラか?	-	PL70

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
	6-070-020	グリット			
38	11-002777	土師器甕体部	1	1	古墳時代前期中心
	6-225-000	グリット			
39	11-002778	土師器甕体部	6	63	古墳時代前期中心
40	11-002779	土師器壺体部	6	75	古墳時代前期中心
41	11-002780	須恵器甕体部	1	23	
	6-255-000	グリット			
42	11-002781	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
43	11-002782	土師器高坏脚部	1	10	古墳時代前期中心
44	11-002783	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
45	11-002784	土師器甕体部	2	7	平安時代中心
46	11-002785	土師器坏体～底部	3	8	平安時代中心
	6-255-980	グリット			
47	11-002786	土師器坏口縁部	1	4	平安時代中心
48	11-002787	土師器坏体～底部	1	4	平安時代中心
	6-257-975	グリット			
49	11-002788	須恵器甕体部	1	22	
	6-259-995	グリット			
50	11-002789	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-260-000グリット					
51	11-002790	土師器壺体部	5	30	古墳時代前期中心
52	11-002791	土師器甕口縁部	1	3	平安時代中心
53	11-002792	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
54	11-002793	土師器坏体～底部	1	7	平安時代中心
55	11-002794	土師器壙口縁部	1	44	平安時代中心
6-260-010グリット					
56	11-002795	土師器甕体部	2	38	古墳時代前期中心
57	11-002796	土師器甕口縁部	1	7	平安時代中心
58	11-002797	土師器甕体部	5	15	平安時代中心
59	11-002798	土師器坏体～底部	8	40	平安時代中心
60	11-002799	須恵器甕体部	2	19	
6-260-020グリット					
61	11-002800	土師器甕体部	1	10	古墳時代前期中心
62	11-002801	土師器壙口縁部	1	19	
6-260-970グリット					
63	11-002802	土師器甕口縁部	2	12	平安時代中心
64	11-002803	土師器甕体部	4	12	平安時代中心
65	11-002804	土師器坏口縁部	4	23	平安時代中心
66	11-002805	土師器坏体～底部	4	37	平安時代中心
67	11-002806	須恵器甕体部	1	10	
6-260-975グリット					
68	11-002807	土師器甕体部	7	13	平安時代中心
69	11-002808	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
70	11-002809	土師器坏体～底部	6	14	平安時代中心
71	11-002810	軟質陶器	3	45	
6-260-980グリット					
72	11-002811	土師器甕体部	2	10	古墳時代前期中心
73	11-002812	土師器壺体部	2	14	古墳時代前期中心
74	11-002813	土師器甕口縁部	54	212	平安時代中心
75	11-002814	土師器甕体部	200	567	平安時代中心
76	11-002815	土師器甕体部	1	6	薄手
77	11-002816	土師器甕底部	5	38	平安時代中心
78	11-002817	軟質陶器	1	45	
79	11-002818	土師器坏口縁部	85	276	平安時代中心
80	11-002819	土師器坏体～底部	192	560	平安時代中心
81	11-002820	須恵器甕体部	2	37	
82	11-002821	須恵器甕底～台部	1	70	
83	11-002822	須恵器碗口縁部	13	48	
84	11-002823	須恵器碗体～底部	16	45	
6-260-985グリット					
85	11-002824	土師器甕体部	1	16	古墳時代前期中心
86	11-002825	土師器甕口縁部	1	30	コの字
87	11-002826	土師器甕体部	3	9	平安時代中心
88	11-002827	土師器坏口縁部	3	15	平安時代中心
89	11-002828	土師器坏体～底部	1	9	平安時代中心
90	21-002107	石	1	17	
6-260-990グリット					
91	11-002830	土師器壺体部	1	1	古墳時代前期中心
92	11-002831	土師器甕体部	6	17	平安時代中心
93	11-002832	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
94	11-002833	土師器坏体～底部	6	13	平安時代中心
95	11-002834	須恵器甕体部	1	4	
96	11-002835	須恵器碗体～底部	1	3	
6-265-020グリット					
97	11-002836	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心
6-265-970グリット					
98	11-002837	土師器甕口縁部	5	16	平安時代中心
99	11-002838	土師器甕体部	11	23	平安時代中心
100	11-002839	土師器甕底部	1	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-265-970グリット					
101	11-002840	土師器坏口縁部	6	32	平安時代中心
102	11-002841	土師器坏体～底部	14	34	平安時代中心
103	11-002842	須恵器甕体部	1	8	
104	11-002843	須恵器甕底部	2	13	
6-265-975グリット					
105	11-002844	土師器甕体部	2	12	古墳時代前期中心
106	11-002845	土師器壺体部	1	9	古墳時代前期中心
107	11-002846	土師器甕口縁部	13	54	平安時代中心
108	11-002847	土師器甕体部	119	277	平安時代中心
109	11-002848	土師器甕底部	4	63	平安時代中心
110	11-002849	土師器坏口縁部	66	182	平安時代中心
111	11-002850	土師器坏体～底部	153	390	平安時代中心
112	11-002851	土師器台付甕体～脚部	1	53	平安時代中心
113	11-002852	須恵器甕口縁部	1	22	
114	11-002853	須恵器甕体部	2	53	
115	11-002854	須恵器碗口縁部	2	6	
116	11-002855	須恵器碗体～底部	3	10	
117	11-002856	軟質陶器	1	32	
6-265-980グリット					
118	11-002859	土師器坏体～底部	58	136	平安時代中心
119	11-002861	須恵器甕体部	2	30	
120	11-002862	須恵器碗口縁部	7	27	
121	11-002863	須恵器碗体～底部	5	56	
122	11-002864	須恵器高台付碗体部	1	2	
123	11-002865	須恵器蓋	1	14	
124	21-002108	石	1	62	
125	11-004921	土師器台付甕脚部?	1	10	古墳時代前期中心
126	11-004922	須恵器高台付碗体部	1	2	
6-265-985グリット					
127	11-002860	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心
128	11-002861	土師器坏体～底部	1	6	平安時代中心
129	11-002862	軟質陶器	1	13	
6-265-990グリット					
130	11-002863	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
131	11-002864	土師器甕体部	1	3	古墳時代前期中心
132	11-002865	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心
133	11-002866	土師器甕口縁部	2	6	平安時代中心
134	11-002867	土師器甕体部	5	58	平安時代中心
135	11-002868	土師器甕底部	1	5	平安時代中心
136	11-002869	土師器坏口縁部	2	7	平安時代中心
137	11-002870	土師器坏体～底部	1	3	平安時代中心
138	11-002871	須恵器碗口縁部	1	6	
6-265-995グリット					
139	11-002872	土師器甕体部	4	64	古墳時代前期中心
140	11-002873	土師器台付甕体部	2	10	古墳時代前期中心
141	11-002874	土師器甕体部	2	4	平安時代中心
142	11-002875	土師器坏口縁部	2	6	6 C
143	11-002876	土師器坏口縁部	2	17	平安時代中心
144	11-002877	土師器坏底部か?	1	2	平安時代中心
145	11-002878	須恵器碗体～底部	1	11	
146	11-002879	土師器坏口縁部	25	60	
147	11-002880	土師器台付甕脚部	1	10	
6-270-000グリット					
148	11-002886	土師器甕口縁部	1	9	古墳時代前期中心
149	11-002887	土師器甕体部	9	70	古墳時代前期中心
150	11-002888	土師器甕底部	1	14	古墳時代前期中心
151	11-002889	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
152	11-002890	土師器甕口縁部	2	6	平安時代中心
153	11-002891	土師器甕体部	3	6	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-270-000グリット					
154	11-002892	土師器坏口縁部	4	23	平安時代中心
155	11-002893	土師器坏体～底部	1	4	平安時代中心
156	11-002894	土師器坏底部	1	1	平安時代中心
157	11-002895	須恵器甕体部	1	5	
6-270-010グリット					
158	11-002896	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
159	11-002897	土師器甕体部	3	10	古墳時代前期中心
160	11-002898	土師器壺体部	3	20	古墳時代前期中心
161	11-002899	土師器甕口縁部	7	36	平安時代中心
162	11-002900	土師器甕体部	25	58	平安時代中心
163	11-002901	土師器坏口縁部	12	42	平安時代中心
164	11-002902	土師器坏体～底部	44	121	平安時代中心
165	11-002903	須恵器甕口縁部	1	8	
166	11-002904	須恵器甕体部	6	138	
167	11-002905	須恵器甕底部	1	6	
168	11-002906	須恵器碗口縁部	1	3	
169	11-002907	須恵器碗体～底部	4	39	
170	11-002908	軟質陶器	2	11	
6-270-020グリット					
171	11-002909	土師器甕体部	1	13	古墳時代前期中心
172	11-002910	土師器壺体部	1	1	古墳時代前期中心
173	11-002911	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心
6-270-970グリット					
174	11-002912	土師器甕口縁部	2	18	平安時代中心
175	11-002913	土師器甕体部	1	16	平安時代中心
6-270-975グリット					
176	11-002914	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
177	11-002915	土師器甕口縁部	8	34	平安時代中心
178	11-002916	土師器甕体部	73	178	平安時代中心
179	11-002917	土師器坏口縁部	23	75	平安時代中心
180	11-002918	土師器坏体～底部	80	216	平安時代中心
181	11-002919	須恵器甕体部	2	28	
182	11-002920	須恵器碗体～底部	2	4	
6-270-985グリット					
183	11-002922	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
184	11-002923	土師器甕口縁部	4	14	平安時代中心
185	11-002924	土師器甕体部	16	51	平安時代中心
186	11-002925	土師器坏口縁部	6	22	平安時代中心
187	11-002926	土師器坏体～底部	18	45	平安時代中心
188	11-002927	須恵器碗口縁部	1	4	
189	11-004923	須恵器甕体部	2	9	
6-270-990グリット					
190	11-002928	土師器甕体部	1	3	古墳時代前期中心
191	11-002929	土師器坏体～底部	3	6	平安時代中心
6-270-995グリット					
192	11-002930	土師器甕体部	3	10	古墳時代前期中心
193	11-002931	土師器器台脚部	1	10	古墳時代前期中心
194	11-002932	土師器甕体部	1	4	平安時代中心
195	11-002933	土師器坏口縁部	1	21	平安時代中心
196	11-002934	土師器坏口縁部	2	28	6 C
197	11-002935	土師器坏体～底部	1	11	平安時代中心
6-275-000グリット					
198	11-002936	土師器甕体部	1	16	古墳時代前期中心
199	11-002937	土師器坏体～底部	1	3	平安時代中心
6-275-010グリット					
200	11-002938	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心
6-275-860グリット					
201	11-002939	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心
202	11-002940	土師器甕体部	3	14	平安時代中心
203	11-002941	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
204	11-002942	土師器坏体～底部	3	14	平安時代中心
205	11-002943	須恵器碗体～底部	1	6	
6-275-975グリット					
206	11-002955	土師器甕口縁部	2	14	古墳時代前期中心
207	11-002956	土師器甕体部	7	38	古墳時代前期中心
208	11-002957	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心
209	11-002958	土師器壺体部	5	28	古墳時代前期中心
210	11-002959	土師器甕口縁部	12	50	平安時代中心
211	11-002960	土師器甕体部	90	160	平安時代中心
212	11-002961	土師器坏口縁部	27	65	平安時代中心
213	11-002962	土師器坏底部	1	9	平安時代中心
214	11-002963	土師器坏体～底部	98	223	平安時代中心
215	11-002964	土師器高坏坏部	1	3	平安時代中心
216	11-002965	土師器高坏脚部	1	35	平安時代中心
217	11-002966	須恵器甕体部	5	137	
218	11-002967	須恵器碗口縁部	5	23	
219	11-002968	須恵器碗体～底部	5	62	
6-275-980グリット					
220	11-002969	土師器甕体部	6	35	古墳時代前期中心
221	11-002970	土師器壺体部	3	10	古墳時代前期中心
222	11-002971	土師器甕口縁部	9	43	平安時代中心
223	11-002944	土師器甕体部	64	151	平安時代中心
224	11-002945	土師器甕底部	4	29	平安時代中心
225	11-002946	土師器坏口縁部	32	98	平安時代中心
226	11-002947	土師器坏体～底部	69	190	平安時代中心
227	11-002948	土師器高坏底～脚部	1	6	平安時代中心
228	11-002949	須恵器甕口縁部	1	13	
229	11-002950	須恵器甕体部	1	10	
230	11-002951	須恵器碗口縁部	5	32	
231	11-002952	須恵器碗体～底部	4	20	
232	11-002953	軟質陶器	1	29	
233	11-002954	軟質陶器	1	45	
6-275-985グリット					
234	11-002972	土師器台付甕体部	2	3	古墳時代前期中心
235	11-002973	土師器壺体部	2	10	古墳時代前期中心
236	11-002974	土師器甕口縁部	3	10	平安時代中心
237	11-002975	土師器甕体部	11	52	平安時代中心
238	11-002976	土師器甕底部	2	14	平安時代中心
239	11-002977	土師器坏口縁部	3	5	平安時代中心
240	11-002978	土師器坏体～底部	9	25	平安時代中心
241	11-002979	土師器坏底部	1	3	平安時代中心
242	11-002980	須恵器甕体部	1	83	
6-275-990グリット					
243	11-002981	土師器壺体部	2	15	古墳時代前期中心
244	11-004924	土師器甕体部	1	3	古墳時代前期中心
245	11-002982	土師器甕口縁部	1	17	平安時代中心
246	11-002983	土師器甕体部	1	3	平安時代中心
247	11-002984	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
248	11-002985	土師器坏体～底部	3	10	平安時代中心
6-275-995グリット					
249	11-002986	土師器甕体部	2	50	古墳時代前期中心
6-280グリット					
250	11-002987	土師器甕体部	4	14	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-280-000グリット					
251	11-002988	土師器壺体部	28	265	古墳時代前期中心
252	11-002989	土師器壺口縁部	1	2	古墳時代前期中心
253	11-002990	土師器壺体部	2	19	古墳時代前期中心
254	11-002991	土師器壺底部	1	18	古墳時代前期中心
255	11-002992	土師器台付壺口縁部	3	17	古墳時代前期中心
256	11-002993	土師器台付壺体部	6	7	古墳時代前期中心
257	11-002994	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
258	11-002995	土師器坏体~底部	9	36	平安時代中心
6-280-005グリット					
259	21-002996	石	1	769	
6-280-010グリット					
260	11-002997	土師器壺体部	8	115	古墳時代前期中心
261	11-002998	土師器坏底部	3	22	平安時代中心
6-280-015グリット					
262	11-002999	土師器壺体部	5	40	古墳時代前期中心
6-280-020グリット					
263	11-003001	土師器壺体部	8	115	古墳時代前期中心
264	11-003002	土師器坏底部	1	3	平安時代中心
6-280-905グリット					
265	11-003003	軟質陶器鉢体部	1	14	
6-280-965グリット					
266	11-003004	土師器壺体部	2	36	古墳時代前期中心
267	11-003005	土師器台付壺体部	1	2	古墳時代前期中心
6-280-970グリット					
268	11-003006	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
6-280-975グリット					
269	11-003007	土師器壺体部	2	34	古墳時代前期中心
270	11-003008	土師器壺口縁部	1	5	平安時代中心
271	11-003009	土師器壺体部	1	4	平安時代中心
6-280-980グリット					
272	11-003010	土師器壺口縁部	1	10	古墳時代前期中心
273	11-003011	土師器壺体部	8	104	古墳時代前期中心
274	11-003012	土師器壺口縁部	2	48	古墳時代前期中心
275	11-003013	土師器壺口縁部	6	30	平安時代中心
276	11-003014	土師器壺体部	53	165	平安時代中心
277	11-003015	土師器坏口縁部	40	129	平安時代中心
278	11-003016	土師器坏体~底部	68	226	平安時代中心
279	11-003017	土師器壺口縁部	1	13	平安時代中心
280	11-003018	須恵器壺口縁部	2	147	
281	11-003019	須恵器壺体部	21	773	
282	11-003020	須恵器壺体部	2	17	薄い
283	11-003021	須恵器碗口縁部	5	22	
284	11-003022	須恵器碗体~底部	9	48	
285	11-003023	軟質陶器体部	22	683	
286	11-003024	軟質陶器	4	64	
287	11-003025	灰軸陶器壺体部	20	220	
6-280-985グリット					
288	11-003026	土師器壺体部	2	30	古墳時代前期中心
289	11-003027	土師器壺口縁部	3	11	平安時代中心
290	11-003028	土師器壺体部	5	20	平安時代中心
291	11-003029	土師器坏口縁部	5	25	平安時代中心
292	11-003030	土師器坏体~底部	4	19	平安時代中心
6-282-010グリット					
293	11-003031	土師器壺体部	2	30	古墳時代前期中心
294	11-003032	土師器台付壺体部	1	1	古墳時代前期中心
295	11-003033	土師器高坏口縁部	1	9	古墳時代前期中心
6-285-000グリット					
296	11-003034	土師器壺体部	1	12	古墳時代前期中心
297	11-003035	土師器壺体部	3	17	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-285-010グリット					
298	11-003036	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
299	21-002109	石	1	488	
300	11-003037	土師器壺体部	3	8	平安時代中心
301	11-003038	土師器坏体~底部	2	11	平安時代中心
302	11-003039	土師器坏底部	1	8	平安時代中心
303	11-003040	須恵器碗口縁部	1	5	
304	11-003041	軟質陶器	3	56	
6-285-015グリット					
305	11-003042	土師器壺体部	2	8	古墳時代前期中心
306	11-003043	土師器壺体部	1	6	平安時代中心
307	11-003044	土師器壺体部	2	97	奈良時代以前
308	11-003045	土師器坏体~底部	4	36	平安時代中心
6-285-885C混下グリット					
309	11-003046	施釉陶器口縁部	1	1	
6-285-970グリット					
310	11-003047	土師器壺体部	2	23	古墳時代前期中心
6-285-975グリット					
311	11-003048	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
312	11-003049	土師器壺口縁部	1	40	古墳時代前期中心
6-285-980グリット					
313	11-003050	土師器壺体部	2	4	古墳時代前期中心
314	11-003051	土師器壺口縁部	1	12	古墳時代前期中心
6-285-985グリット					
315	11-003052	土師器壺体部	1	8	古墳時代前期中心
6-285-995グリット					
316	11-003053	土師器坏口縁部	1	8	
6-290-005グリット					
317	11-003054	土師器壺体部	3	6	古墳時代前期中心
318	11-003055	土師器壺口縁部	2	8	古墳時代前期中心
319	11-003056	土師器壺体部	3	20	古墳時代前期中心
320	11-003057	土師器坏体~底部	2	4	平安時代中心
6-290-010グリット					
321	11-003058	土師器壺体部	2	45	古墳時代前期中心
322	11-003059	土師器壺口縁部	1	10	古墳時代前期中心
323	11-003060	土師器壺口縁部	1	36	平安時代中心
324	11-003061	土師器壺体部	4	57	平安時代中心
325	11-003062	土師器坏口縁部	1	9	平安時代中心
326	11-003063	土師器坏体~底部	1	3	平安時代中心
6-290-285グリット					
327	11-003064	須恵器碗底部	1	34	
6-290-795グリット					
328	11-003065	土師器台付壺体部	1	2	古墳時代前期中心
6-290-975グリット					
329	11-003066	土師器壺体部	1	20	古墳時代前期中心
330	11-003067	土師器壺体部	1	30	古墳時代前期中心
331	11-003068	土師器坏体~底部	1	15	平安時代中心
332	11-003069	須恵器壺体部	1	37	
6-290-985グリット					
333	11-003070	土師器壺体部	1	2	フクド
334	11-003071	土師器壺体部	2	11	古墳時代前期中心
335	11-003072	土師器壺体部	1	3	フクド・平安時代
336	11-003073	土師器壺底部	5	23	フクド
337	11-003074	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心
338	11-003075	土師器坏口縁部	4	13	フクド
339	11-003076	土師器坏口縁部	1	4	フクド・古墳時代後期
340	11-003077	土師器坏底部	4	8	フクド
341	11-003078	土師器壺口縁部	1	7	フクド
342	11-003079	須恵器壺体部	3	216	
343	11-003080	須恵器碗体~底部	1	11	フクド

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-290-990グリット					
344	11-003081	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
345	11-003082	土師器甕口縁部	1	8	平安時代中心
346	11-003083	土師器甕体～底部	5	17	平安時代中心
347	11-003084	土師器坏口縁部	14	84	平安時代中心
348	11-003085	土師器坏体～底部	13	60	平安時代中心
349	11-003086	土師器埴口縁部	1	31	平安時代中心
350	11-003087	須恵器埴口縁部	2	10	
351	11-003088	須恵器埴体～底部	1	20	
6-290-995グリット					
352	11-003089	土師器甕体部	2	9	古墳時代前期中心
353	11-003090	土師器壺口縁部	1	14	古墳時代前期中心
354	11-003091	土師器壺体部	2	8	古墳時代前期中心
355	11-003092	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心
356	11-003093	土師器甕体部	5	18	平安時代中心
357	11-003094	土師器坏口縁部	14	71	平安時代中心
358	11-003095	土師器坏体～底部	41	135	平安時代中心
359	11-003096	須恵器甕体部	4	21	
360	11-003097	須恵器碗体～底部	1	7	
6-295-000グリット					
361	11-003098	土師器甕口縁部	1	15	平安時代中心
362	11-003099	土師器甕体部	5	25	平安時代中心
363	11-003100	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
364	11-003101	土師器坏体～底部	6	15	平安時代中心
6-295-030グリット					
365	11-003102	土師器甕体部	2	22	古墳時代前期中心
6-295-010グリット					
366	11-003103	土師器壺口縁部	1	28	古墳時代前期中心
6-295-015グリット					
367	11-003104	土師器甕体部	2	30	古墳時代前期中心
368	11-003105	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
369	11-003106	須恵器碗体～底部	1	8	
6-295-980グリット					
370	11-003107	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
371	11-003108	土師器坏口縁部	1	12	平安時代中心
372	11-003109	土師器坏体～底部	1	16	平安時代中心
6-295-985グリット					
373	11-003110	土師器甕体部	4	20	古墳時代前期中心
374	11-003111	土師器甕口縁部	2	21	平安時代中心
375	11-003112	土師器甕体部	6	16	平安時代中心
376	11-003113	土師器坏口縁部	18	67	平安時代中心
377	11-003114	土師器坏体～底部	38	177	平安時代中心
378	11-003115	須恵器甕体部	2	91	
379	11-003116	須恵器埴口縁部	2	6	
380	11-003117	土師器埴体～底部	2	38	平安時代中心
381	11-003118	須恵器壺頸部	1	18	
382	11-003119	軟質陶器	1	98	
6-295-990グリット					
383	11-003120	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
384	11-003121	土師器坏口縁部	4	26	
385	11-003122	土師器坏体～底部	2	28	
386	11-003123	土師器埴口縁部	1	14	
6-295-995グリット					
387	11-003124	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期中心
388	11-003125	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
389	11-003126	土師器甕口縁部	2	4	平安時代中心
390	11-003127	土師器甕体部	2	12	平安時代中心
391	11-003128	土師器坏口縁部	14	41	平安時代中心
392	11-003129	土師器坏体～底部	19	47	平安時代中心
393	11-003130	須恵器碗口縁部	1	5	
6-300-025グリット					
394	11-003131	土師器甕体部	1	30	古墳時代前期中心
6-300-970グリット					
395	11-003132	土師器壺体部	2	18	古墳時代前期中心
6-300-980グリット					
396	11-003133	土師器甕体部	1	6	古墳時代前期中心
6-300-985グリット					
397	11-003134	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心
398	11-003135	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
399	11-003136	土師器坏口縁部	1	7	平安時代中心
400	11-003137	須恵器甕底部	1	33	
6-300-995グリット					
401	11-003138	土師器甕口縁部	1	2	古墳時代前期中心
402	11-003139	土師器坏口縁部	1	7	平安時代中心
403	11-003140	土師器坏体～底部	1	6	平安時代中心
6-305-010グリット					
404	11-003141	土師器甕体部	2	9	古墳時代前期中心
405	11-003142	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
6-305-020グリット					
406	11-003143	土師器甕口縁部	1	20	古墳時代前期中心
407	11-003144	土師器甕体部	12	50	古墳時代前期中心
408	11-003145	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
6-305-970グリット					
409	11-003146	土師器甕体部	1	6	古墳時代前期中心
6-305-985グリット					
410	11-003147	土師器壺体部	1	6	古墳時代前期中心
6-360-780グリット					
411	11-003148	土師器坏体～底部	1	2	平安時代中心
6-980-260グリット					
412	11-003150	土師器甕口縁部	1	19	平安時代中心
6-980-280グリット					
413	21-002110	石	1	537	

6区2面遺構外出土遺物

6-2-2面

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000705	須恵器坏	底径 7.6 残高 3.6	体～底部1/2。灰白色を呈し、焼成良好。右回転轆轤整形。底面に回転糸切り痕。体部外面～底面に自然釉	9世紀前半		

遺物一覽

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6-1-As-B下					
1	11-003151	土師器甕口縁部	3	18	平安時代中心
2	11-003152	土師器甕体部	13	20	平安時代中心
3	11-003153	土師器坏口縁部	5	25	平安時代中心
4	11-003154	土師器坏体~底部	21	50	平安時代中心
5	11-003155	須恵器甕体部	1	5	
6	11-003156	須恵器碗口縁部	1	17	
7	11-003157	須恵器碗体~底部	1	8	
6-1-フクド					
8	11-003158	土師器甕口縁部	23	138	平安時代中心
9	11-003159	土師器甕体部	70	277	平安時代中心
10	11-003160	土師器甕底部	4	29	平安時代中心

6-深堀泥炭層

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	31-000103	自然木	1		

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-003161	土師器坏口縁部	55	220	平安時代中心
12	11-003162	土師器坏体~底部	134	536	平安時代中心
13	11-003163	土師器高坏脚部	2	24	平安時代中心
14	11-003164	須恵器甕口縁部	6	223	
15	11-003165	須恵器甕口縁部	1	11	薄手
16	11-003166	須恵器甕体部	67	2798	
17	11-003167	須恵器甕体部	9	77	薄手
18	11-003168	須恵器甕底部	2	63	
19	11-003169	須恵器碗口縁部	8	38	
20	11-003170	須恵器碗底部	5	88	
21	11-003171	須恵器高台付碗体~底部	28	296	
22	11-003172	軟質陶器	16	400	

遺物一覧

7区の出土遺物

7-1 7区1面の出土遺物

7-1-2号道

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003173	土師器甕体部	1	7	古墳時代前期中心
2	11-003174	須恵器甕体部	1	44	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003175	須恵器坏口縁部	1	3	

7-1-5号道

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003176	須恵器碗体~底部	2	23	平安時代中心

7-1-7号道

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003177	須恵器碗底部	1	5	

7-1-1号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003178	土師器甕体部	21	112	古墳時代前期中心
2	11-003179	土師器甕口縁部	5	43	古墳時代前期中心
3	11-003181	土師器甕底部	3	38	古墳時代前期中心
4	11-003182	土師器高坏坏部	1	7	古墳時代前期中心
5	11-003183	土師器高坏脚部	6	35	古墳時代前期中心
6	11-003184	土師器甕口縁部	3	17	平安時代中心
7	11-003185	土師器甕体部	3	13	平安時代中心
8	11-003186	土師器坏体~底部	7	30	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-003187	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
10	11-003188	須恵器碗体~底部	1	20	
11	11-003189	灰軸陶器碗口縁部	1	6	
12	11-003190	染付磁器	1	9	
13	11-003191	焼締陶器甕口縁部	1	30	
14	11-003192	焙烙口縁部	2	10	
15	11-003193	素焼火鉢	3	600	
16	11-003194	瓦	1	30	

7-1-2号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000706	男瓦	径 10.5×12.2 厚み 1.3	破片。下面布目痕、全面際に指撫で残る。上面・側面調整	律令期	第167図-1	PL87
2	10-000707	女瓦	径 11.2×6.0 厚み 1.6	破片。下面布目痕、一部に指撫で残る。上面・側面調整	律令期	第167図-2	PL87
3	10-000708	土師器高坏	残高 6.2	坏部大半と脚裾部欠損。脚上部絞り整形後内面指撫で。これを除く内面刷毛目後磨き、外面磨き	4世紀前半	第167図-3	PL87
4	10-000709	火鉢	残存(4.8)×(6.3) 厚み 2.1	口縁部片。内外面指撫で。外面指押え痕	現代か	第167図-5	PL110
5	4-0-000246	蹄鉄	12.5×12.3×0.7	左右裏面に溝が掘られ、ここに方形の孔5箇所づつ穿たれる	現代か	第167図-4	PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003195	土師器甕体部	174	966	古墳時代前期中心
7	11-003196	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
8	11-003197	土師器甕口縁部	1	1	古墳時代前期中心
9	11-003199	土師器甕底部	3	69	古墳時代前期中心
10	11-003200	土師器高坏坏部	5	35	古墳時代前期中心
11	11-003201	土師器高坏脚部	6	35	古墳時代前期中心
12	11-003202	土師器甕口縁部	3	20	平安時代中心
13	11-003203	土師器甕体部	14	28	平安時代中心
14	11-003204	土師器坏口縁部	16	36	平安時代中心
15	11-003205	土師器坏体~底部	38	109	平安時代中心
16	11-003206	須恵器甕体部	3	67	平安時代中心
17	11-003207	須恵器碗口縁部	1	5	平安時代中心
18	11-003208	須恵器碗体~底部	2	20	平安時代中心
19	11-003209	須恵器壺	1	3	平安時代中心
20	11-003210	灰軸陶器碗体~底部	1	10	平安時代中心
21	11-003211	磁器碗	3	20	江戸時代

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
22	11-003212	磁器・碗	9	190	
23	11-003213	磁器おろし皿	1	10	
24	11-003215	陶器甕体~底部	5	130	
25	11-003216	陶器碗口縁部	1	2	
26	11-003217	陶器すり鉢	1	20	
27	11-003218	施釉陶器甕口縁部	1	30	
28	11-003219	施釉陶器体部	1	20	
29	11-003220	施釉陶器碗体~底部	5	40	
30	11-003221	軟質陶器鉢口縁部	2	30	
31	11-003222	軟質陶器体部	1	20	
32	11-003223	軟質陶器鉢	4	98	
33	11-003224	軟質陶器火鉢	1	10	
34	11-003225	内耳鍋体部	1	11	
35	11-003226	素焼き碗	1	3	
36	11-003227	瓦	2	120	
37	21-002111	礫	12	443	

遺物一覧

7-1-3号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003229	土師器甕口縁部	1	44	古墳時代前期中心
2	11-003230	土師器甕体部	14	71	古墳時代前期中心
3	11-003231	土師器甕体部	3	11	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003232	土師器坏口縁部	4	22	平安時代中心
5	11-003233	土師器坏体～底部	7	12	平安時代中心
6	11-003234	須恵器甕体部	1	22	

7-1-4号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003235	土師器甕体部	10	41	古墳時代前期中心
2	11-003236	土師器坏体～底部	3	5	平安時代中心
3	11-003237	須恵器碗体～底部	1	16	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003238	施釉陶器碗口縁部	2	2	
5	11-003239	女瓦	1	14	

7-1-5号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003240	土師器甕口縁部	1	3	古墳時代前期中心
2	11-003241	土師器甕体部	53	202	古墳時代前期中心
3	11-003242	土師器甕底部	2	31	古墳時代前期中心
4	11-003243	土師器高坏坏部	2	10	古墳時代前期中心
5	11-003244	土師器高坏脚部	3	31	古墳時代前期中心
6	11-003245	土師器甕体部	16	26	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-003246	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
8	11-003247	土師器坏体～底部	12	27	平安時代中心
9	11-003248	須恵器甕体部	3	100	
10	11-003249	須恵器碗口縁部	2	8	
11	11-003250	須恵器碗～底部	4	18	
12	11-003251	灰釉陶器碗口縁部	1	1	

7-1-7号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003252	土師器甕体部	6	36	古墳時代前期中心
2	11-003253	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-003254	土師器坏体～底部	1	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003255	須恵器甕体部	1	11	
5	11-003256	磁器急須	1	30	
6	11-003257	施釉陶器碗体部	1	6	

7-1-8号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	90-000402	ガラス瓶	口径 1.6 器高 8.5	完形。瓢箪形を呈する。気泡入る		第168図-4	PL110
2	20-000372	砥石	(2.0)×2.2×(4.6)	上部右側部破片。上端切り離し。表裏・右側面に研磨面残る	デイサイト	第168図-1	PL87
3	20-000373	砥石	4.1×3.4×(6.2)	上位破片。上端切り離し。表裏・左右側面に研磨面残る。特に表面は研磨による抉れ見られる	デイサイト	第168図-2	PL87
4	20-000374	磨石	6.7×4.4×(7.1)	下半欠損。表裏面に研磨痕残る	ひん岩	第168図-3	PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-003258	土師器壺体部	1	10	古墳時代前期中心
6	11-003259	土師器甕口縁部	2	23	古墳時代前期中心
7	11-003260	土師器甕体部	30	106	古墳時代前期中心
8	11-003261	土師器甕底部	4	51	古墳時代前期中心
9	11-003262	土師器高坏脚部	5	32	古墳時代前期中心
10	11-003263	土師器甕体部	36	146	平安時代中心
11	11-003264	土師器坏口縁部	3	11	平安時代中心
12	11-003265	土師器坏体～底部	22	50	平安時代中心
13	11-003266	須恵器甕口縁部	2	80	
14	11-003267	須恵器甕体部	9	358	平安時代中心
15	11-003268	須恵器碗体～底部	8	115	平安時代中心
16	11-003269	染付	1	6	
17	11-003270	磁器碗	17	280	
18	11-003271	軟質陶器甕体部	3	89	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
19	11-003272	軟質陶器鉢底部	1	69	
20	11-003273	軟質陶器火鉢口縁部	1	9	
21	11-003274	焙烙口縁部	1	12	
22	11-003275	焙烙体部	1	6	
23	11-003276	瓦	1	108	
24	11-003277	女瓦	1	24	
25	11-003278	陶器甕底部	1	40	
26	11-003279	陶器火鉢	1	60	
27	11-003280	施釉陶器口縁部	4	12	
28	11-003281	施釉陶器底部	10	178	
29	11-003282	軟質陶器鉢体部	2	15	
30	21-002112	礫	11	293	
31	41-000205	釘	1	2	
32	41-000206	ボルトか?	2	130	

遺物一覧

7-1-8号清南合流部

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003283	土師器甕口縁部	1	1	古墳時代前期中心
2	11-003284	土師器甕体部	26	198	古墳時代前期中心
3	11-003287	土師器甕底部	2	48	古墳時代前期中心
4	11-003288	土師器高坏脚部	3	10	古墳時代前期中心
5	11-003289	土師器甕体部	15	57	平安時代中心
6	11-003290	土師器坏口縁部	3	11	平安時代中心
7	11-003291	土師器坏体～底部	5	17	平安時代中心
8	11-003292	須恵器甕口縁部	1	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-003285	須恵器甕体部	6	224	
10	11-003286	須恵器碗体～底部	1	16	
11	11-003293	須恵器甕体部	6	224	
12	11-003294	施釉陶器	6	60	
13	11-003295	焼締陶器体部	3	70	
14	11-003296	焙烙底部か?	2	30	
15	11-003297	内耳鍋口縁部か?	1	20	

7-1-9号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003298	土師器壺底部	1	32	古墳時代前期中心
2	11-003299	土師器甕口縁部	1	4	古墳時代前期中心
3	11-003300	土師器甕体部	3	15	古墳時代前期中心
4	11-003301	土師器甕底部	1	12	古墳時代前期中心
5	11-003302	土師器高坏脚部	1	3	古墳時代前期中心
6	11-003303	土師器坏体～底部	2	4	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-003304	須恵器甕体部	7	297	
8	11-003305	須恵器碗口縁部	1	5	
9	11-003306	施釉陶器碗体部	1	6	
10	11-003307	女瓦	1	2	
11	21-002113	礫	1	216	

7-1-11号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003308	土師器甕体部	20	81	古墳時代前期中心
2	11-003309	土師器甕底部	2	47	古墳時代前期中心
3	11-003310	土師器高坏坏部	3	21	古墳時代前期中心
4	11-003311	土師器坏口縁部	7	34	平安時代中心
5	11-003312	土師器坏体～底部	16	44	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003313	須恵器甕体部	1	6	
7	11-003314	須恵器碗口縁部	1	5	
8	11-003315	須恵器碗体～底部	1	4	
9	41-000207	鉄さゝ	1	7	

7-1-12号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000710	須恵器高台付碗	底径 6.2 残高 2.2	腰部～高台部破片。回転轆轤整形、高台貼付け後面撫で	9世紀前半	第169図-1	PL87
2	40-000247	寛永通宝	残径 2.6×0.9 厚 0.1	上左側欠損		第169図-2	PL111

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003316	土師器甕体部	8	85	古墳時代前期中心
4	11-003317	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
5	11-003318	土師器坏体～底部	3	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003319	磁器皿碗	3	20	
7	11-003320	施釉陶器鉢口縁部	1	8	

7-1-13号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003321	土師器甕口縁部	3	14	古墳時代前期中心
2	11-003322	土師器甕体部	67	559	古墳時代前期中心
3	11-003323	土師器甕底部	5	40	古墳時代前期中心
4	11-003324	土師器高台付坏部	3	25	古墳時代前期中心
5	11-003325	土師器高坏脚部	1	19	古墳時代前期中心
6	11-003326	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心
7	11-003327	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
8	11-003328	土師器坏体～底部	22	64	平安時代中心
9	11-003329	須恵器甕体部	8	439	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-003330	須恵器碗口縁部	2	7	
11	11-003331	須恵器甕体部	4	100	
12	11-003332	須恵器碗体～底部	3	28	
13	11-003333	須恵器高台付碗体～底部	1	12	
14	11-003334	磁器碗口縁部	2	3	
15	11-003335	施釉陶器碗体部	4	30	
16	11-003336	灰釉陶器碗体～底部	2	26	
17	11-003337	軟質陶器鉢口縁部	1	30	
18	21-002114	礫	1	152	

7-1-14号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000248	角釘	残存 5.1×0.9 厚 0.8	尖端欠損。頭部折る。	9世紀前半	第171図-1	PL110

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003338	土師器甕口縁部	2	2	古墳時代前期中心
3	11-003339	土師器甕体部	16	100	古墳時代前期中心
4	11-003340	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
5	11-003341	土師器坏体~底部	13	24	平安時代中心
6	11-003342	須恵器甕体部	4	131	平安時代中心
7	11-003343	須恵器碗口縁部	1	2	平安時代中心

7-1-16号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003348	土師器坏口縁部	1	7	平安時代中心
2	11-003349	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心

7-1-17号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000711	須恵器高台付碗	底径 10.5 残高 3.5	腰~高台部片。右回転轆轤整形。高台貼付け後底面撫で	8世紀後半	第173図-1	PL87
2	10-000712	須恵器坏	口径(11.8) 残高 3.7	口縁~腰部破片。焼質良好。右回転轆轤整形	8世紀後半	第173図-2	PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003352	土師器器台器受部	1	3	古墳時代前期中心
4	11-003353	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
5	11-003354	土師器坏体~底部	8	14	平安時代中心
6	11-003355	須恵器甕体部	2	81	平安時代中心
7	11-003356	須恵器碗体~底部	1	10	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003344	須恵器碗体~底部	2	6	
9	11-003345	陶器甕体部	3	60	
10	11-003346	陶器碗口縁部	1	10	
11	11-003347	陶器碗体~底部	1	20	
12	21-002115	碟	2	45	
13	31-000104	木	1	16	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003350	須恵器甕体部	2	38	
4	11-003351	灰釉陶器碗体~底部	1	3	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003357	磁器碗口縁部	2	5	
9	11-003358	施釉陶器碗口縁部	2	9	
10	11-003359	軟質陶器鉢体部	1	50	
11	11-003360	灯明皿底部	1	65	

7-1-18号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003361	土師器甕口縁部	1	18	平安時代中心
2	11-003362	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
3	11-003363	土師器坏体~底部	5	15	平安時代中心
4	11-003364	須恵器碗口縁部	1	1	平安時代中心
5	11-003365	須恵器碗体~底部	2	11	平安時代中心
6	11-003366	須恵器碗口縁部	1	8	
7	11-003367	磁器碗底部	12	230	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003368	施釉陶器甕底部	4	140	
9	11-003369	土師質土器鉢底部	1	70	
10	11-003370	軟質陶器鉢口縁部	1	10	
11	11-003371	焙烙底部	1	2	
12	11-003372	かわらけ底部	1	2	
13	21-002116	碟	1	39	

7-1-20号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003373	土師器甕体部	1	4	平安時代中心
2	11-003374	須恵器蓋	1	25	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003375	女瓦	1	40	

7-1-22号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003376	土師器坏体~底部	2	5	平安時代中心

7-1-23号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000713	土師器壺	口径(25.6) 残高 7.9	口縁部破片。口端部内面に折り返し、口縁中位外面に折り返しの段付く。外面刷毛目後、段より上位磨き、内面撫で	3世紀末~4世紀前半、東海系	第172図-1	PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003377	土師器甕体部	6	22	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003378	土師器坏体~底部	3	5	平安時代中心

遺物一覧

7-1-25号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000714	土師器台付甕	口径(15.8) 残高 3.9	口縁～肩部破片。S字状口縁。口縁横撫で。肩部内面指撫で、外面刷毛目	4世紀前半	第169図-1	PL87

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003379	土師器壺体部	1	40	古墳時代前期中心
3	11-003380	土師器甕体部	11	71	古墳時代前期中心
4	11-003381	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心
5	11-003382	土師器坏体～底部	11	28	平安時代中心
6	11-003383	須恵器甕体部	1	18	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-003384	須恵器甕底部	1	63	
8	11-003385	須恵器碗口縁部	1	4	
9	11-003386	須恵器碗体～底部	2	13	
10	11-003387	陶器甕体部	1	12	

7-1-2号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003388	土師器坏口縁部	1	8	平安時代中心
2	11-003389	須恵器碗底部	2	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	41-000208	鉄片	2	80	

7-1-3号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000375	礎石	17.4×14.8×7.8	川床石使用。表面は比較的平たく柱の当り痕除き酸化マンガン沈着。柱痕は径7×7cmの方形	ひん岩	第175図-1	PL87

7-1-5号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003389	土師器甕体部	5	17	平安時代中心
2	11-003390	土師器甕底部	1	10	平安時代中心
3	11-003391	土師器坏体～底部	3	6	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003392	須恵器甕体部	2	69	
5	11-003393	須恵器碗口縁部	1	2	
6	11-003394	須恵器碗体～底部	1	7	

7-1-7号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003395	土師器甕体部	9	37	古墳時代前期中心
2	11-003396	土師器高坏脚部	1	3	古墳時代前期中心
3	11-003397	土師器坏体～底部	7	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003398	須恵器甕口縁部	1	11	
5	11-003399	須恵器甕体部	1	24	

7-1-B下水田

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000715	須恵器蓋	残存 6.4×6.1 厚 1.5	口縁～天井部破片。上面に縄文圧痕残る	7世紀末葉	第179図-1	PL111

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003400	土師器甕口縁部	2	54	古墳時代前期中心
3	11-003401	土師器甕体部	3	10	古墳時代前期中心
4	11-003402	土師器碗口縁部	2	20	古墳時代前期中心
5	11-003403	土師器壺体部	7	40	古墳時代前期中心
6	11-003404	土師器台付甕体部	2	3	古墳時代前期中心
7	11-003405	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心
8	11-003406	土師器坏底部	9	30	平安時代中心
9	11-003407	土師器碗口縁部	1	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-003408	土師器蓋口縁部	3	14	平安時代中心
11	11-003409	須恵器甕口縁部	2	65	
12	11-003410	須恵器甕体部	25	850	
13	11-003411	須恵器甕底部	1	50	
14	11-003412	須恵器碗体部	6	30	
15	11-003413	須恵器碗底部	1	20	
16	11-003414	須恵器高台付碗底部～高台	4	49	
17	11-003415	陶器蓋	1	2	

7-1-B下水田一括

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003416	施釉陶器甕底部	5	89	

7-1 面遺構外出土遺物

7-1-表土・遺構外

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000376	板碑	6.6×12.5×1.9	破片	緑色片岩	-	PL89
2	40-000249	五銭	1.87×1.87×0.125	大正期。表裏面腐食し鑄造年代不詳。径3.5mmの円孔。左上縁にバリ残る	大正9年制定か	第182図-2	PL89
3	20-000377	石臼(挽白)	残径 13.3×13.2 高さ 11.5	上臼1/4破片。目は摩滅。芯受け深さ3.5cm。側面に径2cm、深さ4.8cmの挽手孔。窪み縁部に鑿跡残る	粗粒輝石安山岩	第182図-3	PL88
4	20-000378	石臼(挽白)	残径 11.2×12.7 高さ 11.5	上臼1/4破片。丸溝の目僅かに残る。径4cm以上の供給孔	粗粒輝石安山岩	第182図-4	PL88
5	20-000379	石臼(挽白)	残径 9.1×11.6 高さ 8.8	上臼破片。目は滅失。縁厚く、側面に径1.6cm、深さ5.1cmの挽手孔	粗粒輝石安山岩	第182図-5	PL89
6	20-000380	石鉢	残径 7.0×10.7 高さ 6.5	1/4破片。小型。側面と底面にはつり痕残り、内面磨耗	粗粒輝石安山岩	第182図-6	PL89

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-1-1 面					
7	11-003417	土師器甕口縁部	4	77	古墳時代前期中心
8	11-003418	土師器甕底部	33	233	古墳時代前期中心
9	11-003419	土師器高坏部・器受部	3	35	古墳時代前期中心
10	11-003420	土師器高坏脚部	1	6	古墳時代前期中心
11	11-003421	土師器坏口縁部	2	6	古墳時代前期中心
12	11-003422	土師器坏体～底部	19	55	平安時代中心
13	11-003423	須恵器甕口縁部	1	42	
14	11-003424	須恵器甕体部	3	78	
15	11-003425	須恵器碗体～底部	3	18	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
16	11-003426	灰軸陶器碗体～底部	1	8	
17	11-003427	土師器甕体部	4	8	平安時代中心
18	11-003429	須恵器甕体部	1	11	平安時代中心
19	11-003430	須恵器碗体～底部	2	9	平安時代中心
7-1-表採					
20	11-003431	須恵器坏体～底部	1	25	
21	11-003432	灰軸陶器碗口縁部	1	5	
22	21-002117	黒色頁岩剥片	1	25	
23	41-000209	釘	1	5	

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-1-低地C黒下					
24	11-003433	土師器甕体部	6	123	古墳時代前期中心
6-1-東側微高地					
25	11-003434	土師器甕体部	35	100	古墳時代前期中心
26	11-003435	土師器壺甕体部	5	28	古墳時代前期中心
27	11-003436	土師器台付甕口縁部	1	10	古墳時代前期中心
28	11-003437	土師器甕体部	2	1	平安時代中心
29	11-003438	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
30	11-003439	土師器坏体～底部	6	14	平安時代中心
31	11-003440	須恵器甕体部	4	80	
32	11-003441	須恵器坏底部	1	2	
33	11-003442	須恵器碗体部	1	2	
34	11-003443	須恵器高台付碗底～高台部	4	40	
7-330-990グリットAs-B下水田					
35	41-000210	鉄?	8	50	

7-2 7区2面の出土遺物

7-2-1号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000716	ミニチュア土器台付甕	口径 3.3 器高 5.5	口縁一部欠損。内外面漆塗布の痕跡があり、指撫で	4世紀	第183図-1	PL89
2	10-000717	土師器坏	口径(11.0) 残高 2.0	口縁～体部破片。口縁横撫で。体部内面磨撫で、外面磨削り	8世紀末～9世紀前半	第183図-2	PL89

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-2-1号住居床上					
3	11-003444	土師器甕体部	8	87	古墳時代前期中心
4	11-003445	土師器高坏坏部	1	16	古墳時代前期中心
5	11-003446	土師器高坏脚部	1	36	古墳時代前期中心
6	11-003447	土師器甕口縁部	1	11	平安時代中心
7	11-003448	土師器甕体部	2	4	平安時代中心
8	11-003449	土師器坏口縁部	4	19	平安時代中心
9	11-003450	土師器坏体～底部	4	10	平安時代中心
10	11-003451	土師器甕口縁部	3	21	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-2-1号住居掘り方					
11	11-003452	土師器甕体部	30	94	平安時代中心
12	11-003453	土師器高坏脚部	2	4	平安時代中心
13	11-003454	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
14	11-003456	土師器坏口縁部	3	14	平安時代中心
15	11-003457	土師器坏体～底部	4	13	平安時代中心
16	11-003458	須恵器碗体～底部	1	5	
17	11-003459	施軸陶器碗体部	1	2	

遺物一覧

7-2-2号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000718	土師器甕	口径(19.0) 残高 4.4	口縁～肩部破片。コ字状口縁。口縁横撫で。肩部内面寛撫で、外面寛削り	9世紀前半	第184図-1	PL89
2	10-000719	須恵器甕	口径 16.0 残高 7.7	腰～底部1/4。腰部撫で。腰部外面下端～底面寛削り	9世紀前半	第184図-2	PL90
3	10-000720	土師器甕か	口径(20.5) 残高 3.5	口縁破片。内外面刷毛目整形後撫で	4世紀	第184図-3	PL90
4	10-000721	皿(陶器か)	口径 4.8 残高 0.8	腰～底部破片。回転轆轤整形。底面糸切り		第184図-4	PL90

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-2-2号住居床上						7-2-2号住居床上					
5	11-003460	土師器甕体部	3	14	古墳時代前期中心	7	11-003462	土師器坏口縁部	2	12	平安時代中心
6	11-003461	土師器甕底部	1	2	古墳時代前期中心	8	11-003463	土師器坏体～底部	11	45	平安時代中心

7-2-5号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000722	土師器坏	口径(14.2) 残高 2.8	口縁～体部破片。口縁横撫で。体部内面寛撫で、外面寛削り	8世紀後半	第186図-1	PL90
2	10-000723	土師器坏	口径 12.2 器高 3.4	口縁～体部1/2欠損。底面に字不詳の墨書。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で、体部外面撫で、底面寛削り	8世紀末～9世紀前半	第186図-2	PL90
3	10-000724	土師器坏	口径 12.2 器高 2.9	口縁～体部1/2欠損。口縁横撫で。体～底部内面指撫で、体部外面撫で、底面寛削り	8世紀末～9世紀前半	第186図-3	PL90
4	10-000725	土師器坏	口径 15.5 器高 3.1	3/4。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で。体部外面撫で、底面寛削り	8世紀末～9世紀前半	第186図-4	PL90
5	10-000726	須恵器坏	口径 12.2 底径 7.2 器高 3.6	口縁2/3欠損。酸化焙焼成。右回転轆轤整形。底面回転糸切り後回転調整し窪みき一周	8世紀末～9世紀前半	第186図-5	PL90
6	10-000727	須恵器坏	口径 12.4 底径 6.8 器高 3.9	1/2。高台貼付けか。右回転轆轤整形。底面回転糸切り後、周縁部撫でか	8世紀末～9世紀前半	第186図-6	PL90
7	10-000728	須恵器坏	口径 12.3 底径 6.4 器高 4.0	口縁一部欠損。焼成不良で器面磨耗。右回転轆轤整形。底面回転糸切り	8世紀末～9世紀前半	第186図-7	PL90
8	10-000729	土師器碗	口径 21.6 器高 8.1	1/4。外面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面寛撫で、外面寛削り	8世紀後半	第186図-8	PL90
9	10-000730	土師器碗	口径(10.5) 残高 8.2	口縁～体部破片。口縁横撫で。体部～底部内面寛撫で、外面寛削り	8世紀末～9世紀前半	第186図-9	PL90
10	10-000731	土師器甕	口径(20.0) 残高 4.7	口縁～肩部破片。口縁横撫で。肩部内面寛撫で、外面寛削り	8世紀後半	第186図-10	PL90
11	10-000732	土師器紡錘車	厚 6.5×6.5 径 2.1	ほぼ完全形。焼成甘い。上位に径2.9cm、深さ0.5cmの窪みがあり、中央に径1.2×1.1cmの孔が開く。窪み除き撫で調整		第186図-11	PL91
12	20-000381	磨石	残存9.1×12.2×4.3	破片。河床礫使用。表面に研磨面残る。		-	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-2-5号住居床上						7-2-5号住居掘り方					
13	11-003464	土師器甕頸部	1	8	古墳時代前期中心	20	11-003471	土師器甕口縁部	1	25	平安時代中心
14	11-003465	土師器甕体部	10	56	古墳時代前期中心	21	11-003472	土師器甕体部	11	169	平安時代中心
15	11-003466	土師器甕口縁部	2	12	平安時代中心	22	11-003473	土師器甕底部	2	168	平安時代中心
16	11-003467	土師器甕体部	27	165	平安時代中心	23	11-003475	土師器坏体～底部	3	14	平安時代中心
17	11-003468	土師器坏口縁部	4	11	平安時代中心						
18	11-003469	土師器坏体～底部	4	11	平安時代中心						
19	11-003470	須恵器碗体～底部	1	2	平安時代中心。竈上出土						

7-2-26号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000733	土師器坏	口径 12.4 器高 3.6	完形。口縁横撫で。体～底部内面指撫で、外面寛削り後体部撫で	9世紀前半	第188図-1	PL91
2	10-000734	土師器坏	口径 13.0 器高 2.7	3/4。口縁横撫で。体～底部内面寛撫で、体部外面撫で、底面寛削り	9世紀前半	第188図-2	PL91
3	10-000735	須恵器蓋	口径 14.9 天井径 6.6 器高 3.1	口縁1/4欠損。右回転轆轤整形。口縁部折れて垂直に垂れる。天井部左回りの回転轆轤切り後、鈕貼付け	9世紀前半	第188図-3	PL91

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
4	10-000736	土師器坏	口径 11.5 器高 02.5	1/4。口縁横撫で。体～底部内面指撫で、体部外面撫で、底面笕削り	9世紀前半	第189図-4	PL91
5	10-000737	土師器坏	口径 11.8 残高 3.0	1/4。口縁横撫で。体～底部内面指撫で、外面笕削り後体部に弱い撫で	8世紀末葉～9世紀前半	第189図-5	PL91
6	10-000738	須恵器坏	底径 6.8 残高 3.95	口縁部欠損。右回転軸整形。焼成やや甘い	9世紀前半	第189図-6	PL91
7	20-000382	戴石	5.1×3.8×15.1	河床石使用。上端に敲打痕残る。表裏・左右側面に研磨痕残るが右側面は顕著。中位に磨耗痕一周する	粗粒輝石安山岩	第189図-7	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003476	土師器甕体部	10	52	古墳時代前期中心
9	11-003477	土師器甕底部	2	7	古墳時代前期中心
10	11-003478	土師器高坏脚部	1	6	古墳時代前期中心
11	11-003479	土師器甕口縁部	2	16	平安時代中心
12	11-003480	土師器甕体部	14	85	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
13	11-003481	土師器坏口縁部	26	90	平安時代中心
14	11-003482	土師器坏体～底部	29	101	平安時代中心
15	11-003483	須恵器甕体部	2	20	
16	11-003484	須恵器碗口縁部	1	3	

7-2-27号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000739	土師器坏	口径 12.4 器高 3.2	1/3。口縁横撫で。体～底部内面指撫で、外面笕削り後体部撫で	9世紀前半	第189図-1	PL91
2	10-000740	土師器坏	口径 12.1 残高 3.2	1/3。口縁横撫で。体～底部内面指撫で、外面体部撫で、底面笕削り	9世紀前半	第189図-2	PL91
3	30-000104	竹片か	径 1.6×(1.7) 長さ 6.5	樹種同定は行ってないが竹片と思われる。半裁されている		-	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003485	土師器甕体部	17	107	古墳時代前期中心
5	11-003486	土師器甕底部	2	9	古墳時代前期中心
6	11-003487	土師器甕口縁部	5	22	平安時代中心
7	11-003488	土師器甕体部	3	8	平安時代中心
8	11-003489	土師器坏口縁部	24	130	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-003490	土師器坏体～底部	62	232	平安時代中心
10	11-003491	須恵器甕体部	1	89	
11	11-003492	須恵器碗口縁部	2	9	
12	11-003493	須恵器碗体～底部	1	17	
13	11-003494	縄文	1	7	

7-2-28号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003495	土師器甕体部	1	1	平安時代中心
2	11-003496	土師器甕底部	2	24	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003497	土師器坏口縁部	10	35	平安時代中心
4	11-003498	土師器坏体～底部	10	36	平安時代中心

7-2-29号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000741	須恵器高台付碗	底径 6.0 器高 1.8	腰～底部片。焼成甘い。右回転軸整形。回転系切り、高台貼付け後底面撫で	9世紀後半	第188図-1	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003499	土師器高坏脚部	1	6	古墳時代前期中心
3	11-003500	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
4	11-003501	土師器坏体～底部	4	8	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-003502	須恵器碗口縁部	1	4	
6	11-003503	須恵器碗体～底部	1	4	

7-2-30号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003504	土師器甕体部	1	1	平安時代中心

7-2-32号溝

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003505	土師器甕口縁部	3	35	古墳時代前期中心
2	11-003506	土師器甕体部	74	286	古墳時代前期中心
3	11-003507	土師器甕底部	1	1	古墳時代前期中心
4	11-003508	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
5	11-003509	土師器坏口縁部	2	2	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003510	土師器器台器受部	1	5	古墳時代前期中心
7	11-003511	土師器高坏脚部	2	16	古墳時代前期中心
8	11-003512	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心
9	11-003513	土師器坏体～底部	9	18	平安時代中心

遺物一覧

7-2-34号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000742	須恵器甕	口径(19.0か) 残高 4.7	口縁破片。口端部上下に引く。	平安期か	第190図-1	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003514	土師器高坏器受部	1	77	古墳時代前期中心

7-2-Hr-FA上水田

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000000	土師器甕	底径 9.4 残高 2.1	底部片。底部内面指撫で、底面木炭痕残る	古墳時代後期	第191図-1	PL91

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-2-HrFA上水田					
2	11-003515	土師器甕口縁部	8	122	古墳時代前期中心
3	11-003516	土師器甕体部	69	510	古墳時代前期中心
4	11-003517	土師器甕底部	6	144	古墳時代前期中心
5	11-003518	土師器高坏坏部	7	97	古墳時代前期中心
6	11-003519	土師器高坏脚部	7	312	古墳時代前期中心
7	11-003520	土師器甕体部	2	4	平安時代中心
8	11-003521	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
9	11-003522	土師器坏体~底部	4	3	
10	11-003523	須恵器碗口縁部	1	3	
11	11-003524	須恵器碗体~底部	2	4	
12	21-002118	礫	1	807	
7-280-920グリットFA上水田					
13	11-003525	土師器甕体部	16	147	古墳時代前期中心
14	11-003526	土師器高坏坏部	2	12	古墳時代前期中心
15	11-003527	土師器甕口縁部	1	7	平安時代中心
16	11-003528	土師器甕体部	1	4	平安時代中心
17	11-003529	土師器坏口縁部	17	64	平安時代中心
18	11-003530	土師器坏体~底部	30	96	平安時代中心
19	11-003531	須恵器碗体~底部	2	21	平安時代中心
20	21-002119	礫	1	8	平安時代中心
7-290-905グリットFA上水田					
21	11-003532	土師器甕体部	12	76	古墳時代前期中心
22	11-003533	土師器高坏坏部	1	6	古墳時代前期中心
23	11-003534	土師器甕体部	4	17	平安時代中心
24	11-003535	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
25	11-003536	土師器坏体~底部	5	12	平安時代中心
26	11-003537	須恵器甕体部	3	129	平安時代中心
27	11-003538	須恵器坏体~底部	3	42	平安時代中心
7-290-910グリットFA上水田					
28	11-003539	土師器甕体部	21	98	古墳時代前期中心
29	11-003540	土師器甕底部	3	35	古墳時代前期中心
30	11-003541	土師器高坏坏部	1	8	古墳時代前期中心
31	11-003542	土師器甕体部	6	25	平安時代中心
32	11-003543	土師器坏口縁部	6	25	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-290-910グリットFA上水田					
33	11-003544	土師器坏体~底部	7	25	平安時代中心
34	11-003545	須恵器甕底部	2	18	平安時代中心
7-300-850グリットFA上水田					
35	11-003546	土師器甕口縁部	2	18	古墳時代前期中心
36	11-003547	土師器甕体部	54	269	古墳時代前期中心
37	11-003548	土師器甕底部	4	38	古墳時代前期中心
38	11-003549	土師器高坏坏部	1	5	古墳時代前期中心
39	11-003550	土師器高坏脚部	3	36	古墳時代前期中心
40	11-003551	須恵器坏体~底部	1	12	平安時代中心
7-300-880グリットFA上水田					
41	11-003553	土師器甕体部	12	51	
42	11-003554	土師器甕体部	2	10	古墳時代前期中心(4C)
43	11-003555	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
44	11-003556	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
45	11-003557	土師器坏体部	3	6	平安時代中心
46	11-003558	須恵器碗体部	2	2	平安時代中心
7-305-915グリットFA上水田					
47	11-003559	土師器甕口縁部	1	10	古墳時代前期中心
7-320-880グリット上FA上水田					
48	11-003560	土師器甕口縁部	5	27	平安時代中心
49	11-003561	土師器甕体部	108	541	平安時代中心
50	11-003562	土師器甕底部	4	91	平安時代中心
51	11-003563	土師器高坏脚部	6	78	平安時代中心
52	11-003565	土師器坏口縁部	3	15	平安時代中心
53	11-003566	須恵器甕体部	1	21	
54	11-003567	須恵器坏体~底部	5	32	
7-330-880グリットFA上水田					
55	11-003568	土師器甕体部	1	3	平安時代中心
7-2-南微高地C黒上面					
56	11-003569	土師器坏口縁部	1	7	平安時代中心

7-3 7区3面の出土遺物

7-3-3号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000743	土師器器台	口径(8.6) 残高 4.1	口縁～脚部上位片。円孔の透かし有り。受け皿部上位横撫で。これを除き内外面磨き	3世紀末葉	第195図-1	PL91
2	10-000744	土師器器台	口径 7.8 残高 4.5	口縁～脚部上位。径9mmの円孔。円孔の透かし5ヶ所。受皿部と脚部外面磨き。脚部内面指撫で	3世紀末葉	第195図-2	PL91
3	10-000745	土師器器台	裾部径(12.0) 残高 7.8	裾部2/3。径7mmの縦位孔。径10mmの円孔の透かし3ヶ所。外面磨き。内面磨き	3世紀末葉	第195図-3	PL92
4	10-000746	土師器高坏	口径(8.0) 器高 7.1	1/2。器面荒れる。脚部に径9mmの円孔の透かし3ヶ所	3世紀末葉	第195図-4	PL92
5	10-000747	土師器高坏	口径9.0 裾部径 12.2 器高 8.4	3/4。器面荒れる。脚部に径11mmの円孔の透かし3ヶ所。脚部外面磨き、内面磨き	3世紀末葉	第195図-5	PL92
6	10-000748	土師器高坏	口径 8.7 坏部高 2.3	坏部ほぼ完形。器面荒れる	3世紀末葉	第195図-6	PL92
7	10-000749	土師器高坏	頸部径 3.6 残高 4.1	坏底部～脚部上部。坏底部内面刷毛目の撫で。坏～脚部外面磨き	3世紀末葉	第195図-7	PL92
8	10-000750	土師器高坏	裾部径 10.2 残高 6.2	脚部3/4。径13mmの円孔の透かし4ヶ所。外面黒漆塗布の痕跡。外面磨き。内面(指)撫で	3世紀末葉	第195図-8	PL92
9	10-000751	土師器高坏	裾部径(12.8) 残高 7.3	坏底～脚部。器面荒れる。径11mmの円孔の透かし3ヶ所。坏底部内面～脚部外面磨き。脚部内面刷毛目の撫で	3世紀末葉	第195図-9	PL92
10	10-000752	土師器高坏	裾部径 11.7 残高 7.9	坏部口縁と一部裾部欠損。坏部内面磨き。坏～脚部外面刷毛目後磨き後裾部横撫で。脚部内面刷毛目後上位指撫で	3世紀末葉	第195図-10	PL92
11	10-000753	土師器高坏	口径 16.0 残高 7.2	坏1/4と脚下半欠損。径13mmの円孔透かし3ヶ所。坏部内外面磨き後外面口縁部横撫で。脚部外面磨き、内面指撫で	3世紀末葉	第195図-11	PL92
12	10-000754	土師器高坏	裾部径 13.0 残高 7.4	脚部3/4。坏部欠損。径12mmの円孔の透かし3ヶ所。外面磨き、内面磨き	3世紀末葉	第195図-12	PL92
13	10-000755	土師器高坏	頸部径 11 残高 6.0	坏底部～脚部。脚部欠損。径12mmの円孔の透かし3ヶ所。坏部内面～脚部磨き。脚部内面磨き	3世紀末葉	第195図-13	PL92
14	10-000756	土師器高坏	裾部径(13.0) 残高 7.3	坏底部～脚部1/2。坏部内外面～脚部外面磨き、脚部内面指撫で	3世紀末葉	第195図-14	PL92
15	10-000757	土師器高坏	口径 9.3 残高 5.0	坏部2/3。坏部過半欠損。器面荒れる。坏部内面磨き。脚部外面磨き、内面指撫で	3世紀末葉	第195図-15	PL92
16	10-000758	土師器高坏	頸部 3.5 器高 6.2	坏底部～脚部。脚部欠損。径11mmの円孔の透かし3ヶ所。坏部内外面～脚部外面磨き、脚部内面磨き	3世紀末葉	第195図-16	PL92
17	10-000759	土師器高坏	口径(24.0) 残高 5.0	坏部破片。内外面磨き。口縁部外面横撫で	3世紀末葉	第195図-17	PL92
18	10-000760	土師器高坏	最大径 12.8 残高 5.5	脚部のみ。裾部欠損。径10mmの円孔の透かし3ヶ所。外面磨き、内面磨き	3世紀末葉	第195図-18	PL92
19	10-000761	土師器高坏	口径(11.6) 残高 11.6	1/4。裾部欠損。器面荒れる。径13mmの円孔の透かし3ヶ所。坏部内面磨き、外面磨き。脚部外面磨き、内面指撫で	3世紀末葉	第195図-19	PL93
20	10-000762	土師器高坏	口径(10.3) 残高 2.3	脚部完形。坏底部内面刷毛目後磨き。脚部外面刷毛目後指撫で、内面刷毛目縁の撫で。天井部未調整	3世紀末葉	第195図-20	PL92
21	10-000763	土師器高坏	裾径(9.0) 残高 2.2	破片。異形の高坏。受皿上面と脚部外面磨き。接合部外面と受皿下面・脚部内面(横)撫で	3世紀末葉	第195図-21	PL93
22	10-000764	土師器小坏	口径(9.9) 器高 6.0	1/2。稜線内外面と底面磨き	3世紀末葉	第195図-22	PL92
23	10-000765	土師器台付甕	口径 15.0 残高 10.2	口縁～胴部1/4。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面刷毛目、内面深い指撫で	3世紀末葉	第196図-23	PL93
24	10-000766	土師器台付甕	口径(16.0) 器高 4.0	口縁～肩部1/3。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面刷毛目、内面深い指撫で	3世紀末葉	第196図-24	PL93
25	10-000767	土師器台付甕	口径 10.8 残高 3.6	口縁～肩部。S字状口縁で口縁一部欠損。口縁横撫で。肩部外面刷毛目。内面指撫で	3世紀末葉	第196図-25	PL93
26	10-000768	土師器台付甕	口径(15.0) 残高 4.0	口縁～肩部1/3。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-26	PL93
27	10-000769	土師器台付甕	口径(18.8) 残高 5.8	口縁～肩部1/4。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面細かい刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-27	PL93
28	10-000770	土師器台付甕	口径 18.4 残高 3.8	口縁～肩部2/3。S字状口縁。口縁横撫でで下端内面に弱く刷毛目残る。肩部外面刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-28	PL93
29	10-000771	土師器台付甕	口径 15.7 残高 5.0	口縁～肩部。一部欠損。S字状口縁。口縁横撫で。肩部外面刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-29	PL93
30	10-000772	土師器台付甕	口径(20.1) 残高 5.5	口縁～肩部1/4。焼成良好。S字状口縁。口縁横撫で。肩部外面細かい刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-30	PL93

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
31	10-000773	土師器台付甕	口径 11.8 残高 3.4	口縁～肩部3/4。焼成良好。S字状口縁。口縁横撫で。肩部外面細かい刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-31	PL.93
32	10-000774	土師器台付甕	口径(20.0) 残高 15.1	口縁～胴部1/3。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-32	PL.94
33	10-000775	土師器台付甕	口径 15.6 残高 20.2	口縁～腰部3/4。焼成良好。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-33	PL.94
34	10-000776	土師器台付甕	裾部径(9.6) 残高 5.2	脚部1/4。上位欠損。裾端部内側に折り返し。外面刷毛目後下半中心に撫で、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-34	PL.93
35	10-000777	土師器台付甕	裾部径(7.2) 残高 6.1	脚部1/3。裏部接合部は粗粒砂使用の胎土。裾端部内側に折り返し。外面刷毛目後下半中心に撫で、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-35	PL.93
36	10-000778	土師器台付甕	裾部径 6.6 残高 7.6	裏腰部1/4とほぼ完形の脚部片。裏内面刷毛目様の撫で。裏外面・脚部刷毛目後外面磨き様の撫で、脚内面指撫で	3世紀末葉	第196図-36	PL.93
37	10-000779	土師器台付甕	裾部径 8.5 残高 3.3	脚下半部3/4。裾端部内側に折り返し。外面磨き、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-37	PL.93
38	10-000780	土師器台付甕	口径(22.9) 残高 10.1	口縁～胴部1/4以下。口縁横撫で。体部外面刷毛目、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-38	PL.94
39	10-000781	土師器台付甕	口径(15.6) 残高 6.5	口縁～胴部1/3。S字状口縁。口縁横撫で。体部外面と口縁内面下端刷毛目、内面磨き。外面横位の刷毛目位置高い	3世紀末葉 一部掘り方出土	第196図-39	PL.93
40	10-000782	土師器台付甕	裾部径 9.7 残高 6.9	裏底部～脚部。裏底部内面磨き。脚部外面磨き、内面刷毛目様の撫で、天井部指撫で	3世紀末葉	第196図-40	PL.93
41	10-000783	土師器台付甕	裾部径(9.5) 残高 6.0	裏底部～脚部1/2。脚部端部内側に折り返し。裏底部内面回し乍の磨き。脚部外面刷毛目後撫で、内面指撫で	3世紀末葉	第196図-41	PL.93
42	10-000784	土師器甕	口径(20.0) 残高 5.2	口縁～肩部1/4。口縁横撫で。肩部内外面刷毛目様の撫で	3世紀末葉	第196図-42	PL.94
43	10-000785	土師器甕	口径 9.1 残高 5.9	口縁及び肩部部分。焼成良好。外面幅広の磨き。内面口縁刷毛目上の撫で、肩部刷毛目後指撫で	3世紀末葉	第196図-43	PL.94
44	10-000786	土師器甕	口径 11.6 残高 9.0	口縁～肩部。一部欠損。口縁横撫で。頭～肩部外面磨き様の撫で、内面刷毛目後頭部指撫で	3世紀末葉	第197図-44	PL.94
45	10-000787	土師器甕	口径(15.8) 残高 6.3	口縁～肩部1/4。口縁外面指撫で、内面刷毛目後撫で。肩部外面磨き、内面指撫で	3世紀末葉	第197図-45	PL.94
46	10-000788	土師器甕	口径(18.0) 残高 9.2	口縁～肩部1/2。器内厚。口端撫で。口縁～肩部外面磨き、内面刷毛目	3世紀末葉	第197図-46	PL.94
47	10-000789	土師器甕	底径 7.7 残高 18.4	体～底部1/2。肩～胴部外面磨きで、腰部外面磨きで後磨き。体部内面刷毛目様の磨き。底面上げ底気味で撫で	3世紀末葉	第197図-47	PL.94
48	10-000790	土師器甕	底径(9.2) 残高 4.3	腰～底部1/3。底面被熱で割れ煤付着。腰部外面磨き、内面指撫で。底部外面撫で、内面磨きで、底面木葉痕残る	3世紀末葉	第197図-48	PL.95
49	10-000791	土師器甕	底径 7.0 残高 8.9	腰～底部1/2。外面荒れる。腰～底部外側刷毛目様の撫で。底面内側指撫で。底面撫で	3世紀末葉 片岩含むか	第197図-49	PL.95
50	10-000792	土師器甕	底径 5.4 残高 5.3	腰～底部。焼成良好。腰部外面刷毛目後磨き。内面腰部上位指撫で。腰部下位～底部磨き。底面上底気味で撫で	3世紀末葉	第197図-50	PL.95
51	10-000793	土師器甕	底径 4.6 残高 2.7	器面荒れる。底部内面回転し乍の磨き。底面上底	3世紀末葉	第197図-51	PL.95
52	10-000794	土師器鉢	底径 7.0 底径 6.5 器高 8.9	1/2。口縁欠損。体部刷毛目後磨きで、体・底部内面及び底面磨き	3世紀末葉	第197図-52	PL.95
53	10-000795	土師器蓋	残存 7.9×4.1× 2.4	破片。上面放射状の削り。側面横撫で。内面指撫で	3世紀末葉	第197図-53	PL.95
54	10-000796	土師器壺	口径(12.9) 残高 3.2	口縁1/3。有段口縁。内外面刷毛目後磨き	3世紀末葉	第197図-54	PL.95
55	10-000797	土師器小型壺	胴部径(9.9) 残高 7.0	口縁部と腰～底部欠損。肩部波状紋・刷毛目一周。体部外面磨き、内面輪積み痕残り磨き及び指撫で	3世紀末葉	第197図-55	PL.95
56	10-000798	土師器壺	口径 12.8 残高 7.5	口縁～肩部1/3。口縁内面・外面上位横撫で。口縁中程～肩部外面刷毛目後磨き。肩部内面輪積み痕残り指撫で	3世紀末葉	第197図-56	PL.95
57	10-000799	土師器壺	口径(14.2) 残高 7.8	口縁～肩部1/4。口縁内面横撫で外面、磨き。肩部内面磨きで・指撫で、外面磨き様の磨きで鉤状の貼付文	3世紀末葉	第197図-57	PL.95
58	10-000800	土師器壺	口径 8.1 残高 7.7	口縁～体部1/2。口縁内面刷毛目様の撫で、外面横撫で。肩部内面指撫で、胴部内面磨き。体部外面磨き	3世紀末葉	第197図-58	PL.95
59	10-000801	土師器壺	口径(16.0) 残高 4.3	口縁部破片。外面折り返しの段を有する。外面指撫で、内面上縁部横撫で、中・下位磨き	3世紀末葉	第197図-59	PL.95
60	10-000802	土師器壺	口径(14.7) 残高 6.5	口縁～肩部破片。口縁内面磨きで、外面磨きで上縁横撫で。肩部内面磨きで後指撫で、外面磨きで鉤状貼付紋	3世紀末葉	第197図-60	PL.95
61	10-000803	土師器壺	口径(13.0) 残高 6.8	口縁～肩部1/4。内面口縁部磨き、肩部磨き。外面刷毛目後幅広の磨き	3世紀末葉	第197図-61	PL.95
62	10-000804	土師器壺	口径 12.8 残高 16.8	口縁～肩部。器面荒れる。口縁～肩部外面磨き、肩部内面指撫で	3世紀末葉	第197図-62	PL.96
63	10-000805	土師器壺	口径(12.2) 残高 18.2	口縁～胴部2/3。口縁部と体部外面磨き。体部内面刷毛目または磨き。頭部外面に刷毛目痕残る	3世紀末葉	第198図-63	PL.96
64	10-000806	土師器壺	底径 7.9 残高 2.8	腰部下位～底部。焼成良好。腰部内面刷毛目、外面磨き。底部内面指撫で、底面磨き様の撫で	3世紀末葉	第198図-64	PL.95

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
65	10-000807	土師器壺	底径 5.6 残高 4.3	腰～底部3/4。焼成良好。内面吸炭し刷毛目。腰～底部外面磨き。底面削り	3世紀末葉	第198図-65	PL95
66	10-000808	土師器壺	底径(15.0) 器高 8.5	口縁～肩部1/4。内面磨きで後肩部に指押え痕。外面口縁上縁部横撫でで中位～肩部磨き	3世紀末葉	第198図-66	PL95
67	10-000809	土師器壺	胴部径(20.0) 残高 22.5	肩～胴部片。焼成良好。内面刷毛目様の磨きで、外面磨きで鉤状の貼付紋	3世紀末葉	第198図-67	PL96
68	10-000810	土師器壺	底径 10.0 残高 5.9	腰～底部。内面刷毛目様の撫で。腰部外面刷毛目後磨きで。底面磨き	3世紀末葉	第198図-68	PL96
69	10-000811	土師器壺	底径 5.8 残高 2.3	底部片。上げ底。内面指撫で、外面磨きで、底面削り	3世紀末葉	第198図-69	PL96
70	10-000812	土師器壺	底径 4.3 残高 3.1	腰～底部。底面やや上げ底で底部内面一部剥離。内面指撫で、外面磨き、底面削り	3世紀末葉	第198図-70	PL96
71	10-000813	土師器壺	頸部径(14.4) 残高 10.4	口縁～肩部片。内面刷毛目様の磨きで。口縁部外面口縁部刷毛目。肩部外面ひび割れ磨き	3世紀末葉 72と同一の可能性	第198図-71	PL96
72	10-000814	土師器壺	残存 18.3×28.3 厚さ 1.1	大型壺の体部破片。内面刷毛目様の磨きで、外面刷毛目後磨き	3世紀末葉 71と同一の可能性	第198図-72	PL96
73	10-000815	土師器壺	残存 11.7×7.4×1.35	口縁破片。内外面に折り返しの段。上端と内面上縁部・外面下部横撫で。内外面刷毛目後内面下半部と外面磨き	3世紀末葉	第198図-73	PL96
74	10-000816	土師器壺	底径 8.5 残高 11.0	腰～底部。底面僅かに上げ底。腰部内面刷毛目様の撫で。外面磨き	3世紀末葉	第198図-74	PL96
75	10-000817	土師器壺	胴部径(31.4) 残高 19.4	胴部1/3。内面磨きで、外面刷毛目後磨き	3世紀末葉	第199図-75	PL97
76	10-000818	土師器壺	底径 8.3 残高 15.2	胴部片と底部。上げ底気味。腰～底部内面磨きで。胴部外面磨き、腰部磨き様の撫で。底面指撫で	3世紀末葉 75と同一の可能性	第199図-76	PL97
77	10-000819	土師器壺	底径(8.8) 残高 23.0	体～底部1/3。内面胴部磨きで、腰部刷毛目様の撫で。体部外面磨き、底部外面一部指撫で。底面に菓状の圧痕	3世紀末葉	第199図-77	PL97
78	10-000820	土師器壺	底径 11.4 残高 3.2	腰～底部。僅かに上げ底気味腰部内面刷毛目様の撫で、外面磨き。底部内面指撫で、底面磨きで菓状の圧痕残	3世紀末葉	第199図-78	PL97
79	10-000821	土師器壺	底径 9.2 残高 3.2	腰～底部3/4。腰～底部内面刷毛目様の撫で、底部中央指撫で。腰部外面・底面磨き。底部外面指撫で・指頭痕	3世紀末葉	第199図-79	PL97
80	10-000822	土師器小型壺	底径 3.6 残高 3.4	腰～底部。腰～底部内面指撫で。腰部外面刷毛目後磨き。底面磨き	3世紀末葉	第199図-80	PL97
81	10-000823	土師器異形土器	底径 3.3 残高 2.3	高坏の坏部底部に似る。輪積み部分で剥離。外周研磨による二次整形。輪積み面に刷毛目。内・外面・底面磨き	3世紀末葉 盛付具に転用か	第199図-81	PL97
82	10-000824	弥生土器壺片か	残存 5.8×5.3×0.7	体部破片。内面磨きでか、外面磨き	3世紀末葉か	第199図-82	PL97
83	20-000383	敲石	6.2×5.4×14.4	河床礫使用。表面と右側面に敲打痕残す。こも編み石転用か	溶結凝灰岩	第199図-83	PL97
84	20-000384	敲石	7.9×4.8×15.9	河床礫使用。右側面に敲打痕、表面と左右両側面に研磨面残し、中位に磨耗痕一周	粗粒輝石安山岩 こも編み石転用	第199図-84	PL98
85	20-000385	敲石	残存 9.4×3.4×5.0	河床礫使用。上位のみ。上面に敲打痕、表面に研磨面残	粗粒輝石安山岩	第200図-85	PL97
86	20-000386	敲石	残存 8.4×3.0×3.0	河床礫使用。上端のみ。上面に敲打痕、表面に研磨面残	粗粒輝石安山岩	第200図-86	PL98
87	20-000387	磨石	(6.0)×5.6×18.2	河床礫使用。右側面一部剥離。左右・裏面に研磨面残	変質安山岩	第200図-87	PL98
88	20-000388	敲石	(5.9)×3.7×12.4	河床礫使用。左側面と上面一部剥離。裏面に敲打痕、表面に研磨面残。中位に帯状の磨耗痕一周	石英閃緑岩 こも編み石転用	第200図-88	PL98
89	20-000389	磨石	9.6×(5.1)×17.0	河床礫使用。裏面右下欠損。表面に弱い研磨面、右側面に研磨面残。こも編み石に転用か	変質安山岩	第200図-89	PL98
90	20-000390	磨石	8.7×4.7×(10.8)	河床礫使用。下部欠損。表面に研磨面残	細粒輝石安山岩	第200図-90	PL98
91	20-000391	磨石	6.8×5.6×17.1	河床礫使用。左右両側下寄りに研磨面残す。中位に帯状の磨耗痕一周	変質安山岩	第200図-91	PL98
92	20-000392	石鏃	1.35×(1.44)×2.6	小型の無茎鏃。先端欠損。脚丸みを持つ	黒曜石	第200図-92	PL98
93	20-000393	こも編み石	6.3×2.8×12.1	河床礫使用。中位に幅3.1cm程の磨耗痕一周	輝緑岩	-	PL98
94	20-000394	こも編み石	(6.2)×3.5×(11.3)	河床礫使用。上部欠損。下端一部剥離。下位に幅4.1cm程の磨耗痕一周	砂岩	-	PL98
95	20-000395	剥片	8.3×3.1×14.3	一部自然面残す。剥離5回	黒色頁岩	-	PL98
96	20-000396	剥片	6.6×2.4×11.6	表面・上面は自然面。剥離5回	黒色頁岩	-	PL98
97	10-000825	須恵器坏	口径(12.6) 底径(8.5) 器高 3.2	1/3。左回転轆轤整形。底面回転削り	8世紀後半	第200図-97	PL98
98	10-000826	灰釉陶器鉢か	口径(19.9) 底径(8.3) 残高 6.8	体～底部1/4。右回転轆轤整形。腰部外面～底面削り	9世紀以降	第200図-98	PL99

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
99	11-003574	土師器甕口縁部	68	1401	古墳時代前期中心	103	11-003578	土師器高坏脚部	64	1507	古墳時代前期中心
100	11-003575	土師器甕体部	1115	13286	古墳時代前期中心	104	11-003579	土師器坏口縁部	29	118	平安時代中心
101	11-003576	土師器甕底部	62	2576	古墳時代前期中心	105	11-003580	土師器坏体～底部	87	164	平安時代中心
102	11-003577	土師器高坏坏部	49	574	古墳時代前期中心	106	11-003581	須恵器甕体部	13	719	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
107	11-003582	須恵器碗口縁部	4	42	
108	11-003583	須恵器碗体~底部	9	195	
109	11-003584	土師器甕口縁部	55	1056	平安時代中心
110	11-003585	土師器甕体部	271	2443	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
111	11-003586	土師器甕底部	43	1457	平安時代中心
112	21-002121	矢わら	1	90	
113	21-002122	磨石	1	475	

7-3-4号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000827	土師器高坏	口径 8.2 残高 4.0	坏部1/3・脚部下半欠損。器面割れる。坏部内面磨き。坏部~脚部外面指撫で。脚部内面刷毛目後指撫で	3世紀末葉	第201図-1	PL99
2	10-000828	土師器小型甕	口径(9.8) 残高 2.0	口縁~肩部破片。有段口縁。口縁横撫で。肩部内外面指撫で	3世紀末葉	第201図-2	PL99
3	10-000829	土師器ミニチュア甕	底径 4.0 残高 3.1	腰~底部。内面磨き。腰部外面指撫で、底面磨き	3世紀末葉	第201図-3	PL99

7-3-6号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000830	土師器器台	裾部径(10.4) 残高 7.4	受皿底~脚部。円形の透かし3ヶ所。受皿部内面指撫で。脚外面刷毛目後磨き。内面上から下に指撫で、横撫で、刷毛目	3世紀末	第202図-1	PL99
2	10-000831	土師器高坏	頸部径 3.3 残高 6.7	坏腰部~脚上部。腰部に弱い稜。坏部内面磨きで、脚部内面刷毛目。坏体部~脚部外面刷毛目後磨き	3世紀末	第202図-2	PL99
3	10-000832	土師器器台	残存 7.3×6.4 残高 4.8	脚部破片。円形の透かし。内面刷毛目、下部は横撫で。外面刷毛目後磨き	3世紀末	第202図-3	PL99
4	10-000833	土師器高坏	口径 9.5 残高 6.4	坏部の一部と脚部下半欠損。器面荒れる。坏部内面磨き。脚部内面指撫で。口縁部横撫で。坏体~脚部外面磨き	3世紀末	第202図-4	PL99
5	10-000834	土師器高坏	頸部径 3.5 残高 8.2	坏部下半~脚部上位2/3。腰部に弱い稜を有す。坏内面と坏~脚部外面磨き。脚部内面刷毛目様の撫で	3世紀末	第202図-5	PL99
6	10-000835	土師器高坏	口径(22.8) 裾径 11.1 器高 15.5	1/2。坏腰部外面に稜貼付。器面やや荒れる。坏内外面と脚部外面磨き。脚部内面細かい磨き	3世紀末	第202図-6	PL99
7	10-000836	土師器甕	口径(24.0) 残高 5.5	口縁~肩部破片。口縁~頸部外面横撫で。肩部内面指撫で、外面刷毛目	3世紀末	第202図-7	PL99
8	10-000837	土師器台付甕	裾径 9.0 残高 6.0	甕底部~脚部3/4。器面荒れる。甕底部と脚天井部の内面指撫で	3世紀末	第202図-8	PL99
9	10-000838	土師器台付甕	裾部径(8.6) 残高 5.7	甕底部~脚部1/2。甕・脚接合部胎土粗粒。焼成良好。脚裾に折り返し。甕底・脚部内面指撫で、外面刷毛目後脚部指撫で	3世紀末	第202図-9	PL99
10	10-000839	土師器壺	口径(23.4) 残高 8.9	口縁~頸部1/4。有段口縁。口唇部内面に折り返し。器面荒れる。口縁外面横撫で	3世紀末	第202図-10	PL99
11	10-000840	土錘	径 2.8×2.7 高さ 2.6	上端部僅かに欠ける。球形をなし、中央に径3.9mmの孔を下から上へ縦位に穿つ。全面撫で		第202図-11	PL99
12	10-000841	土師器壺	残存 6.3×3.6×0.9	腰部破片。輪積み部分で剥離。内面荒れる。外面磨き	3世紀末	-	PL99

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
(一部7-3-36号溝内出土遺物を含む)					
13	11-003587	土師器甕口縁部	40	794	古墳時代前期中心
14	11-003588	土師器甕体部	321	3438	古墳時代前期中心
15	11-003589	土師器甕底部	48	1460	古墳時代前期中心
16	11-003590	土師器高坏坏部・器受部	33	509	古墳時代前期中心
17	11-003591	土師器高坏脚部	48	988	古墳時代前期中心
18	11-003592	土師器甕口縁部	1	20	平安時代中心
19	11-003593	土師器甕体部	9	32	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
20	11-003594	土師器坏口縁部	2	3	平安時代中心
21	11-003595	土師器坏体~底部	9	32	平安時代中心
22	11-003596	土師器坏底部	1	3	平安時代中心
23	11-003597	土師器不明	3	15	平安時代中心
24	11-003598	須恵器甕体部	1	76	
25	11-003599	須恵器坏蓋	2	19	
26	11-003600	須恵器碗体~底部	1	13	

7-3-7号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000842	土師器高坏	口径(7.8) 残高 4.0	坏~脚部上位2/3。円形の透かし2ヶ所。器面やや荒れる。坏部内面撫で、坏~脚外面磨き。脚内面指撫で	3世紀末	第204図-1	PL100
2	10-000843	土師器高坏	裾部径(10.2) 残高 5.2	坏底部~脚部1/3。円形の透かし3ヶ所。坏底部内面と脚部外面磨き。脚部内面磨き	3世紀末	第204図-2	PL100
3	10-000844	土師器高坏	口径 7.1 残高 3.1	坏部のみで一部欠損。器面荒れる。底面突出。内外面撫で	3世紀末	第204図-3	PL100
4	10-000845	土師器高坏	裾部径(14.6) 残高(8.6)	坏底部~脚部1/2。器面やや荒れる。円形の透かし3ヶ所。脚部内面刷毛目様の磨きで後指撫で。外面磨き	3世紀末	第204図-4	PL100

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
5	10-000846	土師器甕	口径 14.2 残高 5.6	口縁～肩部。焼成良好。口縁内外面と肩部外面細かい刷毛目。肩部内面磨き。	3世紀末	第204図-5	PL100
6	10-000847	土師器壺	口径(15.0) 残高 3.4	口縁1/2。折返口縁破片。器面荒れる。内外面撫で	3世紀末	第204図-6	PL100
7	10-000848	土師器壺	口径(12.0) 残高 3.8	口縁1/4。折返口縁破片。器面荒れる。外面刷毛目後撫でか	3世紀末	第204図-7	PL100
8	10-000849	土師器壺	口径 10.4 残高 10.4	口縁～肩部1/2。器面一部かせる。口縁磨き肩部内面磨きで、外面磨きでか	3世紀末	第204図-8	PL100
9	10-000850	弥生土器壺	残存 3.1×3.6 厚み 0.7	肩部破片。内面撫で。外面に横位の刷毛目と波状紋	樽式	第204図-9	PL100
10	10-000851	土師器壺	口径(10.0) 残高 6.0	二重口縁破片。内面中位磨き、下位磨き。外面刷毛目後部分的な撫で	3世紀末	第204図-10	PL100
11	10-000852	弥生土器壺	口径 11.5 残高 2.2	腰～底部3/4。内外面器面荒れる。		第204図-11	PL100
12	10-000853	土鉢	径 3.3×2.9 高さ 3.4	完形。一側面が若干扁平される球状を成す。下から上へ径5mmの穿孔。表面指撫で		第204図-12	PL100
13	20-000397	台石	15.4×4.6×24.3	平らな河床礫使用。表裏面に削痕残す研磨面を有し、右側縁は敲打痕の残る刃部状を成す	粗粒輝石安山岩	第204図-13	PL100
14	20-000398	砥石	5.1×2.9×9.6	欠損品を再利用か。上面・左右側面が研磨面を成し、裏面に研磨面残る	頁岩	第204図-14	PL100
15	20-000399	磨石	5.6×4.5×17.0	河床礫使用。裏面に研磨面残る	粗粒輝石安山岩	第204図-15	PL100
16	20-000400	磨石	7.0×4.2×16.1	河床礫使用。右側面と裏面に研磨痕。中位に帯状の磨耗痕	変質安山岩	第205図-16	PL101
17	20-000401	磨石	6.7×5.3×16.8	河床礫使用。上下縁と左右側・裏面と表面の一部に研磨面	粗粒輝石安山岩	第205図-17	PL101
18	20-000402	磨石	6.6×6.1×15.9	河床礫使用。表裏・左右側面に研磨面残る	ひん岩	第205図-18	PL101
19	20-000403	磨石	7.4×5.4×15.0	河床礫使用。左側面に弱い研磨面残る	溶結凝灰岩	第205図-19	PL101
20	20-000404	磨石	5.3×5.0×12.1	河床礫使用。表裏面に弱い研磨面。中位に帯状の磨耗痕	粗粒輝石安山岩	第205図-20	PL100
21	20-000405	磨石	6.8×4.5×14.0	河床礫使用。表裏の3面に研磨面。中位に磨耗痕一周	ひん岩	第205図-21	PL101
22	20-000406	こも編み石	7.8×6.5×15.3	河床礫使用。表裏に弱い研磨痕。中位に帯状の磨耗痕	粗粒輝石安山岩	第206図-22	PL101
23	20-000407	磨石	6.0×2.1×14.7	河床礫使用。表裏に研磨面残る	ひん岩	第206図-24	PL101
24	20-000408	凹石	6.9×5.5×16.1	河床礫使用。表面に敲打痕多数。両側面に研磨痕跡残る	蛇紋岩	第206図-23	PL101
25	10-000854	土師器坏	口径(11.8) 器高 2.9	1/3。口縁横撫で。体～底部内面磨きで、外面磨削り	8世紀後半	第206図-25	PL101
26	10-000855	土師器甕	口径(12.6) 残高 4.0	口縁～肩部1/2。口縁横撫で。肩部内面磨きで、外面磨削り	8世紀後半	第206図-26	PL101
27	10-000856	土師器壺	口径(22.5) 残高 6.3	口縁～体部片。口縁横撫で。体部内面撫で、外面磨削り	6世紀	第206図-27	PL101
28	20-000409	磨石	残存4.5×3.3×10.7	右側・下端欠損。表面に研磨面残り、中位に磨耗痕一周	粗粒輝石安山岩	-	PL101

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
29	11-003601	土師器甕口縁部	40	740	古墳時代前期中心
30	11-003602	土師器甕体部	444	3398	古墳時代前期中心
31	11-003603	土師器甕底部	39	1406	古墳時代前期中心
32	11-003604	土師器高坏坏部	16	472	古墳時代前期中心
33	11-003605	土師器高坏脚部	31	652	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
34	11-003606	土師器坏口縁部	21	194	平安時代中心
35	11-003607	土師器坏体～底部	25	110	平安時代中心
36	11-003608	土師器甕体部	3	11	平安時代中心
37	11-003609	須恵器甕体部	2	46	
38	11-003610	須恵器坏体～底部	1	18	

7-3-8号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000857	土師器高坏	裾部径 11.2 残高 10.2	坏体部から脚部3/4。器面やや荒れる。坏部内面・脚部外面磨き	3世紀末	第207図-1	PL101
2	20-000410	凹石	9.3×12.6×3.5	扁平な河床礫使用。表面に敲打痕残る	粗粒輝石安山岩	第207図-2	PL102
3	20-000411	こも編み石	径 6.2×4.6 残存長 10.8	河床礫使用。下半欠損。左側に研磨面、中位に磨耗痕一周	ひん岩	第207図-3	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003611	土師器甕口縁部	1	25	古墳時代前期中心
5	11-003612	土師器甕体部	4	68	古墳時代前期中心
6	11-003613	土師器甕底部	2	75	古墳時代前期中心
7	11-003614	土師器高坏坏部	3	47	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003615	土師器甕口縁部	2	8	平安時代中心
9	11-003616	土師器甕体部	1	1	平安時代中心
10	11-003617	土師器甕体～底部	1	6	平安時代中心

7-3-9号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000858	土師器器台	口径 7.5 残高 3.9	口縁～脚部上位2/3。受皿部内面磨き、受皿～脚部外面刷毛目後撫でか。脚部内面紋り	3世紀末	第208図-1	PL102
2	10-000859	土師器器台	口径 8.3 残高 1.3	坏部1/3で底部欠損。口縁部外面横撫で。口縁～体部内面と体部外面磨き	3世紀末	第208図-2	PL102
3	10-000860	土師器甕	口径 17.0 残高 5.2	口縁部2/3。内面及び外面上位横撫で。外面中位以下弱い刷毛目	3世紀末	第208図-3	PL102

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003618	土師器甕口縁部	3	39	古墳時代前期中心
5	11-003619	土師器甕体部	18	164	古墳時代前期中心
6	11-003620	土師器甕底部	7	190	古墳時代前期中心
7	11-003621	土師器高坏	2	32	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003622	土師器甕体部	2	1	平安時代中心
7-3-9号住居掘り方					
9	11-003623	土師器甕口縁部	2	28	平安時代中心
10	11-003624	土師器甕体部	8	55	平安時代中心

7-3-11号住居

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000861	弥生土器壺	残存 8.5×4.1 厚み 0.7	肩部破片。内面指撫で、外面波状紋		第210図-1	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003625	土師器甕口縁部	5	65	古墳時代前期中心
3	11-003626	土師器甕体部	100	564	古墳時代前期中心
4	11-003627	土師器甕底部	3	85	古墳時代前期中心
5	11-003628	土師器高坏坏部	5	54	古墳時代前期中心
6	11-003629	土師器高坏脚部	2	25	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-003630	土師器甕口縁部	1	7	平安時代中心
8	11-003631	土師器坏口縁部	1	2	平安時代中心
9	11-003632	土師器坏体～底部	3	13	平安時代中心
10	21-002123	礫	4	1122	

7-3-1号掘立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003633	土師器甕口縁部	1	42	古墳時代前期中心
2	11-003634	土師器甕体部	18	243	古墳時代前期中心
3	11-003635	土師器甕底部	2	127	古墳時代前期中心
4	11-003636	土師器高坏器台脚部	1	59	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-003637	土師器甕体部	1	6	平安時代中心
6	11-003638	土師器坏口縁部	1	9	平安時代中心
7	11-003639	土師器坏体～底部	3	12	平安時代中心
8	11-003640	須恵器甕体部	1	54	

7-3-2号掘立

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000412	剥片	6.7×7.7×2.0	下端切断。一部剥落。一回の敲打痕	細粒輝石安山岩	-	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003641	土師器甕体部	2	74	古墳時代前期中心

7-3-3号掘立

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000862	土師器壺	頸部径 7.9 残高 5.4	頸部～肩部。内面口縁下端指撫で、頸部刷毛目、肩部篋撫で後一部指撫で。外面篋磨き	3世紀末葉	第213図-1	PL102

7-3-4号掘立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003642	土師器甕体部	3	16	古墳時代前期中心

7-3-5号掘立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003643	土師器甕口縁部	3	18	古墳時代前期中心
2	11-006344	土師器甕体部	17	145	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003645	土師器高坏脚部	1	6	平安時代中心

7-3-6号掘立

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003646	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
2	11-003647	土師器甕体部	12	143	古墳時代前期中心
3	11-003648	土師器高坏坏部	2	24	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003649	土師器高坏脚部	6	126	平安時代中心
5	11-003650	土師器坏体～底部	3	58	平安時代中心

遺物一覧

7-3-35号溝

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000863	土師器壺	口径(12.1) 残高 7.2	口縁～肩部1/4。口縁外面刷毛目後撫でか、内面磨き、 肩部内面上位刷毛目、中・下位指撫で、外面磨き	3世紀末葉	第218図-1	PL102
2	10-000864	須恵器甕	口径(17.8) 残高 5.2	口縁破片。口縁部上下に引く		第218図-2	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003651	土師器甕口縁部	4	51	古墳時代前期中心
4	11-003652	土師器甕体部	96	566	古墳時代前期中心
5	11-003653	土師器甕底部	10	119	古墳時代前期中心
6	11-003654	土師器高坏部・器受部	5	23	古墳時代前期中心
7	11-003655	土師器高坏脚部	9	102	古墳時代前期中心
8	11-003656	土師器甕口縁部	4	31	平安時代中心
9	11-003657	土師器甕体部	12	51	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-003658	土師器坏口縁部	3	6	平安時代中心
11	11-003659	土師器坏体～底部	13	39	平安時代中心
12	11-003660	須恵器甕体部	1	21	
13	11-003661	須恵器碗蓋	2	11	
14	11-003662	須恵器碗口縁部	2	5	
15	11-003663	須恵器碗体～底部	3	44	

7-2-36号溝(7-3-6号住居で取り上げられたものもあり)

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000865	土師器坏	口径 12.1 器高 3.6	ほぼ完形。口縁横撫で。体～底部内面磨きで、外面磨削り 後体部撫で	9世紀前半	第218図-1	PL102
2	10-000866	須恵器高台付碗	口径(14.6) 器高 05.1	2/3。右回転軸轆轤形。底面回転糸切り後、高台貼付	10世紀前半	第218図-2	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003664	土師器甕口縁部	1	27	古墳時代前期中心
4	11-003665	土師器甕体部	13	36	古墳時代前期中心
5	11-003666	土師器高坏脚部	3	36	古墳時代前期中心
6	11-003667	土師器甕体部	2	14	平安時代中心
7	11-003668	土師器坏体～底部	4	32	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-003669	須恵器甕体部	6	386	
9	11-003670	須恵器碗口縁部	1	18	
10	11-003671	須恵器碗体～底部	1	40	
11	11-003672	磁器碗体部	1	1	

7-3-12号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000867	土師器壺	口径(14.1) 残高 10.8	口縁～肩部1/3。口縁上位撫で。口縁下位～肩部内外面刷毛 目後、内面肩部上位頸部との接合部に指押え痕、外面磨き	3世紀末葉	第220図-1	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003673	土師器甕体部	10	399	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003674	土師器甕底部	2	16	平安時代中心

7-3-13号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000868	土師器小型甕	口径(7.0) 残高 7.0	口縁～体部破片。内面口縁横撫で、肩部指撫で、体部磨きで。 外面口縁横撫で、頸～体部刷毛目縁撫で後肩部指撫で	3世紀末葉	第221図-1	PL102

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-003675	土師器甕口縁部	1	3	古墳時代前期中心
3	11-003676	土師器甕体部	7	18	古墳時代前期中心
4	11-003677	土師器高坏部	2	7	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-003678	土師器高坏脚部	1	5	平安時代中心
6	21-002124	礫	1	5	

7-3-14号土坑

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000869	土師器高坏	頸部径 3.1 残高 5.6	坏部剥脱し裾部欠損。器面荒れる。円形の透かし3ヶ所。 内面指押え痕、天井に棒状工具の押込み痕。外面磨き	3世紀末葉	第222図-1	PL102
2	10-000870	土師器台付甕	裾部径(11.8) 残高 6.8	脚部1/3。裾部内側に折り返し。甕接合部胎土に砂粒多く 含む。内面指撫で、外面刷毛目後撫で	3世紀末葉～4世紀	第222図-2	PL102
3	10-000871	土師器台付甕	口径(19.6) 残高 11.3	台付甕口縁～体部破片。S字状口縁。体部内面指撫で、外 刷毛目。肩部下位に横位の刷毛目一周	3世紀末葉	第222図-3	PL102

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003679	土師器甕体部	3	29	古墳時代前期中心
5	11-003680	土師器高坏坏部	2	14	古墳時代前期中心

7-3-15号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003682	土師器甕体部	2	12	古墳時代前期中心
2	11-003683	土師器甕底部	2	74	古墳時代前期中心

7-3-20号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003685	土師器甕口縁部	2	10	古墳時代前期中心
2	11-003686	土師器甕体部	32	97	古墳時代前期中心
3	11-003687	土師器甕底部	1	23	古墳時代前期中心

7-3-25号土坑

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003690	土師器甕体部	5	40	古墳時代前期中心

7-3-2号井戸 (旧26号土坑)

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000872	土師器高坏	口径(8.2) 残高 6.2	坏底部～脚部上位。器面荒れる。円形の透かし3ヶ所。坏底部内面と脚部天井指撫で	3世紀末葉～4世紀	第224図-1	PL103
2	10-000873	土師器壺	底径(11.5) 残高 1.8	底部1/3。内面刷毛目様の撫で、外面指撫で、底面宛撫で	3世紀末葉	第224図-2	PL103
3	10-000874	須恵器高台付碗	高台部径(8.0) 残高 4.4	腰～高台部1/2。右回転軸整形。底面高台貼付け時撫で	10世紀後半	第224図-3	PL103
4	10-000875	女瓦	残存 12.5×12.1 厚み 1.3	破片。布目痕残り、裏面撫で調整、側面宛切り	律令期	第224図-4	PL103

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-003692	土師器甕口縁部	1	2	古墳時代前期中心
6	11-003693	土師器甕体部	53	384	古墳時代前期中心
7	11-003694	土師器甕底部	3	52	古墳時代前期中心
8	11-003695	土師器高坏脚部	4	16	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-003681	土師器高坏脚部	2	95	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-003684	土師器高坏体部	1	28	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-003688	土師器高坏坏部	3	21	平安時代中心
5	11-003689	土師器高坏脚部	2	9	平安時代中心

7-3-1号井戸

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-003691	土師器甕体部	3	133	古墳時代前期中心

7-3-3号井戸

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000876	土師器小型壺	口径 8.5 底径 3.8 器高 10.1	口縁一部欠損。内面口縁～胴部宛磨き、腰～底部刷毛目。外面口縁附近横撫で、肩部刷毛目後口縁部～底面宛磨き。肩部上位に縄圧痕一周	3世紀末葉	第225図-1	PL103
2	10-000877	土師器壺	底径 6.1 残高 12.5	口縁欠損。内面肩部指撫で、胴～底部刷毛目。外面刷毛目後宛磨き。底面上げ底で撫で調整	3世紀末葉	第225図-2	PL103
3	10-000878	土師器壺	口径 13.0 残高 17.3	口縁～腰部1/4。口縁～頸部外面刷毛目後横撫で、内面指撫で。肩～腰部内面刷毛目、外面宛磨き	3世紀末葉	第225図-3	PL103
4	10-000879	土師器壺	胴部径 25.4 残高 14.0	胴部3/4。内面刷毛目、外面刷毛目後宛磨き	3世紀末葉	第225図-4	PL103
5	10-000880	土師器壺	底径 8.2 残高 14.0	腰～底部1/3。内面底部中央指撫で、胴～底部外周左周りの刷毛目。外面刷毛目後宛磨き。底面木葉痕残り	3世紀末葉	第225図-5	PL103
6	10-000881	土師器甕	口径(14.0) 残高 3.4	口縁上位3/4。折り返し。内外面刷毛目後宛磨き。口端部撫で	3世紀末葉	第225図-6	PL103
7	20-000413	磨石	8.7×6.5×2.5	河床礫使用。表面に研磨面と僅かな敲打痕残り	粗粒輝石安山岩	第225図-7	PL104
8	20-000414	板碑片か	6.3×11.7×1.2	板碑によく使用される片岩の破片だが加工痕等は見られない	緑色片岩	-	PL104

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-003700	土師器甕口縁部	15	178	古墳時代前期中心
10	11-003701	土師器甕体部	96	1214	古墳時代前期中心
11	11-003702	土師器甕底部	4	252	古墳時代前期中心
12	11-003703	土師器高坏坏部・器受部	4	94	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
13	11-003704	土師器高坏脚部	37	451	平安時代中心
14	11-003705	土師器甕口縁部	1	1	平安時代中心
15	11-003706	土師器坏体～底部	2	11	平安時代中心
16	21-002125	礫	2	36	

7区3面遺構外の出土遺物

7-グリット出土遺物

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000882	土師器器台	口径(9.1) 残高 4.7	口縁～脚部上端1/3。円形の透かし3ヶ所。焼成甘い。内面指撫で、外面磨き		第228図-1	PL104
2	10-000883	土師器高坏	口径(8.8) 残高 4.3	口縁～脚部上端1/2。円形の透かし2(3)ヶ所。坏部内外面と脚部外面磨き、脚部内面指撫で		第228図-2	PL104
3	10-000884	土師器高坏	口径 8.2 残高 2.0	坏部のみ。ほぼ完形。底面に円錐形の接合部。内外面磨き		第228図-3	PL104
4	10-000885	土師器高坏	頸部径 3.0 残高 2.8	脚部上位。円形の透かし3ヶ所。上面に多数の太い刺突を伴う接合部の窪み。内面指撫で、外面磨き		第228図-4	PL104
5	10-000886	土師器高坏	頸部径 2.9 残高 5.9	坏底部の一部と脚部上位。焼成良好。円形の透かし3ヶ所。坏底部内面磨き。脚部内面指撫で、外面刷毛目後磨き		第228図-5	PL104
6	10-000887	土師器高坏	口径(9.3) 残高 9.2	裾部を除く1/2。器面荒れる。内面坏部左回りの磨きで、脚部指撫で。外面磨き様の磨き		第228図-6	PL104
7	10-000888	土師器塊	口径(10.6) 底径 5.2 器高 4.2	1/2。口縁外面指撫で。口縁～腰部内面と外面磨き。底部内面一方への刷毛目様の磨きで。底面撫で調整		第228図-7	PL104
8	10-000889	土師器小型壺	口径(17.4) 残高 7.1	口縁部の過半と腰～底部欠損。二次焼成で器面荒れる。内面(刷毛目様の)磨きで。外面口縁部上位横撫で、中位～体部磨き	3世紀末葉 異形土器	第228図-8	PL104
9	10-000890	弥生土器壺	残存 5.8×4.0 厚み 0.7	口縁部平坦で外面後を持ち刺突2ヶ所の折り返し口縁破片。内面磨きで波状文廻り、円形の貼付文。外面刷毛目後撫で	3世紀末葉 菊川式系	第228図-9	PL104
10	10-000891	土師器壺	残存 4.1×2.4 厚み 0.6	口縁破片。内面波状文廻り、口端近くに円型貼付文。外面撫で	3世紀末葉 菊川式系	第228図-10	PL104
11	10-000892	土師器壺	残存 7.2×2.5 厚み 0.6	口縁破片。器面荒れる。内面波状文廻り、口端近くに円形の貼付文	3世紀末葉 菊川式系	第228図-11	PL104
12	10-000893	土師器壺	残存 2.8×2.3 厚み 0.6	口縁破片。内外面撫で、内面に波状文廻り	3世紀末葉 菊川式系	第228図-12	PL104
13	10-000894	土師器壺	残存 6.4×6.9 厚み 0.8	肩部破片。内外面刷毛目様の撫で後、外面と内面の一部磨き。外面に円形の貼付文	3世紀末葉 菊川式系	第228図-13	PL104
14	10-000895	土師器壺	残存 10.7×6.0 厚み 0.6	肩部破片。内面上位指撫で、中・下位磨きで。外面磨きで、円型貼付文添付	3世紀末葉 菊川式系	第228図-14	PL104
15	10-000896	弥生土器壺	残存 10.1×10.2 厚み 1.2	肩部破片。内面刷毛目、外面中・上位R Lの回転縄文3段、円形貼付文、下位磨き、内面刷毛目	3世紀末葉 菊川式系	第228図-15	PL104
16	10-000897	弥生土器壺	口径(15.3) 残高 5.5	口縁部1/2。折り返し口縁。内面磨き。外面上位折り返し部に単肩R Lの帯縄文施敷、下位磨き	3世紀末葉 赤井戸式	第228図-16	PL104
17	10-000898	土師器壺	口径(13.8) 残高 2.3	口縁部破片。有段口縁。内面中心に器片荒れる。外面細かい刷毛目後撫で	3世紀末葉	第228図-17	PL105
18	10-000899	土師器壺	底径 6.6 器高 19.5	口縁上位と胴部1/2欠損。口縁内外面と体部外面磨き。体～底部内面磨きで。底面僅かに上底で磨き	3世紀末葉	第228図-18	PL105
19	10-000900	土師器壺	残存 10.0×8.5 厚み 1.0	口縁部破片。折り返し口縁。内外面磨き。口端部面取り、折り返し下端に刻み施す	3世紀末葉	第228図-19	PL105
20	10-000901	弥生土器壺	残存 10.7×5.6 厚み 1.0	口縁破片。口縁上縁内面側貼り付けによる肥厚。上縁面取り。内面と上端撫で、外面磨き	3世紀末葉	第228図-20	PL105
21	10-000902	土師器小型壺	口径 10.3 残高 2.7	口縁部2/3。器面やや荒れる。内外面磨き	3世紀末葉	第228図-21	PL105
22	10-000903	土師器小型壺	口径 10.9 残高 4.1	口縁部1/2。器面やや荒れる。内外面撫で	3世紀末葉	第228図-22	PL105
23	10-000904	弥生土器壺	底径(9.4) 残高 3.2	底部1/4。内面刷毛目様の磨きで、外面撫で。底面木葉痕	3世紀末葉	第228図-23	PL105
24	10-000905	土師器壺	底径 9.4 残高 3.2	腰部下位～底部。内面左回りの刷毛目。腰部外面刷毛目後磨きと撫で。底面磨削	3世紀末葉	第228図-24	PL105
25	10-000906	土師器壺	底径 8.9 残高 5.0	腰部下位～底部。内面刷毛目。腰部外面刷毛目後磨き。底面撫でで葉様の圧痕残	3世紀末葉	第229図-25	PL105
26	10-000907	弥生土器甕か	残存 5.5×3.8 厚み 0.8	口縁部破片。口端近くに刺突による小穿孔3ヶ所。内外面撫で後、内面磨き	3世紀末葉	第229図-26	PL105
27	10-000908	土師器甕	口径(16.2) 残高 7.0	口縁～肩部1/4。口縁上位外面～口端横撫で。口縁～頸部内面と口縁中位から肩部外面刷毛目。肩部内面指撫で	3世紀末葉	第229図-27	PL105
28	10-000909	土師器甕	底径 7.5 残高 2.5	底部1/2。二次焼成顕著。底部内面指撫で、外面撫で。底面木葉痕	3世紀末葉	第229図-28	PL105
29	10-000910	土師器台付甕	裾部径 9.5 残高 6.1	甕底部～脚部。甕底部内面と台部天井部指撫で。台部内面刷毛目様の撫で、外面撫で	3世紀末葉 菊川式系	第229図-29	PL105
30	10-000911	土師器台付甕	裾部径 9.3 残高 5.3	台部2/3。裾部内側に折り返し。外面下位に刷毛目による小さい段差。内面指撫で、外面刷毛目後磨き	3世紀末葉 菊川式系	第229図-30	PL105
31	10-000912	土錘	径 2.7×2.7 高さ 2.6	側面1/3欠損。球形縦位に径4mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図-31	PL105
32	10-000913	土錘	径 3.1×3.1 高さ 3.2	完形。球形。下方から上方へ径6×4mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図-32	PL105
33	10-000914	土錘	径 2.9×2.7 高さ 2.8	完形。球形。縦位に4mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図-33	PL105
34	10-000915	土錘	径 2.7×2.5 高さ 2.8	一部剥離。球状。下方から上方へ径4mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図-34	PL106

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
35	10-000916	土錘	径 2.7×(2.6) 高さ 2.7	裏面削れる。球形か。縦位に径4mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図 -35	PL106
36	10-000917	土錘	径 2.7×2.6 高さ 2.7	ほぼ完形。球形。焼成甘く縦位に径4×5mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図 -36	PL106
37	10-000918	土錘	径 3.3×3.2 高さ 2.9	完形。球状。下方から上方へ径5×4mmの貫通孔。表面撫で	古墳時代前期	第229図 -37	PL106
38	10-000919	土錘	径 2.8×2.6 高さ 2.6	完形。球状。下方から上方へ径4mmの貫通孔。表面撫で	古墳時代前期	第229図 -38	PL106
39	10-000920	土錘	径 3.2×3.0 高さ 3.2	完形。球状。下方から上方へ径5×4mmの貫通孔。表面鏡状工具による面取り	古墳時代前期	第229図 -39	PL106
40	10-000921	土錘	残存 2.4×1.7 残高 3.5	大型の球形土錘の破片。表面指撫で	古墳時代前期	第229図 -40	PL106
41	10-000922	土錘	残存 2.3×1.0×2.6	破片。球状か。径5mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第229図 -41	PL106
42	10-000923	土錘	径 2.9×2.9 高さ 2.9	一部剥離。球状。下方から上方へ径4mmの貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第230図 -42	PL106
43	10-000924	土錘	径 2.7×2.7 高さ 2.7	完形で裏面荒れる。球形。縦位に4mmの貫通孔。表面撫で	古墳時代前期	第230図 -43	PL106
44	10-000925	土錘	残存 3.3×1.8 残高 3.3	大型の球形土錘の破片。縦位に径6mm程の貫通孔。表面指撫で	古墳時代前期	第230図 -44	PL106
45	10-000926	土師器坏	口径(11.5) 残高 2.8	1/3。口縁と腰部内面横撫で、底部内面左回りの鏡撫で。体部外面～底面鏡削り後体部撫で	9世紀前半	第230図 -45	PL106
46	10-000927	土師器坏	口径(12.2) 残高 3.1	1/3。口縁と体部内面横撫で。底部内面撫で。体部外面～底面鏡削り後体部撫で	9世紀前半	第230図 -46	PL106
47	10-000928	土師器小型甕	口径(11.0) 残高 4.5	口縁～体部1/3。口縁横撫で。体部内面鏡撫で、外面鏡削り	6世紀	第230図 -47	PL106
48	10-000929	土師器台付甕	頸部径 3.7 残高 7.8	甕腰部～台部位。甕部内面鏡撫で、外面鏡削り。台部内面指撫で、外面撫で	9世紀前半	第230図 -48	PL106
49	10-000930	須恵器坏	口径 12.5 器高 3.7	3/4。胎土に小礫混じる。左回転轆轤整形。底面回転鏡削り	8世紀後半	第230図 -49	PL106
50	10-000931	須恵器高台付碗	高台径(6.7) 残高 3.9	体部～高台3/4。自然釉掛かる。右回転轆轤整形。底面回転鏡削り後高台貼付、撫で調整	8世紀後半	第230図 -50	PL106
51	10-000932	須恵器坏	底径 7.1 残高 1.0	底部3/4。左回転轆轤整形。底面切り離し後右回りの鏡削り	8世紀後半	第230図 -51	PL106
52	10-000933	須恵器坏	底径 6.1 残高 1.9	腰～底部。内外面黒色処理。右回転轆轤整形。底面回転鏡削り	9世紀後半	第230図 -52	PL107
53	10-000934	須恵器高台付碗	高台径 6.7 残高 3.1	腰部～高台。焼成軟質。左回転轆轤整形。底面高台貼付後撫で	10世紀前半	第230図 -53	PL107
54	10-000935	須恵器蓋	口径(16.7) 残高 2.7	口縁～天井部片。左回転轆轤整形。天井部回転鏡削り	9世紀前半	第230図 -54	PL107
55	10-000936	須恵器甕	残存 14.2×6.9 厚み 1.0	口縁部片。外面に粗い波状文。内面口端附近に刻み痕残る	9世紀後半～10世紀	第230図 -55	PL107
56	10-000937	須恵器短頸壺	肩部径(16.0) 残高 6.8	頸～肩部1/3。轆轤整形	8世紀半葉	第230図 -56	PL107
57	10-000938	須恵器短頸壺	高台径(8.5) 残高 9.3	腰～高台部片。轆轤整形。高台底面面取り	9世紀前半	第230図 -57	PL107
58	10-000939	羽釜	口径(24.0) 残高 6.7	口縁～鈎付近破片。酸化焙焼成	10世紀前半	第230図 -58	PL107
59	10-000940	羽釜	口径(21.0) 残高 7.5	口縁～体部破片。酸化焙焼成。体部外面横位の鏡削り	11世紀	第230図 -59	PL107
60	10-000941	女瓦	残存 10.5×9.3 厚み 1.3	破片。紐造り。表面に布目残り、裏面撫で、側面鏡による面取り	9世紀後半～10世紀	第231図 -60	PL107
61	10-000942	女瓦	残存 8.8×5.6 厚み 1.2	破片。焼成甘い。縄造り。表面に布目残り、裏面撫で。側面は鏡による面取り	9世紀後半～10世紀	第231図 -61	PL107
62	10-000943	女瓦	残存 9.6×7.6 厚み 1.2	破片。焼成甘い。表面に布目残り、裏面撫で。側面は鏡による面取り	9世紀後半～10世紀	第231図 -62	PL107
63	10-000944	土錘	径 1.7×1.7 長さ 3.3	ほぼ完形。梨形。縦位に径4mmの貫通孔。側面縦位の撫で		第231図 -63	PL107
64	20-000415	石鏃	2.1×(3.0)×0.35	大型の無茎鏃。脚彫らむ	黒色安山岩	第231図 -64	PL107
65	20-000416	石鏃	1.4×(2.4)×0.45	有茎鏃。茎先端欠損。脚は持たない	チャート	第231図 -65	PL107
66	20-000417	石鏃	1.3×(2.0)×0.4	有茎鏃。茎先端欠損。短い脚を持つ	チャート	第231図 -66	PL107
67	20-000418	スクレーパー	2.5×1.4×0.4	剥片使用。石包丁形を呈、下縁に刃部を造る	黒曜石	第231図 -67	PL108
68	20-000419	スクレーパー	5.9×6.9×1.6	一面に自然面残す剥片使用。下縁に刃部を造る	黒色頁岩	第231図 -68	PL108
69	20-000420	スクレーパー	4.5×4.1×0.4	一面に自然面残す剥片使用。下縁に粗い刃部を造る	黒色頁岩	第231図 -69	PL108
70	20-000421	スクレーパー	5.7×8.0×1.8	一面に自然面残す肉厚の剥片使用。下縁と右側縁に刃部を造る	黒色頁岩	第231図 -70	PL108
71	20-000422	フレイク	6.0×5.2×1.6	表裏に剥離痕。下縁に使用痕残る	黒色頁岩	第231図 -71	PL108
72	20-000423	フレイク	2.9×9.4×1.8	一面に自然面残す横断面三角形の剥片。右側縁下位に使用痕残る	黒色頁岩	第231図 -72	PL108
73	20-000424	フレイク	5.0×11.0×2.4	一面に自然面残す横断面三角形の剥片	黒色頁岩	—	PL110
74	20-000425	フレイク	4.1×4.7×0.75	表裏面に剥離痕残す剥片	黒色頁岩	—	PL110
75	20-000426	フレイク	8.4×3.8×1.5	上縁に自然面残す剥片	粗粒輝石安山岩	—	PL110
76	20-000427	フレイク	6.8×7.6×1.7	表裏面に剥離痕残す剥片	黒色安山岩	—	PL110
77	20-000428	フレイク	6.8×7.6×1.7	表裏面に剥離痕残す剥片	砂岩	—	PL110
78	20-000429	フレイク	6.8×7.6×1.7	表裏面に剥離痕残す剥片	黒色頁岩	—	PL110
79	20-000430	フレイク	8.3×7.9×1.2	一面に自然面残す剥片	頁岩	—	PL110
80	20-000431	打製石斧	4.9×14.5×1.8	短冊形状の異形石斧。先端尖る。裏面に自然面残す。側縁に調整多く、上下量縁は殆ど調整されていない	頁岩	第232図 -80	PL108
81	20-000432	凹石	3.6×3.2×2.5	楕円球形の小河床礫使用。上面に窪み一ヶ所	粗粒輝石安山岩	第232図 -81	PL108
82	20-000433	磨石	7.3×14.4×3.8	直方体状の河床礫使用。表裏面に研磨痕残し下端に敲打痕残す	粗粒輝石安山岩	第232図 -82	PL108
83	20-000434	敲石	5.9×12.9×4.1	一部剥離。横断面三角形の河床礫使用。上下両端に敲打痕残し、側面に研磨痕残す	粗粒輝石安山岩	第232図 -83	PL108

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
84	20-000435	敲石	5.8×7.3×3.9	河床礫使用。上端に敲打痕。表面に研磨痕残す	粗粒輝石安山岩	第232図-84	PL108
85	20-000436	敲石	6.6×(9.1)×5.3	河床礫使用。下半部欠損。上端部に敲打痕残す	粗粒輝石安山岩	第232図-85	PL108
86	20-000437	敲石	11.3×(11.9)×9.4	大型の河床礫使用。下半欠ける。上端に敲打痕残す	粗粒輝石安山岩	第232図-86	PL108
87	20-000438	敲石	10.8×14.2×5.5	饅頭形の河床礫使用。表面と上端、左右両側縁に敲打痕残す	粗粒輝石安山岩	第232図-87	PL108
88	20-000439	敲石	7.3×14.1×4.7	河床礫使用。表裏・左右側面に著しい敲打痕残る	石英閃緑岩	第233図-88	PL109
89	20-000440	敲石	4.2×5.7×3.8	卵形の小河床礫使用。上端に敲打痕、表面に研磨痕残る	粗粒輝石安山岩	第233図-89	PL108
90	20-000441	磨石	9.3×17.1×3.7	板状の河床礫使用。表面に薄い削痕伴う研磨面形成	粗粒輝石安山岩	第233図-90	PL109
91	20-000442	磨石	4.3×(9.1)×3.5	上半部欠損。横断面三角形の河床礫使用。側面に研磨面形成	粗粒輝石安山岩	第233図-91	PL109
92	20-000443	磨石	(14.3)×(8.6)×5.0	過半欠損。河床礫使用。表面に研磨痕残る	粗粒輝石安山岩	第233図-92	PL109
93	20-000444	磨石	(11.8)×(9.2)×4.5	上下・左側縁欠損。河床礫使用。表裏面一部剥離するが研磨痕残る	変質安山岩	第233図-93	PL109
94	20-000445	磨石	(8.8)×(5.6)×(7.7)	破片。河床礫使用。表面に研磨痕残る	粗粒輝石安山岩	第233図-94	PL109
95	20-000446	磨石	7.0×7.4×3.8	饅頭形の小河床礫使用。表面に研磨痕残す	流紋岩	第233図-95	PL109
96	20-000447	磨石	(3.0)×(10.5)×(4.7)	側縁部破片。河床礫使用。側縁と表面に研磨痕残す	粗粒輝石安山岩	第233図-96	PL109
97	20-000448	磨石	(16.4)×(5.6)×(6.4)	過半欠損。河床礫使用。表面に研磨痕残る	閃緑岩	第233図-97	PL109
98	20-000449	磨石 (こも編み石)	4.8×11.4×3.2	河床礫使用。左右側面と上面に研磨面形成。中位に磨耗痕一周	溶結凝灰岩	第234図-98	PL109
99	20-000450	磨石 (こも編み石)	5.1×12.7×4.2	河床礫使用。表裏・左側面に研磨面形成。中位に磨耗痕一周	粗粒輝石安山岩	第234図-99	PL109
100	20-000451	磨石 (こも編み石)	3.4×10.1×2.95	棒状の河床礫使用。裏面に研磨面形成。中位に帯状の磨耗痕一周	閃緑岩	第234図-100	PL109
101	20-000452	磨石 (こも編み石)	4.3×7.2×1.9	小型の河床礫使用。表裏面と左右両側縁の一部に研磨痕残り、中位に帯状の磨耗痕一周	溶結凝灰岩	第234図-101	PL109
102	20-000453	磨石 (こも編み石)	4.4×(10.2)×2.0	裏面上位欠損。河床礫使用。左右両側に研磨面形成。中位に帯状の磨耗痕一周	頁岩	第234図-102	PL109
103	20-000454	磨石 (こも編み石)	5.0×10.5×4.2	河床礫使用。裏面と右側面研磨面形成。中位に帯状の磨耗痕一周	粗粒輝石安山岩	第234図-103	PL109
104	20-000455	こも編み石	5.8×12.2×3.0	河床礫使用。右側面に研磨面、上端に敲打痕残り、中位に帯状の磨耗痕一周	粗粒輝石安山岩	第234図-104	PL109
105	20-000456	こも編み石	3.4×9.3×2.8	棒状の河床礫使用。中位に帯状の磨耗痕一周	粗粒輝石安山岩	第234図-105	PL110
106	20-000457	こも編み石	(5.2)×9.8×(2.4)	裏面の過半剥離。河床礫使用。中位に帯状の磨耗痕一周	砂岩	第234図-106	PL110
107	20-000458	こも編み石	3.3×2.1×9.8	棒状の河床礫使用。中位に帯状の磨耗痕一周	デイサイト	第234図-107	PL110
108	20-000459	砥石	(4.2)×(4.8)×(1.6)	破片。表面と側面、角縁に研磨面形成	頁岩	第234図-108	PL110
109	20-000460	砥石	3.2×(10.9)×1.3	下方欠損。上面に切断痕。表裏・左右側面に研磨面形成	頁岩	第234図-109	PL110
110	20-000461	板碑片か	(6.3)×(6.9)×(0.6)	破片	緑色片岩	-	PL110
111	20-000462	板碑片か	(5.7)×(11.8)×1.6	破片	緑色片岩	-	PL110
112	10-000945	土師器壺	口径(20.4) 残高 9.9	口縁～肩部1/3。口端上部欠損。有段口縁。口縁外面と頸部内面磨撫で。口縁内面と頸部～肩部外面磨撫で。肩部内面磨撫で	3世紀末葉	第235図-112	PL111
113	10-000946	土師器台付甕	底径9.5×残高 6.9	甕底部～脚部1/3。甕底部内面指撫で。脚部内外面刷毛目後撫で	3世紀末葉	第235図-113	PL111
114	10-000947	土師器坏	口径 11.8 器高 3.3	ほぼ完形。口縁横撫で。体部～底部内面磨撫で、外面減せ削り後体部指撫で	8世紀後半	第235図-114	PL111
115	10-000948	須恵器坏	口径(13.2) 器高 3.6	1/4。左回転軸輪整形。底面回転糸切り	9世紀前半	第235図-115	PL111
116	10-000949	土錘	径 2.9×3.1 高さ 3.8	ほぼ完形。球形。表面指撫で。径5×6mmの縦位の貫通孔	古墳時代前期	第235図-116	PL111
117	10-000950	土錘	径 2.8×3.2 高さ 2.8	下端・裏面剥離。球形。表面指撫で。径5mmの縦位の貫通孔	古墳時代前期	第235図-117	PL111
118	10-000951	土錘	径 2.7×2.8 高さ 2.5	表面1/3剥離。球形。表面指撫で。径4mmの縦位の貫通孔	古墳時代前期	第235図-118	PL111
119	40-000250	鉄製品	径 0.7 残長 4.6	上位欠損。角釘		第235図-119	PL111

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-240-900グリット					
120	11-003707	土師器甕体部	1	14	古墳時代前期中心
7-258(285)-850グリット					
121	11-003708	土師器甕体部	1	8	古墳時代前期中心
7-258(285)-890グリット					
122	11-003709	土師器甕体部	8	56	古墳時代前期中心
123	11-003710	土師器高坏坏部	1	24	古墳時代前期中心
124	11-003711	土師器甕口縁部	2	28	古墳時代前期(4世紀)
125	11-003712	土師器甕体部	9	50	古墳時代前期(4世紀)
126	11-003713	土師器甕底部	1	4	古墳時代前期(4世紀)
7-270-980グリット					
127	11-003714	土師器甕口縁部	1	20	古墳時代前期中心
128	11-003715	土師器甕体部	5	30	古墳時代前期中心
129	11-003716	土師器甕口縁部	5	12	平安時代中心
130	11-003717	土師器坏口縁部	5	10	平安時代中心
131	11-003718	土師器坏底部	15	44	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-280-290?グリット					
132	11-003719	土師器甕体部	4	11	古墳時代前期(4世紀)
7-280-875グリット					
133	11-003720	土師器甕口縁部	1	13	古墳時代前期(4世紀)
7-280-880グリット					
134	11-003721	土師器甕口縁部	2	3	古墳時代前期中心
135	11-003722	土師器甕体部	39	210	古墳時代前期中心
136	11-003723	土師器甕底部	1	80	古墳時代前期中心
137	11-003724	土師器甕体部	4	118	古墳時代前期中心
138	11-003725	土師器台付甕口縁部	3	40	古墳時代前期中心
139	11-003726	土師器台付甕体部	3	10	古墳時代前期中心
140	11-003727	土師器高坏脚部	1	50	古墳時代前期中心
141	11-003728	土師器甕体部	7	10	平安時代中心
142	11-003729	土師器甕口縁部	2	13	古墳時代前期(4世紀)
143	11-003730	土師器甕体部	29	183	古墳時代前期(4世紀)

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-280-880グリット					
144	11-003731	土師器甕底部	2	85	古墳時代前期中心
145	11-003732	土師器壺体部	4	118	古墳時代前期中心
146	11-003733	土師器甕体～底部	17	61	平安時代中心
147	11-003734	須恵器甕体部	57	2282	平安時代中心
148	11-003735	土師器甕口縁部	6	65	古墳時代前期中心
149	11-003736	土師器甕体部	94	520	古墳時代前期中心
150	11-003737	土師器甕底部	4	22	古墳時代前期(4世紀)
151	11-003738	土師器高坏坏部	11	68	古墳時代前期中心
152	11-003739	土師器坏口縁部	6	30	平安時代中心
153	11-003740	土師器坏体～底部	18	60	平安時代中心
154	11-003741	須恵器甕口縁部	1	8	
155	11-003742	土師器甕口縁部	2	13	古墳時代前期(4世紀)
156	11-003743	須恵器甕体部	2	109	
157	11-003744	須恵器甕底部	6	30	
158	11-003745	須恵器碗体部	6	30	
159	11-003746	土師器台付甕口縁部	3	40	古墳時代前期中心
160	11-003747	須恵器蓋	2	50	
161	11-003748	陶器碗口縁部	1	1	
162	11-003749	施軸陶器	4	20	
163	11-003750	施軸陶器(てんもく)	1	4	
164	11-003751	軟質陶器鉢体部	1	50	
165	11-003752	泥人形	1	3	江戸時代
166	11-003753	女瓦	2	84	律令
167	11-003754	土師器高坏脚部	3	69	古墳時代前期中心
7-280-885グリット					
168	11-003755	土師器甕体部	5	14	古墳時代前期中心
169	11-003756	土師器甕底部	1	18	古墳時代前期中心
170	11-003757	土師器甕体部	2	18	古墳時代前期(4世紀)
7-280-890グリット					
171	11-003763	土師器甕口縁部	14	100	古墳時代前期中心
172	11-003764	土師器甕体部	310	2282	古墳時代前期中心
173	11-003765	土師器高坏坏部	19	146	古墳時代前期中心
174	11-003766	土師器高坏脚部	13	168	古墳時代前期中心
175	11-003767	土師器甕口縁部	19	146	古墳時代前期(4世紀)
176	11-003768	土師器甕体部	224	1138	古墳時代前期(4世紀)
177	11-003769	土師器甕底部	16	147	古墳時代前期(4世紀)
178	11-003770	土師器甕口縁部	1	6	平安時代中心
179	11-003771	土師器甕体部	1	3	平安時代中心
180	11-003772	土師器坏体～底部	7	18	平安時代中心
181	11-003773	須恵器甕口縁部	4	14	平安時代中心
7-280-890グリットC混下					
182	11-003774	土師器甕口縁部	5	81	古墳時代前期中心
183	11-003775	土師器甕体部	27	223	古墳時代前期中心
184	11-003776	土師器甕底部	1	12	古墳時代前期中心
185	11-003777	土師器高坏坏部	1	9	古墳時代前期中心
186	11-003778	土師器甕口縁部	1	5	古墳時代前期(4世紀)
187	11-003779	土師器甕体部	12	94	古墳時代前期(4世紀)
188	11-003780	土師器甕体部	1	5	平安時代中心
189	11-003781	須恵器碗口縁部	1	4	平安時代中心
190	11-003782	須恵器碗体～底部	1	11	平安時代中心
7-280-895グリット					
191	11-003783	土師器甕口縁部	4	48	古墳時代前期中心
192	11-003784	土師器甕体部	55	266	古墳時代前期中心
193	11-003785	土師器甕底部	1	20	古墳時代前期中心
194	11-003786	土師器高坏脚部	4	59	古墳時代前期中心
7-280-895グリット					
195	11-003787	土師器甕口縁部	2	23	古墳時代前期(4世紀)
196	11-003788	土師器甕体部	25	166	古墳時代前期(4世紀)
197	11-003789	土師器甕底部	4	35	古墳時代前期(4世紀)
198	11-003790	土師器甕体部	3	11	平安時代中心
7-280-900グリットAs-C混黒					
199	11-003791	灰陶陶器碗体～底部	1	4	平安時代中心
7-280-900グリットC混中					
200	11-003792	土師器甕口縁部	4	31	古墳時代前期中心
201	11-003793	須恵器坏体～底部	10	72	平安時代中心
202	11-003794	須恵器碗口縁部	6	22	平安時代中心
7-280-900グリットC混下					
203	11-003795	土師器甕口縁部	1	27	古墳時代前期中心
204	11-003796	土師器甕体部	9	43	古墳時代前期中心
205	11-003797	土師器高坏坏部	1	3	古墳時代前期中心
206	11-003798	土師器高坏脚部	1	6	古墳時代前期中心
207	11-003799	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期(4世紀)
208	11-003800	土師器甕口縁部	1	3	平安時代中心
209	11-003801	土師器坏体～底部	5	13	平安時代中心
210	11-003802	須恵器坏体～底部	2	11	平安時代中心
7-280-905グリット					
211	11-003804	土師器甕口縁部	1	23	古墳時代前期中心
212	11-003805	土師器甕体部	36	81	古墳時代前期中心
213	11-003806	土師器高坏坏部	1	19	古墳時代前期中心
214	11-003807	土師器高坏脚部	1	8	古墳時代前期中心
215	11-003808	土師器甕口縁部	1	7	平安時代中心
216	11-003809	土師器甕体部	4	10	平安時代中心
217	11-003810	土師器坏体～底部	4	28	平安時代中心
218	11-003811	須恵器甕体部	2	259	平安時代中心
7-280-905グリットAs-C混下面					
219	11-003812	縄文	2	30	平安時代中心
7-280-905グリットC混下					
220	11-003813	土師器甕口縁部	1	14	古墳時代前期中心
221	11-003814	土師器甕体部	11	43	古墳時代前期中心
222	11-003815	土師器坏口縁部	1	6	平安時代中心
7-280-910グリットB下					
223	11-003816	土師器甕口縁部	1	4	平安時代中心
224	11-003817	土師器坏体～底部	2	2	平安時代中心
225	11-003818	須恵器坏口縁部	1	1	平安時代中心
7-280-920グリット					
226	11-003819	土師器甕体部	12	84	古墳時代前期中心
227	11-003820	土師器甕口縁部	2	10	平安時代中心
228	11-003821	土師器甕体部	2	8	平安時代中心
229	11-003822	土師器坏口縁部	25	155	平安時代中心
230	11-003823	土師器坏体～底部	46	113	平安時代中心
231	11-003824	須恵器坏口縁部	1	3	平安時代中心
7-280-940グリット					
232	11-003825	土師器坏口縁部	8	25	平安時代中心
233	11-003826	土師器坏体～底部	7	13	平安時代中心
234	11-003827	須恵器坏体～底部	2	14	平安時代中心
7-285-850グリット					
235	11-003828	土師器甕体部	2	8	古墳時代前期中心
236	11-003829	土師器甕体部	2	8	古墳時代前期(4世紀)
237	11-003830	土師器甕底部	1	9	古墳時代前期(4世紀)
7-285-860グリット					
238	11-003831	土師器甕体部	1	25	古墳時代前期中心
7-285-870グリット					
239	11-003832	土師器甕体部	1	6	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-280-900グリット					
240	11-003833	土師器甕口縁部	5	51	古墳時代前期中心
241	11-003834	土師器甕体部	47	296	古墳時代前期中心
242	11-003835	土師器甕底部	5	94	古墳時代前期中心
243	11-003836	土師器高坏坏部	6	107	古墳時代前期中心
244	11-003837	土師器高坏脚部	3	35	古墳時代前期中心
245	11-003838	土師器甕口縁部	4	42	古墳時代前期(4世紀)
246	11-003839	土師器甕体部	36	159	古墳時代前期(4世紀)
247	11-003840	土師器甕底部	4	49	古墳時代前期(4世紀)
248	11-003841	土師器甕体部	3	6	平安時代中心
249	11-003842	土師器坏口縁部	3	9	平安時代中心
250	11-003843	須恵器甕体部	2	64	平安時代中心
251	11-003844	灰釉陶器碗口縁部	1	2	平安時代中心
7-285-875グリット					
252	11-003845	須恵器碗体~底部	1	2	平安時代中心
7-285-880グリット					
253	11-003846	土師器甕口縁部	1	55	古墳時代前期中心
254	11-003847	土師器甕体部	16	135	古墳時代前期中心
255	11-003848	土師器高坏脚部	3	32	古墳時代前期中心
256	11-003849	土師器甕口縁部	2	12	古墳時代前期(4世紀)
257	11-003850	土師器甕体部	2	9	古墳時代前期(4世紀)
258	11-003851	土師器甕底部	5	20	古墳時代前期(4世紀)
259	11-003852	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心
260	11-003853	須恵器坏体~底部	1	5	平安時代中心
7-285-895グリット					
261	11-003854	土師器甕口縁部	3	21	平安時代中心
262	11-003855	土師器甕体部	7	51	平安時代中心
263	11-003856	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
264	11-003857	土師器坏体~底部	6	13	平安時代中心
265	11-003858	土師器坏底部	16	39	平安時代中心
266	11-003859	須恵器碗口縁部	1	4	平安時代中心
267	11-003860	須恵器碗体~底部	1	7	平安時代中心
7-285-885グリット					
268	11-003861	土師器甕口縁部	15	231	古墳時代前期中心
269	11-003862	土師器甕体部	342	2101	古墳時代前期中心
270	11-003863	土師器甕底部	13	263	古墳時代前期中心
271	11-003864	土師器高坏坏部	23	138	古墳時代前期中心
272	11-003865	土師器高坏脚部	18	142	古墳時代前期中心
273	11-003866	土師器甕口縁部	3	17	古墳時代前期(4世紀)
274	11-003867	土師器甕体部	64	309	古墳時代前期(4世紀)
275	11-003868	土師器甕底部	9	54	古墳時代前期(4世紀)
276	11-003869	土師器甕体部	4	8	平安時代中心
277	11-003870	土師器坏口縁部	3	8	平安時代中心
278	11-003871	土師器坏体~底部	8	16	平安時代中心
279	11-003872	弥生	1	11	平安時代中心
7-285-885グリットAs-C混下					
280	11-003873	須恵器甕底部	1	65	
281	11-003874	灰釉陶器碗体~底部	1	6	
7-285-885グリットC混下					
282	11-003875	土師器甕口縁部	12	161	古墳時代前期中心
283	11-003876	土師器甕体部	146	875	古墳時代前期中心
284	11-003877	土師器高坏坏部	5	29	古墳時代前期中心
285	11-003878	土師器高坏脚部	8	97	古墳時代前期中心
286	11-003879	土師器甕口縁部	2	11	古墳時代前期(4世紀)
287	11-003880	土師器甕体部	36	185	古墳時代前期(4世紀)
288	11-003881	土師器甕底部	2	12	古墳時代前期(4世紀)
289	11-003882	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心
290	11-003883	土師器甕体部	3	14	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-285-885グリットC混下					
291	11-003884	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
292	11-003885	土師器坏体~底部	11	14	平安時代中心
293	11-003886	須恵器甕体部	2	40	平安時代中心
294	11-003887	須恵器坏口縁部	1	2	平安時代中心
295	11-003888	須恵器坏体~底部	1	3	平安時代中心
296	11-003889	須恵器碗口縁部	1	1	平安時代中心
297	11-003890	須恵器碗体~底部	1	4	平安時代中心
7-285-890グリット					
298	11-003891	土師器甕口縁部	28	194	古墳時代前期中心
299	11-003892	土師器甕体部	442	2758	古墳時代前期中心
300	11-003893	土師器甕底部	5	107	古墳時代前期中心
301	11-003894	土師器高坏坏部	33	175	古墳時代前期中心
302	11-003895	土師器高坏脚部	35	255	古墳時代前期中心
303	11-003896	土師器甕口縁部	28	182	古墳時代前期(4世紀)
304	11-003897	土師器甕体部	395	1386	古墳時代前期(4世紀)
305	11-003898	土師器甕底部	18	116	古墳時代前期(4世紀)
306	11-003899	土師器甕体部	6	13	平安時代中心
307	11-003900	土師器坏口縁部	7	19	平安時代中心
308	11-003901	土師器坏体~底部	13	35	平安時代中心
309	11-003902	須恵器甕体部	1	12	平安時代中心
310	11-003903	須恵器碗口縁部	1	10	平安時代中心
7-285-890グリットC混下					
311	11-003904	土師器甕口縁部	2	17	古墳時代前期中心
312	11-003905	土師器甕体部	86	470	古墳時代前期中心
313	11-003906	土師器甕底部	2	34	古墳時代前期中心
314	11-003907	土師器高坏坏部	3	22	古墳時代前期中心
315	11-003908	土師器高坏脚部	1	8	古墳時代前期中心
316	11-003909	土師器甕体部	20	87	古墳時代前期(4世紀)
317	11-003910	土師器坏口縁部	2	9	平安時代中心
318	11-003911	土師器坏体~底部	2	13	平安時代中心
319	11-003912	須恵器坏体~底部	3	11	平安時代中心
7-285-894グリット					
320	11-003913	土師器甕体部	7	51	古墳時代前期中心
321	11-003914	土師器高坏坏部	2	17	古墳時代前期中心
322	11-003915	土師器甕口縁部	3	21	古墳時代前期(4世紀)
323	11-003916	土師器甕体部	7	28	古墳時代前期(4世紀)
324	11-003917	土師器甕底部	2	116	古墳時代前期(4世紀)
325	11-003918	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
326	11-003919	土師器坏体部	6	16	平安時代中心
327	11-003920	須恵器甕体部	1	8	平安時代中心
328	11-003921	須恵器碗体~底部	2	11	平安時代中心
7-285-895グリットAs-C下					
329	11-003922	須恵器甕体部	1	26	
7-285-895グリットC混下					
330	11-003923	土師器甕口縁部	19	113	古墳時代前期中心
331	11-003924	土師器甕体部	251	1226	古墳時代前期中心
332	11-003925	土師器高坏脚部	7	84	古墳時代前期中心
333	11-003926	土師器甕体部	11	57	古墳時代前期(4世紀)
334	11-003927	土師器甕底部	2	19	古墳時代前期(4世紀)
7-290-885グリット					
335	11-003928	土師器高坏脚部	8	62	古墳時代前期中心
336	11-003929	土師器甕口縁部	7	40	古墳時代前期(4世紀)
337	11-003930	土師器甕体部	91	418	古墳時代前期(4世紀)
338	11-003931	土師器甕底部	14	133	古墳時代前期(4世紀)
339	11-003932	土師器甕体部	3	13	平安時代中心
340	11-003933	土師器坏口縁部	4	14	平安時代中心
341	11-003934	土師器坏体~底部	14	37	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-285-900グリット					
342	11-003935	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
343	11-003936	土師器甕体部	118	578	古墳時代前期中心
344	11-003937	土師器甕底部	5	91	古墳時代前期中心
245	11-003938	土師器高坏坏部	4	14	古墳時代前期中心
346	11-003939	土師器高坏脚部	9	60	古墳時代前期中心
347	11-003940	土師器甕口縁部	3	21	古墳時代前期(4世紀)
348	11-003941	土師器甕体部	34	104	古墳時代前期(4世紀)
349	11-003942	土師器甕底部	3	15	古墳時代前期(4世紀)
350	11-003943	土師器甕口縁部	2	12	平安時代中心
351	11-003944	土師器甕体部	5	11	平安時代中心
352	11-003945	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
353	11-003946	須恵器碗口縁部	1	6	平安時代中心
354	11-003947	縄文	1	32	平安時代中心
7-285-900グリットAs-C混下					
355	11-003948	土師器坏底部	2	395	平安時代中心
356	11-003949	土師器甕体部	25	112	古墳時代前期中心
357	11-003950	土師器高坏坏部	1	3	古墳時代前期中心
358	11-003951	土師器高坏脚部	2	15	古墳時代前期中心
359	11-003952	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期(4世紀)
360	11-003953	土師器甕体部	2	7	古墳時代前期(4世紀)
361	11-003954	土師器甕底部	1	8	平安時代中心
362	21-002126	黒色安山岩	1	20	
7-285-905グリットC混下					
363	11-003956	土師器甕口縁部	3	30	古墳時代前期中心
364	11-003957	土師器甕体部	18	100	古墳時代前期中心
365	11-003958	土師器甕底部	1	20	古墳時代前期中心
366	11-003959	土師器壺体部	4	30	古墳時代前期中心
367	11-003960	土師器台付甕口縁部	1	2	古墳時代前期中心
368	11-003962	土師器高坏脚部	1	10	古墳時代前期中心
369	11-003963	須恵器甕体部	3	70	
370	11-003964	須恵器坏口縁部	1	2	
371	11-003965	須恵器坏体~底部	3	4	
372	11-003966	須恵器高台付碗口縁部	1	8	
373	11-003967	須恵器高台付碗体~底部	1	10	
374	11-003968	灰釉陶器碗底~高台部	1	60	
7-290-800グリットC混下					
375	11-003969	土師器甕体部	6	46	古墳時代前期中心
376	11-003970	土師器高坏坏部	1	7	古墳時代前期中心
377	11-003971	土師器高坏脚部	3	32	古墳時代前期中心
378	11-003972	須恵器甕体部	5	381	平安時代中心
7-290-880グリット					
379	11-003973	土師器甕体部	11	41	古墳時代前期中心
380	11-003974	須恵器甕体部	3	113	平安時代中心
381	11-003975	須恵器碗体~底部	2	28	平安時代中心
7-290-885グリット					
382	11-003976	須恵器甕体部	6	270	平安時代中心
383	11-003977	須恵器坏体~底部	6	53	平安時代中心
384	11-003978	灰釉陶器碗口縁部	1	2	平安時代中心
385	11-003979	灰釉陶器碗体~底部	1	23	平安時代中心
386	11-003980	土師器甕口縁部	1	2	古墳時代前期中心
387	11-003981	土師器甕体部	164	978	古墳時代前期中心
388	11-003982	土師器甕底	6	139	古墳時代前期中心
389	11-003983	土師器高坏坏部	11	64	古墳時代前期中心
7-290-890グリット					
390	11-003984	土師器甕口縁部	8	46	古墳時代前期中心
391	11-003985	土師器甕体部	91	488	古墳時代前期中心
392	11-003986	土師器甕底部	5	62	古墳時代前期中心
393	11-003987	土師器高坏坏部	9	45	古墳時代前期中心
394	11-003988	土師器高坏脚部	8	50	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-290-890グリット					
395	11-003989	土師器甕口縁部	8	76	古墳時代前期(4世紀)
396	11-003990	土師器甕体部	26	108	古墳時代前期(4世紀)
397	11-003991	土師器甕口縁部	2	11	平安時代中心
398	11-003992	土師器甕体部	2	19	平安時代中心
399	11-003993	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
400	11-003994	土師器坏体~底部	3	5	平安時代中心
401	11-003995	須恵器甕体部	5	98	平安時代中心
402	11-003996	須恵器坏体~底部	2	9	平安時代中心
403	11-003997	灰釉陶器碗口縁部	1	4	平安時代中心
7-290-895グリット					
404	11-003998	土師器甕口縁部	7	47	古墳時代前期中心
405	11-003999	土師器甕体部	59	322	古墳時代前期中心
406	11-004000	土師器甕底部	3	70	古墳時代前期中心
407	11-004001	土師器高坏坏部	1	10	古墳時代前期中心
408	11-004002	土師器高坏脚部	5	25	古墳時代前期中心
409	11-004003	土師器甕体部	33	167	古墳時代前期(4世紀)
410	11-004004	土師器甕底部	2	22	古墳時代前期(4世紀)
411	11-004005	土師器甕口縁部	1	8	平安時代中心
412	11-004006	土師器甕体部	2	5	平安時代中心
413	11-004007	土師器坏口縁部	5	7	平安時代中心
414	11-004008	土師器坏体~底部	13	28	平安時代中心
7-290-895グリットC混下					
415	11-004009	土師器甕口縁部	3	13	古墳時代前期中心
416	11-004010	土師器甕体部	14	57	古墳時代前期中心
417	11-004011	土師器高坏坏部	2	8	古墳時代前期中心
418	11-004012	土師器高坏脚部	2	18	古墳時代前期中心
419	11-004013	土師器甕体部	6	9	古墳時代前期(4世紀)
420	11-004014	土師器甕底部	1	6	古墳時代前期(4世紀)
421	11-004015	土師器甕口縁部	1	8	平安時代中心
422	11-004016	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
423	11-004017	土師器坏体~底部	6	19	平安時代中心
424	11-004018	須恵器碗口縁部	4	16	平安時代中心
7-290-900グリット					
425	11-004019	土師器甕口縁部	4	20	古墳時代前期中心
426	11-004020	土師器甕体部	129	755	古墳時代前期中心
427	11-004021	土師器甕底部	2	41	古墳時代前期中心
428	11-004022	土師器高坏坏部	9	69	古墳時代前期中心
429	11-004023	土師器高坏脚部	9	89	古墳時代前期中心
430	11-004024	土師器甕口縁部	10	110	古墳時代前期(4世紀)
431	11-004025	土師器甕体部	67	374	古墳時代前期(4世紀)
432	11-004026	土師器甕底部	4	65	古墳時代前期(4世紀)
433	11-004027	土師器甕口縁部	7	51	平安時代中心
434	11-004028	土師器甕体部	10	48	平安時代中心
435	11-004029	土師器坏口縁部	5	18	平安時代中心
436	11-004030	土師器坏体~底部	15	61	平安時代中心
437	11-004031	須恵器甕口縁部	2	21	平安時代中心
438	11-004032	須恵器碗口縁部	1	1	平安時代中心
439	11-004033	須恵器碗体~底部	23	252	平安時代中心
440	11-004034	灰釉陶器碗口縁部	4	17	平安時代中心
441	11-004035	灰釉陶器碗体~底部	1	1	平安時代中心
7-290-900グリットC混上					
442	11-004036	土師器甕口縁部	1	10	古墳時代前期中心
443	11-004037	土師器甕体部	8	38	古墳時代前期中心
444	11-004038	土師器高坏坏部	4	30	古墳時代前期中心
445	11-004039	土師器甕体部	1	3	古墳時代前期(4世紀)
446	11-004040	土師器甕体部	1	4	平安時代中心
447	11-004041	土師器坏底部	3	10	平安時代中心
448	11-004042	須恵器甕体部	18	656	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-290-900グリット					
449	11-004043	土師器台付甕脚部	1	4	古墳時代前期中心
450	11-004044	須恵器甕体部	1	20	
451	11-004045	須恵器碗口縁部	1	6	
452	11-004046	須恵器高台付碗底部	2	30	
7-290-905グリット					
453	11-004047	土師器甕口縁部	5	37	古墳時代前期中心
454	11-004048	土師器甕体部	88	387	古墳時代前期中心
455	11-004049	土師器壺体部	7	40	古墳時代前期中心
456	11-004050	土師器台付甕口縁部	1	1	古墳時代前期中心
457	11-004051	土師器台付甕体部	7	28	古墳時代前期中心
458	11-004052	土師器台付甕脚部	4	55	古墳時代前期中心
459	11-004055	土師器甕底部	4	25	古墳時代前期中心
460	11-004056	土師器高坏脚部	1	28	古墳時代前期中心
461	11-004057	土師器甕口縁部	2	8	平安時代中心
462	11-004058	土師器甕体部	12	37	平安時代中心
463	11-004059	土師器坏口縁部	9	57	平安時代中心
464	11-004060	土師器坏体～底部	16	44	平安時代中心
465	11-004063	須恵器碗体～底部	1	2	
7-290-910グリット					
466	11-004064	土師器甕口縁部	1	5	古墳時代前期中心
467	11-004065	土師器甕体部	6	26	平安時代中心
468	11-004066	土師器坏体～底部	1	5	平安時代中心
469	11-004067	須恵器坏口縁部	1	4	平安時代中心
7-290-910グリットB下					
470	11-004068	須恵器坏体～底部	8	21	平安時代中心
7-290-940グリット					
471	11-004069	土師器甕体部	7	30	古墳時代前期中心
472	11-004070	土師器壺体部	1	2	古墳時代前期中心
473	11-004071	土師器甕体部	2	9	平安時代中心
474	11-004072	土師器坏体～底部	2	19	平安時代中心
475	11-004073	須恵器坏体～底部	1	21	平安時代中心
476	11-004074	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
477	11-004075	土師器甕底部	17	40	平安時代中心
478	11-004076	土師器坏口縁部	8	30	平安時代中心
479	11-004077	土師器坏底部	1	1	平安時代中心
480	11-004078	須恵器甕体部	2	90	
7-295-895グリット					
481	11-004079	土師器甕口縁部	1	4	古墳時代前期中心
482	11-004080	土師器甕体部	31	235	古墳時代前期中心
483	11-004081	土師器高坏脚部	1	9	古墳時代前期中心
484	11-004082	土師器甕体部	6	23	古墳時代前期(4世紀)
485	11-004083	土師器甕口縁部	1	10	平安時代中心
486	11-004084	土師器甕体部	1	4	平安時代中心
487	11-004085	土師器坏口縁部	1	3	平安時代中心
488	11-004086	土師器坏体～底部	4	12	平安時代中心
489	11-004087	須恵器甕体部	3	200	平安時代中心
490	11-004088	須恵器碗口縁部	1	13	平安時代中心
491	11-004089	須恵器碗体～底部	2	8	平安時代中心
7-295-875グリット					
492	11-004090	土師器甕口縁部	2	36	古墳時代前期中心
493	11-004091	土師器甕体部	34	282	古墳時代前期中心
494	11-004092	土師器甕底部	1	16	古墳時代前期中心
495	11-004093	土師器甕体部	4	18	平安時代中心
496	11-004094	土師器坏体～底部	1	4	平安時代中心
497	11-004095	須恵器甕体部	2	93	平安時代中心
498	11-004096	須恵器坏体～底部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-295-880グリット					
499	11-004097	土師器甕口縁部	3	10	古墳時代前期中心
500	11-004098	土師器甕体部	42	147	古墳時代前期中心
501	11-004099	土師器壺体部	8	60	古墳時代前期中心
502	11-004100	土師器台付甕体部	3	3	古墳時代前期中心
503	11-004101	土師器高付器台脚部	2	30	古墳時代前期中心
504	11-004103	土師器甕底部	2	17	古墳時代前期(4世紀)
505	11-004104	土師器甕口縁部	1	12	平安時代中心
506	11-004105	須恵器甕口縁部	1	71	平安時代中心
507	11-004106	須恵器甕体部	4	148	平安時代中心
508	11-004107	土師器甕体部	1	3	平安時代中心
509	11-004108	土師器坏口縁部	5	30	平安時代中心
510	11-004109	土師器坏体～底部	5	29	平安時代中心
511	11-004110	須恵器甕体部	5	155	
512	11-004111	須恵器坏体～底部	2	30	
513	11-004112	須恵器碗口縁部	2	7	
7-295-885グリット					
514	11-004113	土師器甕口縁部	1	17	古墳時代前期中心
515	11-004114	土師器甕体部	100	599	古墳時代前期中心
516	11-004115	土師器甕底部	6	44	古墳時代前期中心
517	11-004116	土師器高坏坏部	3	23	古墳時代前期中心
518	11-004117	土師器高坏脚部	7	82	古墳時代前期中心
519	11-004118	土師器甕体部	17	58	古墳時代前期(4世紀)
520	11-004119	土師器甕底部	1	10	古墳時代前期(4世紀)
521	11-004120	土師器甕口縁部	3	5	平安時代中心
522	11-004121	土師器甕体部	3	12	平安時代中心
523	11-004122	土師器坏口縁部	7	26	平安時代中心
524	11-004123	土師器坏体～底部	7	27	平安時代中心
525	11-004124	須恵器甕体部	7	170	平安時代中心
526	11-004125	須恵器坏体～底部	3	31	平安時代中心
527	11-004126	須恵器碗体部	2	19	平安時代中心
350-860グリットC黒上					
528	11-004127	土師器甕口縁部	5	17	古墳時代前期中心
529	11-004128	土師器甕体部	130	438	古墳時代前期中心
530	11-004129	土師器高坏坏部	3	19	古墳時代前期中心
531	11-004130	土師器高坏脚部	12	66	古墳時代前期中心
532	11-004131	土師器甕口縁部	17	49	古墳時代前期(4世紀)
533	11-004132	土師器甕体部	4	14	古墳時代前期(4世紀)
534	11-004133	土師器甕台部	7	57	古墳時代前期(4世紀)
535	11-004134	土師器坏体～底部	41	107	平安時代中心
7-295-900グリット					
536	11-004135	土師器甕口縁部	1	31	古墳時代前期中心
537	11-004136	土師器甕体部	49	317	古墳時代前期中心
538	11-004137	土師器高坏坏部	3	25	古墳時代前期中心
539	11-004138	土師器高坏脚部	2	29	古墳時代前期中心
540	11-004139	土師器甕口縁部	4	50	古墳時代前期(4世紀)
541	11-004140	土師器甕体部	15	90	古墳時代前期(4世紀)
542	11-004141	土師器坏口縁部	2	7	平安時代中心
543	11-004142	土師器坏体～底部	4	13	平安時代中心
544	11-004143	須恵器甕体部	2	86	平安時代中心
545	11-004144	須恵器坏口縁部	1	8	平安時代中心
546	11-004146	須恵器坏体～底部	1	15	平安時代中心
7-295-905グリット					
547	11-004147	土師器甕体部	4	14	古墳時代前期中心
548	11-004148	土師器高坏脚部	1	4	古墳時代前期中心
549	11-004149	土師器甕体部	1	2	古墳時代前期(4世紀)
550	11-004150	土師器甕体部	1	5	平安時代中心
7-300-850グリット					
551	11-004151	土師器甕口縁部	1	3	古墳時代前期中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-300-850グリット					
552	11-004152	土師器甕体部	8	17	古墳時代前期中心
553	11-004153	土師器高坏坏部	1	11	古墳時代前期中心
554	11-004154	須恵器碗口縁部	1	2	古墳時代前期(4世紀)
555	11-004155	施釉陶器	1	20	
556	11-004156	不明	1	23	平安時代中心
7-300-860グリットB下					
557	11-004157	土師器甕口縁部	8	84	古墳時代前期中心
558	11-004158	土師器甕体部	61	365	古墳時代前期中心
559	11-004159	土師器甕底部	4	133	古墳時代前期中心
560	11-004160	土師器坏口縁部	1	4	平安時代中心
561	11-004161	土師器坏体~底部	2	4	平安時代中心
562	11-004162	須恵器坏口縁部	1	3	平安時代中心
563	11-004163	須恵器坏体~底部	2	14	平安時代中心
7-300-870グリット					
564	11-004164	土師器甕体部	10	15	古墳時代前期中心
7-300-870グリットB下					
565	11-004165	土師器坏体~底部	1	2	平安時代中心
7-300-880グリット					
566	11-004166	土師器甕口縁部	5	28	古墳時代前期中心
567	11-004167	土師器甕体部	38	269	古墳時代前期中心
568	11-004168	土師器甕底部	4	70	古墳時代前期中心
569	11-004169	土師器壺体部	15	150	古墳時代前期中心
570	11-004170	土師器台付甕体部	5	21	古墳時代前期中心
571	11-004172	土師器高坏脚部	1	5	古墳時代前期中心
572	11-004173	土師器甕底部	1	19	平安時代中心
573	11-004174	須恵器坏体~底部	1	22	平安時代中心
574	11-004175	土師器坏口縁部	3	3	平安時代中心
7-300-880グリットF A上水田					
575	11-004176	土師器甕体部	12	51	古墳時代前期中心
576	11-004177	土師器甕体部	2	10	古墳時代前期(4世紀)
577	11-004178	土師器甕体部	1	2	平安時代中心
578	11-004179	土師器坏口縁部	2	5	平安時代中心
579	11-004180	土師器坏体部	3	6	平安時代中心
580	11-004181	須恵器碗体部	2	16	平安時代中心
7-300-885グリット					
581	11-004182	土師器甕体部	2	7	古墳時代前期中心
582	11-004183	土師器甕底部	2	31	古墳時代前期中心
583	11-004184	土師器甕口縁部	1	7	平安時代中心
584	11-004185	土師器坏口縁部	1	10	平安時代中心
7-300-890グリット					
585	11-004186	土師器甕口縁部	2	20	古墳時代前期中心
586	11-004187	土師器甕体部	40	253	古墳時代前期中心
587	11-004188	土師器高坏坏部	3	37	古墳時代前期中心
588	11-004189	土師器甕体部	8	43	古墳時代前期(4世紀)
589	11-004190	土師器甕体部	1	5	平安時代中心
590	11-004191	土師器坏体~底部	3	12	平安時代中心
591	11-004192	須恵器碗口縁部	2	5	平安時代中心
592	11-004193	須恵器碗体~底部	1	12	平安時代中心
7-300-895グリット					
593	11-004194	土師器甕体部	39	153	古墳時代前期中心
594	11-004195	土師器甕底部	3	37	古墳時代前期中心
595	11-004196	土師器高坏坏部	1	15	古墳時代前期中心
596	11-004197	土師器高坏脚部	1	6	古墳時代前期中心
597	11-004198	土師器甕体部	8	41	古墳時代前期(4世紀)
598	11-004199	土師器甕口縁部	1	5	平安時代中心
599	11-004200	土師器甕体部	2	14	平安時代中心
600	11-004201	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心
601	11-004202	土師器坏体~底部	1	3	平安時代中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-300-895グリット					
602	11-004203	須恵器甕口縁部	1	8	平安時代中心
603	11-004204	須恵器碗口縁部	1	7	平安時代中心
604	11-004205	須恵器碗体~底部	3	23	平安時代中心
7-300-900グリット					
605	11-004207	土師器甕体部	4	9	平安時代中心
606	11-004208	土師器坏口縁部	15	38	平安時代中心
607	11-004209	須恵器甕体部	12	428	平安時代中心
608	11-004210	須恵器坏体~底部	7	68	平安時代中心
7-300-910グリットB下					
609	11-004211	土師器甕体部	2	5	古墳時代前期中心
7-300-920グリット					
610	11-004212	土師器甕体部	3	11	平安時代中心
611	11-004213	土師器坏体~底部	2	6	平安時代中心
7-300-990グリット					
612	11-004214	土師器坏体~底部	2	6	平安時代中心
7-305-850グリット					
613	11-004215	灰釉陶器碗体~底部	1	40	
7-305-885グリット					
614	11-004216	土師器甕口縁部	1	27	古墳時代前期中心
615	11-004217	土師器甕体部	9	83	古墳時代前期中心
616	11-004218	土師器甕口縁部	1	6	平安時代中心
617	11-004219	須恵器甕体部	1	19	平安時代中心
7-305-895グリット					
618	11-004220	土師器甕口縁部	2	67	古墳時代前期中心
619	11-004221	土師器甕体部	14	145	古墳時代前期中心
620	11-004222	土師器甕底部	2	108	古墳時代前期中心
621	11-004223	土師器高坏脚部	4	78	古墳時代前期中心
622	11-004224	土師器坏体~底部	3	8	平安時代中心
7-305-895グリットC混上					
623	11-004225	土師器甕口縁部	3	39	古墳時代前期中心
624	11-004226	土師器甕体部	18	128	古墳時代前期中心
625	11-004227	土師器高坏坏部	2	4	古墳時代前期中心
626	11-004228	土師器高坏脚部	2	73	古墳時代前期中心
627	11-004229	土師器坏体~底部	1	3	平安時代中心
7-325-860グリット					
628	11-004230	土師器甕体部	153	740	古墳時代前期中心
629	11-004231	土師器台付甕体部	48	122	古墳時代前期中心
630	11-004232	土師器台付甕口縁部	3	25	古墳時代前期中心
631	11-004233	土師器壺口縁部	9	60	古墳時代前期中心
632	11-004234	土師器壺体部	67	322	古墳時代前期中心
633	11-004235	土師器甕体部	47	102	平安時代中心
634	11-004236	土師器甕口縁部	9	30	平安時代中心
635	11-004237	土師器坏口縁部	40	140	平安時代中心
636	11-004238	土師器坏底部	126	312	平安時代中心
637	11-004239	須恵器甕体部	3	30	平安時代中心
638	11-004240	須恵器碗体~底部	7	26	
7-305-905グリット					
639	11-004241	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
640	11-004242	土師器甕体部	24	229	古墳時代前期中心
641	11-004243	土師器甕底部	1	43	古墳時代前期中心
642	11-004244	土師器高坏坏部	1	7	古墳時代前期中心
7-305-905グリットC混上					
643	11-004245	土師器甕体部	2	33	古墳時代前期中心
644	11-004246	土師器高坏脚部	1	15	古墳時代前期中心
7-305-920グリット					
645	11-004247	土師器坏口縁部	1	13	
646	11-004248	土師器甕体部	1	4	古墳時代前期中心
647	11-004249	土師器甕口縁部	1	6	平安時代中心
648	11-004250	土師器甕体部	2	19	平安時代中心

遺物一覧

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-325-850グリットC混下					
649	11-004251	土師器坏口縁部	6	28	平安時代中心
650	11-004252	土師器甕口縁部	1	11	平安時代中心
651	11-004253	土師器甕体部	2	4	平安時代中心
652	11-004254	土師器坏体～底部	17	56	平安時代中心
653	11-004255	須恵器坏口縁部	3	19	
654	11-004256	須恵器甕体部	2	25	
7-305-940グリット					
655	11-004257	土師器甕口縁部	2	27	平安時代中心
656	11-004258	土師器甕体部	8	32	平安時代中心
657	11-004259	土師器坏体～底部	10	21	平安時代中心
7-305-940グリットC混上					
658	11-004260	土師器坏口縁部	4	14	平安時代中心
7-345-855グリット					
659	11-004261	土師器甕口縁部	7	30	古墳時代前期中心
660	11-004262	土師器甕体部	92	325	古墳時代前期中心
661	11-004263	土師器甕底部	1	80	古墳時代前期中心
662	11-004264	土師器台付甕体部	8	20	古墳時代前期中心
663	11-004265	土師器台付甕脚部	3	40	古墳時代前期中心
664	11-004266	土師器台付甕口縁部	1	20	古墳時代前期中心
665	11-004267	土師器甕体部	12	78	古墳時代前期中心
7-310-850グリット					
666	11-004268	土師器甕口縁部	4	14	古墳時代前期中心
667	11-004269	土師器甕体部	43	330	古墳時代前期中心
668	11-004270	土師器甕底部	2	51	古墳時代前期中心
669	11-004271	土師器坏口縁部	5	66	平安時代中心
670	11-004272	土師器坏体～底部	6	45	平安時代中心
671	11-004273	須恵器甕体部	1	28	平安時代中心
672	11-004274	須恵器坏体～底部	3	20	平安時代中心
673	11-004275	須恵器甕口縁部	1	24	平安時代中心
7-310-870グリット					
674	11-004280	土師器甕体部	1	330	古墳時代前期中心
7-310-870グリットB下					
675	11-004281	土師器甕体部	3	8	平安時代中心
7-310-880グリットB下					
676	11-004282	土師器甕体部	6	16	平安時代中心
7-310-885グリット					
677	11-004283	土師器甕体部	6	27	古墳時代前期中心
678	11-004284	土師器高坏坏部	1	12	古墳時代前期中心
679	11-004285	土師器高坏脚部	1	10	古墳時代前期中心
680	11-004286	須恵器甕体部	1	286	平安時代中心
7-310-895グリット					
681	11-004287	施釉陶器甕口縁部	1	12	
682	11-004288	施釉陶器甕体部	1	10	
7-310-895グリットC混上					
683	11-004289	土師器甕口縁部	1	8	古墳時代前期中心
684	11-004290	土師器甕体部	14	160	古墳時代前期中心
685	11-004291	土師器坏口縁部	1	1	平安時代中心
7-310-900グリット					
686	11-004292	土師器甕口縁部	5	57	古墳時代前期中心
687	11-004293	土師器甕体部	70	262	古墳時代前期中心

No	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7-310-900グリット					
688	11-004294	土師器甕底部	3	41	古墳時代前期中心
689	11-004295	土師器台付甕体部	8	37	古墳時代前期中心
690	11-004296	土師器台付甕脚部	1	1	古墳時代前期中心
691	11-004297	土師器甕体部	8	45	古墳時代前期中心
692	11-004302	土師器甕体部	3	13	平安時代中心
693	11-004303	土師器坏口縁部	3	5	平安時代中心
694	11-004304	土師器坏体～底部	3	10	平安時代中心
695	11-004305	須恵器甕体部	1	75	平安時代中心
7-345-870グリット					
696	11-004306	土師器甕体部	17	46	平安時代中心
697	11-004307	土師器坏口縁部	2	4	平安時代中心
698	11-004308	土師器坏底部	14	48	平安時代中心
699	11-004309	土師器甕口縁部	1	2	平安時代中心
700	11-004310	須恵器甕体部	2	8	
701	11-004311	灰釉陶器甕口縁部	1	1	
702	11-004312	須恵器甕底～高台部	1	10	
703	11-004313	須恵器高台付甕底～高台部	1	10	
7-310-900グリットC混中					
704	11-004314	土師器甕体部	5	20	古墳時代前期中心
705	11-004315	土師器高坏脚部	1	13	古墳時代前期中心
706	11-004316	土師器甕体部	5	21	平安時代中心
707	11-004317	土師器坏口縁部	2	6	平安時代中心
708	11-004318	土師器坏体～底部	5	14	平安時代中心
709	11-004319	須恵器甕体部	1	20	平安時代中心
710	11-004320	須恵器坏口縁部	1	6	平安時代中心
711	11-004321	須恵器坏体～底部	1	3	平安時代中心
7-310-905グリットC混上					
712	11-004322	土師器甕体部	5	38	平安時代中心
7-315-850グリット					
713	11-004323	土師器甕口縁部	9	1097	古墳時代前期中心
714	11-004324	土師器甕体部	119	1071	古墳時代前期中心
715	11-004325	土師器甕底部	7	42	古墳時代前期中心
716	11-004326	土師器甕口縁部	2	19	古墳時代前期中心
717	11-004327	土師器台付甕口縁部	1	9	古墳時代前期中心
718	11-004328	土師器台付甕体部	12	50	古墳時代前期中心
719	11-004329	土師甕口縁部	1	6	古墳時代前期中心
720	11-004330	土師器甕体部	24	128	古墳時代前期中心
721	11-004331	土師器甕底部	1	80	古墳時代前期中心
722	11-004332	土師器器台脚部	1	25	古墳時代前期中心
723	11-004333	土師器高坏脚部	2	60	古墳時代前期中心
724	11-004337	土師器高坏坏部	3	20	古墳時代前期中心
725	11-004338	土師器甕口縁部	3	21	平安時代中心
726	11-004339	土師器甕体部	7	20	平安時代中心
727	11-004340	土師器坏口縁部	8	30	平安時代中心
728	11-004341	土師器坏体～底部	20	62	平安時代中心
729	11-004342	須恵器坏口縁部	1	6	平安時代中心
730	11-004343	須恵器坏体～底部	2	17	平安時代中心
731	11-004347	須恵器甕口縁部	1	2	
732	11-004348	須恵器甕底部	2	3	
733	11-004349	須恵器甕体部	2	90	